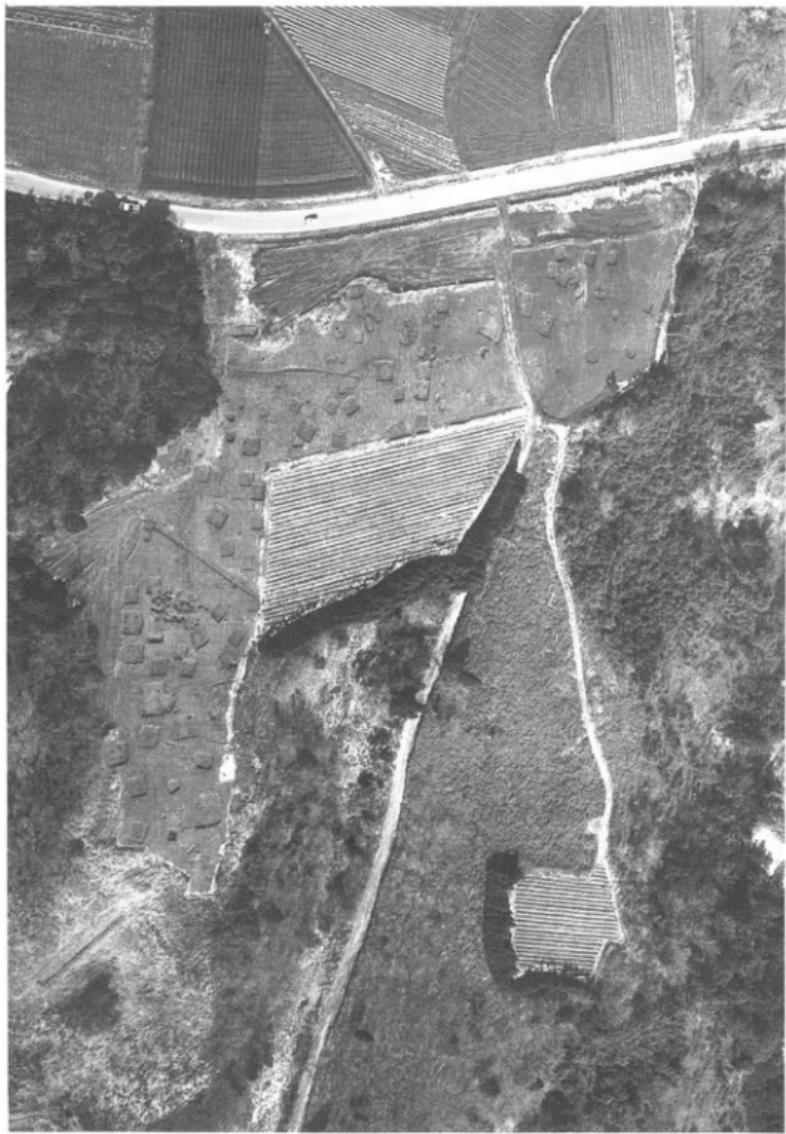


茨城県行方郡北浦村

今山遺跡
調査報告書

1990年3月

山田地区遺跡発掘調査会



卷 頭

例　　言

1. 本報告書は、茨城県行方郡北浦村大字山田字今山2474番地他の発掘調査報告である。

1. 本遺跡の調査は、ゴルフ場造成工事に先行する埋蔵文化財の調査である。

1. 本遺跡の現地調査は、昭和63年1月11日～6月10日、同年11月1日～12月3日まで行ない整理作業は昭和63年12月20日～平成元年5月31日まで行なった。

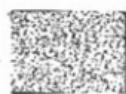
1. 本遺跡の現地調査は、山田地区遺跡調査会を組織し、2班は汀安衛が担当し、黒沢春彦（1月～3月）、宮内勝也（1月～2月、11月）で進めた。整理作業は、小林広が図面・写真、原喜代子が遺物整理、増井常子・橋本浩子が遺物復元、沼田洋子・白木とも子が遺物実測、大江嘉代子・沼里真由美がトレース、額賀浩が版組を、表は池田和代がそれぞれ行ない、汀が執筆及び、総括して行なった。

1. 本報告書の縮尺は、遺構に関しては1/20、1/40、1/80、1/100を基準とした。遺物は、1/2、1/3、1/4が基準である。水系レベルは、統一表示を基準としたが、不可能な場合はその図中に表示した。

1. 本報告書で、1班、2班が協議の上統一表示出来るものは統一表示した。

1. 分析等は別冊において述べるため、総括としてまとめは簡単に行なった。

1. 本報告書で使用したスクリーントンは、焼土、カマドの袖、粘土であり、炭化物は出土状態のまま図示した。



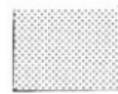
竈　袖



粘　土



焼　土



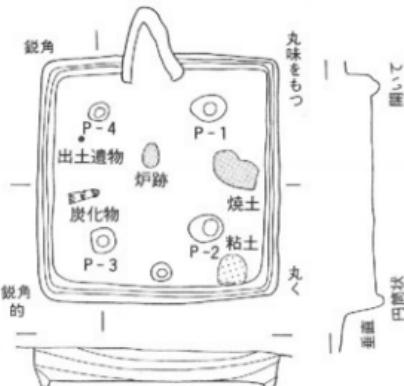
焼　土



炭化粒・粒子

記述方法について

- 遺構は、右図の様にトレース図示した。
- 周溝は、U・V等で表し、ゆるやか、強く、浅く等と表現した。
- 柱穴は、U字状、円筒状と表現し、ゆるやか、強く、等と表現した。
- 壁面は、直立のものは垂直、やや開くものは鋭角、開くものは開いて、と表現した。
- 窓は、外部への掘り方、袖部形態でU字状、半円形、円形状と表現した。
- 土層は、新版標準土色帳（1987）を使用した。（主に2.5YR, 5 YR, 7.5YR, 10YR）
- 覆土は、ゆるく流れ込み状のものはレンズ状とし、各層が入り乱れているものは投げ込み的、状と表現した。
- 遺物は主に口縁部形態を説明し、須恵器は、輪積み及び粘土紐巻上げを器表面、断面等の観察から回転ミズビキ、ロクロ水引きの二種類に分類した。特に須恵器は巻き上げ痕、断面の観察にはルーペを使用したが、断定出来ないものは？を付した。
- 回転は底部に残っている状態を示した。土製品は、径、長さ、重さ等を便宜的に使用し表中に示した。器形等不明確なものは独自の判断で寸法を表示した。（たとえば丸底に近い壺の底部）
- 遺構は、隅部の状態で丸く、鋭角、丸味をもつ等と表現した。これは総体的に見ての場合を基準とした。
- 遺構プランは東西、南北で60～70cm以下の違いの場合は方形プランと表現した。
- 土坑はすべて坑と表現したが、墓と思われるものは土壙と表現した。
- その他、独自の判断等で表現したものもある。



目 次

I 位置と環境	1	第27号住居址	82
II 調査経過	2	第28号住居址	86
III 調査概要	3.4	第29号住居址	89
IV 遺構と遺物	5	第30号住居址	92
1. 住居址	5	第31号住居址	93
第1号住居址	5	第32号住居址	95
第2号住居址	7	第33号住居址	97
第3号住居址	14	第34号住居址	101
第4号住居址	16	第35号住居址	105
第5号住居址	20	第36号住居址	108
第6号住居址	22	第37号住居址	111
第7号住居址	28	第38号住居址	114
第8号住居址	29	第39号住居址	117
第9号住居址	34	第40号住居址	119
第10号住居址	36	第41号住居址	122
第11号住居址	39	第42号住居址	127
第12号住居址	41	第43号住居址	129
第14号住居址	45	第44号住居址	131
第15号住居址	49	第45号住居址	134
第16号住居址	50	第47号住居址	137
第17号住居址	53	第48号住居址	141
第18号住居址	57	第49号住居址	145
第19号住居址	60	第50号住居址	148
第20号住居址	64	第51号住居址	150
第21号住居址	67	第52号住居址	152
第22号住居址	70	第53号住居址	156
第23号住居址	72	第54号住居址	161
第24号住居址	74	第55号住居址	162
第25号住居址	76	第56号住居址	164
第26号住居址	79	第57号住居址	165

第58号住居址	167
第59号住居址	168
第60号住居址	172
第61号住居址	174
第62号住居址	179
第63号住居址	180
第64号住居址	185
第65号住居址	186
第66号住居址	189
第67号住居址	191
第68号住居址	193
第69号住居址	197
第70号住居址	199
第71号住居址	202
2. 土坑	205
3. 掘立遺構	229
4. 溝	231
5. その他	233
V 総括	237

挿 図 目 次

第1図	遺跡周辺地形と位置図	1
第2図	住居址・土坑位置図(1区)	3
第3図	住居址・土坑位置図(2区、3区)	4
第4図	第1号住居址実測図	6
第5図	第1号住竈実測図	6
第6図	第1号住居址出土遺物実測図	7
第7図	第2号住居址実測図	8
第8図	第2号住竈実測図	9
第9図	第2号住居址出土遺物実測図	11
第10図	第2号住居址出土遺物実測図	12
第11図	第2号住居址出土遺物実測図	13
第12図	第3号住居址実測図	14
第13図	第3号住竈実測図	15
第14図	第3号住居址出土遺物実測図	16
第15図	第4号住居址実測図	17
第16図	第4号住竈実測図	18
第17図	第4号、5号住居址出土遺物実測図	19
第18図	第5号住竈実測図	20
第19図	第5号住居址実測図	21
第20図	第5号住居址出土遺物実測図	22
第21図	第6号住居址実測図	23
第22図	第6号住竈実測図	25
第23図	第6号住居址出土遺物実測図	26
第24図	第6号住居址出土遺物実測図	27
第25図	第7号住居址実測図	28
第26図	第7号住竈実測図	29
第27図	第8号住居址実測図	30
第28図	第8号住竈実測図	31
第29図	第8号住居址出土遺物実測図	32
第30図	第9号住居址実測図	35
第31図	第9号住竈実測図	35
第32図	第9号住居址出土遺物実測図	35
第33図	第10号住居址実測図	37
第34図	第10号住竈実測図	38
第35図	第10号住居址出土遺物実測図	38
第36図	第11号住居址実測図	39
第37図	第11号住居址出土遺物実測図	40
第38図	第12号住居址実測図	42
第39図	第12号住居址出土遺物実測図	43
第40図	第12号住竈実測図	44
第41図	第14号住居址実測図	46
第42図	第14号住居址出土遺物実測図	48
第43図	第15号住居址実測図	49
第44図	第15号住居址出土遺物実測図	50
第45図	第16号住居址実測図	51
第46図	第16号住竈実測図	52
第47図	第16号住居址出土遺物実測図	52
第48図	第17号住居址実測図	54
第49図	第17号住居址出土遺物実測図	55
第50図	第17号住居址出土遺物実測図	56
第51図	第18号住居址実測図	58
第52図	第18号住竈実測図	59
第53図	第18号住居址出土遺物実測図	60
第54図	第19号住居址実測図	61
第55図	第19号住竈実測図	62
第56図	第19号住居址出土遺物実測図	63
第57図	第20号住竈実測図	64
第58図	第20号住居址実測図	65
第59図	第20号住居址出土遺物実測図	66
第60図	第21号住居址実測図	68

第61図	第21号住竈実測図	69	第93図	第33号住竈実測図	99
第62図	第21号住居址出土遺物実測図	70	第94図	第33号住居址出土遺物実測図	100
第63図	第22号住居址実測図	71	第95図	第33号住居址出土遺物実測図	101
第64図	第22号住居址出土遺物実測図	71	第96図	第34号住居址実測図	102
第65図	第23号住居址出土遺物実測図	72	第97図	第34号住竈実測図	103
第66図	第23号住居址実測図	73	第98図	第34号住居址出土遺物実測図	104
第67図	第24号住居址出土遺物実測図	74	第99図	第35号住竈実測図	106
第68図	第24号住居址実測図	75	第100図	第35号住居址出土遺物実測図	106
第69図	第24号住竈実測図	76	第101図	第35号住居址出土遺物実測図	107
第70図	第25号住居址実測図	77	第102図	第36号住竈実測図	108
第71図	第25号住居址出土遺物実測図	78	第103図	第36号住居址実測図	109
第72図	第26号住竈実測図	79	第104図	第36号住居址出土遺物実測図	110
第73図	第26号住居址実測図	80	第105図	第37号住居址実測図	112
第74図	第26号住居址出土遺物実測図	81	第106図	第37号住竈実測図	113
第75図	第27号住居址実測図	83	第107図	第37号住居址出土遺物実測図	114
第76図	第27号住竈実測図	84	第108図	第38号住居址実測図	115
第77図	第27号住居址出土遺物実測図	85	第109図	第38号住居址出土遺物実測図	116
第78図	第28号住居址実測図	86	第110図	第39号住居址実測図	117
第79図	第28号住竈実測図	87	第111図	第39号住竈実測図	118
第80図	第28号住居址出土遺物実測図	88	第112図	第39号住居址出土遺物実測図	118
第81図	第29号住竈実測図	89	第113図	第40号住竈実測図	119
第82図	第29号住居址実測図	90	第114図	第40号住居址実測図	120
第83図	第29号住居址出土遺物実測図	91	第115図	第40号住居址出土遺物実測図	121
第84図	第30号住居址実測図	92	第116図	第41号住竈実測図	122
第85図	第30号住居址出土遺物実測図	93	第117図	第41号住居址実測図	123
第86図	第31号住居址実測図	94	第118図	第41号住居址出土遺物実測図	124
第87図	第31号住居址出土遺物実測図	95	第119図	第41号住居址出土遺物実測図	125
第88図	第32号住居址炭化物実測図	96	第120図	第42号住居址実測図	127
第89図	第32号住居址実測図	96	第121図	第42号住竈実測図	128
第90図	第32号住竈実測図	97	第122図	第42号住居址出土遺物実測図	128
第91図	第32号住居址出土遺物実測図	97	第123図	第43号住居址実測図	129
第92図	第33号住居址実測図	98	第124図	第43号住竈実測図	130

第125図	第43号住居址出土遺物実測図	131	第157図	第57号住居址実測図	166
第126図	第44号住居址実測図	132	第158図	第57号住居址出土遺物実測図	166
第127図	第44号住竈実測図	133	第159図	第58号住居址実測図	167
第128図	第44号住居址出土遺物実測図	133	第160図	第58号住竈実測図	168
第129図	第45号住居址実測図	135	第161図	第59号住居址実測図	169
第130図	第45号住居址出土遺物実測図	136	第162図	第59号住竈実測図	170
第131図	第47号住居址実測図	138	第163図	第59号住居址出土遺物実測図	171
第132図	第47号住竈実測図	139	第164図	第60号住居址実測図	173
第133図	第47号住居址出土遺物実測図	140	第165図	第60号住竈実測図	173
第134図	第48号住居址実測図	141	第166図	第61号住居址実測図	174
第135図	第48号住竈実測図	142	第167図	第61号住居址出土遺物実測図	176
第136図	第48号住居址出土遺物実測図	143	第168図	第61・63号住居址出土遺物実測図	
第137図	第48号住居址出土遺物実測図	144			177
第138図	第49号住居址実測図	145	第169図	第62号住居址実測図	178
第139図	第49号住竈実測図	146	第170図	第62号住居址出土遺物実測図	180
第140図	第49号住居址出土遺物実測図	147	第171図	第63号住居址実測図	181
第141図	第50号住居址実測図	148	第172図	第63号住竈実測図	182
第142図	第50号住居址出土遺物実測図	149	第173図	第63号住居址出土遺物実測図	183
第143図	第51号住居址実測図	151	第174図	第64号住居址実測図	184
第144図	第51号住竈実測図	152	第175図	第64号住居址出土遺物実測図	185
第145図	第52号住居址実測図	153	第176図	第65号住居址実測図	187
第146図	第52号住竈実測図	154	第177図	第65号住竈実測図	188
第147図	第52号住居址出土遺物実測図	155	第178図	第65号住居址出土遺物実測図	188
第148図	第53号住居址実測図	157	第179図	第66号住居址・炉実測図	189
第149図	第53号住竈実測図	158	第180図	第66号住居址出土遺物実測図	190
第150図	第53号住居址出土遺物実測図	159	第181図	第67号住居址実測図	191
第151図	第53号住居址出土遺物実測図	160	第182図	第67号住居址出土遺物実測図	192
第152図	第54号住居址実測図	161	第183図	第68号住居址実測図	194
第153図	第55号炉址実測図	162	第184図	第68号住竈実測図	195
第154図	第55号住居址実測図	163	第185図	第68号住居址出土遺物実測図	195
第155図	第56号住居址実測図	164	第186図	第68号住居址出土遺物実測図	196
第156図	第56号住居址出土遺物実測図	165	第187図	第69号住居址実測図	198

第188図	第69号炉址実測図	198	実測図	228	
第189図	第69号住居址出土遺物実測図	198	掘立建屋実測図(P16)	228	
第190図	第70号住居址実測図	200	掘立建屋・実測図・1号建屋	230	
第191図	第70号炉址実測図	201	掘立建屋実測図・2号・3号建屋	231	
第192図	第70号住居址出土遺物実測図	201	第1・2・3号溝実測図	233	
第193図	第71号住居址実測図	202	第217図	グリット出土遺物実測図	236
第194図	第71号炉址実測図	203	第218図	グリット出土遺物実測図	237
第195図	第71号住居址出土遺物実測図	203	第219図	土器片鍾・上製品・石鑷実測図	
第196図	住居址出土銅・鉄製品実測図	204		238	
第197図	第2・3・4・5・21号土坑実測図	207			
第198図	第50・80・81・82号土坑実測図	208			
第199図	第8・18・20・39・84号土坑実測図				
		210			
第200図	第1・64号土壤実測図	211			
第201図	第51・53・56・69・73号土坑実測図				
		213			
第202図	第83・85・90・93・94号土坑実測図				
		214			
第203図	第32・33・34・35・37号土坑実測図				
		216			
第204図	第30号土坑実測図	218			
第205図	第38・45号土坑実測図	220			
第206図	第9・52号土坑実測図	221			
第207図	第54・55号土坑実測図	222			
第208図	第57・70・74号土坑実測図	224			
第209図	第75号土坑・第1・3号炉址・ 92号土坑実測図	226			
第210図	掘立遺構(柱穴)第37・44・ 70号土坑出土遺物実測図	227			
第211図	掘立遺構(柱穴)住居址・グリット 出土古錢括影図	227			
第212図	掘立遺構(柱穴)出土煙管・和釘				

写 真 図 版 目 次

- P L 1 調査前の風景(西側から東側)、上 調査前の風景(北側から南側を見る)、下
- P L 2 調査後全景(北側から南側を見る)、上 調査後の全景(1区のV. Y28Gに検出された柱穴群)、
- P L 3 調査後全景(1区Y~2区Aの住居址南側から北側を見る)、上 調査後の全景2区中央部(東側から西側を見る)、下
- P L 4 調査後全景(2区中央部東側から西側を見る)、上 調査後の全景(2区中央部西側から北側を見る)、下
- P L 5 調査後全景(東端部、東側から西側を見る)、上 調査風景、下
- P L 6 調査風景、上 調査風景、下
- P L 7 1号住遺物出土状態 1号住竈内遺物出土状態 1号住完掘 2号住遺物出土状態 2号住遺物出土状態 2号住完掘 3号住遺物出土状態 3号住完掘
- P L 8 3住竈検出状態 4住竈内遺物出土状態 4住完掘状態(中央1号土坑)、 5号住完掘 6住遺物出土状態 6住遺物出土状態 6住竈検出状態 6住完掘
- P L 9 7住竈検出状態 7住遺物出土状態 8住遺物出土状態 8住完掘 9住完掘 10住竈検出状態 10住完掘 11住土層の状態
- P L 10 11住土層の状態 11住竈調査状態 11住完掘 12住竈土層 12住完掘 14住遺物出土状態 14住竈検出状態 14住完掘
- P L 11 15住土層の状態 15住完掘 16住竈調査状態 16住完掘 17住遺物出土状態 17住東北隅部遺物出土状態 17住完掘 18住鑑出土状態
- P L 12 18住土層の状態 18住土層の状態 18住完掘 18遺物出土状態 19土製丸玉出土状態 19住完掘 20住竈内支脚出土状態 20住遺物出土状態
- P L 13 20住环類出土状態 20住完掘 21住完掘 22住遺物出土状態 22住竈内遺物状態 22住完掘 23住竈検出状態 23住完掘
- P L 14 24住完掘 25住竈土層 25住竈検出状態 25住完掘 26住遺物出土状態 26住完掘 27住須恵器出土状態 27住竈検出状態
- P L 15 27住竈検出状態 27住完掘 28住竈検出、遺物出土状態 29住完掘 30住完掘 31住遺物出土状態 31住坏出土状態

- P L16 32住遺物出土状態(炭化物)、32住刀子、紡錘車出土状態 32住鍛出土状態 32住完掘
33住遺物出土状態 33住甕出土状態 33住完掘(北側から)、34住遺物出土状態
- P L17 34住遺物出土状態 34住甕内遺物出土状態 34住甕内甕出土状態 34住完掘 35住遺物
出土状態 34住遺物出土状態 35住完掘
- P L18 36住遺物出土状態 36住遺物出土状態 36住遺物出土状態 36住完掘 37住遺物出土状
態 37住完掘 38住遺物出土状態 38住遺物出土状態
- P L19 39住遺物出土状態 39住遺物出土状態 40住完掘 41住遺物出土状態 41住遺物出土状
態 41住遺物出土状態 41住完掘
- P L20 42住完掘 43住遺物出土状態 43住遺物出土状態 44住遺物出土状態 44住遺物出土状
態 44住完掘 45住遺物出土状態 45住遺物出土状態
- P L21 46住土層と遺物 46住土層と遺物 47住遺物出土状態 47住完掘 48住遺物出土状態
48住遺物出土状態 48住完掘 49住甕内遺物出土状態
- P L22 49住完掘 50住遺物出土 50住遺物出土状態 50住甕土層 51住甕内遺物出土状態 52
住遺物出土状態 52住甕土層 52住完掘
- P L23 53住甕内遺物出土状態 53住完掘 54住焼土 54住完掘 55住調査状態 55住炉址完掘
55住完掘 56住遺物出土状態
- P L24 57住完掘 57住遺物出土状態 57住遺物出土状態 57住完掘 59住遺物出土状態
59住遺物出土状態 59住遺物出土状態 59住完掘
- P L25 58住甕内遺物 58住完掘 60住遺物出土状態 60住完掘 61住遺物出土状態 61住完掘
62住遺物出土状態 62住完掘
- P L26 63住遺物出土状態 63住遺物出土状態 63住完掘 64住完掘 65住遺物出土状態
65住遺物出土状態 66住遺物出土状態 66住完掘
- P L27 67住遺物出土状態 67住完掘 68住遺物出土状態 68住遺物出土状態 68住甕検出状態
69住遺物・炉検出状態 69住完掘 70住遺物出土状態
- P L28 70住炉址 70住完掘 71住遺物出土状態 71住遺物出土状態 1号溝土層 1号溝東側
から 1号溝と20号土坑 1号溝完掘西側から
- P L29 2号溝土層 2号溝土層 2号溝土層 2号溝完掘 3号溝土層 3号溝完掘 1号土壤 1号
土壤 (4・5号住完掘)
- P L30 32号土坑完掘 37号土坑遺物出土状態 37号土坑完掘 38号土坑完掘 48号土坑遺物出
土状態 48号土坑完掘 46号土坑完掘 54号土坑完掘
- P L31 55号土坑完掘 57号土坑遺物出土状態 70号土坑遺物出土状態 70号土坑完掘 73号土
坑遺物出土状態 挖立柱穴群(南側から)、西側、挖立柱穴群(南側から)、東側

P L31 挖立柱穴群(南側から) 中央部
出土遺物

P L32 1号住(上) 2号住(下)

P L33 2号住(上左) 3号住(上右) 4号住(下)

P L34 6号住

P L35 8号住(上) 11号住(中左) 12号住(中右) 14号住(下)

P L36 16号住(上) 17号住(中上) 18号住(中下) 19号住(下)

P L37 20号住(上) 21号住(中) 24号住(下左) 25号住(下右)

P L38 26号住(上) 27号住(中) 28号住(下)

P L39 28号住(上) 29号住(中1) 30号住(中2) 31号住(中3) 32号住(中4)
34号住(下)

P L40 34号住(上) 32号住(中上) 36号住(中下) 37号住(下左) 38号住(下右)

P L41 40号住(上) 41号住(下)

P L42 42号住(上) 45号住(中上) 47号住(中下左) 48号住(下)

P L43 49号住(上) 50号住(中) 52号住(下)

P L44 53号住(上) 56号住(中) 59号住(下)

P L45 39号住(上) 40号住(中左) 49号住(中右) 56号住(下左)
59号住(下中) 39号住(下右)

P L46 52号住(上左) 33号住(上中) 26号住(上右) 37号住(中左)
53号住(中中) 34号住(中右) 17号住(中左) 41号住(中右)
44号住(下左) 47号住(下中) 44号住(下中)
35号住(下右)

P L47 61号住(上) 62号住(中) 63号住(下)

P L48 64号住(上) 66号住(中) 68号住(中左)
69号住(中右) 70号住(下)

P L49 鉄製品
32号住 19号住 29号住 58号住 32号住 53号住
38号住 19号住 27号住 2号住 32号住 40号住 29号住
67号住 19号住 39号住 9号住
P-16' P-16' P-16' 11号住 W-29
W-28 2号住

P L50 P-16' W-29 1号土坑 1号住 1号住 12号住
38号住 P-16 P-17 P-16 V-129
W-29 2区A-40 10号住 W-21
グリット出土土鍤(下)

P L51 グリット出土土鍤(上) 2区A-33
住居址出土土鍤(中)(下)

P L52 57号土坑(下左) 70号土坑(上右) 44号土坑(中左)
53号土坑(中左) 37号土坑(中右) 作業風景(下)

P L53 土器土鍤(下二段) 石鍤(御左) 土製品、中(66号住, 12号住)
砥石(中右) 石器(下二段)

I. 位置と環境

本遺跡は、北浦村役場の西側約200m の標高34m 程の台地上に所在している。遺跡は役場付近から入りこむ小支谷に西、南、東側がそれぞれ面しており今回の調査範囲は「L」の字状を呈している。調査対象面積は遺跡の約30~40%と推察している。

北浦から直線にして約800 m 程で周辺には縄文時代の今山貝塚、鶴貝塚、六台遺跡、中世期の古屋敷館跡等が500m の範囲に位置している。

今山貝塚は西側200m に位置し小支谷最奥部に占地する斜面貝塚で露出部には阿玉台式、加曾利巨式の遺物がみられ、ハマグリ、アカニシを主体としている。鶴貝塚は浮島式、諸磯式等の山土がみられる。なお南側300 m には支谷を狭んで六台遺跡、西側には古屋敷遺跡が位置している。



第1図 遺跡周辺地形及び位置図

II. 調査経過

調査は昭和63年1月11日より開始し5月30日までの5ヵ月間と11月1日から12月3日の1ヵ月間、都合6ヵ月間を費やした。以下箇条書きに経緯を述べる。

- 1月11日 午前中安全祈願祭、作業に就いての説明、午後テント設営、道具の調整、草刈と駐車場の確保
- 12日 試掘に基づいてユンボーによる表土除去作業開始1区南側から
- 15日 1区はほぼ表土除去が終了、ジレンによる遺構確認続行
- 19日 本日より遺構の調査開始、1.2号住居址壠は北壁に持つ
- 25日 8号住居址まで調査進む、いずれも古墳時代後半鬼高期
- 2月1日 13号住居址まで調査進む、2区もトレンチに添ってユンボーに依る表土除去
- 3日 第1班へ13人応援山田、小幡地区
- 10日 20号住居址まで進む、津澄小学校生徒見学、表土除去進む
- 15日 25号住居址まで進む、溝検出、土坑調査6号まで行う
- 25日 29号住居址調査開始、暖冬の為作業は順調
- 3月4日 34号住居址まで調査進む、32号住居址は火災に依るものか炭化物多量
- 7日 36・38号住居址調査開始、埋蔵文化財指導委員、並木享氏来場。ゴルフ場関係者見学
- 17日 鉢田地区の現場終了の為作業員の手配に出向く。人出やや減り気味
- 28日 鉢田地区から10名の応援を受ける、47号住居址の調査に入る
- 31日 黒沢春彦調査員本日より財団に転出、宮内調査員も2月以降大部分休み
- 4月1日 本日から汀1人に成り目の廻る忙がしさ、各遺構の実測進みはじめる
- 15日 54号住居址調査開始、土坑20号まで進む、1号溝調査開始
- 25日 56・57号住居址調査開始、56号はヒトデ状遺構
- 28日 58・59号までの遺物取りあげ連休の為、55号は縄文で火災の住居址
- 5月6日 連休明け、各遺構の整理、土坑の調査、内野調査員に応援受ける
- 17日 土坑は68号まで、住居址は60号まで進む、ファイヤーピットの調査
- 30日 本日では終了し数人を残し六台遺跡へ移る
- 6月9日 本日で写真、図面の確認等全て終了
- 11月1日 残り部分の調査開始（耕作地の為）ジレンによる遺構確認
- 10日 66号住居址まで進み土坑は89号まで
- 12月10日 本日で写真等全て終了、遺物、器材の撤去
70軒の住居址と土坑、91基、溝3条を検出した。

III. 調査の概要

本遺跡は前述のように東側、南側、北側の三方から谷が入り込み半島状に伸びる部分と谷に面し畑地に利用され平坦に移行する部分に分れている。

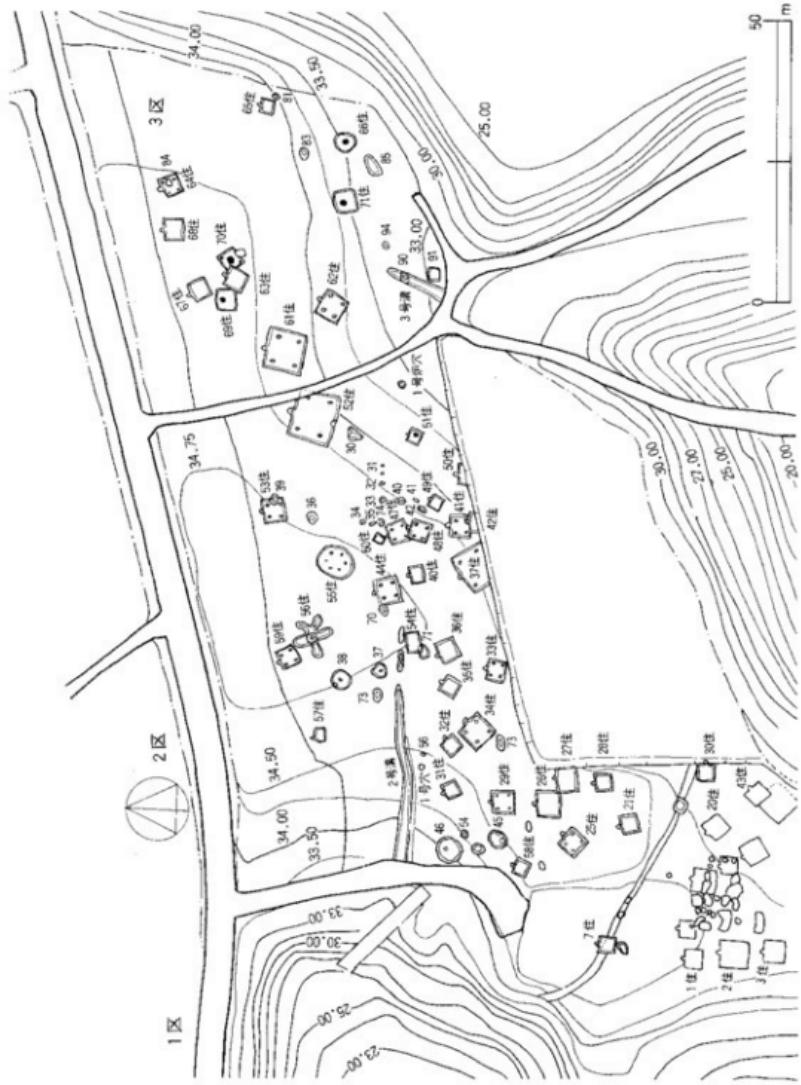
遺構は調査区のほぼ前面にわたって検出された。大別すれば東側にやや古い古墳時代和泉期の遺構が3軒集中して見られ、縄文時代中期の遺構も東側に偏在している。

検出された遺構の大部分を占める鬼高朝の遺構は、ほぼ調査区全域に見られ片側に偏在は示さないが規模、プラン、方位にかなりの差が認められる。真間期の遺構は規模の縮小が見られ柱穴の検出されないものも多い。平安時代初頭に位置付けられるものも見られ北側、東側、南側等竈の位置が一定しない。その他中世期に位置付けられるヒトデ状の遺構、時期不明の溝3条、江戸時代の掘立遺構3棟が認められた。

土坑は94基程検出された。縄文期に位置づけられるものは12基前後、古墳時代と考えられるもの5基前後、墓壙と思われるもの2基、その他炭化物、焼土を持つもの6基、時期不明で江戸時代と推察されるもの等があり、時期が不明のもの9基。他は掘立遺構のピットが大半を含め、番号を付して調査を行ったが抜根痕、芋穴等で欠番としたものもあり数は住居址同様一致しない。遺構から古墳時代中期から平安時代初期にかけてほぼ連続して集落がいとなまれていたことが理解出来る。



第2図 住居址、土坑溝位置図



第3図 住居址・土坑・溝位置図

IV. 遺構と遺物

1. 住居址

第1号住居址（第5・6図）

本址は、調査区の西側1区、T-28・29 グリットを中心に確認された住居址で台地が西側に傾斜をする肩部に位置し確認された。南側1.5mには第2号住居址、東側には柱穴群が認められる。主軸をN-4°-Wに置き、東西4.2m、南北4.3m、隅のやや丸みをもつ方形プランを呈している。壁面は垂直に近く立ち上がり37cm~45cmを測る。床面は竈の前面を中心に良好踏み固められ壁面周辺部はやや弱い。ほぼ水平に移行している。柱穴は住居内、外側においても確認出来なかった。周溝は検出されず西壁側に柱穴状のピットが確認されたがいずれも浅く、小さいものであった。

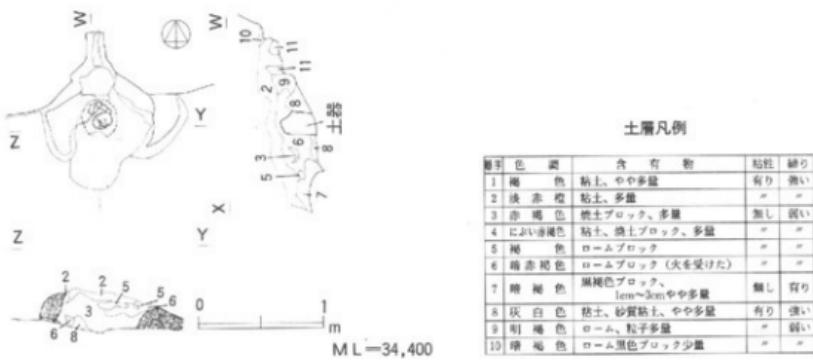
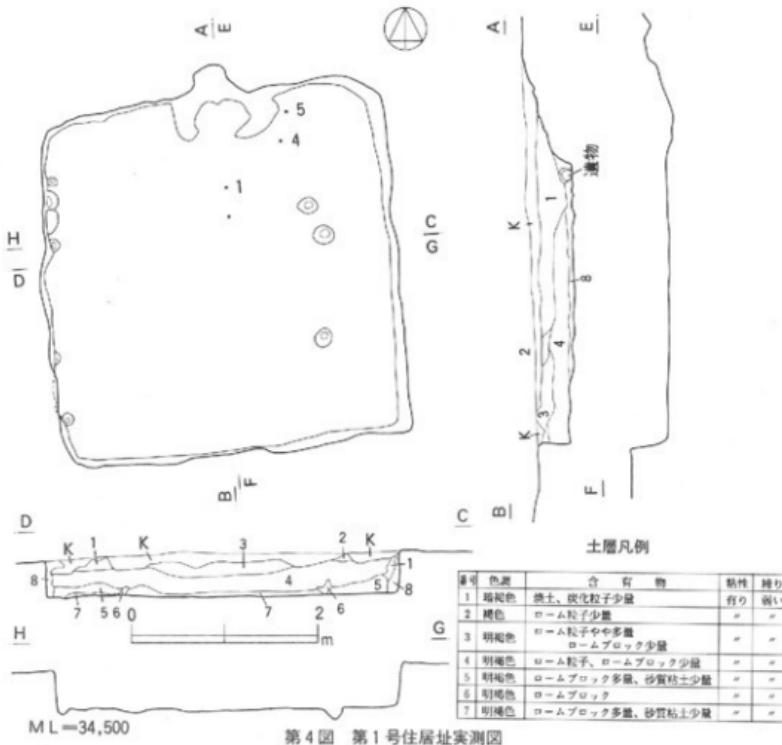
竈は、北壁中央部に位置し遺存状態はやや良く袖部、火床部が認められ支脚の替わりに前述の壊が被せた状態で検出された。形態的にはU形状の掘り込みを呈していた。袖部は砂質の多い粘土を用い粘性はやや強い。半円形状形態。

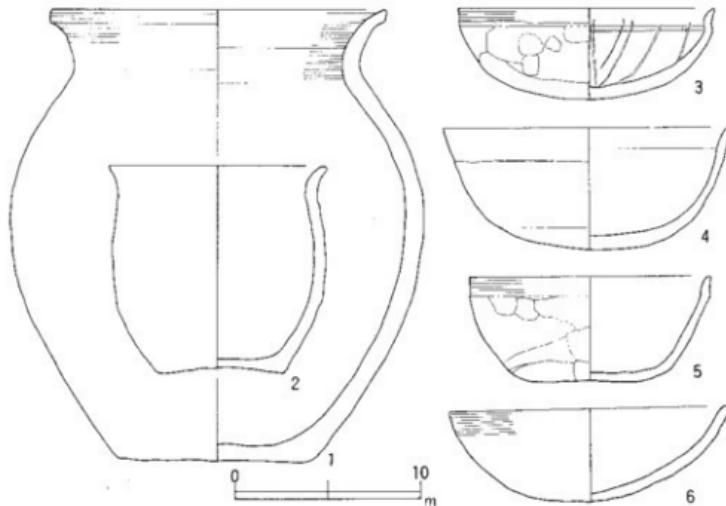
覆土は、上部に擾乱層があり乱れがみられるがほぼ自然埋積の様相を呈している。1・2層は褐色、暗褐色、3層からローム粒子、ブロックの混入が多くなり明褐色を呈し明るさを増していく。

遺物は、全体的に少なく竈の前から壺型土器が床直で、竈内から小型甕、壺が出土している。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	壺 土師器	A 17.6 B 23.7 C 9.6	平底から内縫気味に立ち上り、最大径を脣部上位に置き、くびれは弱い。頭部は「く」の字状に外反して、口唇部は丸味をもつ「凹」状に浅く渦巻痕？と思われるものが巡る。	接ナデ、蓋ナデ ナデ	砂礫 にぶい黒褐色（橙色） 普通	70 % 床 直
2	小型壺 土師器	A 11.7 B 10.4 C 6.5	底部は上底気味、ゆるやかに立ち上り最大径を口縫部の張りは上位に位置する。二次焼成で状態は悪い。	二次焼成の為不明	砂礫 にぶい赤褐色 不良	100 % 竈 内
3	壺 土師器	A 13.8 B 4.9 C 3.5	脣部に弱い縫を有し、口縫部は短く脣部開いて尖る。丸底の底部から内縫気味に立ち上り口縫直立し口唇部カット状に尖る。	横ナデ、鎌削り ナデ	礫板少量 にぶい黒褐色（橙色） 普通	98 % 竈 内
4	壺 土師器	A 15.5 B 6.5 C 5.0	器内は薄く丸底から内縫気味に立ち上り、口縫部は肥厚し丸味をもつ。	ナデ調整か？	砂礫、石英 赤褐色 (底土にぶい黒褐色) 普通	98 % 床 直
5	壺 土師器	A 12.5 B 5.0 C 6.0	平底から内縫気味に立ち上り、脣部に弱い縫をもつ。口縫部は短く直立気味。口唇部は丸く収める。	横ナデ、鎌削り 底部ヘラ調整	礫 にぶい褐色 普通	98 % + 9 cm
6	壺 土師器	A 15.0 B 4.9 C 1.8	丸底から、ゆるやかに内縫して立ち上り口縫部に向ってやや肥厚し、口唇部は開き、丸味をもち肥厚する。器面は粗面。	ナデか？、鎌削り	砂礫、石英 橙色（暗褐色） 普通	98 % 竈 内





第6図 第1号住居址出土遺物実測図

第2号住居址（第7・8・9図）

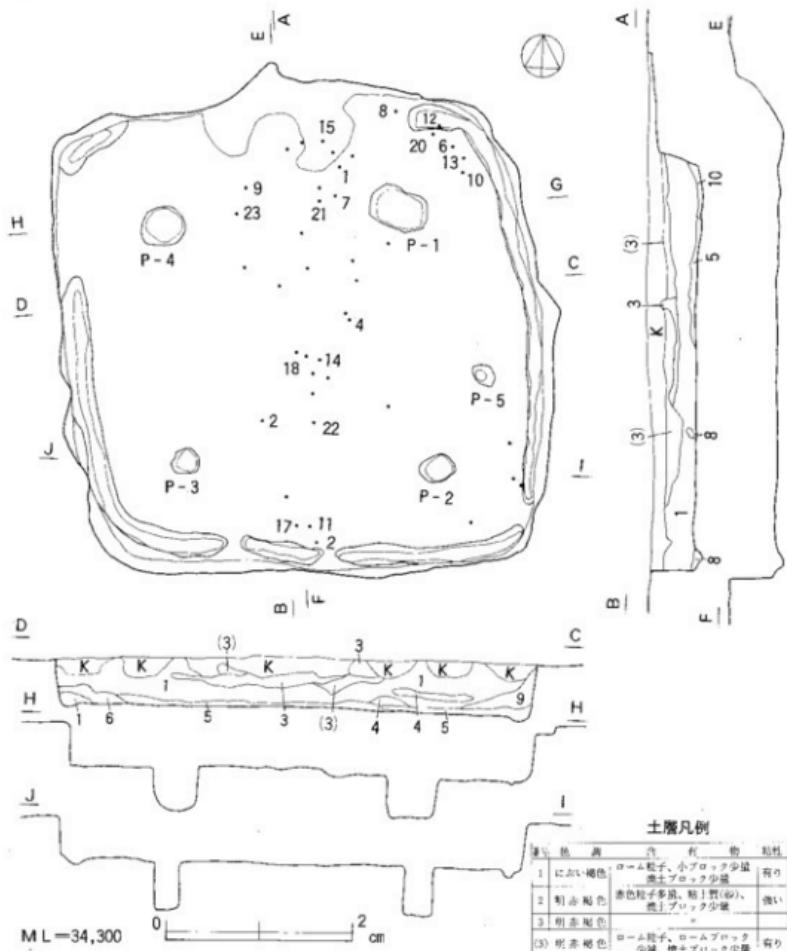
本址は、1号住居址の南側1区、T-30、U-30 グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する部分に位置し確認された。北側1.5mには第1号住居址、南側3mには第3号住居址が認められる。主軸を N-3°-W に置き、東西4.5m、南北4.2m、隅のやや丸味をもつ方形プランを呈している。壁面は垂直に近く立ち上がり深さは42cm～45cmを測る。床面は竈の前面を中心によく踏み固められ壁面周辺部はやや弱い。柱穴はP1・2・3・4が深さ、径から考えられP1は最も深く50cm、径55cmを測る。周溝は、西側、北側及び南側の一部に存在し、確認出来ない部分や浅く不明瞭な所等があった。その他は幅、深さとも良好に認められた。5のピットはやや浅く位置的にも柱穴とは考えにくいがその性格を確認する遺物は検出出来なかった。

竈は、北壁中央部に位置し遺存状態は良く袖部、火床部が認められ、袖部は粘性のある粘土を用いやや住居内へ張りだす状態で構築されている。形態的にはU字状形を呈していた。掘り込みは半円形を呈する。遺物がかなり多く認められた住居跡であった。

覆土は、上部に擾乱層が入り乱れがみられ第2・3層に赤褐色の焼土を主体とした層がほぼ自然堆積の様相を呈して存在している。この層は1層を掘り込んで見られ、その他は褐色層、ロームブロック、ローム粒子の混入が多くなり明褐色を呈し明るさを増していた。

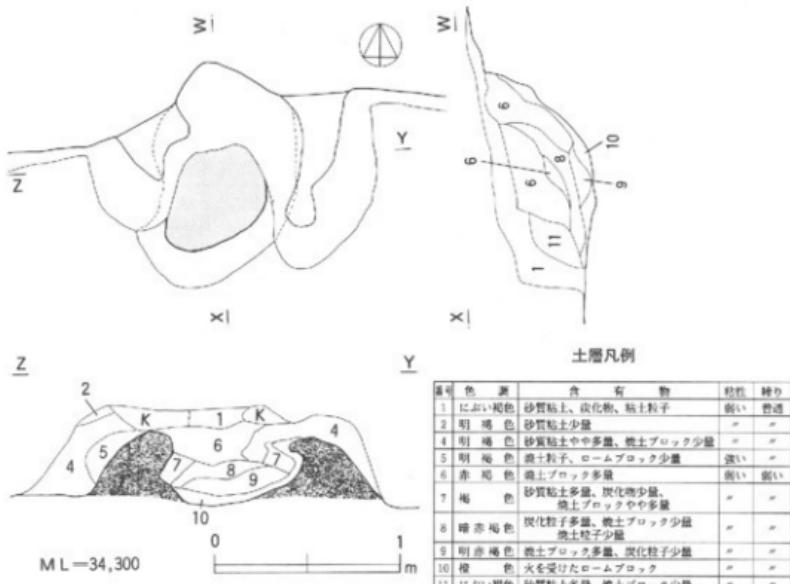
遺物は、総体的に多く、特に須恵器の量が多い。いずれもやや浮いた状態の出土である。竈の

東側から壺型土器、須恵環、蓋が床面から、そのほか南側から須恵器坏、蓋及び环が出土している。



第7図 第2号住居址実測図

土層	色調	性質	有無	粘性	硬さ
1	に赤い褐色	ローム粒子、小プロック少量	有り	強	
2	赤褐色	赤色粒子多量、粘土質(?)、地土プロック少量	強		
3	明赤褐色	ローム粒子、ロームブロック少量	有り		
(3)	明赤褐色	少量、地土プロック少量			
4	に赤い褐色	褐色粘子少量			
5	に赤い褐色	ロームブロック少量			
6	明褐色	ソフトローム少量			
7	に赤い褐色	ロームブロック少量			
8	赤褐色	炭化物少量			
9	に赤い褐色	ローム粒子少量			
10	に赤い褐色	砂質粘土層、面上プロック少量			

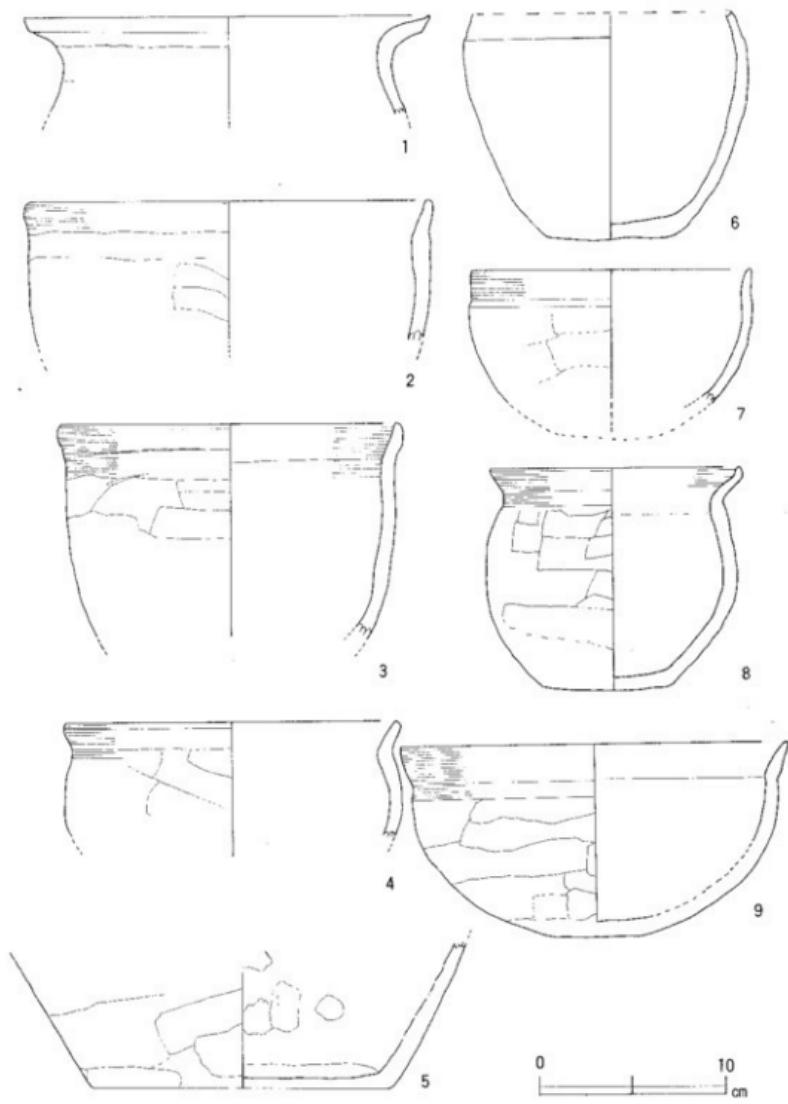


第8図 第2号住家実測図

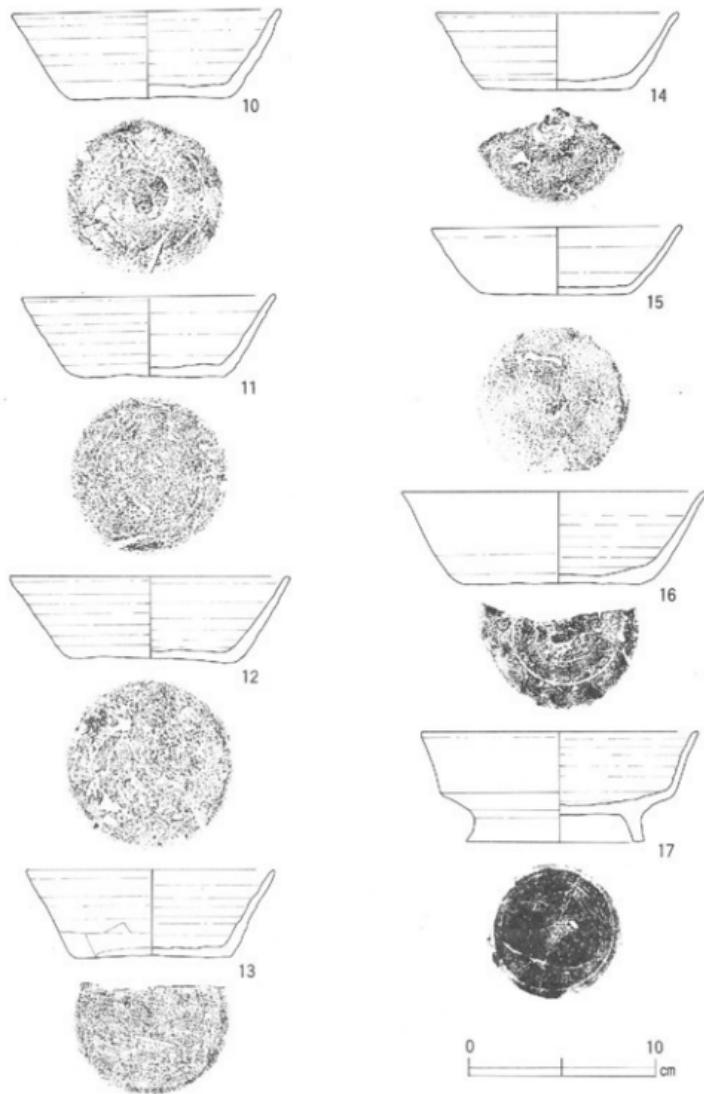
出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	甕 土器	A 18.4 B C	口縁部は弱く開き、口唇部は直立気味で丸味をもつ。蓋の可能性があり。	横ナデ、箝削り	砂隕、石英 にぶい橙色(橙色) 普通	20 % + 3
2	甕 土器	A 22.0 B C	頭部がわずかに弱くくびれ、口唇部は内傾気味でつまみ出し状、丸く収める。蓋の可能性あり。	横ナデ、ナデ	砂隕、石英 普通	30 % 床直
3	甕 土器	A 21.7 B C	口縁部は「く」の字形に外反し、口唇部は薄く上方へつまみ出す。	横ナデ、箝削り ナデ	礫、雲母、石英 暗い橙色 普通	口縁10% 床直
4	甕 土器	A 18.0 B C	口縁部は短く開き気味。口唇部は尖る。小型の甕から鉢に近い。	横ナデ、箝削り ナデ	礫、雲母、石英 黒褐色(褐色) 普通	口縁10% + 31
5	甕 須恵器	A B C 16.0	平底から聞き気味に立ち上り、外面平行叩目。内面はナデと押へ。	ナデ、叩き 箝削り	礫、雲母、石英 灰白色 普通	底部60% + 20
6	小型甕 土器	A 14.5 B 15.4 C 6.5	平底から内脣して立ち上り、口縁部は内傾し薄くなる。安定した平底。	箝削りか? ナデ	礫、雲母、石英 にぶい赤褐色(赤褐色) 不良	90 % 床直

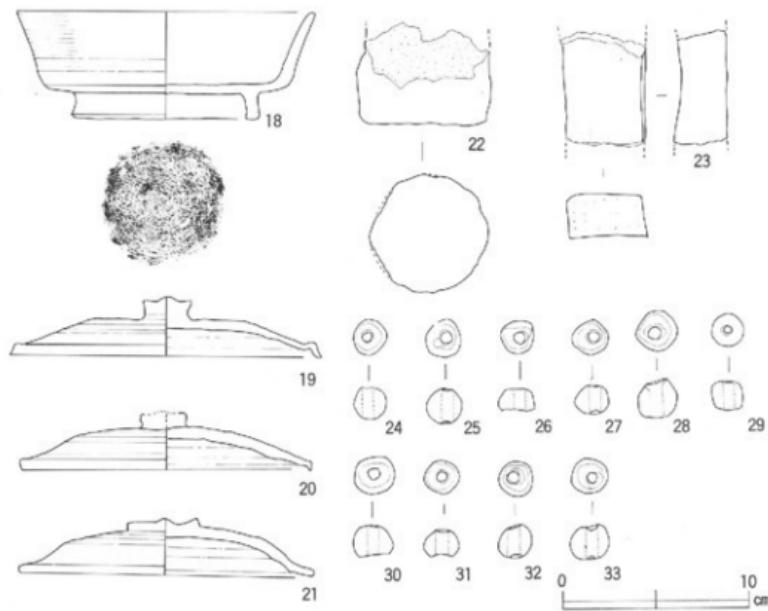
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
7	甕 土器	A 15.0 B 15.3 C	器内は薄い。体部は内彎して立ち上り、口縁部は弱く開き、口唇部は直立気味で丸く収める。	横ナデ、施削りナデ	砂礫、石英 黒褐色(浅い橙色) 普通	20 % 床 直
8	小型甕 土器	A 13.4 B 12.0 C 6.9	やや丸味をもつ平底から内彎気味に立ち上り、肩部で弱くくびれ、口縁部は外反し口唇部は斜上方へつまみ出し状。	横ナデ、施削りナデ	砂礫、 淡い橙色、黒褐色、 普通	100 % 床 直
9	鉢 型 土器	A 20.7 B 10.4 C 5.4	底部は小さく平底気味で、内彎しながら立ち上り、肩部に弱い棱をもち、口縁部は強く外反し、口唇部を丸味をもつ。	横ナデ、箝削りナデ	礫 淡黄褐色(橙色) 普通	40 % + 45
10	环 須恵器	A 14.4 B 4.6 C 8.4	平底から弱く体部が張り直線的な立ち上り、口唇部は丸く収める。器内は、やや厚め。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、底部へラ調整、右削り	礫 灰褐色 普通	80 % + 41
11	环 須恵器	A 13.0 B 4.1 C 8.0	平底から一旦弱く膨らみながら立ち上がり、口唇部外反し丸く収める。口唇部に向って器内を減じる。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキナデ	礫、石英 褐色 普通	60 % + 28
12	环 須恵器	A 13.6 B 4.3 C 7.9	平底から直線的に立ち上る。口唇部は、やや開き薄く、丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、右削り	礫、石英 褐色 やや良	60 % + 46
13	环 須恵器	A 15.0 B 4.3 C 9.0	平底から直線的に開いて立ち上る。口唇部は、丸味をもつ。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、底部へラ切り、右削り	礫、石英 灰褐色 普通	85 % 床 直
14	环 須恵器	A 13.3 B 4.6 C 8.5	平底から直線的に立ち上り、口唇部は、やや薄く、丸く収める。口唇部に向かって器内を減じる。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、底部へラ切り、左削り	礫、石英 褐色 やや良	60 % + 40
15	环 須恵器	A 13.4 B 3.7 C 8.0	平底から内彎気味に立ち上り、口唇部は、やや肥厚し外反、丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、底部回転へラ切り	礫、雲母、石英 褐色 普通	40 % + 39
16	环 須恵器	A 16.4 B 5.0 C 10.3	平底から握きながら器肉を減じて立ち上り口唇部は内面カット状、尖り気味。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、底部回転へラ切り	礫、石英、雲母、 灰褐色 やや良	50 % + 35
17	高台环 須恵器	A 14.8 B 6.0 C 9.6	高台は「ハ」の字状にふんばり、环体部は上方へ開き気味に直線的に立ち上る。器内は薄い。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、付け高台左廻り	礫 青灰褐色 良	60 % + 4
18	高台环 須恵器	A 15.9 B 5.8 C 10.0	高台は、やや弱く張る。环体部は一旦水平に開き、直線的に立ち上る。口唇部は開き気味、丸く収まる。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、付け高台右廻り	砂礫 褐色(黄褐色) 良	60 % + 31
19	蓋 須恵器 (3号住 出土)	A 15.8 B 3.0 C 3.1	天井部は、やや膨らみをもち、擬宝珠部分は、扁平化し薄い。口縁端部は一旦水平に伸び端部は薄いが丸く収めておりカエリもやや顯著である。(縦2~5mmを多量に含む)	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、ナデ左廻り	礫、雲母、石英 褐色 普通	90 % 床 直
20	蓋 須恵器	A 16.7 B 3.2 C	宝珠つまみは扁平化、カエリは形骸化、天井部の膨らみは弱く、口縁端部は、下位につまみ出し丸味をもつ。つまみは貼付。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、左廻り ナデ	礫 褐色 良	60 % + 39
21	蓋 須恵器	A 15.5 B 3.1	天井部の膨らみは20と同じで弱い。口縁端部は薄くつまみ出し、カエリはない。(つまみ部欠)	粘土紐巻上げ 同転ミズビキ、ナデ左廻り	礫、石英、雲母、 灰白色 普通	90 % + 36



第9図 第2号住居址出土遺物実測図



第10図 第2号住居址出土遺物実測図



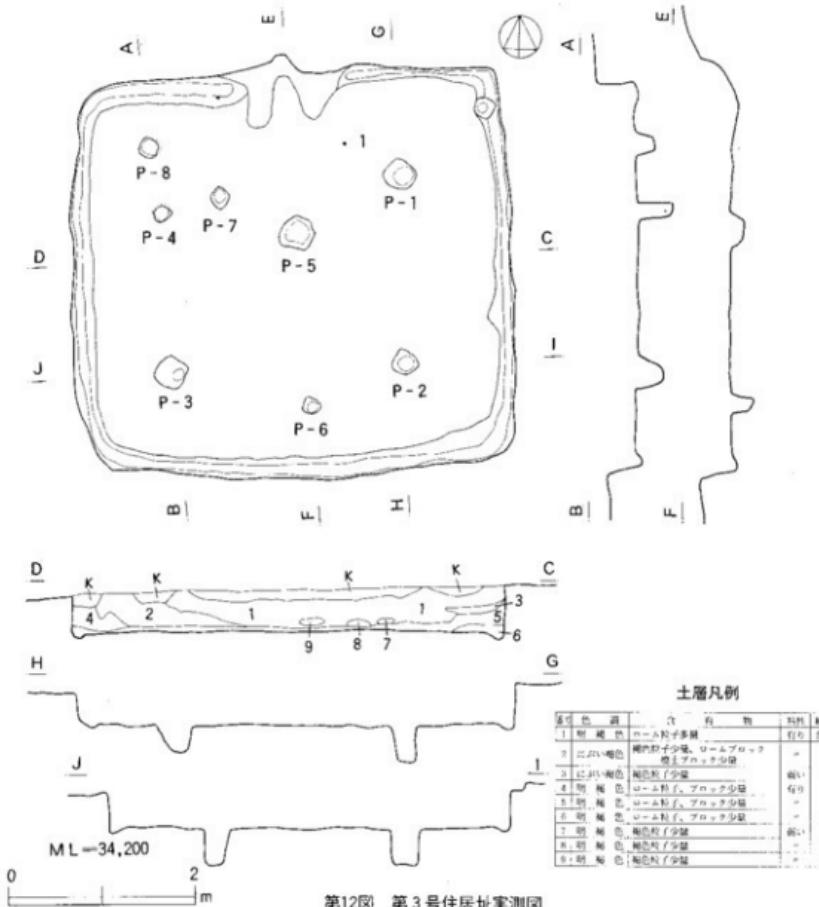
第11図 第2号住居址出土遺物実測図

砥石、支脚、土鍤一覧表

番号	器種	法星(cm)			重星(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
22	支脚		7.2	—	—	土製	覆土中+20	円筒状、大半欠
23	砥石		3.1	0.6		凝灰岩	覆土中+20	四面に使用痕あり
24	土鍤	1.7	1.9	0.6	6	土製	覆土中+48	球形状、孔部円形状
25	"	1.9	1.9	0.6	7	"	+31	やや円形気味球状、孔部円形
26	"	1.1	1.8	0.6	6	"	+51	球形状、1部欠失、孔部円形
27	"	1.6	1.9	0.6	6	"	+28	球形状、孔部円形状
28	"	1.6	2.2	0.6	9	"	+39	球形状1部欠失、孔部円形状
29	"	1.6	1.7	0.6	6	"	+49	長円形状、粗雑、孔部円形状
30	"	2.0	2.2	1.2	11	"		不整形、粗雑な作り、孔部円形状
31	"	1.8	1.9	0.6	5	"	覆土中	球形で孔部が平坦、円形状
32	"	1.7	1.8	0.7	6	"	"	やや不整形球形状、孔部円形状
33	"	1.8	2.0	0.6	8	"	"	ほぼ球形状、孔部円形状

第3号住居址（第12・13・14図）

本址は、2号住居址の南側1区、U-31・32グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に位置し確認された。北側1.5mには第2号住居址、東側には第15号住居址が位置している。主軸をN-4°-Wに置き、東西4.5m、南北4.2m隅のやや丸味をもつ方形プランを呈している。壁面は垂直に近く立ち上がり深さは32cm～42cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められていたが壁面周辺部はやや弱く生活時間、使用期間が短かかったことが推察される。柱穴は4ヶ所、そのほか竈前面にピットが3ヶ所、南側に1ヶ所確認できた。P-4は幅は狭いが深



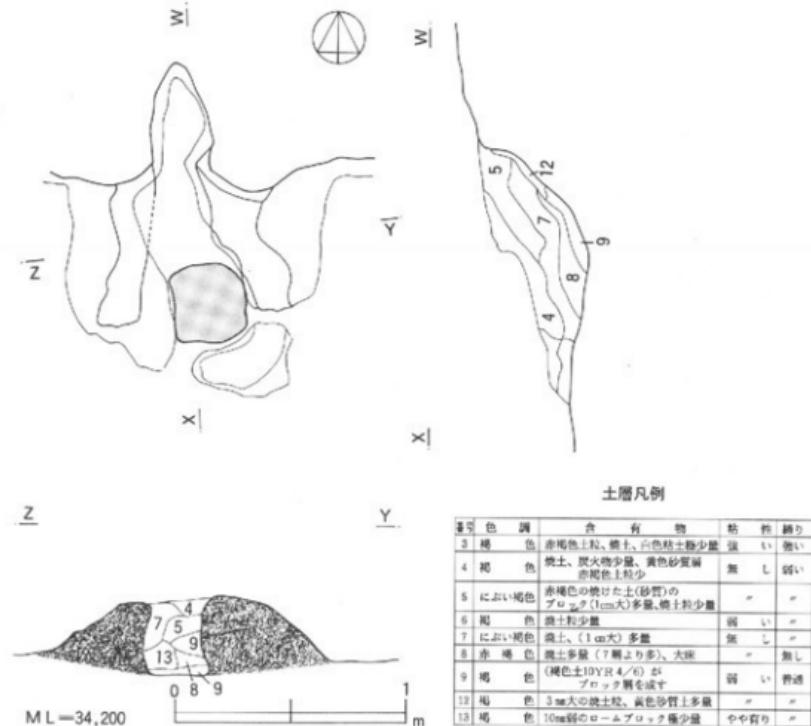
第12図 第3号住居址実測図

い掘り込みをもち他のピットとはやや違った形態を有していた。周溝は、西側で浅くややぼけていたが一周している。

竈は、北壁中央部やや西側に寄った位置に遺存し状態は良く袖部、火床部は前面に位置し認められ住居内へ張り出して構築され外部へは僅かに掘りこんでいるに過ぎない。火床部が最も掘り込まれていて煙道部はやや強く立ち上がる。形態的には「U」の字状を呈していた。袖部は砂質の多い黄色の粘土を用い粘性はやや強い。(第10図・19) 須恵器蓋

覆土は、上部中央部に擾乱層がありそれがみられるがほぼ自然堆積の様相を呈している。1・2・3層は、明褐色からにぶい褐色へと暗さを増していくが5層はローム粒子を多量に含み、ブロックの混入が多くなり明褐色を呈し明るさを増していた。

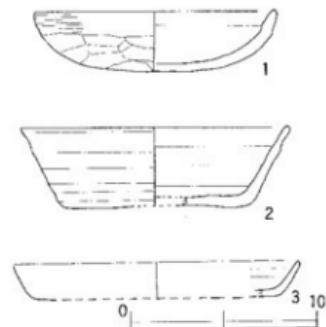
遺物は、全体的に少なく竈の左袖部外側から須恵器蓋が出土している。そのほかはいずれも小破片であり床面から検出されたものは少ない。



第13図 第3号住居実測図

出土土器観察表

番号	器種	法寸(cm)	器形の特徴及び文様	整形方法	胎土・色調・焼成	備考
1	环 土師器	A 13.0 B 3.3 C 2.0	平底に近い器形、周縁に縦・横をもつ。口縁部は外反し、口唇部は肥厚し丸く収める。 内面剥落多い。	横ナデ、箆押打 ナデ	砂質 にほい褐色(にほい黒褐色) 普通	80 % 床直
2	环 須恵器	A 14.4 B 4.2 C 9.8	安定した平底から直線的に立ち上り、口唇部わずかに開き、やや肥厚丸く納める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、 ロクロ? 窯部ヘラ調整	難 青灰褐色 普通	20 % 覆土
3	皿 須恵器	A B C	100%平底か、開き気味に立ち上る。 遺存部が少ないが盤の可能性あり。	粘土紐巻上げ ナデ、回転ミズビキ?	石英、難 灰褐色 普通	10 % 覆土



第14図 第3号住居址出土遺物実測図

第4号住居址 (第15・16・17図)

本址は、1区、Z-38・39、2A-38・39グリットを中心に確認された住居址で台地が東側に傾斜を示す面に確認された。遺構中央部には1号土壙が掘り込まれ西側に存在する5号住居址を切り込み検出された。主軸をN-1°-Eに置き、東西3.6m、南北3.2m、隅のやや丸味をもつ方形プランを呈している。壁面はややだれ気味に開き立ち上がり深さは42cm~72cmを測る。床面は竈の前面に一部やや縮まりのある所も認められるがその他は縮まりは弱く、壁面周辺部は掘り込んだままの様な

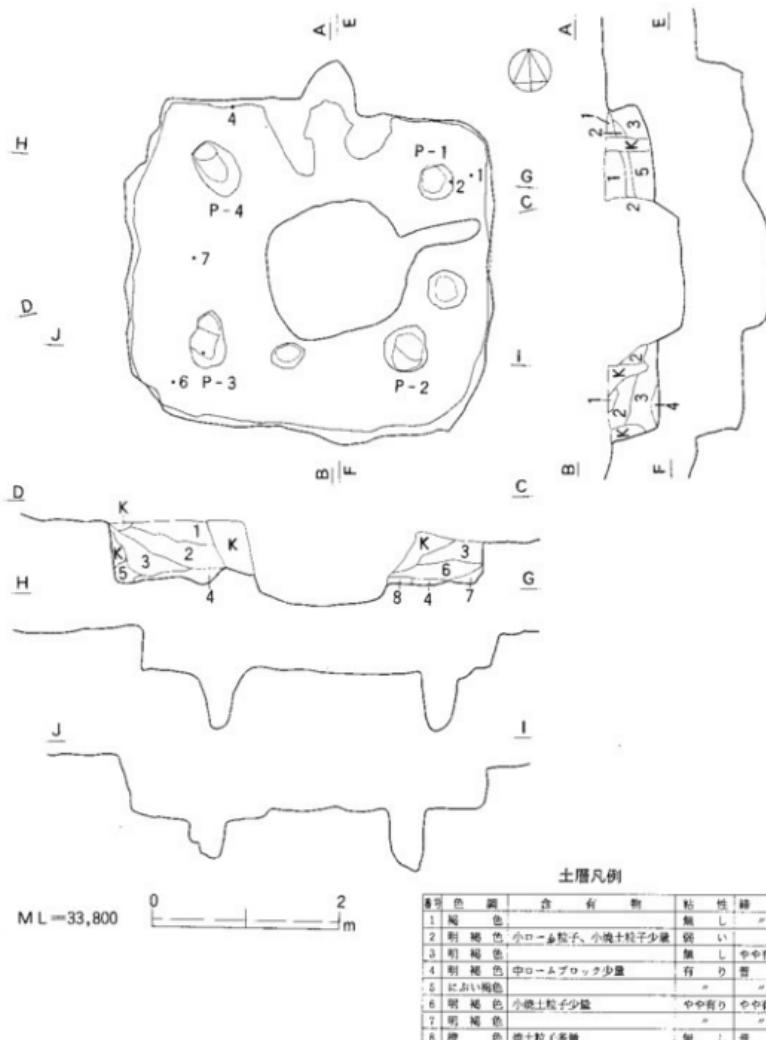
状態で使用期間が短かかったことが推察される。柱穴は4ヶ所、そのほかピットが2ヶ所確認できた。P1を除き2段の掘り込みをもつ。周溝は確認出来なかった。

竈は、北壁中央部や東側に寄った位置に遺存し状態は悪くトレンチャによる擾乱がひどく袖部は切り刻まれた状態であった。火床部は前面に位置し良く残っていた。竈は住居内へ張りだして構築され外部へは僅かに半円形に掘り込んでいるに過ぎない。火床部はややあがり気味で煙道部は、垂直に立ち上がる。形態的には半円形状を呈していた。袖部は砂質の多い黄色の粘土を用い粘性はやや強い、浮いた状態で上製の支脚が検出されている。

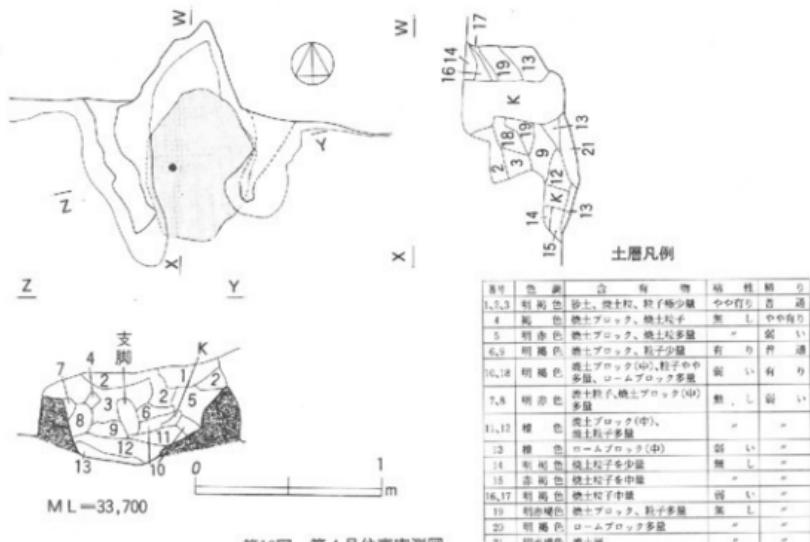
覆土は、牛蒡のトレンチャ、土坑等によって擾乱が多い。遺存層は自然埋積を示しているがやや不規則な部分も認められる。(2層)総じて褐色、明褐色からほい褐色が主体を占めローム粒子を多量に含み、ブロックの混入が多くなり明褐色を呈し僅かに焼土粒、粒子を含む。

遺物は、全体的に少なくやや浮いて綠釉須恵器蓋、砥石が検出され竈の火床部から土製支脚、須恵器環が出土している。そのほかはいずれも小破片であり床面から検出されたものは少ない。

南側から鉄津が床面から認められた。



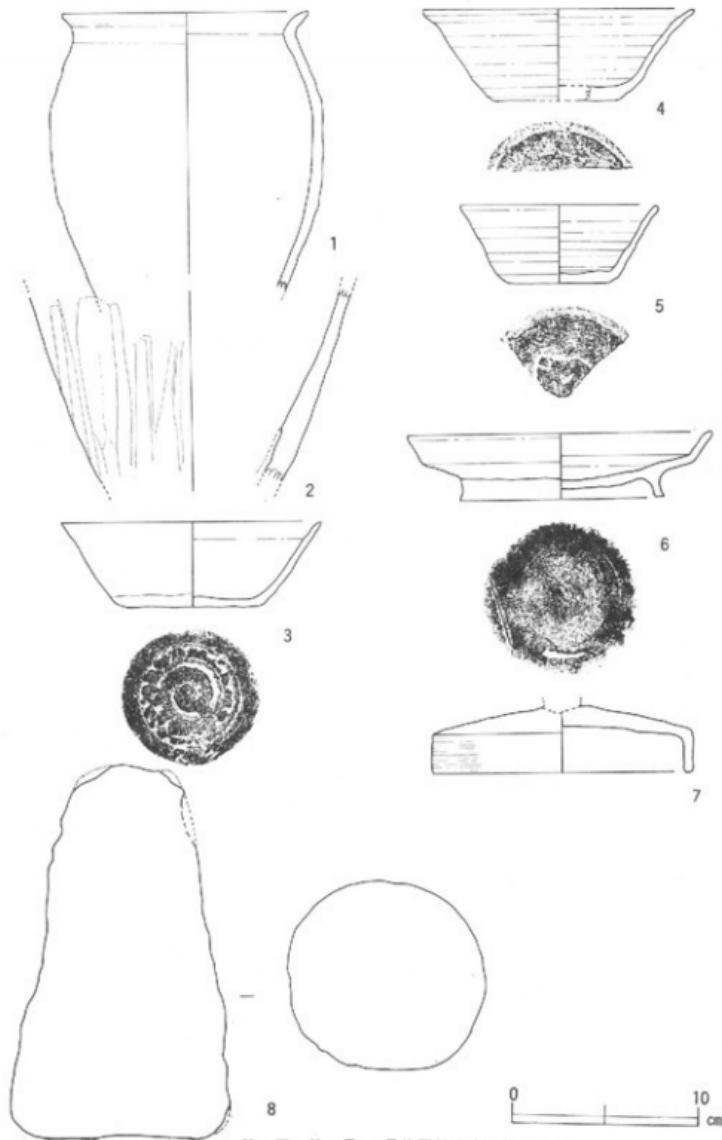
第15図 第4号住居址実居図



第16図 第4号住居実測図

出土土器観察表

番号	器 種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	彫形技法	胎土、色調、焼成	備 考
1	壺 土師器	A 13.2 B C	最大径を肩上位におく。くびれは弱く口縁部 は短く外反。口唇部は薄く尖り気味。	横ナデ、ナデ	砂隕、石英 暗褐色 やや不良	60 % 床 直
2	瓶 土師器	A B C	平底と思われる底部から直線的に立ち上がる。 胴中位は器肉は薄くなる。	西削り ナデ	鐵、石英、雲母 暗褐色 普通	30 % 床 直
3	环 須恵器	A 14.0 B 4.6 C 7.0	平底から直線的に開いて立ち上る。口唇部薄 く丸味をもつ	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 回転ヘラ切り、左廻り	鐵、石英、雲母 褐灰色 普通	60 % 環 内
4	环 須恵器	A 14.5 B 5.0 C 6.8	平底から直線的に立ち上る。口唇部は開いて 丸く収める。	粘土紐巻上げ ロクロか? 回転ミズ ビキ 左廻り	鐵、 褐灰色 やや良	50 % + 10
5	环 須恵器	A 10.6 B 4.2 C 5.2	平底からほぼ直線的に立ち上り、口唇部わざ かに外反し肥厚丸く収める。 (5号住居址出土)	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、回転 ヘラ切り、左廻り?	鐵、石英 褐灰色 やや良	20 % 環 土
6	盤 須恵器	A 16.1 B 3.2 C 11.0	高台の張りは弱く低い。底面部は、やや水平に 近く開いて立ち上り、口縁部は開き口唇部は 丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、付高台 左廻り	鐵 褐灰色 やや良	80 %
7	蓋 須恵器	A 13.4 B C 13.4	つまみを欠失しているが上面には線物がみら れ端部は直下に長く伸びる。 (今山遺跡では唯一のものである)	粘土紐巻上 回転ミズビキ、左廻り	輪選 綠灰色(灰白色) 良	20 % 床 直



第17図 第4号、5号住居址出土遺物実測図

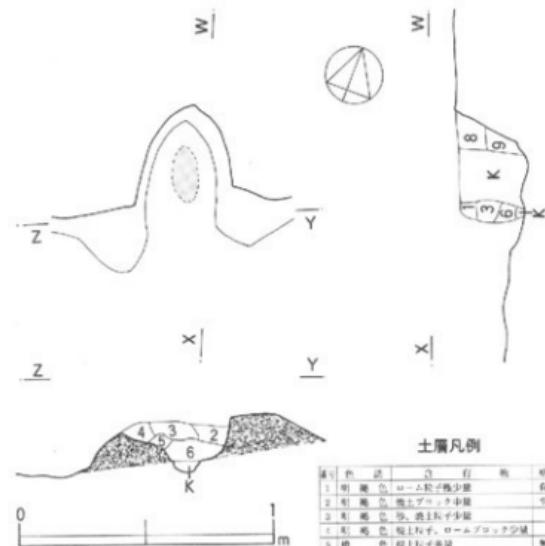
土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
8	支脚	19.9	11.7			土製	カマド中	1部欠失

第5号住居址（第18・19・17図）

本址は、4号住居址の西側1区、Z-38・39グリットを中心に確認された住居址で台地が緩く傾斜をする面に位置し検出された。東側は4号住居址に切り込まれ、遺存部は全体の五分の三と考えられる。主軸をN-31°-Wに置き、東西2.6m、南北2m、南隅のやや丸味をもつ長方形プランを呈すると思われる。壁面は垂直に近く立ち上がり深さは10cm～20cmを測り南側はゆるく立つ。床面は竈の前面を中心にやや良く踏み固められていたが壁面周辺部は弱く使用期間が短かったことが推察される。柱穴は未確認。周溝は、確認出来ず存在しないと理解される。

竈は、北壁中央部やや東側に寄った位置に遺存し浅い割にはやや状態は良く袖部、火床部が認められ住居址の外側へU字状に張り出して構築され、火床部はやや奥に位置し最も掘り込まれ、煙道部はやや強く立ち上がる。形態的には[U]の字形をしていた。袖部は砂質の多い黄色の粘土を用い粘性はやや強い。



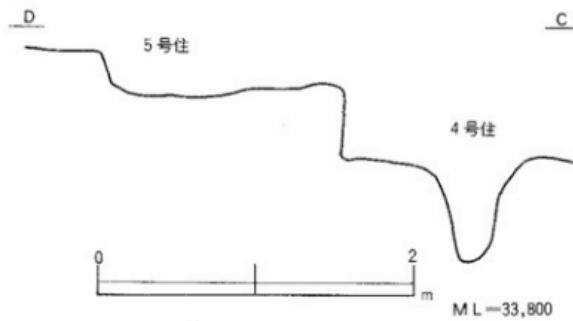
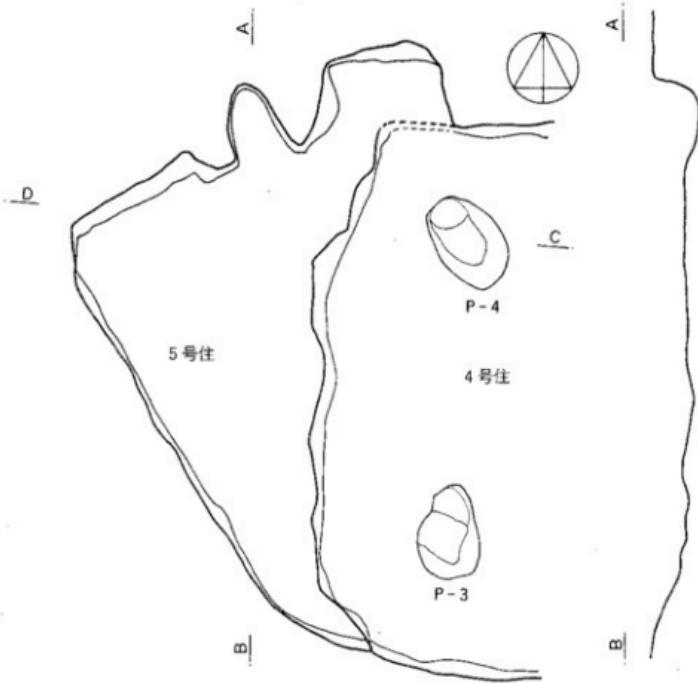
第18図 第5号住竈実測図

覆土は、単純でトレンチャーによる攪乱層が入り乱れがみられるがほぼ自然堆積の様相を呈している。明褐色、褐色ローム粒子を多量に含み、ブロックの混入が多く明褐色を呈している。床面はほぼ平坦に移行している。

遺物は、全体的に少なく図示し得たのは第17図5だけである。

土質凡例

番号	色	述	含	石	有	性	特
1	褐	色	ローム粒子	少	無	り	通
2	褐	色	地土ブリック	中	やや有	り	“
3	褐	色	少	地土ブリック	”	”	”
4	褐	色	地土	少	”	”	”
5	褐	色	地土	少	”	”	”
6	灰	色	地土	少	”	”	”
7	灰	色	地土	少	”	”	”
8	灰	色	地土	少	”	”	”
9	灰	色	地土	少	”	”	”

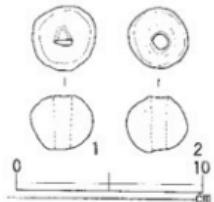


第19図 第5号住居址実測図

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	孔厚				
1	土罐	2.9	3.3	1.0	26	土製	覆土中	不整形球状、孔部三ヶ月状
2	"	3.0	3.2	1.0	2.5	"	"	不整形球状、孔部円形状

第6号住居址 (第21・22・23・24図)



第20図 第5号住居址出土遺物実測図

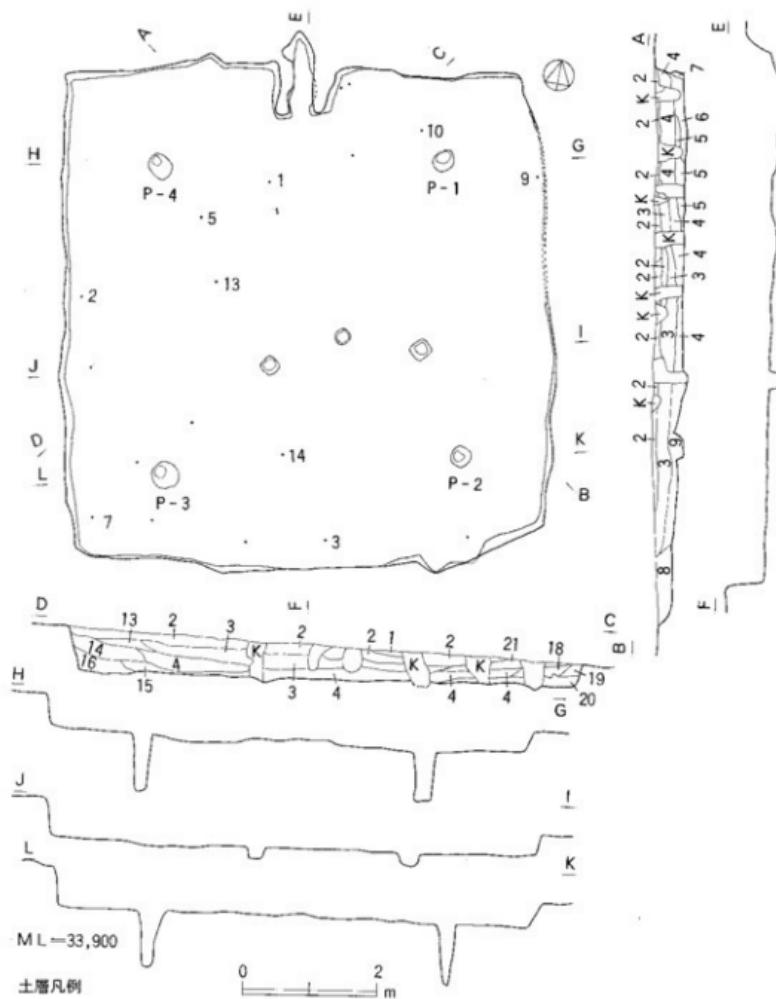
本址は、4・5号住居址の南側6.4m1区、Z-41・42及び2区A41・42グリットを中心に確認された住居址で台地が緩やかに東側に傾斜をしている面に位置し検出された。西北側1.5mには9号住居址が位置している。主軸をN-13°-Wに置き、東西7m、南北7.2mの方形プランを呈する大型の遺構である。壁面は東側を除いて垂直に近く立ち上がり壁高は32cm~72cmを測る。

床面は竈の前面を中心に締まりが認められたが、他は凹凸がややひどく締まりは悪い、使用期間の短いことが推察される。一部に焼土も僅かに認められた。柱穴は4ヶ所、その他中心部にピットが3ヶ所確認出来た。柱穴は径20cm~35cm、深さ70~90cmを測りP1を除き底部の丸みをもつ幅の狭い深い掘り込みをもつ。P1は角ばった掘り方をもち他の柱穴とはやや違った形態を有していた。周溝は確認出来なかった。

竈は、北壁中央部やや東側に寄った位置に検出され遺存し状態は良く袖部、火床部が認められ住居内へ張り出して構築され外部へは[U]字状に僅かに掘り込んでいたに過ぎない。火床部は前面に位置し、焚口部は狭い、煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には[V]の字状を呈している。袖部は砂質の多い黄褐色の粘土を用い粘性はやや強い。

覆土は、トレンチャーによる擾乱層があり乱れが見られる。ほぼレンズ状の自然埋積の様相を呈し、下層に下がる程暗褐色から明褐色へと明るさを増している。いずれもローム粒子、粒を大量に含み、ブロックの混入が多く一部に焼土粒の混入層が存在した。自然埋積と理解される。

遺物は、面積が大きい分多く認められたがいずれも破片が多く器形の窺えるものは坏類が主なものであった。須恵器は皆無であった。その他はいずれも小破片であり床面から検出されたものは少ない。坏は肩部に稜をもつものと半球形の2種類が認められ口縁部長目。



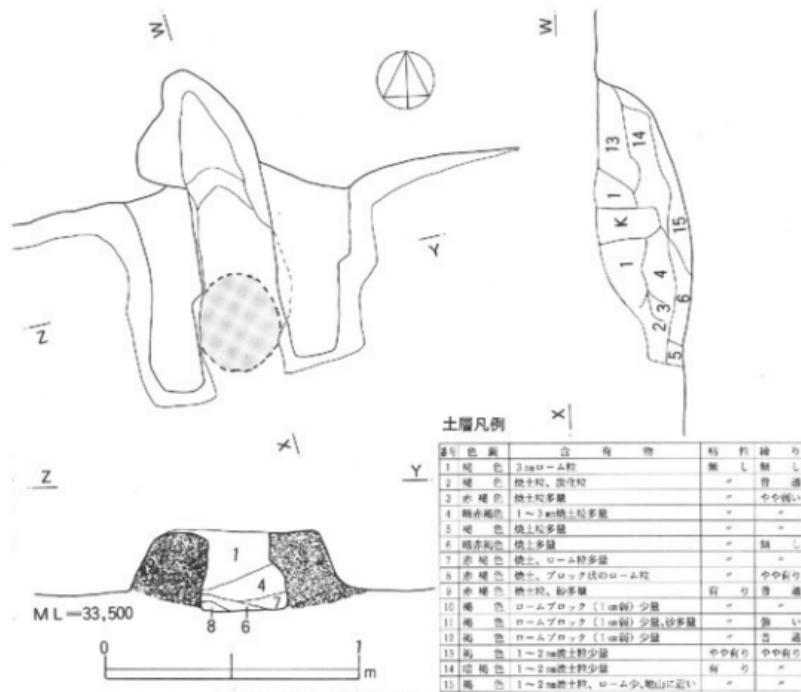
番号	色調	含 有 物	特 性 種 類	特 性 種 類
1	黒褐色	粘土鉱、炭化物、鉄少量	やや有り	やや有り
2	暗褐色	粘土鉱、炭化物、鉄多量	無	やや白い
3,4	褐褐色	1~3mmのローム粒多量、炭化物少量	無	やや有り
5,6,7	褐色	ローム粒少量、1cm前後 ロームブロック多量	無	無
8,9	褐色	5mm~1cm前後のローム ブロック多量(きよらぎ多い)	やや有り	やや強い

番号	色調	含 有 物	特 性 種 類	特 性 種 類
10,11	褐色	ローム粒多量、泥土鉱少量	やや有り	無
12,13	褐色	ローム粒少量、泥土鉱多量	弱	無
14,15	褐色	ロームブロック多量、 2~3mm粒土塊	無	無
16,17	褐色	ローム粒(3mm前後)、 ロームブロック少量(2層)	やや有り	無
18,19	明褐色	1cm前後のロームブロック	無	やや強い

第21図 第6号住居址実測図

出土土器観察表

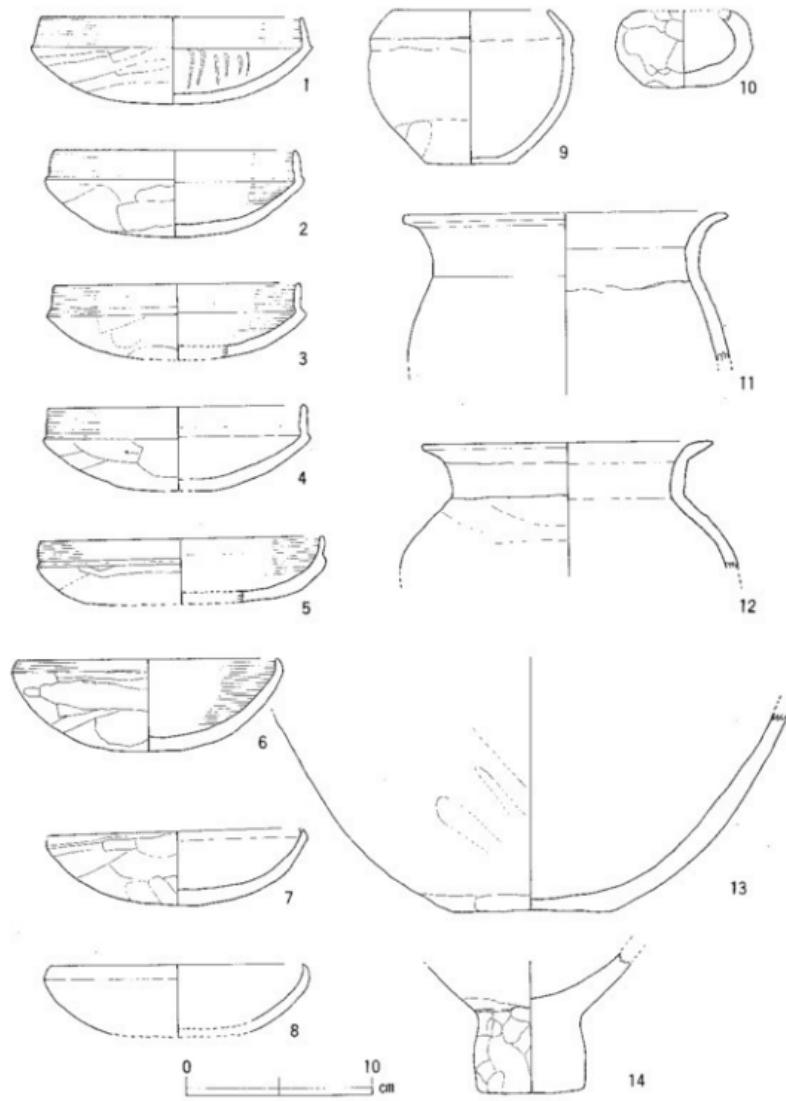
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	彫形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	环土師器	A 14.1 B 4.7 C 3.5	体部は内輪気味に立ち上り、肩部に棱をもつ。口縁部は内傾し、器肉は薄く口唇部丸く収める。内面へラミガキ	横ナデ、鎌削り 鎌みがき	砂、砂粒 暗褐色(淡い褐色) 普通	60 % + 8
2	环土師器	A 13.0 B 4.7 C 3.0	丸底から内輪で立ち上り、肩部はやや弱い稜をもち、口縁部はやや長目で内傾し、口唇部は薄く尖る。	横ナデ、鎌削り ナデ	礫 黒褐色、灰褐色 (黒褐色、淡い黄褐色) やや良	100 % + 9
3	环土師器	A 13.3 B 3.5 C -	平底気味で肩部は顯著な稜をもち、口縁部は短めで、口唇部は丸味をもち内傾尖る。	横ナデ、鎌削り ナデ	礫 黒褐色 やや良	40 % + 5
4	环土師器	A 15.2 B 4.6 C 3.5	平底気味で、内輪気味に立ち上り肩部にやや顯著な稜をもつ。口縁部長目、内傾、やや肥厚部し、口唇部丸く収める。	横ナデ、鎌削り ナデ	砂粒、礫、石英 にぼい黒褐色 普通	20 % 覆土
5	环土師器	A 15.2 B 3.0 C 8.0	浅い平底気味を呈すると思われる。 肩部にやや顯著な稜をもち口縁部は短く丸味をもち内傾し、口唇部は尖り気味。	横ナデ、鎌削り ナデ	砂礫 黒褐色 普通	20 % + 3
6	环土師器	A 14.0 B 4.9 C 3.0	丸底に近い底部から開き気味に立ち上り、短い口縁部は内傾し丸味をもち口唇部は尖る。	横ナデ、鎌削り ナデ	礫 浅い黄褐色 〔にぼい 黒褐色〕 普通	98 % + 6
7	环土師器	A 13.8 B 4.0 C 3.0	丸底で内輪気味に立ち上り、口縁部は短く内傾し口唇部は尖るか?。	鎌削り 横ナデ ナデ	礫 にぼい褐色 普通	60 % + 60
8	环土師器	A 13.7 B C	口縁部は短く内傾し、口唇部は尖る。 半球状の形態。	ナデ 横ナデ、マアナデ状	礫 黒褐色 良	20 % 覆土
9	壺? 土師器	A 8.4 B 8.3 C 5.0	平底から内輪気味に立ち上り、口縁部は内傾し、器肉は薄い。輪紋痕を残す。 口縁を除けば跡に近い器形。	ナデ? 鎌削り	砂礫 黒褐色 普通	80 % + 11
10	手捏 土師器	A 5.0 B 4.0 C 4.0	平底気味で強く内傾して立ち上り口縁部内傾、粗雑な押え。	鎌削り ナデ、押え	礫やや多量 暗褐色 普通	70 % 床直
11	壺 土師器	A 17.4 B C	くびれは弱く、口縁部はほぼ水平に近く開き、口唇部は薄く尖る。内面は剥落多く器肉は絶じて薄い。	輪積底を1部残す 横ナデ ナデ	砂礫、石英 淡い黄褐色 普通	15 % + 39
12	壺 土師器	A 15.8 B C	頸部はやや長目、口縁部は水平に近く開き、口唇部は薄い。器内は黒じて薄い。	ナデ、鎌削り 内面剥落	礫 淡い橙色 やや不良	15 % + 35
13	大型壺 土師器	A B C 10.5	平底から開いて移行してからやや直立気味に立ち上る。最大径を胴部中位におく可能性あり。	鎌削り ナデ	砂、礫、石英 にぼい褐色 普通	20 % 覆土
14	台付壺? 土師器	A B C 6.8	底部は(内部は丸味をもつ)強く開いて立ち上る。台付壺の可能性も考えられる。器台か?	ヘラケズリ 指頭 押え ナデ	礫、石英 にぼい黒褐色 普通	100 % 床直



第22図 第6号住戸実測図

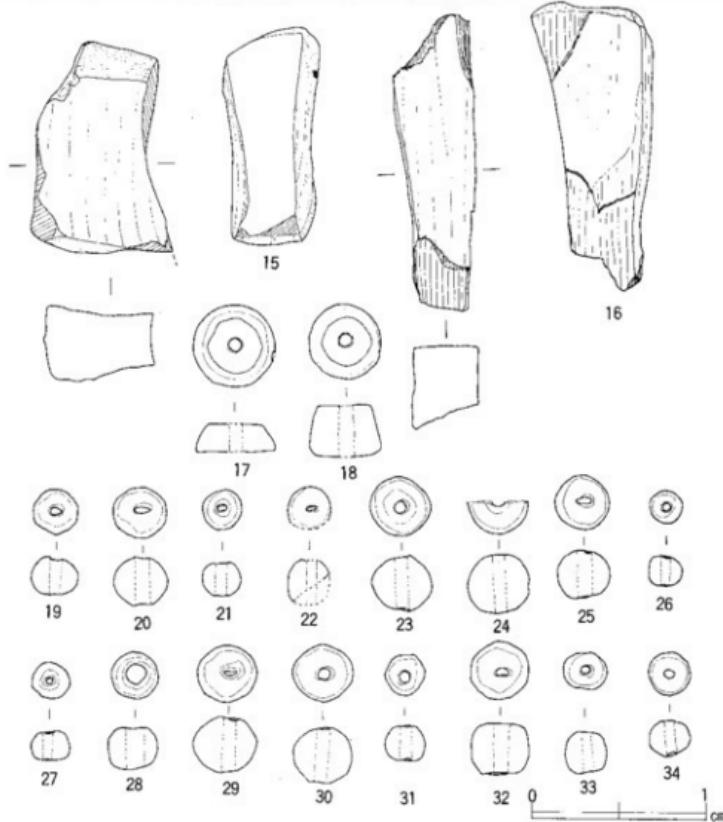
石器土製品一覽表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土 レベル	備考
		最大長	最大幅	最大厚 $\frac{cm}{mm}$				
15	砥石	12.1	7.0	4.2		凝灰岩	床直	2面に使用痕をもつ、1部自然部を残す
16	"	16.9	4.5	4.7	"	"	+ 5	3面に使用痕をもつ、両端欠失
17	訪籠車	1.6	4.7	0.8	57	土製	+ 13	円形を1部残す。高さが大、孔部円形
18	"	3.0	4.1	0.8	32	"	+ 26	平面的な形態、孔部円形
19	土鍤	2.1	2.6	0.7	12	"	+ 47	孔部片端は凸部をもつ 孔部長円形
20	"	2.8	3.0	0.9	14	"	+ 24	球形状、孔部長円形
21	"	1.9	2.2	0.6	9	"	+ 19	球形状、両孔端部カット状 長円形
22	"	1.7	2.0	0.6	9	"	+ 49	長円形状、孔部長円形、3分/1欠失
23	"	3.1	3.5	0.7	26	"	床直	球形状やや粗雑な作り、孔部円形
24	"	3.3	3.5	0.7	21	"	+ 41	球形状2分/1欠失、孔部長円形
25	"	2.7	3.1	0.9	22	"	+ 21	ややつぶれた球形状、孔部長円形
26	"	1.7	1.9	0.5	6	"	覆土中	小型のもの 算盤玉状、孔部円形



第23図 第6号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土 レベル	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
27	土鍛	1.6	2.1	0.5	6	土製	覆土中	小型のもの 算盤玉状、孔部長円形
28	"	2.4	2.2	1.1	13	"	"	球形状両端孔部も幅広い円形
29	"	3.1	3.4	0.7	34	"	"	不整形球状、孔部長円形状
30	"	3.1	3.5	0.7	29	"	"	球形状に近い、孔部円形状
31	"	2.0	2.3	0.6	8	"	"	やや小型球形状 孔部円形状
32	"	2.9	3.3	1.0	24	"	"	円筒形球状、孔部長円形状 大型
33	"	2.4	2.5	0.5	11	"	"	長円形球状、孔部円形状
34	"	2.0	2.4	0.6	9	"	"	球形状、孔部稍円形状



第24図 第6号住居址出土遺物実測図

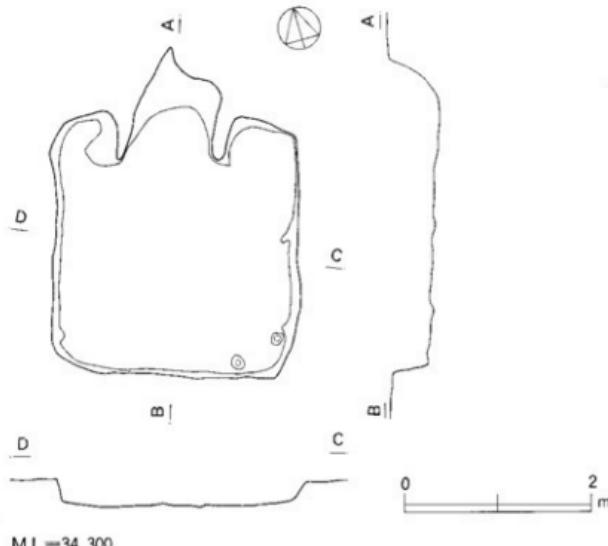
第7号住居址（第25・26図）

本址は、1号溝の西側1区、U-24・25グリットを中心に確認された住居址で台地のはば平坦な面に位置していた。東西に伸びる1号溝に遺構中心部を切られていた。主軸N-20°-Eに置き、東西2.5m、南北2.6m、隅のやや丸味をもつ方形プランを呈している。壁面は東側、西側は溝に切られ僅かな立ち上がりしか存在しなかったが、その他は垂直に近く立ち上がり深さは20cm～50cmを測る。床面は竈の前面は良く踏み固められていた。その他の壁面周辺部は締まりは弱い。柱穴、周溝は検出出来なかった。

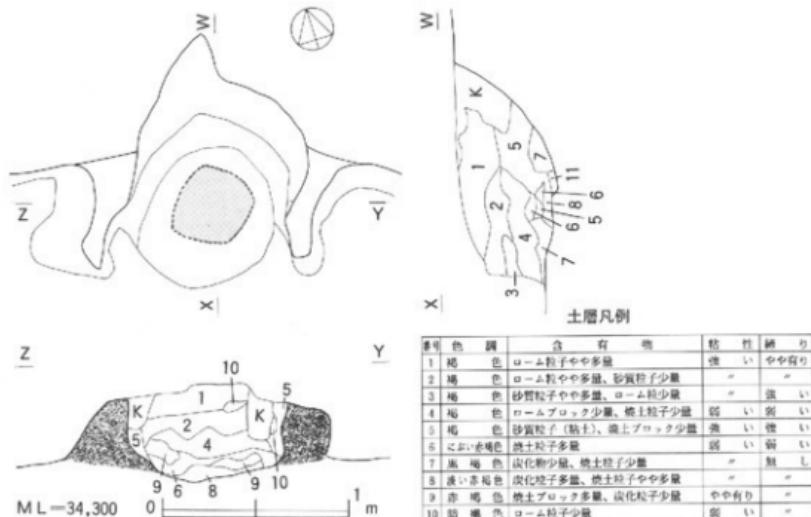
竈は、北壁中央部に遺存し状態は良く袖部は、長目に付設し開く。火床部は、中位に位置し半円形に住居外へ張り出して掘り込んでいる。火床部が最も掘り込まれていて煙道部はやや強く立ち上る。形態的には[U]の字形を呈していた。袖部は砂質の多い灰褐色の粘土を用い粘性はやや強い。

覆土は、中央上部を1号溝による掘り込みが入り乱れがみられるがほぼ自然埋積の様相を呈している。締まりは平均して強かった。下部程ローム粒子、粒を多量に含み、ブロックの混入が多くなり明褐色を呈し明るさを増していた。

遺物は、全体的に少なく竈の左袖部から鉄製品、鉄滓、南側からやや浮いて須恵器杯が出土している。そのほかはいずれも小破片であり床面から検出されたものは少ない。



第25図 第7号住居址実測図



第26図 第7号住居実測図

第8号住居址（第27・28・29図）

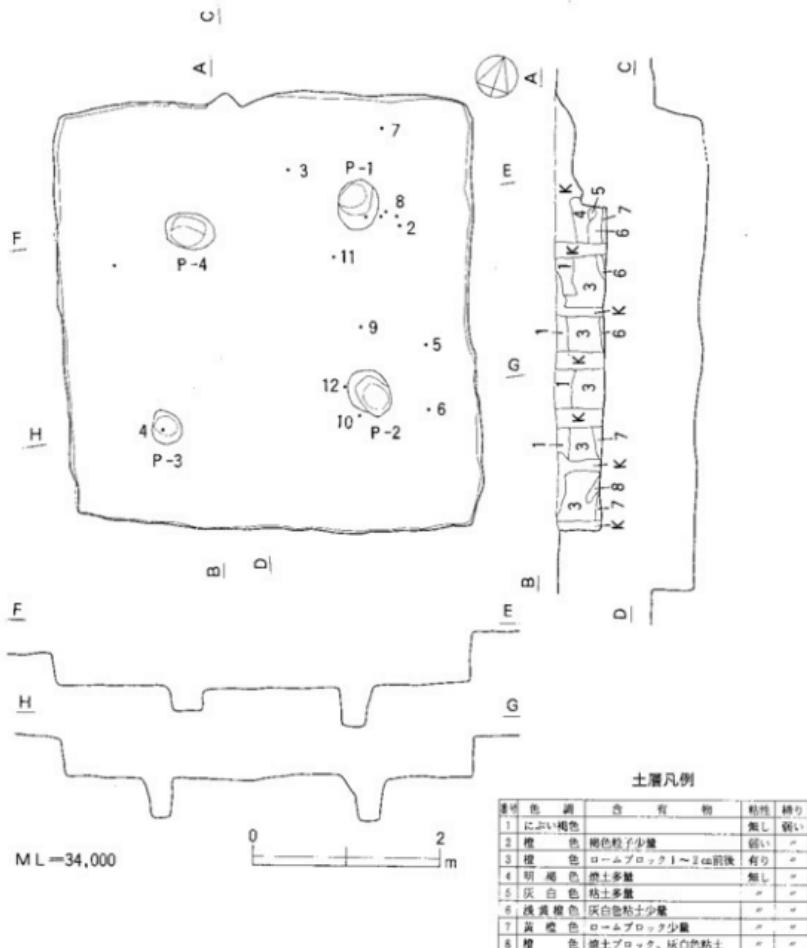
本址は、5・6号址の西側1区、V-39・40グリットを中心に確認された住居址で台地が西側にゆるく傾斜を示す位置に検出された。北西側6.5mには12号住居址が位置している。主軸をN-35°-Wに置き、東西4.3m、南北4.5m、隅部の鋭角な方形プランを呈している。壁面は垂直に近く立ち上がり深さは35cm~52cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められていたが壁面周辺部はやや弱い。柱穴は4ヶ所認められP4は径59cmと幅は広いが25cmと浅く他の柱穴とは違いがみられる。他はやや幅の狭い深い掘り込みをもち底は角ばった掘り方を見られた。周溝は検出出来なかった。床面はほぼ平坦であったがトレッチャにより抜けている面が約半分を占めていた。

竈は、北壁中央部西側50cmに寄った位置に遺存し状態は良く袖部、火床部が認められ住居内へ僅かに張り出して構築され外部へはU字状に掘り込んでいる。火床部は前面に位置し、やや浅く掘り込まれ煙道部は、やや強く立ち上がる。この部分はつぶれずに遺存し周囲は赤褐色に焼けていた。形態的には[U]の字状を呈していた。袖部は砂質のやや多い粘土を用いていたが、煙道部は灰白色の粘性の強い粘土を用いて築いている。

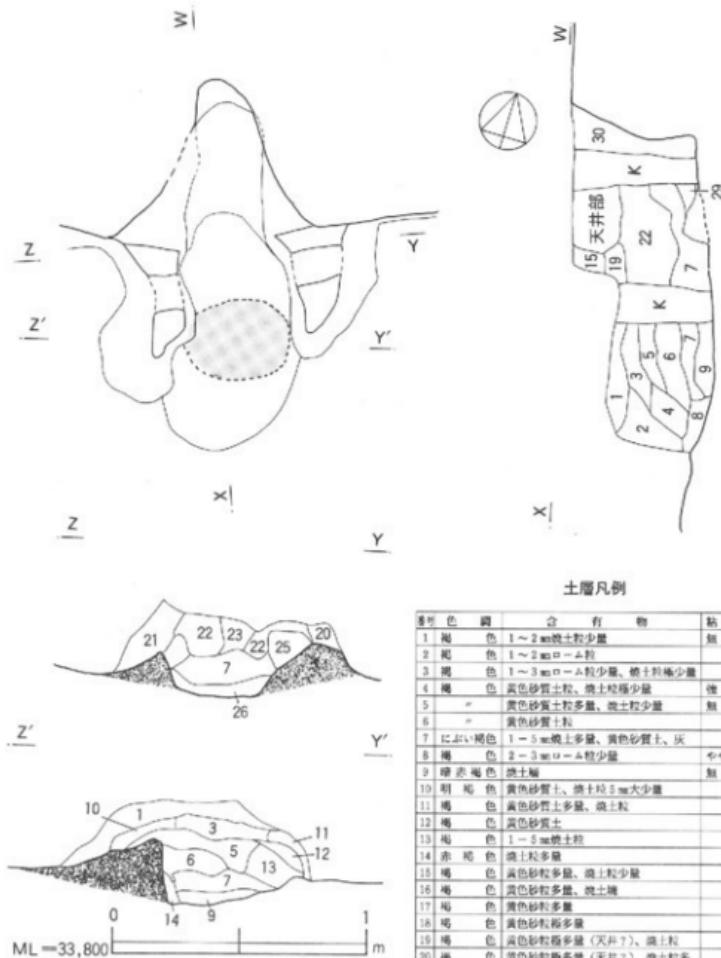
覆土は、上部中央部ににぶい褐色、橙色、浅い黄橙色等がみられ下部に向かって明るさを増しレンズ状のはぼ自然埋積の様相を呈している。下位に行くに従がってローム粒子を多量に含みブ

ロックの混入が多くなり明るさを増していた。

遺物は、全体的に少なく竈の右袖部前から甕がその他壺、手すくね状土器が見られたが須恵器は出土していない。そのほかはいずれも小破片であり床面から検出されたもの4片と少ない。



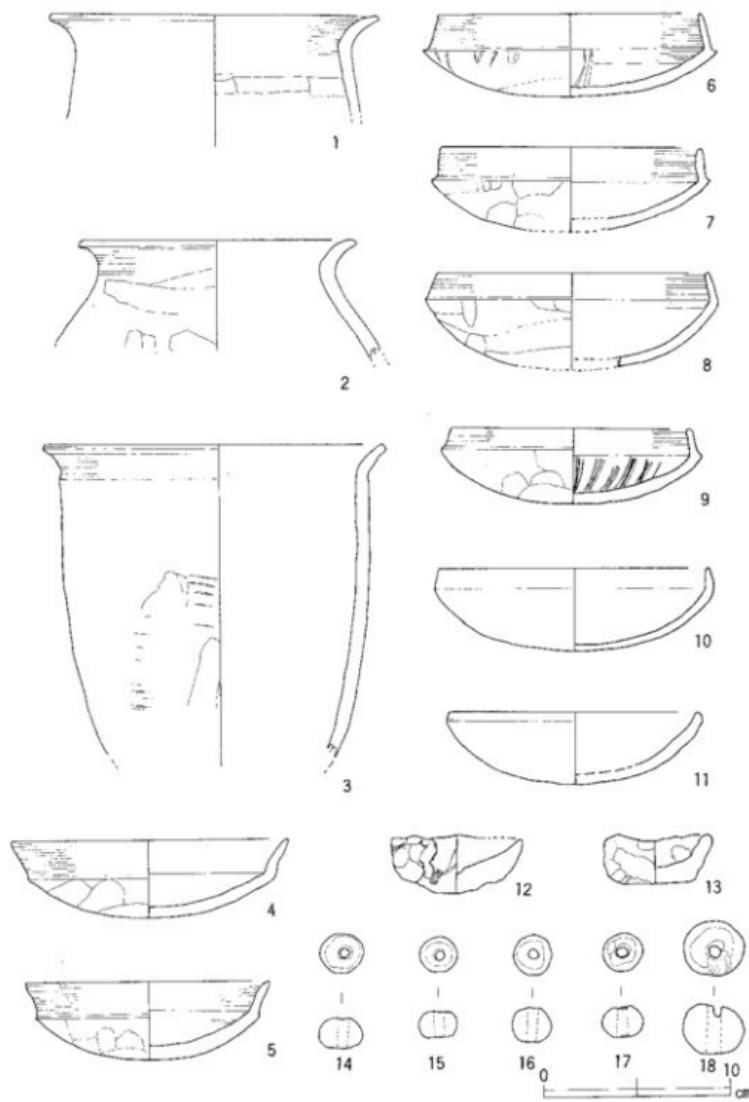
第27図 第8号住居址実測図



土層凡例

番号	色	調合	含有物	粘性	純	り
1	褐	色	1~2mm粒少量	無し	無	い
2	褐	色	1~2mm粒少	=	有	り
3	褐	色	1~3mm粒少量、礫土粒少量	=	無	い
4	褐	色	黃色砂質土多量、燒土粒少量	強い	無	い
5	=	黄色砂質土多量、燒土粒少量	無し	強	い	い
6	=	黄色砂質土粒	=	有	り	り
7	にじい褐色	色	1~5mm粒少量、黃色砂質土、灰	=	弱	い
8	褐	色	2~3mm粒少量	やや育力	無	い
9	暗赤褐色	色	無し	無	し	し
10	褐	色	黃色砂質土、燒土粒5mm大少量	=	有	り
11	褐	色	黃色砂質土多量、燒土粒	=	無	い
12	褐	色	黃色砂質土	=	やや育力	り
13	褐	色	1~5mm粒少量	=	無	い
14	赤	褐	燒土粒多量	=	やや弱い	い
15	褐	色	黃色砂粒多量、燒土粒少量	=	有	り
16	褐	色	黃色砂粒多量、燒土塊	=	無	い
17	褐	色	黃色砂粒多量	=	無	い
18	褐	色	黃色砂粒多量	強	い	い
19	褐	色	黃色砂粒多量 (天井?)、燒土粒	=	やや有	り
20	褐	色	黃色砂粒多量 (天井?)、燒土粒多	=	有	り
21	褐	色	黃色砂粒多量 (天井?)	=	無	い
22	真	褐	黃色砂質天井部のくずれ	=	無	い
23	暗	褐	黃色砂粒多量	=	無	い
24	赤	褐	5mm大の燒土粒多量 (一部ブロック)	=	無	い
25	赤	褐	燒火灰、黃色砂粒多量	=	無	い
26	褐	色	燒土粒、灰化土	やや弱い	やや有	り
27	褐	色	黃色砂粒5mm	やや有	無	い
28	褐	色	黃色砂粒少量	弱	い	やや弱い

第28図 第8号住家実測図



第29図 第8号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 17.5 B C	口縁部は短く外反し、口唇部は丸く収める。長胴形器形。	横ナデ、ナデ 鎌削り	砂礫、石英、雲母 にぶい暗褐色 普通	20 % 覆土
2	甕 土師器	A 14.7 B C	口縁部は外反し水平に近く開く。口唇部は外へ尖り気味で丸く収める。	横ナデ、鎌削り ナデ	砂、礫、石英、雲母 橙色 普通	口縁90% + 32
3	甕? 土師器	A 18.2 B C	底部欠失、ほぼ直線的な立ち上り、口縁部はゆるく外反し、口唇部は丸味をもって肥厚する。	横ナデ、ナデ 叩き状? 鎌削り	礫、石英 淡い黄橙色 普通	40 % + 32
4	环 土師器	A 14.8 B 4.2 C 3.0	丸底に近い底部からゆるやかに立ち上り、肩部に弱い稜をもち、長目の口縁部は外傾し、口唇部は尖り気味。	横ナデ、鎌削り ナデ	砂礫、石英 暗褐色 やや不良	60 % 床直
5	环 土師器	A 13.0 B 4.2 C 2.0	丸底から内側して立ち上り、肩部に弱い稜をもち、口縁部や長目直立気味、口唇部は外傾し尖る。	横ナデ、鎌削り	礫、石英 淡い褐色(浅い褐色) 良	40 % + 5
6	环 土師器	A 14.2 B 4.5 C 4.0	平底に近い底部からゆるやかに立ち上り、体部と口縁部の間に顯著な稜をもち、長目の口縁部は内傾し薄い、口唇部は丸く収める。底部内面に擦磨き状部分あり尖る。	横ナデ、鎌ナデ 鎌ミガキ?	砂礫、石英 暗褐色 普通	60 % 床直
7	环 土師器	A 14.0 B C	平底に近い体部は浅くゆるやかに立ち上り、肩部に顯著な稜をもち、口縁長目で弱く内傾する。	横ナデ、鎌ナデ状 ナデ、鎌削り	砂礫、石英、雲母 暗褐色 普通	40 % 床直
8	环 土師器	A 14.6 B C	丸底と思われる。ゆるやかに立ち上り、肩部に弱い稜をもち、口縁部は内傾しやや脛め、口唇部はやや薄く角張っている。	横ナデ、鎌削り ナデ	石英 にぶい黒褐色 (暗い橙色) 普通	40 % + 22
9	环 土師器	A 12.9 B 4.0 C 3.5	丸底に近い体部は浅めゆるやかに立ち上り、肩部にやや顯著な稜をもち、口縁部は内傾しやや薄い。口唇部は薄くなり丸く収める。	横ナデ、鎌削り 鎌ミガキ	砂礫、石英、雲母 にぶい橙色(褐色) 普通	40 % + 25
10	环 土師器	A 13.5 B 4.2 C 3.0	やや深めの底部からゆるやかに立ち上り、そのまま口縁部に移行し、口唇部は内傾し内側に丸味をもつ。	横ナデ、ナデ ナデ	礫 橙色(底部黒褐色) 普通	40 % 床直
11	环 土師器	A 14.4 B 4.5 C 3.0	平底気味、やや深めの环底部からゆるやかに立ち上り、口縁部はやや内傾気味で、口唇部は尖る。器肉は薄い。	横ナデ、ナデ	礫、石英 にぶい黒褐色 やや良い	20 % + 25
12	手 摺 土師器	A 7.0 B 3.1 C 5.0	指頭押え、指紋を一部残す。底部不定形 粗雑	指頭押え ナデ	礫、石英 暗褐色(褐色) 普通	80 % + 30
13	手 摺 土師器	A 5.5 B 2.6 C 4.5	平底から立ち上り、内面はU字状にくぼむ。 粗雑	指頭押え ナデ	礫、砂、雲母 暗褐色 普通	80 % + 20

土器一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
14	土器	1.6	2.3	0.5	6.5	土製	覆土中	つぶれ気味の球形状、孔部円形
15	"	1.3	2.0	0.6	5.5	"	"	つぶれた球形、孔部カット状、円形
16	"	1.9	2.0	0.5	8	"	"	不整形球形、孔部円形
17	"	1.6	2.1	0.5	7	"	"	不整形状の球形、孔部円形
18	"	2.6	3.2	0.5	22	"	"	球形状、孔部円形、I部欠失

第9号住居址（第30・31・32図）

本址は、前述の第6号住居址の西北側1区、Y-39・X-39 グリットを中心に確認された住居址で台地のはば平坦な面に位置し検出された。東側には5号住居址が位置している。主軸をN-28°-Wに置き、東西3m、南北2.5m、北隅のやや丸味をもつ長方形プランを呈している。壁面は垂直に近く立ち上がり深さ55cm～60cmを測る。床面は竈の前面が踏み固められていたが壁面周辺部は弱い。柱穴、ピット、周溝は確認出来なかった。

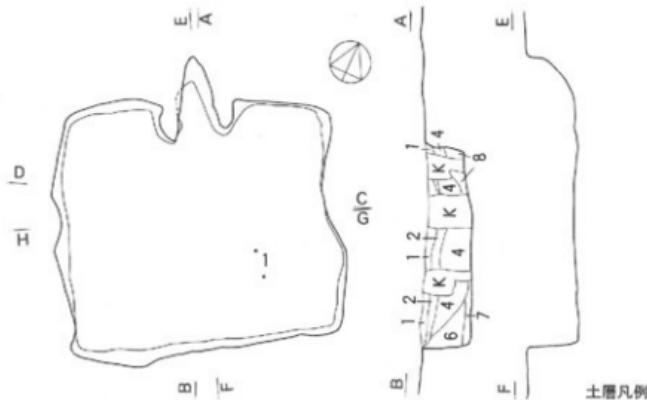
竈は、北壁中央部やや西側に寄った位置に遺存し状態は良く袖部、火床部が認められ住居内へ張り出して構築され外部へは僅かにV字状に掘り込んでいるに過ぎない。火床部はやや床面より上がり煙道部へはやや強く立ち上がる。形態的には[V]の字状を呈している。袖部は黄灰色の砂質の多い粘土を用い粘性はやや強い。

覆土は、トレンチャーによる擾乱が認められるがほぼ自然埋積の様相を呈している。1～9層は褐色、ローム粒子、ブロック、粒の混入量によって分層したに過ぎない。9層は明褐色を呈し明るさを増している。

遺物は、少なく総数で20片に過ぎなかった。いずれも小破片であり床面からは1点のみの検出であった。須恵器蓋が出土し、つまみは偏平化している。

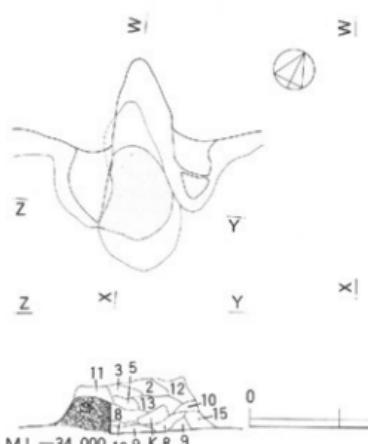
出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	蓋 須恵器	A 16.0 B 18.0 C 6.0	天井部の膨らみは弱い。宝珠飾は扁平化し低い。口縁端部は薄く水平に伸び丸味をもつ。カエリは断面三角状で顯著。	粘土結着上げ 回転ミズビキ つまみ貼付 左廻り	褐色 灰褐色 良	40 % 覆土

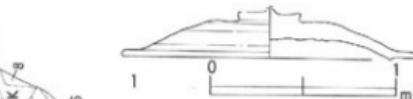


層号	色調	含 有 物	粘 性	種 類
1	緑 色	1-2mmのソフトローム粒、 幾本粒砂少量	無し	無し
2	緑 色	1-2mmのソフトローム粒多量、 幾本粒少量	やや有り	やや有り
3	緑 色	1-2mmのソフトローム粒多量	有り	一
4	緑 色	5-10mmのローム塊、 2-3mmの軟土粒少量	〃	〃
5	緑 色	ローム、炭化、焼け粒極少量	無し	一
6	緑 色	2-3mmのローム粒	やや有り	一
7	緑 色	5mmの白色粘土少量	有り	一
8	緑 色	ローム粒、燒土粒少量	〃	一
9	緑 色	3-5mmのローム粒、 燒土粒少量	やや有り	一
10	明 黄 色	2-3mmのローム粒多量	有り	普通

第30図 第9号住居址実測図



第31図 第9号住居址実測図



第32図 第9号住居址出土遺物実測図

層号	色調	含 有 物	粘 性	種 類
1	赤褐色	赤褐色砂, 1mm少。	無し	無し
2,3	赤褐色	2mmのローム(「アード」)少量	無し	無し
3,4	赤褐色	5mmの白砂, 焼土粒少	一	赤い
5	赤褐色	炭化土多量, 黄色砂少量	〃	有り
6	赤褐色	3mmのローム少量	〃	一
7,8	赤褐色	燒土粒	〃	一
9	赤褐色	燒土粒少量	やや有り	無し
10,11	赤褐色	燒土粒少量, 烧土少量。	無し	無し
12	赤褐色	黄色の燒土粒少量	〃	一
13	赤褐色	黄色の燒土多量, 烧土少量	〃	有り
14,15	赤褐色	燒土粒, ローム粒, 烧土少量	やや有り	やや有り
16,17	赤褐色	5mmの土(1-7mm)燒土粒,	無し	無し
		黄色砂多量	一	一
18,19	赤褐色	燒土粒少量, 烧土粒多量。	やや有り	有り
20	赤褐色	1-3mmの土	〃	やや有り
21	赤褐色	黄色砂土粒少量5mm大ローム	〃	やや有り
22	赤褐色	1mmの燒土粒多量	無し	無し
23	赤褐色	1-5mmの土(1-2mm)燒土粒,	やや有り	一
24	赤褐色	黄色砂土粒少量	〃	一

第10号住居址（第33・34・35図）

本址は、前述の9号住居址の北側1区、Y-35・Y-36グリットを中心に確認された住居址で台地がゆるく東側に傾斜を示す位置に占地する。東南側には5号住居址が位置している。主軸をN-15°-Wに置き、東西6m、南北5.3mの長方形形状プランを呈している。壁面はやや傾斜を持つが垂直に近い立ち上がりを有し深さ25cm~40cmを測る。床面は芋穴、トレンチャーなどにより擾乱面が多く窓の前面がやや踏み固められていたが壁面周辺部は弱い。柱穴は、3ヶ所認められたが1ヶ所は擾乱のため確認出来なかった。掘り方は浅く20~35cmで円形状を呈する。

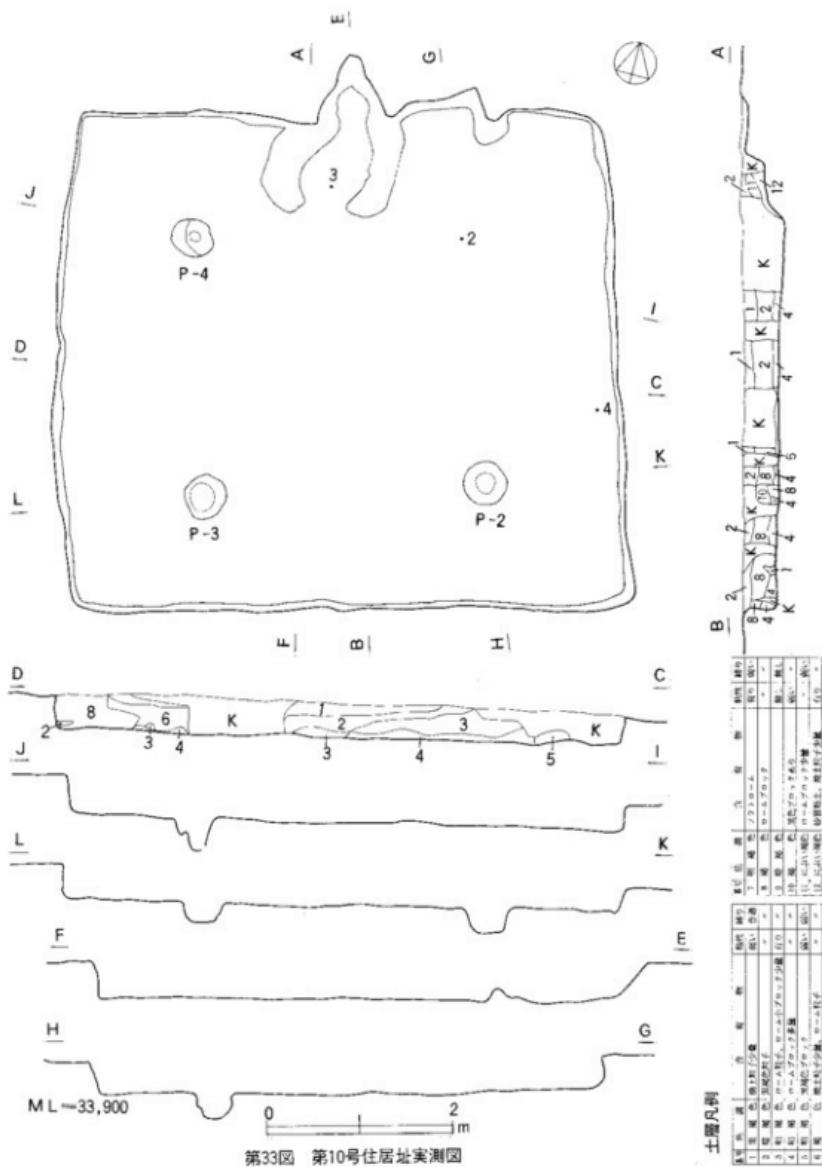
窓は、北壁中央部に遺存し状態は前述の様にトレンチャーにより切られあまり良くない。袖部は長く、火床部は中程に位置し認められ住居内へ張り出している。外側へはU字状に掘り込んでいる。火床部は床面よりやや掘り込み、煙道部はゆるく立ち上がる。形態的には[U]の字状を呈する。袖部は灰褐色の砂質の多い粘土を用い粘性はやや強い。そのほか窓東側には焼土が認められ窓の可能性が考えられたが断定出来る程の遺存状態ではなかった。

覆土は、トレンチャー、芋穴による擾乱が入り乱れが見られるがほぼ自然埋積の様相を呈している。1層は黒褐色、2層は暗褐色、下部に向かって序々に明るさを増している。ローム粒子、ブロック、粒の混入量の差。

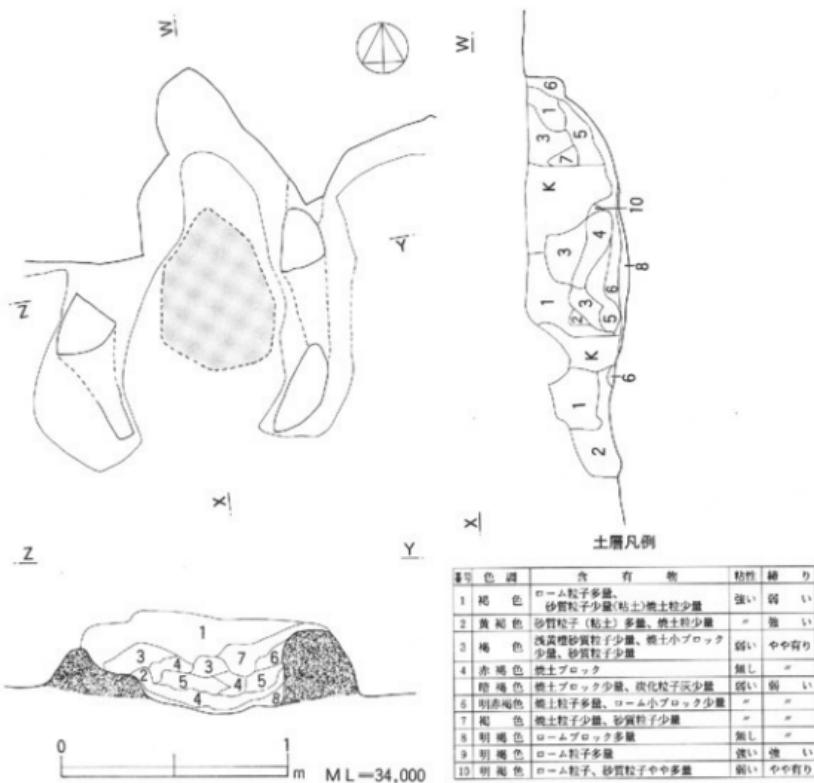
遺物は、少なく器形を窺えるもの少なかった。いずれも小破片であり床面からは3点のみの検出であった。环は口縁部外反、体部との間に稜をもつ。小型カメも口縁外反。

出土土器観察表

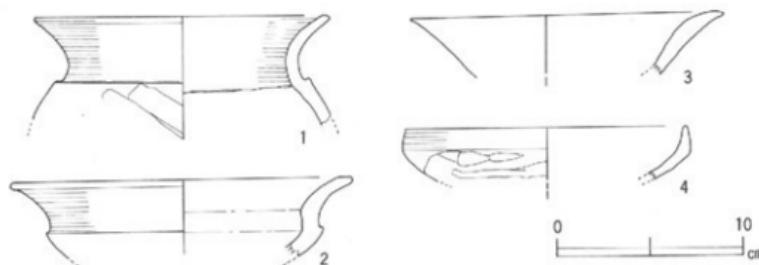
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 15.3 B C	肩部に棱を有し、口縁は「く」の字状に強く外反し、口唇部はやや薄く尖り気味。	横ナデ 路割り ナデ	砂隕、雲母 におい褐色 普通	口縁部 40 % 窓 内
2	高环 土師器	A 18.3 B 0 C -	体部との境にやや頗著な棱をもち、口縁長く強く外傾し、口唇部は丸く収めている。内面赤彩。	横ナデ ナデ	砂隕、雲母、石英 浅い黄褐色 普通	口縁部 20 % + 39
3	高环? 土師器	A 16.7 B C	口唇部は薄く尖る。外反し高环の可能性あり。	ナデ	砂、隕、雲母 暗褐色 普通	口縁部 10 % + 15
4	环 土師器	A 15.2 B C	内縁気味に立ち上がり、口唇部は内傾し、口唇部は薄く尖る。器肉は締じて薄い。	横ナデ、路割り ナデ	隕、雲母 黒褐色 普通	口縁部 20 % 窓 内



第33図 第10号住居址実測図



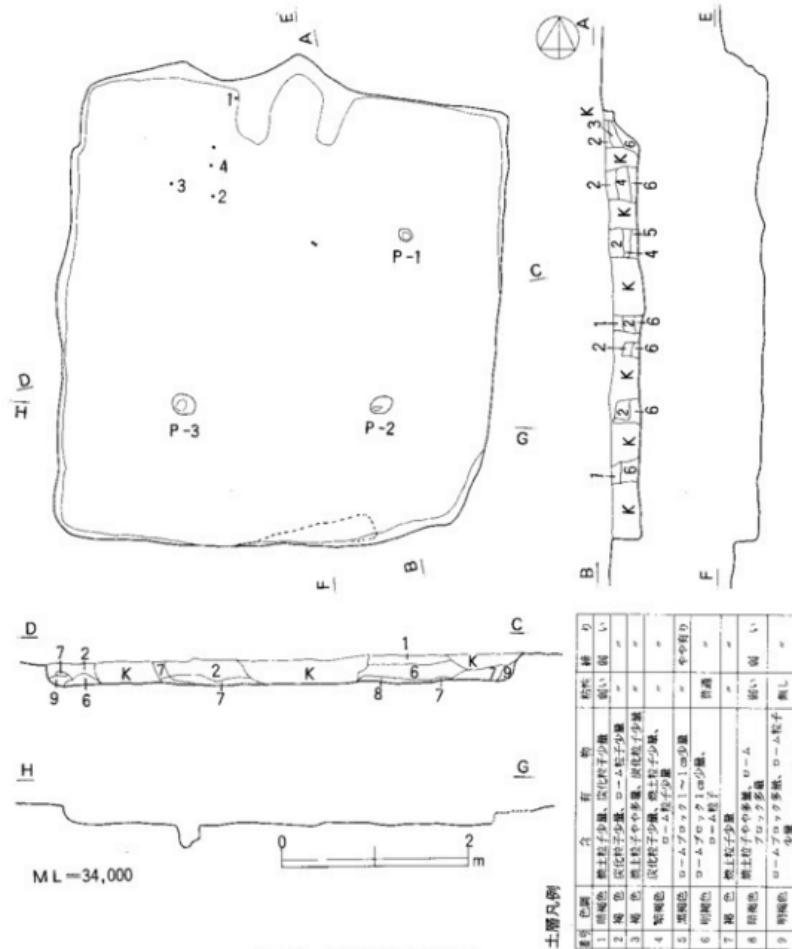
第34図 第10号住居実測図



第35図 第10号住居址出土遺物 実測図

第11号住居址（第36・37図）

本址は、10号住居址の西側1区、V-37・38グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に位置し検出された。第10号住居址の西側3.7m、北側2.2mには第17号住居址、西側には12号住居址が位置している。主軸をN-5°-Eに置き、東西4.6m、南北4.8m、南東隅のやや丸味をもつ方形プランを呈している。壁面はややゆるく丸みを帯びた様な感じで立ち上がり深



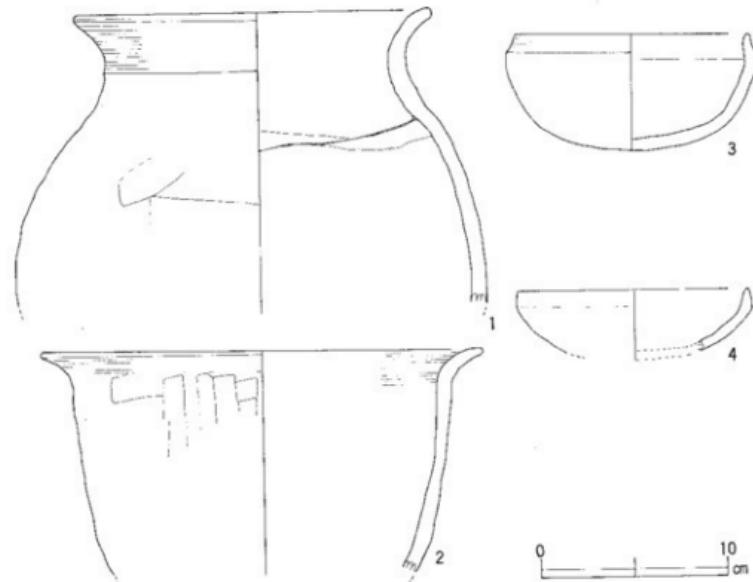
第36図 第11号住居址実測図

さは15cm～25cmを測る。床面は竈前面ではやや縮まりがあり踏み固められていたが壁面周辺部は弱く牛蒡によるトレンチャー、芋穴による攪乱が酷くプランの確認にかなり時間がかかった。ほぼ平坦に移行するが竈前面でやや高くなる。柱穴状のピットが3ヶ所は確認出来たがいずれも幅の狭い浅い掘り込みをもち他の住居址のピットとは違った形態を有していた。周溝は、検出されず南側壁面に焼土層が存在していた。

竈は、北壁中央部に遺存し状態は悪く袖部、火床部がかろうじて認められ住居内へ張りだして構築され外部へは僅かに半円形に掘り込んでいるに過ぎない。火床部が最も掘り込まれている。煙道部はやや強く立ち上がる。形態的には[U]の字形を呈していた。袖部は、砂質の多い灰黄色の粘土を用い粘性はやや強い。火床部は中程に位置する。

覆土は、攪乱層が入り乱れがみられるがレンズ状のほぼ自然埋積の様相を呈している。1・2・3層は、暗褐色から褐色へと暗さを増していく5層は黒褐色でローム粒子を僅かに含み、焼土、炭化粒子を小量含む。以下の各層はロームブロックの混入が多くなり明るさを増していた。

遺物は、全体的に少なく竈の左袖部から甕の胴部上位が出土している。そのほかはいずれも小破片で須恵器环が1点床面から検出されている。



第37図 第11号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1 甕 器 土師器	A	19.0	最大径を胴中位に置く甕型土器で頭部くびれはやや弱く、口縁部は水平に近く外反し、口唇部は丸く收めている。(内面上部は剥離が多い)	横ナデ 跳削り ナデ?	砂粒 赤褐色(1/6 黒褐色) やや不良	40 % 床直
	B					
	C					
2 甕? 土師器	A	23.5	口縁部は外反しほぼ水平に開く。口唇部は丸く收める。甕の可能性が強い。	横ナデ、継位の跳削り ナデ	礫、石英 淡い黄褐色 普通	口頭部 80 % + 4
	B					
	C					
3 甕 土師器	A	12.6	丸底気味から内轉して立ち上り、肩部に弱い縫をもち短い口縁部は内傾し、口唇部は丸く收めている。	横ナデ? ナデ	砂粒、礫、雲母、石英 やや不良	60 % + 9
	B	6.2				
	C	4.0				
4 甕 土師器	A	12.4	体部はゆるやかに立ち上り、口唇部はわずかに内傾気味で丸く收める。	ナデ	礫 にぶい黒褐色(暗褐色) 良	20 % + 3
	B					
	C					

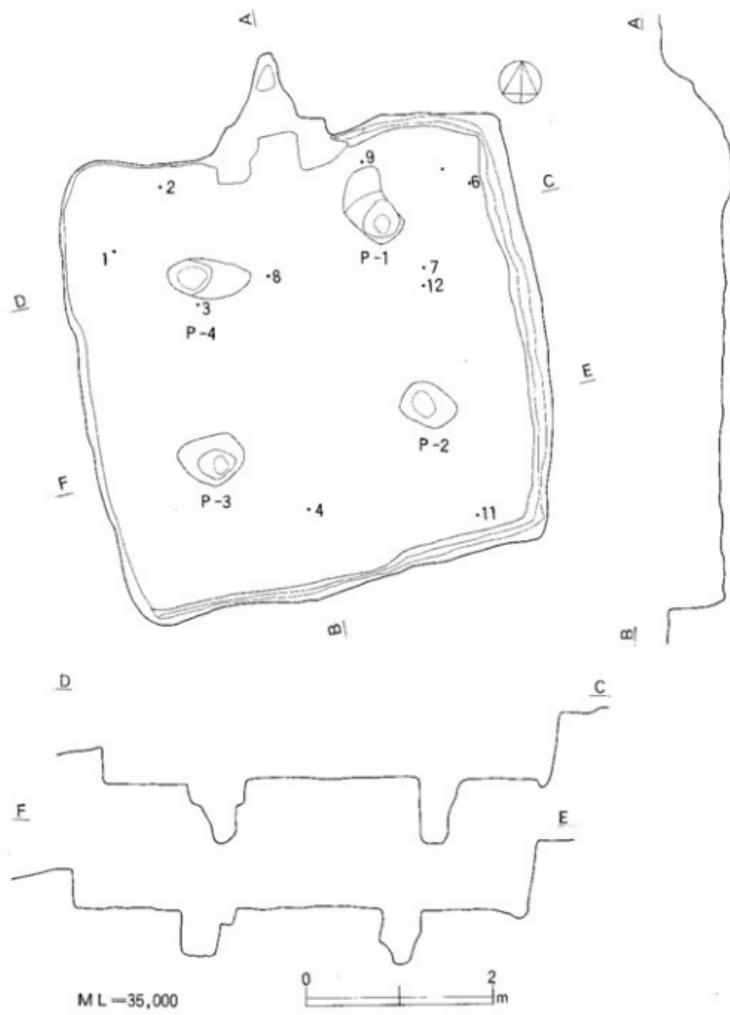
第12号住居址 (第38・39・40図)

本址は、11号住居址の西側1区、V-37・38グリットを中心に確認された住居址で台地がかなりの角度で傾斜をする面に位置し検出された。最も西の斜面に占地している。主軸をN-15°-Wに置き、東西4.4m、南北4.6m、僅かに隅のやや丸みをもつ方形プランを呈している。壁面は鋭角に近く立ち上がり深さは西側で46cm~東側は78cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められていたが壁面周辺部はやや弱い。僅かに中央部が高いがほぼ平坦に移行、使用期間の長さが推察される。柱穴は4ヶ所、P 2を除き二段になり建て替え、掘り替えが想定される。周溝は、西側及び北西側では検出されず南側でも浅く、狭い。東側ではやや広く深い。

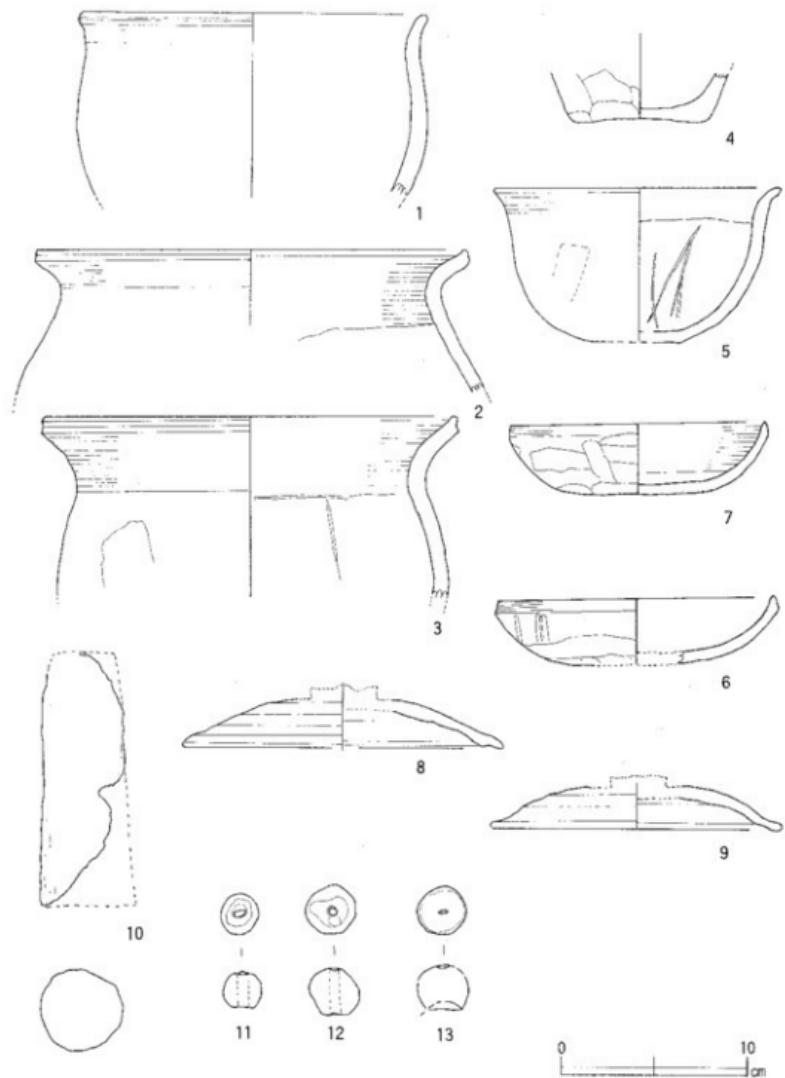
竈は、北壁中央部に遺存し状態は良く袖部、火床部、煙道部が認められ煙道の天井部は遺存していた。袖部が住居内へ僅かに張り出して付設され外部へは1m程U字状に掘り込んでいる。火床部が最も掘り込まれていて煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には[U]の字状に近い掘り込み。袖部は粘性の強い灰褐色の粘土を用い遺存部周辺は赤褐色に変色し火勢の強いことを物語る。火床部は前面に位置する。

覆土は、西~東方向では東壁面側で層序の違いが見られるが北~南方面では上部攪乱層で、1層はにぶい褐色、2層~5層は褐色でローム粒、粒子の混入の差で自然埋積の様相を呈し6~9層はブロックの混入が多くなる。10層は竈部の流れ出し。

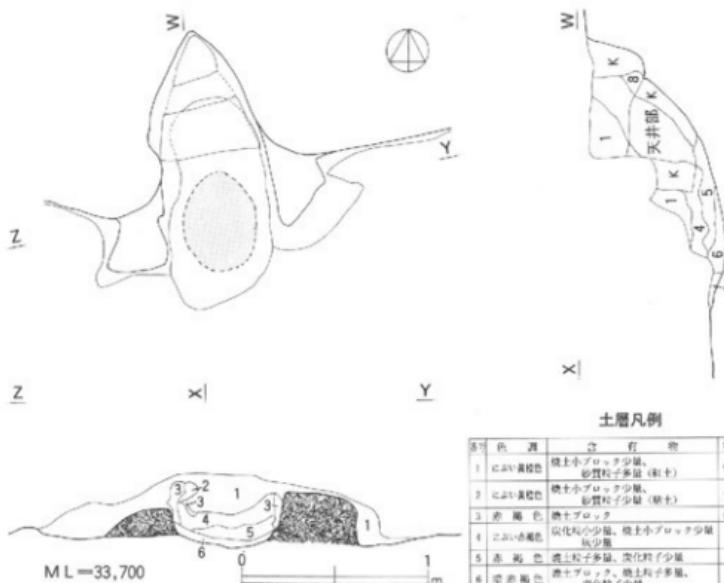
遺物は、やや多く見られたがいずれも小破片であった。器形を窺うものは少なく床面から検出されたものは少ない。須恵器は壊破片が10点程出土している。



第38图 第12号住居址实测图



第39図 第12号住居址出土遺物実測図



土層凡例

名	色調	主有物	特徴	持
1	にがい青褐色	焼土小ブロック少量、砂質粒子少量(赤土)	強い 強い	
2	にがい青褐色	焼土小ブロック少量、砂質粒子少量(赤土)	やや強い やや強い	
3	赤褐色	焼土ブロック	強い 弱い	
4	にがい赤褐色	炭化粧小ブロック、焼土小ブロック少量、灰少量	〃	〃
5	赤褐色	焼土粒子少量、炭化粧子少量	〃	〃
6	赤褐色	焼土ブロック、焼土粒子少量、炭化粧子少量	〃	〃

第40号 第12号住居実測図

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
10	支脚	13.5	4.4			土 製	竈 内	約4分/2を欠失し小型
11	土 簸	1.8	2.0	0.6	9	〃	+ 66	小型の両端カット球状、孔部長円形
12	〃	2.5	2.6	0.6	15	〃	+ 11	不整球状、孔部長円形 指彫押へ
13	〃	2.3	2.6	0.8	16	〃	覆 土	球形状に近い、孔部長円形、5分/1欠失

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎上 色調 焼成	備考
1	甕 土器	A 18.5 B C	口縁部に最大径をもちくびれは弱く、口縁部は弱く外反し、口縁部上方へつまみだし丸く收める。器内はやや厚め。	横ナデ 節削り ナデ	砂粒、礫、石英 赤褐色 にがい黒褐色 (赤褐色) やや黒い	20 % 竈 内
2	甕 土器	A 23.1 B C	口縁部は短く外反し、口縁部上方へつまみだし丸く收める。器内はやや厚め。	横ナデ ナデ	砂礫、蜜母 淡い橙色 普通	口縁部 20 % + 5
3	甕 土器	A 22.2 B C	口縁部は「く」の字状に外反し、口縁部上方えや長目につまみ出す。肩部最大径は上部に置く。	横ナデ ナデ	蜜、蜜母、石英 にがい橙色 普通	口縁部 40 % + 23

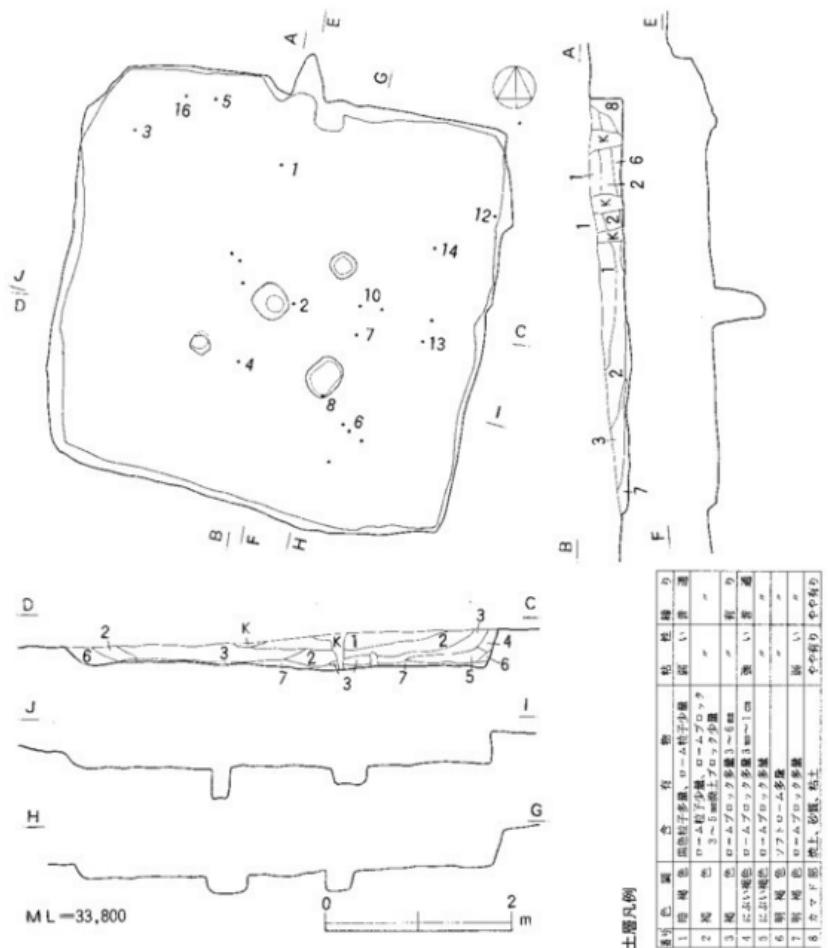
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	摹形技法	胎土、色調、焼成	備考
4	小形甕 土師器	A 約4.0 B " 8.2 C 7.0	平底から直立気味に立ち上る。 底部木条痕を残す。	輪削り ナデ	黒褐色(にぶい橙色) 普通	底部50% + 18
5	鉢 土師器	A 15.3 B 3.8 C 6.5	平底から内側気味に立ち上り体部は直線的、 口縁部は外反し口唇部は薄く尖る。 内面に露ミガキ状あり。	横ナデ、ナデ 露ミガキ?	暗褐色 1/5 黒褐色(橙色)	40 % 窓内
6	壺 土師器	A 14.8 B C	平底に近いゆるやかに立ち上り、口縁部は短く内傾し口唇部は尖る。	横ナデ、輪削り ナデ	躍、石英 にぶい黒褐色(橙色) 普通	30 % + 4
7	壺 土師器	A 13.6 B 3.8 C	平底に近い、体部はゆるやかに立ち上りそのまま口縁部に移行し、口唇部はわずかに内傾し尖る。	横ナデ、輪削り ナデ	躍、スコリア 黒褐色 やや良	40 % + 11
8	蓋 須恵器	A 17.2 B C	フクラミをもちカエリは顯著、つまみを欠失 口端部丸く収める。	粘土紐巻き上げ 回転ミズビキ ナデ	躍、雲母、石英 褐灰(灰褐色)色 普通	20 % 窓内
9	蓋 須恵器	A 15.6 B C	フクラミをもちカエリは顯著、つまみを欠失 口端部丸く収める。	粘土紐巻き上げ 回転ミズビキ ナデ	躍、雲母、石英 灰褐色 普通	20 % + 8

第14号住居址 (第41・42図)

本址は、8号住居址の南側1区、W-42・43グリットを中心に確認された住居址で台地が南西側に傾斜を示す先端部に位置し検出された。東側12mには6号住居址が位置している。主軸をN-11°-Eに置き、東西4.3m、南北4.3m、西と南隅の丸みをもつ方形プランを呈している。壁面は南、西側はゆるく立ち上がり深さは10cm~15cm東、北側は40cm~35cmを測り垂直に近い。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められていたが西側の一部にやや弱い面もみられたが比較的良好でほぼ平坦に移行していた。ピットは4ヶ所認められたが中心部に集中しており深さ、幅等それぞれの掘りに相違が認められ柱穴とは理解出来ない。周溝は、検出出来なかった。

竈は、北壁中央部に遺存し状態は悪くトレッシャーにより切り込まれたが、袖部、火床部は認められた、外部へはV字状に掘り込んでいる。火床部が最も掘り込まれ煙道部はややゆるく移行し垂直に立ち上がる。形態的には[V]の字型を呈する。袖部は砂質の多い灰褐色の粘土を用い粘性はやや強い。焚口は、前面に位置し袖は開く。

覆土は、レンズ状にほぼ自然埋積の様相を呈している。1層は暗褐色、2層は褐色へ替り6・7層はロームブロックを含み、ブロックの混入が多くなり明褐色を呈し明るさを増している。遺物は、全体的にはやや多く認められたがいずれも破片であり器形の窺えるものは少なく壺の量がやや多くみられ須恵器壺、高壺もいずれも小破片であるが検出された。



第41図 第14号住居址実測図

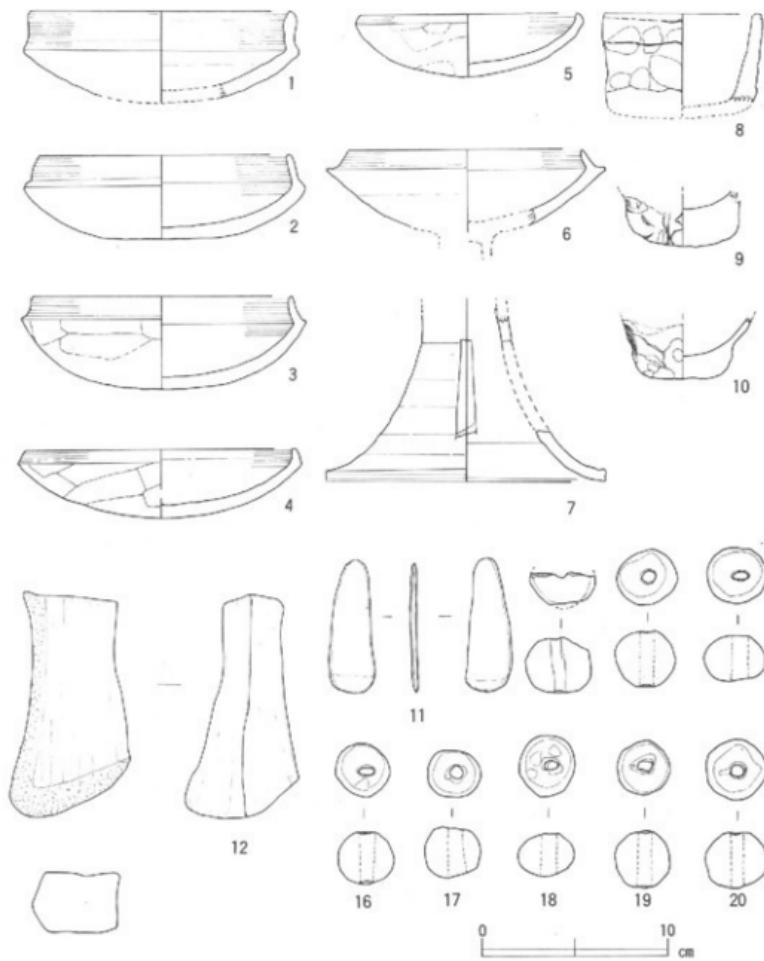
出土土器観察表

番号	器種	法規(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調、焼成	備考
1	环 土師器	A 14.0 B C	丸底と思われる底部からゆるやかに立ち上り、肩部に丸みをもつ破壊をもち、口縁部は長目で内傾気味、口縁部は尖る。	横ナデ ナデ	礫、石英 暗褐色(にぶい褐色) 普通	20 % + 20

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
2	环 土師器	A 13.3 B 4.5 C 6.0	平底の底部からゆるやかに立ち上り、肩部はやや短めで内側顯著な稜をもち、口縁部はやや短めで内傾し薄く口唇部は尖り気味。	横ナデ ナデ	砂礫、石英 にぶい黒褐色 普通	20 % + 5
3	环 土師器	A 14.9 B 5.0 C 3.0	丸底気味の底部から内窪して立ち上り肩部に顯著な稜をもち、口縁部や長目で内傾口唇部は尖り気味。	横ナデ、箝削り ナデ	小窪、石英 にぶい黒褐色 (にぶい黄褐色) 普通	80 % + 13
4	环 土師器	A 14.5 B 3.7 C 2.0	丸底からゆるやかに立ち上り、肩部から短い口縁部は内傾し、口唇部は尖る。	横ナデ、箝削り ナデ	砂、石英、雲母 にぶい黒褐色 (にぶい橙色) 普通	60 % + 14
5	环 土師器	A 11.7 B 34 C	丸底の底部からゆるやかに立ち上り、口縁部は短く内傾し、口唇部は尖る。	横ナデ、ヘラナデ ナデ	難極微量 黒褐色 良	80 % 床 直
6	高 环 須恵器	A 12.6 B C	环部はなめらかに立ち上り、肩部に顯著な稜をもち、口縁部は短く内傾し薄く尖る。高环の环部の可大。	粘土紐巻き上げ 回転ミズビキ 左廻り	難 褐色 良	40 % + 18
7	高 环 須恵器	A B C 15.0	長方形状のすかしを有し环部及び上部は欠落、開縫部はラッパ状に開き、端部外面には凹をもちやや肥厚し角張る。	ロクロ、水焼き 左廻り	難 褐色 良	40 % + 25
8	手 捺 土師器	A 8.0 B C	平底と思われる底部から直立気味に立ち上り、口縁部は内傾気味。輪積痕を残す。	指頭押え ナデ	砂礫、石英、雲母 暗い橙色 やや不良	98 % 床 直
9	手 捺 土師器	A B C 4.0	ほぼ平底に近い、口縁は凸凹が激しく薄くなり指頭による押え。	指頭押え ナデ	砂礫、石英、雲母 暗い橙色 普通	95 % 覆 土
10	手 捺 土師器	A B C 4.0	口縁部欠失するが9と同様の器形と思われる。粗雑な押えがみられる。	指頭押え ナデ	砂礫 雲母、石英 暗い橙色 やや悪い	70 % + 25

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
11	石 斧	7.2	2.4	0.3	18	安山岩	+ 15	滑く、自然石を利用し刃部やや磨耗
12	砥 石	12.0	6.4	3.0	45.5	凝灰岩	+ 15	3面に使用痕をもち使いこまれ一部自然剥離
13	土 球	2.9	3.5	0.5	14	土 製	+ 25	球形状、孔部円形状、2分/1欠失
14	"	2.9	3.2	0.7	28	"	+ 5	球形状、孔部円形状
15	"	2.4	3.2	1.0	27	"	床 直	ややつぶれた球形、孔部円形状
16	"	2.8	2.9	0.9	19	"	床 直	球形、孔部円形
17	"	2.7	2.8	0.6	19	"	覆土中	やや不整形な球形状、孔部円形
18	"	2.2	2.9	0.8	18	"	"	ややつぶれた形態、孔部長円形
19	"	2.9	2.8	0.7	23	"	"	球形状、孔部長方形状
20	"	2.9	3.2	0.6	28	"	"	球形状、孔部円形

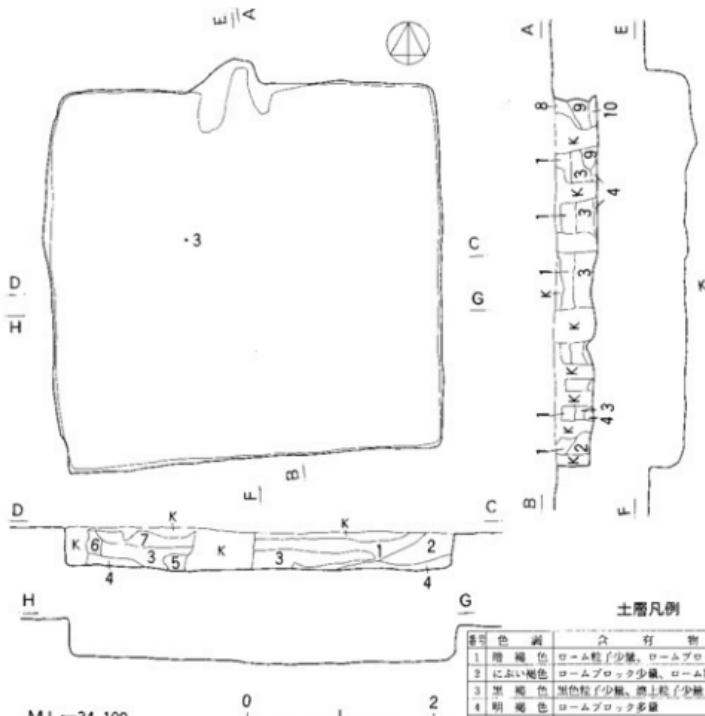


第42図 第14号住居址出土遺物実測図

第15号住居址（第43・44図）

本址は、3号住居址の東側1区、V-33・W-33グリットを中心に確認された住居址で台地のはほぼ平坦な面に位置し確認された。南側1mには17号住居址、東側には18号住居址が位置している。主軸をN-1°-Wに置き、東西4m、南北4m西北隅部のやや丸味をもつ方形プランを呈する。壁面は各面とも垂直に近く立ち上がり深さは40cm~50cmを測る。床面は芋穴等の擾乱が4ヶ所あり状態は良くない。竈の前面をやや掘り込んでいる他、ほぼ平坦で締まりはやや弱い。柱穴は確認出来なかった。前述の擾乱による為と考える。周溝も確認、検出されなかった。

竈は、北壁中央部やや西側に寄った位置に遺存し状態は悪く袖部、火床部が辛うじて認められ住居内へ張り出して付設され外部へは半円径に掘り込んでいる。火床部が最も掘り込まれていて



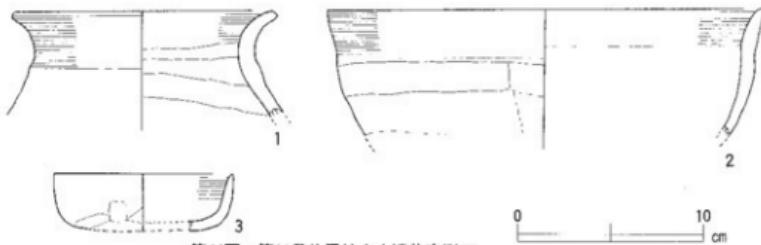
第43図 第15号住居址実測図

番号	色調	含 有 物	粘性	硬 り
1	暗褐色	ローム粒少量、ロームブロック少量	弱い	普通
2	に赤い褐色	ロームブロック少量、ローム粒子	有り	柔
3	黒褐色	黒色粒少量、漂土粒少量	弱い	柔
4	明褐色	ロームブロック多量	有り	柔
5	黒褐色	ローム粒少量	弱い	柔
6	褐色	褐色粒子少量	柔	柔
7	暗褐色	漂土粒少量、ロームブロック少量	柔	柔
8	暗褐色	砂質粘土少量、漂土粒子少量	柔	柔
9	に赤い褐色	砂質粘土少量、漂土ブロック、ロームブロック少量混入	有り	弱い
10	暗褐色	ロームブロック多量混入	弱い	柔

煙道部は鋭角に立ち上がる。形態的には〔U〕の字状を呈していた。袖部は砂質の多いにぶい褐色の粘土を用い粘性はやや強い。床面同様トレンチャーによる擾乱が酷く竈は分断されていた。焚口は広く、火床部は焚口部前面に位置する。

覆土は、上部中央部に擾乱層がみられるがほぼ自然埋積の様相を呈している。1・2・3層は暗褐色からにぶい褐色、黒褐色へと暗さを増し5層も黒褐色であるがローム粒子を少量含み、下層はブロックの混入がやや多くなり明褐色を呈し明るさを増していた。

遺物は、全体的に少なく見るべき物はなく総数37点が出土したに過ぎない。いずれも小破片であり床面から検出されたものは僅かに1点のみであった。



第44図 第15号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

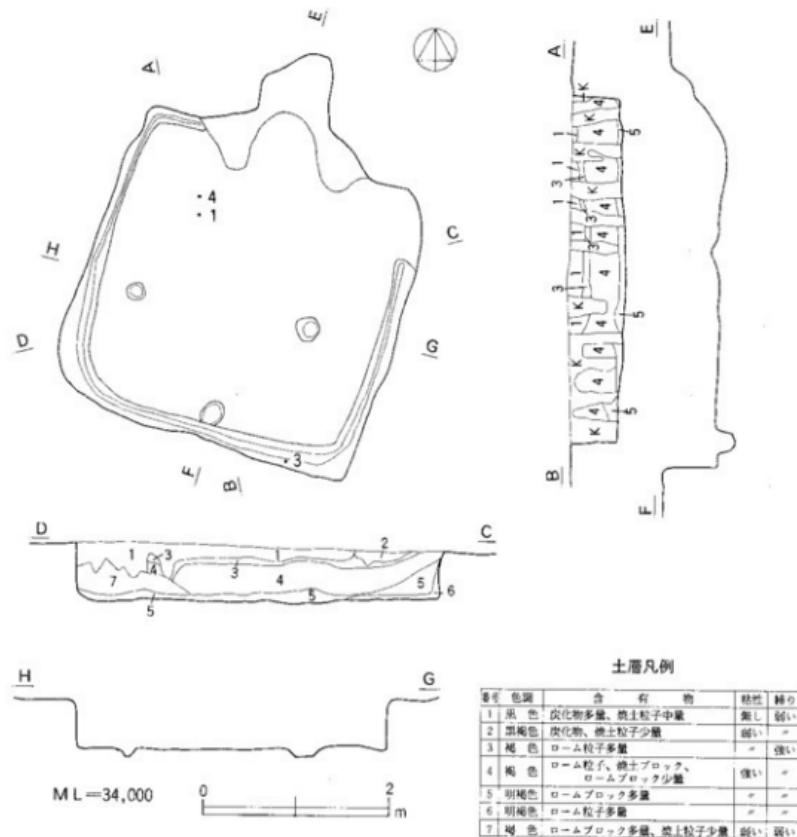
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調 焼成	備考
1	壺 土師器	A 14.0 B C	肩部に弱い段を有し、口縁部は短く外反し 口唇部は丸く収める。	横ナデ、ナデ 箋削り	鐵、雲母 黒褐色 普通	口縁20% 覆土
2	碗? 土師器	A 23.4 B C	肩部に弱い段を有し、口縁部は長目で口唇部 は外輪氣味で肥厚、丸く収める。	横ナデ、箋削り ナデ	鐵、石类 褐色 普通	口縁20% 窓内
3	浅鉢 土師器	A 9.5 B C	体部内凹しながら直立して立ち上り、口縁部 は薄く尖る。	横ナデ、箋削り	砂礫 暗褐色 普通	40 % + 14

第16号住居址 (第45・46・47図)

本址は、15号住居址の南側1区、W-35・36グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に位置し検出された。西側は17号住居跡を埋め複合関係にある。主軸をN-15°-Eに置き、東西3.3m、南北3.2m、隅のやや丸味をもつ方形プランを呈している。壁面はほぼ鋭角に立ち上がり深さは50cm~55cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められていたが壁面周辺部はやや弱い。中央部が僅かに低くほぼ平坦に移行しているがトレンチャーにより分断されている。柱穴は確認出来ず浅いピットが南側で3ヶ所検出されたが幅、掘り込みからは性格を握ることは困難であった。周溝は、東側の一部を除き浅くぼけている。北隅では確認出来ない。

窓は、北壁中央部に遺存していたが前述のようにトレンチャーに因って切り込まれ状態は良くない。袖部の一部と火床部は認められ住居跡へ張り出して掘り込まれ内部へは僅かに袖部が出ているに過ぎない。火床部が最も掘り込まれていて煙道部はゆるく立ち上がる。形態的には[U]の字状の掘り込みを呈している。煙道部の一部が遺存し袖部は砂質の少ない灰褐色の粘土を用い築かれ粘性は強い。焚口部は開き、火床部は中位に位置する。

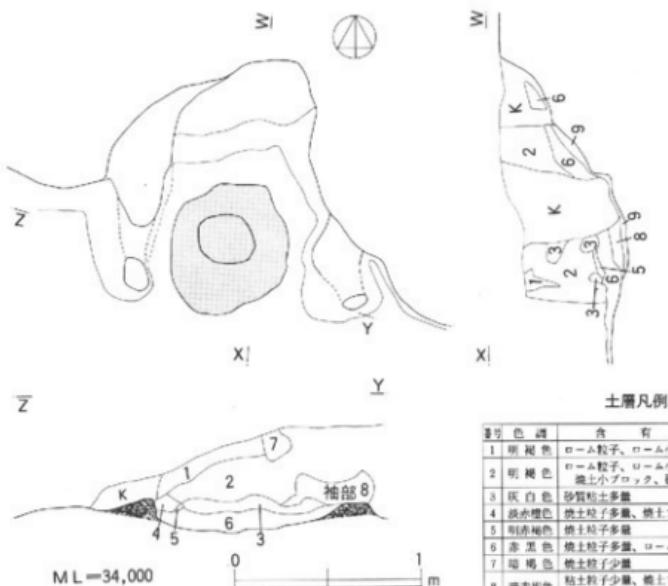
覆土は、西側17号住居跡へ流れるような1層がみられるがほぼ自然埋積の様相を呈している。3・4・5層は、褐色から明褐色へと明るさを増してローム粒子を多量に含み、ブロックの混入



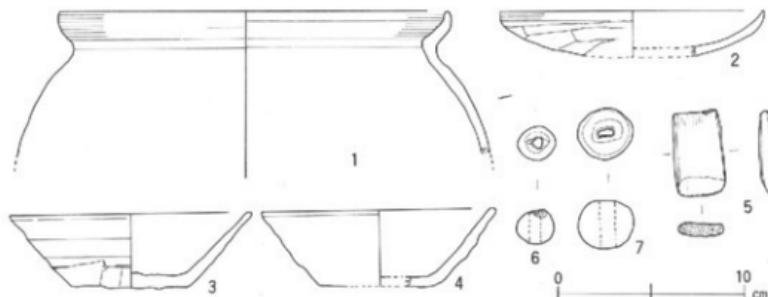
第45図 第16号住居址実測図

が多くなる。

遺物は、全体的に少なく僅かに須恵器等が数点出土している。そのほかはいずれも小破片であり床面から検出されたものは3片と少ない。



第46図 第16号住居実測図



第47図 第16号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 20.9 B C	頸部は「く」の字状に外反し、口唇部は上方へ長目につまみ出し薄く頸部は丸く収める。器肉薄い。	横ナデ、ナデ	陶、雲母 暗褐色 普通	20 % + 25
2	壺 土師器	A 14.1 B C	口縁部は短く内傾し口唇部は尖る。ゆるく内窩する半球状形態。	横ナデ、箋削り ナデ	陶、石英 にぶい黄褐色 良	20 % 覆土
3	壺 須恵器	A 12.5 B 4.1 C 6.5	平底から開き気味に直線的に立ち上り、口唇部はやや肥厚し開き気味に丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、箋削り 左廻り	陶、雲母、石英 にぶい褐色 普通	20 % + 23
4	壺 須恵器	A 12.9 B 4.0 C 6.0	平底から直線的に立ち上り、口唇部は薄く尖る。立ち上りながら器肉を減じる。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、箋削り 左廻り?	砂陶、雲母、石英 にぶい黒褐色 やや良	口縁部 80 % 床直

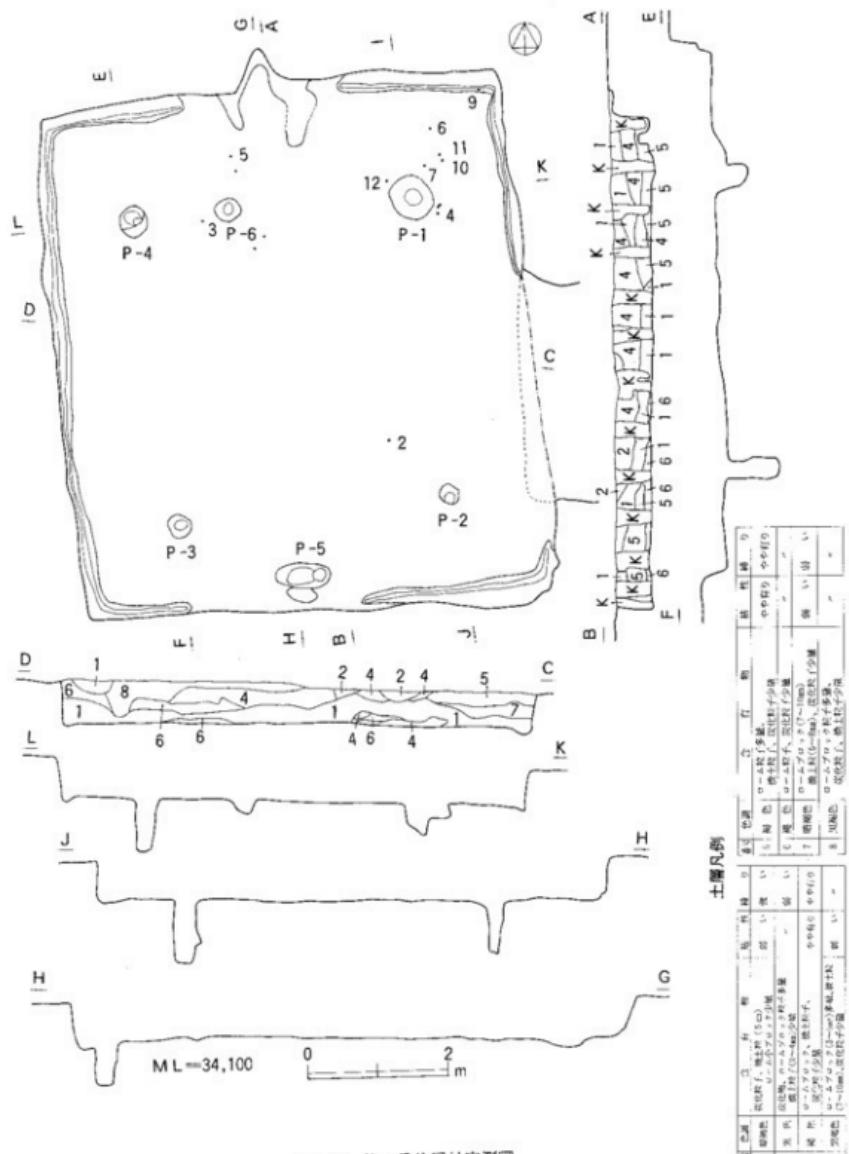
石器、土器一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
5	石斧	4.5	2.7	0.7	24	閃緑岩	覆土中	刃齊給刃状、片面カット状フクラミは弱い
6	土鍬	1.8	2.0	0.7	6	"	"	小壺、球形状、孔部円形、ナデ調整
7	"	2.5	3.0	0.8	21	"	"	やや大型、球形、孔部長方形状、ナデ調整

第17号住居址(第48・49・50図)

本址は、16号住居址の西側1区、V-35・36グリットを中心に確認された住居址で台地のはば平坦な面に位置し検出された。西側は16号住居址に約5分の一程切り込まれ複合関係にある。主軸をN-7°-Wに置き、東西6.7m、南北7.2m、隅部の鋭角な長方形プランを呈している。壁面はほぼ鋭角に立ち上がり深さは50cm~60cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められており壁面周辺部がやや弱い、中央部が僅かに高いがほぼ平坦に移行している。トレンチャーにより一部分断されている。柱穴は4ヶ所確認されP1は浅いピットで幅62cm、深さ23cm、他の2・3・4は径28cm~45cmを測る。その他竈の前、南側壁面に検出されたが幅、掘り込みからは性格を異にすると考えられP5は貯蔵穴の形骸化か?入り口の柱穴が推察される。周溝は、この部分を除いて巡り竈の西、東両側で切れる。

竈は、北壁中央部に遺存していたが前述のようにトレンチャーに因って切り込まれ状態は良くない。袖部、火床部は認められ住居外へ張り出して構築され内部へは袖部が短く付設しているに過ぎない。火床部が最も掘り込まれていて煙道部はやや強く立ち上がる。形態的には[V]の字状の掘り込みを呈している。焚口はやや狭くなり火床部は前面に位置する。袖部は砂質の多いにぶ

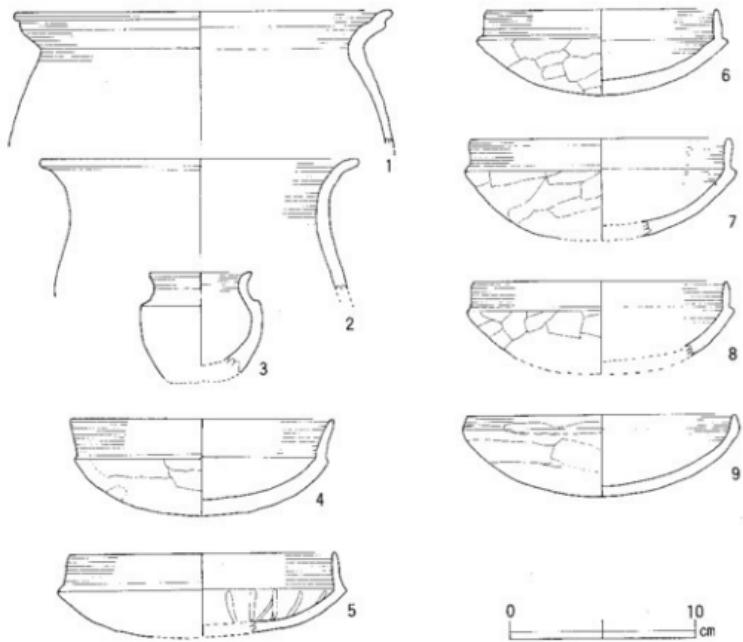


第48図 第17号住居址実測図

い褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。本遺跡の中では大型の部類にはいる住居址である。

覆土は、2層の様に炭化粒子を多量に含むのもみられ西～東の面では16号住居址掘り込み時の投げ込みも考えられる。南北層はほぼレンズ状に堆積し自然の様相を呈している。3・4・5層は、褐色から明褐色へと明るさを増してローム粒子を多量に含み、ブロックの混入が多くなる。

遺物は、規模から比べてやや少なめであった。その大部分は竈東側の隅部への投げ込みによる环が主体を占め、いずれも小破片であり床面から検出されたものは少ない。

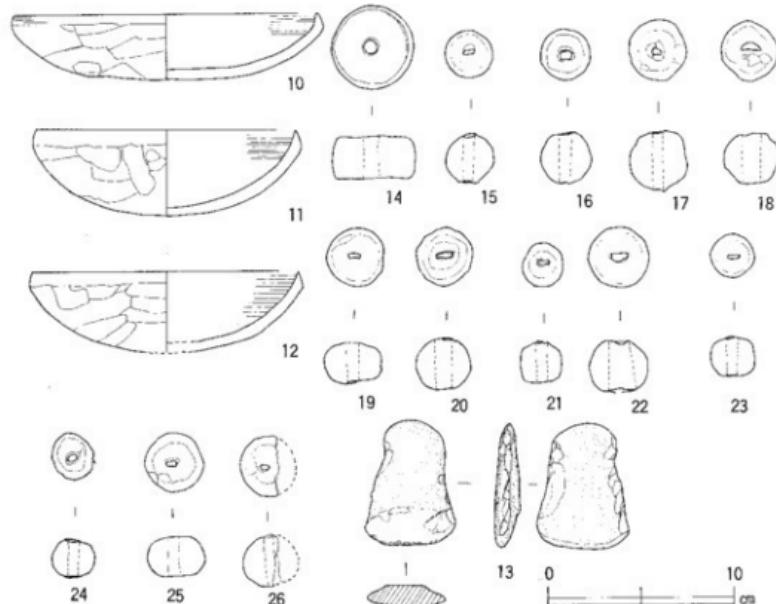


第49図 第17号住居址出土遺物実測図

石器、土製品一覧表

番 号	器 種	法 量(cm)			重 量(g)	材 質	出 土 地 点	備 考
		最 大 長	最 大 幅	孔 壁 厚				
13	石 刃	6.8	4.8	1.2	54	流紋岩	覆土中	大半を自然石部分を残し刃部のみ船刃状
14	紡錘車	2.2	4.4	0.8	49	土 製	床 直	円錐状、中央部に円形孔部をもつ
15	土 球	2.5	2.5	0.6	17	土 製	覆土中	やや長球形状、孔部長方形状
16	"	2.7	2.6	0.7	20	"	"	やや長球形状、孔部長方形状
17	"	3.1	3.1	0.6	31	"	"	不整形の球形状、孔部梢円形状

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
18	土師	2.7	3.1	1.0	25	土製	覆土中	不整形の球形状、孔部三ヶ月状
19	"	2.2	3.1	0.6	21	"	"	押しつされた球形状、孔部長方形状
20	"	2.7	3.0	0.9	24	"	"	球形状、孔部長円状
21	"	2.2	2.2	0.6	12	"	"	小型で長円形状、孔部長方形状
22	"	2.6	3.2	1.1	26	"	"	大型で球形状、孔部三ヶ月状
23	"	2.0	2.3	0.6	12	"	"	やや小型長円形状、孔部三ヶ月状
24	"	2.3	2.3	0.6	10	"	"	やや小型不整形球状、孔部長円形状
25	"	2.1	3.1	0.6	20	"	"	つぶれた球形状、孔部長方形状
26	"	2.7	2.0	0.5	15	"	"	ほぼ球形状、孔部橢円形状 5分./2欠失



第50図 第17号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	土師器 上師器	A 20.1 B C	「く」の字状に外反し口唇部斜上方へつまみ出し、器内は薄い。	横ナデ、ナデナデ	礫、雲母 褐色(におい褐色) 普通	口縁10% 覆土

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
2	壺 土師器	A 17.0 B C	口縁部は水平に近く開き、口唇部は丸く收める。長脚形に近い小型壺か?。	横ナデ、ナデ ナデ	礫、石英 赤褐色 (口縁赤褐色 下部黒褐色) やや不良	口縁10% + 14
3	壺 土師器	A 5.4 B C	平底から内側して立ち上り、肩部に最大径をもち、口縁部は内傾し、口唇部は外反し尖る。小型のミニ チャ的壺(木葉模)。	横ナデ、ナデ ナデ	礫、石英 雲母 暗褐色(黒褐色) 普通	40 % + 12
4	壺 土師器	A 14.1 B 5.2 C 3.0	体部はゆるやかに立ち上り、肩部に顯著な棱を持ち、口縁部は長目外傾、口唇部は尖る。丸底気味。	横ナデ 范削り ナデ	礫、石英 にぼい褐色 良	30 % + 10
5	壺 土師器	A 14.3 B C	平底気味に近く体部はゆるやかに立ち上り、肩部に顯著な棱を持ち、やや長目の口縁部は内傾し薄く、口唇部は丸く收める。	横ナデ ナデ 范削き、ナデ	礫、石英、雲母 にぼい褐色 普通	70 % + 21
6	壺 土師器	A 12.5 B 4.6 C 3.0	丸底に近いゆるやかに内側して立ち上り、肩部に顯著な棱を持ち、口縁部はやや短めで内傾し薄く尖る。	横ナデ 范削り ナデ	礫、石英 淡い褐色 やや良	40 % + 19
7	壺 土師器	A 13.8 B C	内湾気味に立ち上り体部球形状、肩部に棱を持ち、口縁部はやや長目で直立気味、口唇部尖る。	横ナデ 范削り ナデ	礫、石英 口縁赤褐色 体部にぼい黒褐色 良	40 % + 14
8	壺 土師器	A 13.6 B C	体部は内湾気味に立ち上り、肩部に棱を有し、短めの口縁部は内傾し薄く、口唇部尖る。	横ナデ 范削り ナデ	礫、スコリア にぼい黄褐色 やや不良	80 % P 1 内
9	壺 土師器	A 14.2 B 4.4 C 2.0	丸底からゆるやかに内側して立ち上り、口縁部は短く内傾し、口唇部は薄く尖る。輪殖痕を残す。	横ナデ、范ナデ状 ナデ	石美、雲母、礫 暗黄褐色 良	80 % + 17
10	壺 土師器	A 16.2 B 3.5 C 8.0	半底に近い底部からゆるく内側して立ち上り、口縁部は短く内傾し、口唇部は断面三角形状。	横ナデ 范削り ナデ	礫、石英、雲母 明るい赤褐色 良	40 % 床 直
11	壺 土師器	A 13.8 B 4.6 C 3.5	丸底気味から内側して立ち上り、口縁部は丸味をもち内傾し、口唇部は断面三角形状尖る。	横ナデ 范削り ナデ	礫、石英、雲母 にぼい赤褐色 (暗灰褐色) 黒褐色 普通	40 % 床 直
12	壺 土師器	A 14.2 B C	丸底の底部からゆるやかに内湾気味に立ち上り、口縁部は短く内傾し、口唇部は断面三角形状尖る。	横ナデ 范削り 横ナデ	礫極少量 にぼい褐色 普通	30 % 床 直

第18号住居址 (第51・52・53図)

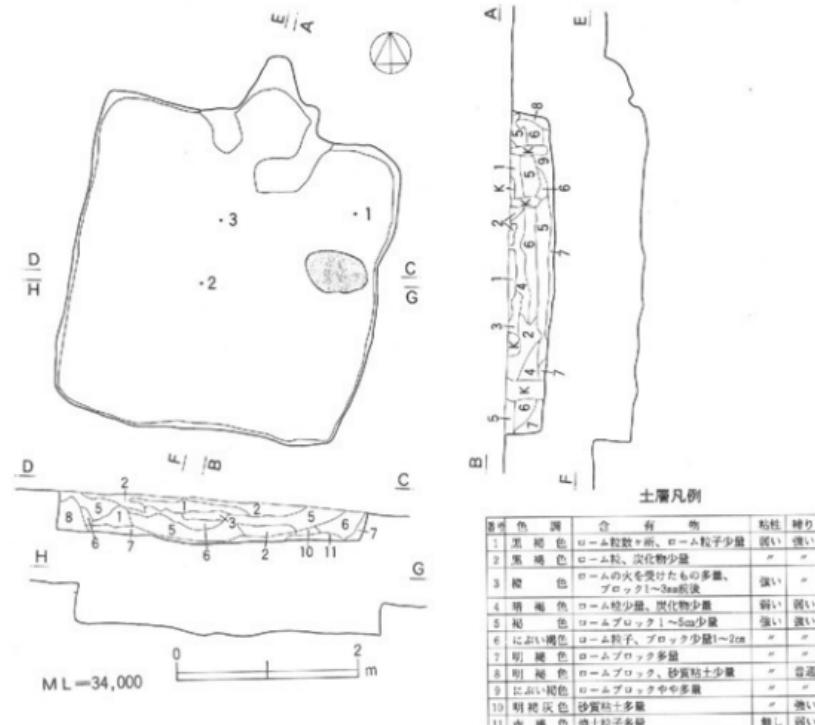
本址は、15号住居址の北東側 1区、X-32・33グリットを中心に確認された住居址で台地がやや東側に傾斜を示す面に位置し検出された。南東側隅部で19号住居址を埋め複合関係にある。主軸を N-13°-E に置き、東西3.1m、南北3.5m、隅のやや丸味をもつ長方形プラン状を呈している。壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは31cm~35cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固

められていたが壁面周辺部はやや弱く、中央部から竈側に向かってゆるく下り気味、他はほぼ平坦に移行している。柱穴、周溝は確認、検出出来ない。

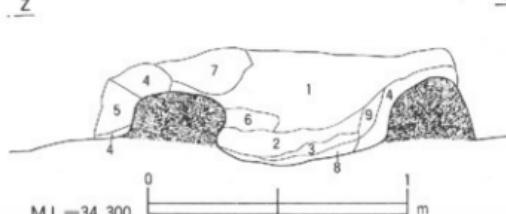
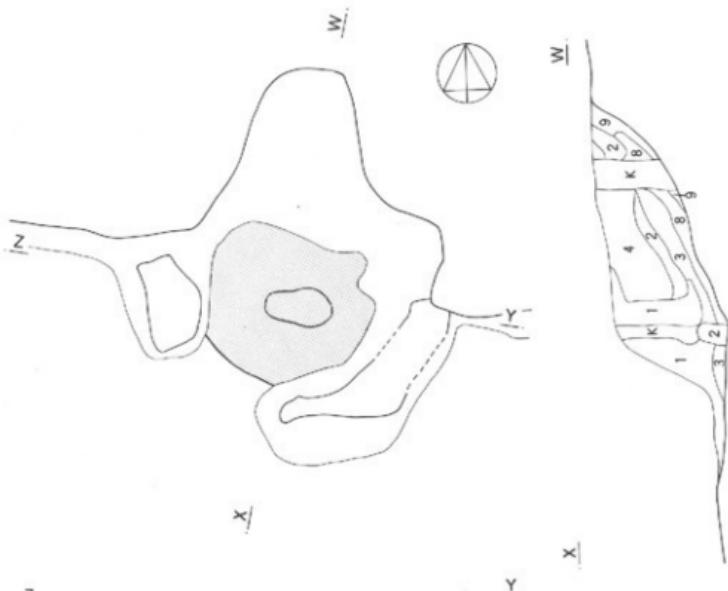
竈は、北壁中央部に遠存していたがトレンチャーに因って切り込まれ状態は良くない。袖部、火床部は認められ住居外へ張り出して構築され内部へは袖部半円状に付設している。火床部が最も掘り込まれていて煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には〔ハート〕状に近い。袖部は砂質がやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。

覆土は、ほぼ自然埋積の様相を呈している。1・2層は黒褐色3・4・5・6層は橙色から明褐色へと明るさを増してローム粒子を多量に含み、ブロックの混入が多くなる。このような層位、上面黒褐色を呈する住居址は数軒である。

遺物は、全体的に少なく僅かに土器師坏底に墨書きがみとめられる破片が覆土層より出土している。そのほか磁石が2点、切り合い部床面から200図4の鎌が検出された。



第51図 第18号住居址実測図



土層凡例

番号	色調	含 有 物	特 性	地 り
1	にごい褐色	燒土粒子、微小骨子少量	やや有り	普通
2	明 暗 色	燒土ブロック多量	無し	弱い
3	にごい褐色	燒土ブロック、ローム ブロック少量	少	少
4	明 暗 色	ローム粒子多量	発 い	強 い
5	灰 暗 色	砂質粘土、粗粒少量	少	少
6	にごい褐色	砂質粘土、燒土粒子少量	有	弱
7	暗 暗 色	後化粒子少量	弱 い	弱 い
8	明 暗 色	ロームブロック	少	少
(6-8は同じ)				

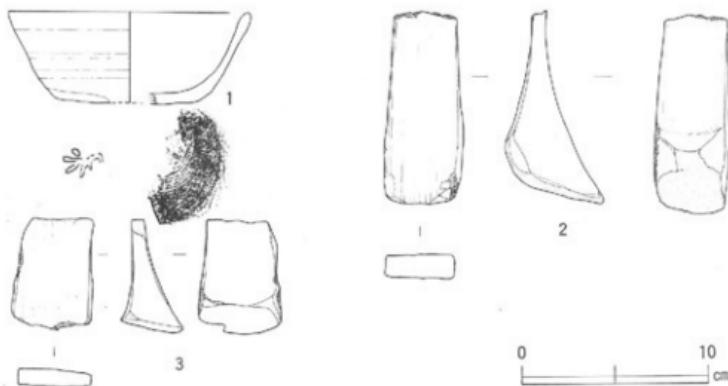
第52図 第18号住竈実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土器	A 12.9 B 5.0 C 7.5	平底から直線的に開き気味に立ち上り、口縁 肥厚し口唇部は丸く収める。 内黒の可が大きい。墨書きあり。	底部糸切り1部ナデケシ 回転ミズビキ? クロコ水引か	礫 橙色(黒褐色) 床直 普通	50 % 床 直

石製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
2	磁 石	5.9	4.3	0.9		凝灰岩	床 直	四面ともそれぞれ使用痕を残す、1面自然端あり
3	"	10.3	4.2	1.1		凝灰岩	+ 60	2面、上、下面の使用痕使いこまれている。



第53図 第18号住居址出土遺物実測図

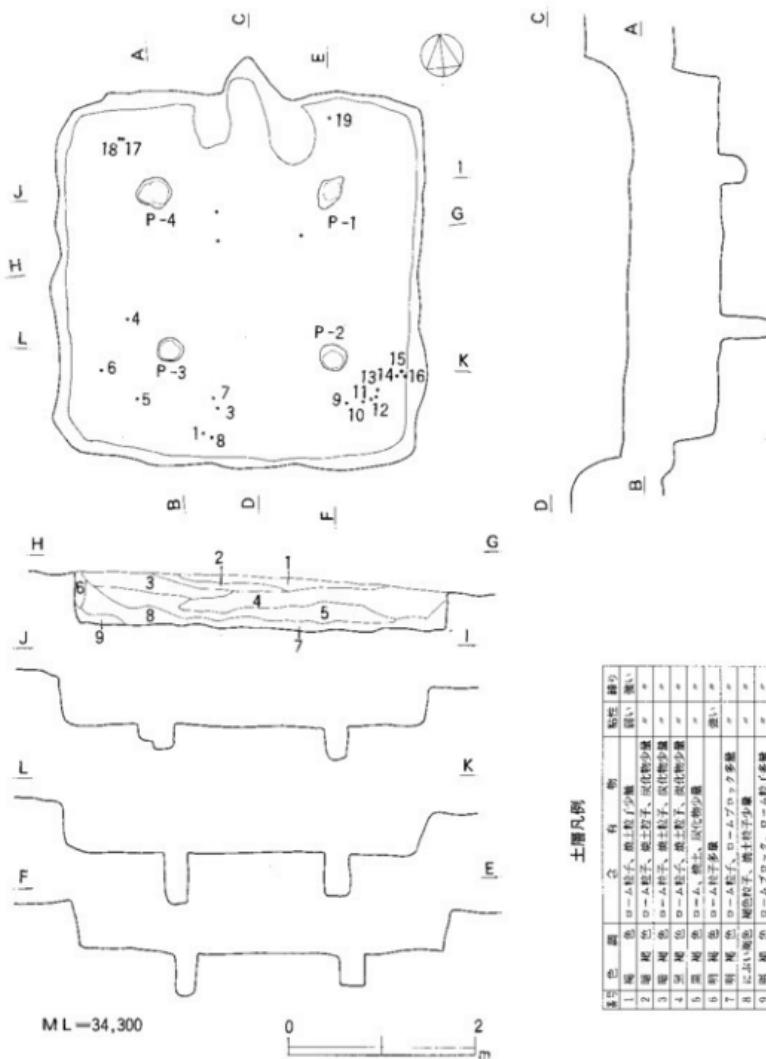
第19号住居址（第54・55・56図）

本址は、18号住居址の南東側1区、X-33・Y-33グリットを中心に確認された住居址で台地がなだらかに東側に傾斜を示す面に位置し検出された。北西側隅部で18号住居址に切られ複合関係にある。主軸をN-3°-Eに置き、東西3.9m、南北3.9m、隅のやや丸味をもつ方形プランを呈している。壁面はややゆるく立ち上がり深さは45cm～55cmを測る。床面は竈の前面部では踏み固められていたがその他はやや弱く、南、西側からそれぞれ竈側、東側に向かってゆるく傾斜を示す。柱穴は4ヶ所確認されP4を除き径25～26cm深さ35～55cmの円形を呈するがP4は径40cm、深さ25cmと二段の掘り込みがみられた。

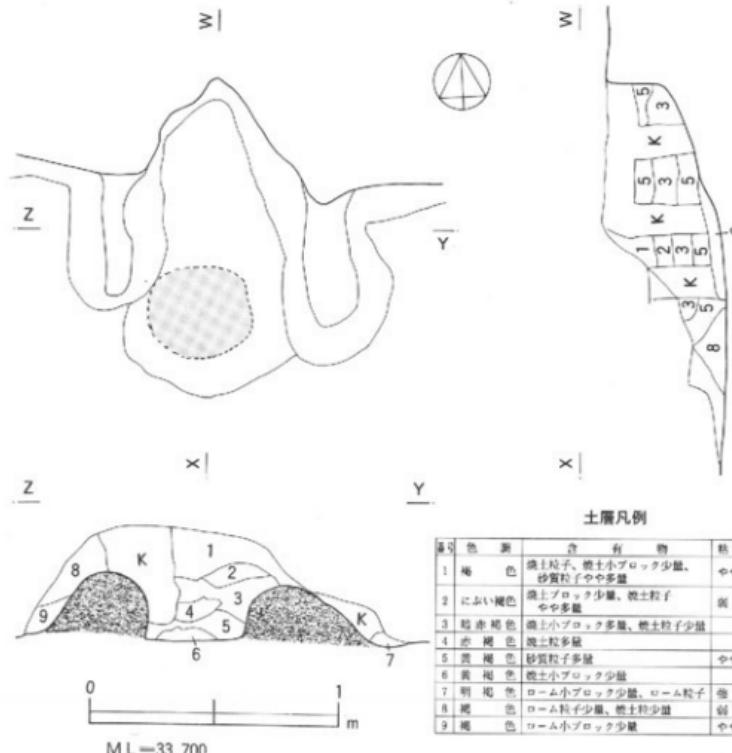
竈は、北壁中央部に遺存していたがトレンチャーに因って切り込まれ状態は良くない。袖部は住居内へ直線的付設している。火床部が最も掘り込んでいて煙道部はゆるやかに立ち上がる。外部へは半円形に掘り込んでいる。袖部は砂質のやや多い黄褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。焚口は幅広く、火床部は前面に位置している。

覆土は、4層が投げ込み状にみられるほかは、ほぼ自然埋積の様相を呈している。4・5層は黒褐色、図示しなかったが北側70cmほどはローム粒子を多量に含み、ブロックの混入が多くなる。このような層位はこの部分だけで18号住居址からの投げ込みと理解されよう。

遺物は、非常に多く竈前から土師器壊破片200点程が覆土層より出土している。そのほか南東側から土製丸玉が8点程検出され土錐の多い住居である。



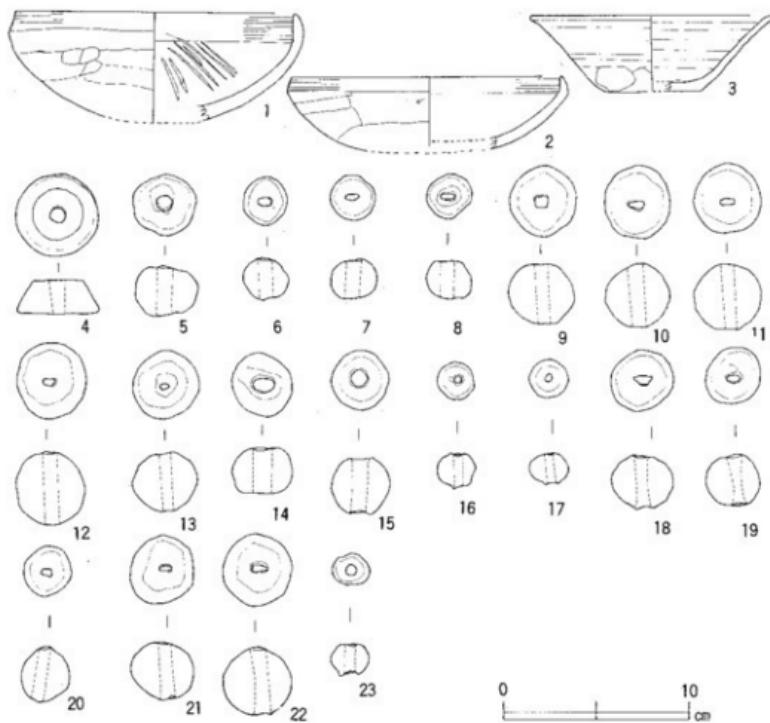
第54図 第19号住居址実測図



第55図 第19号住竈実測図

出土土器観察表

番号	器 種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土 色調 焼成	備 考
1	环 土師器	A 15.1 B C	深め、体部はゆるやかに内傾して立ち上り、口縁部は内傾し、口唇部はやや尖り気味。 内面擦磨きあり（粗）。	横ナデ、箇削り	小窓、石英 黒褐色 普通	40 % + 13
2	环 土師器	A 14.5 B C	体部はゆるやかに立ち上り、口縁部は内傾し、口唇部は尖り気味。	横ナデ、箇削り ナデ	窓、石英 暗い橙色 普通	20 % + 17
3	环 須恵器	A 13.1 B 4.0 C	平底から開いて直線的に立ち上り、口縁部は外傾し丸く收める。器肉は全体に薄い。 底部は小さい。	粘土糰巻上げ 回転ミズキ、ナデ 箇削り	窓 灰褐色（灰白色） 良	40 % 竈 内



第564図 第19号住居址出土遺物実測図

土鍾一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
4	防護車	1.8	4.4	0.9	48	磨石	+	10台形状、孔部は円形状に穿つ、完形
5	土鍾	2.6	3.4	0.9	22	土製	+	6不整形球状、孔部円形状、粗雑な調整
6	"	2.2	2.4	0.8	11	"	+	25やや小型、不整形球状、孔部横円形
7	"	2.1	2.4	0.8	12	"	+	19ややつぶれた球形、孔部長円形
8	"	2.0	2.4	0.7	11	"	+	9不整形球状、孔部長円形
9	"	3.2	3.6	0.7	44	"	床直	ほぼ球形状、孔部方形状(大型)
10	"	3.5	3.5	0.9	55	"	+	4やや不整形の球状、孔部長円形
11	"	3.5	3.6	0.6	50	"	+	8やや不整形の球状、孔部長円形
12	"	3.9	3.7	0.8	57	"	+	7長目の球形状、孔部長方形状(大型)
13	"	3.2	3.6	0.5	39	"	+	7不整形の球状、孔部横円形
14	"	2.4	3.2	1.1	22	"	+	9両端カット状の球形状、孔部は大きい(使用の為?)

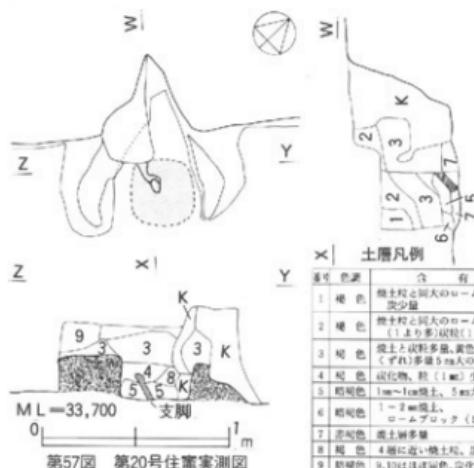
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
15	土 球	3.0	3.0	1.0	29	"	+ 10	ほぼ球形状、孔部凹形状
16	"	1.9	1.9	0.5	6	"	+ 11	小型不整形球状、孔部橢円形状
17	"	1.6	2.1	0.4	6	"	+ 10	小型不整形球状、孔部橢円形状
18	"	3.0	3.4	0.7	32	"	+ 21	不整形の球形状、孔部三ヶ月状
19	"	2.7	2.9	0.8	22	"	床 直	長円形球状、孔部橢円形状
20	"	3.0	2.6	0.6	19	"	覆 土	不整形球状、孔部長方形状
21	"	3.0	3.4	0.7	40	"	"	不整形球状、孔部長円形状
22	"	3.5	3.7	0.9	48	"	"	球形状、孔部三角形状
23	"	1.6	2.0	0.5	4	"	"	小型、不整形球状、孔部円形状

第20号住居址（第57・58・59図）

本址は、1区、Z-30グリットを中心に確認された住居址で台地がやや南東側に傾斜を示す面に位置し単独で検出された。主軸をN-52°Wに置き、東西、南北3.5mの方形プランを呈している。壁面はほぼ垂直に近く立ち上がり深さは35cm~65cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められており僅かに壁面周辺部でやや弱い。中央部が僅かに低くなる他はほぼ平坦に移行している。柱穴は確認できない。周溝は浅く狭い部分も見られるが全周して確認、検出された。

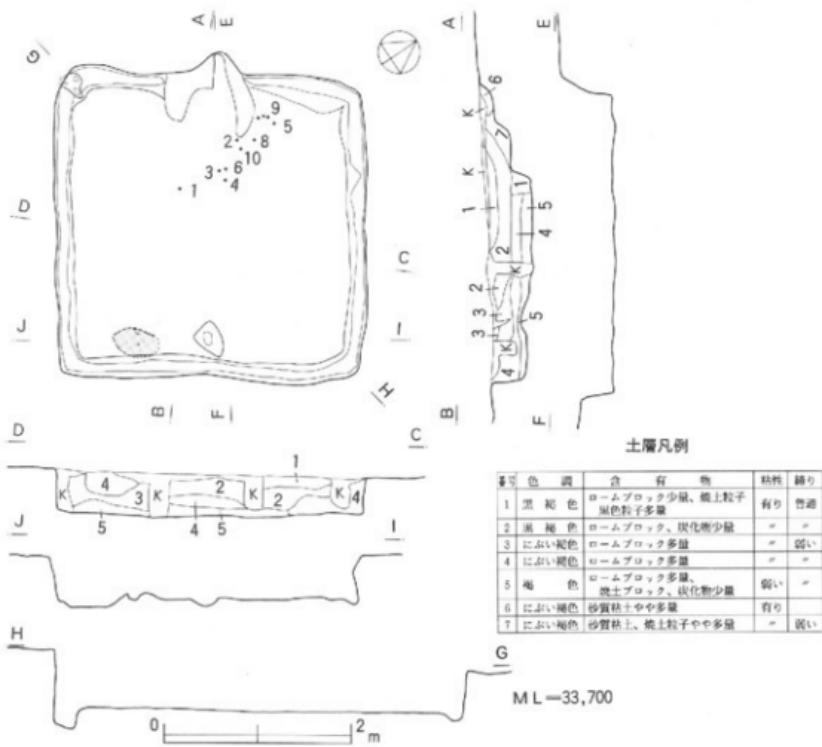
竈は、北壁中央部に遺存していたがトレンチャーに因って切り込まれ、状態は良くないが袖部、火床部は認められた。袖部を住居内へ「ハ」の字状に張り出して付設し外部へはV字状に掘り込み構築。火床部は床面とほぼ平ら、煙道部は強く立ち上がる。形態的には[V]状に近い。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。火床から上・下逆の状態で支脚が出上している。焚口部は開き、火床部は前面に位置する。

覆土は、レンズ状のほぼ自然埋積の様相を呈している。1・2は黒褐色3・4・5層は褐色からぶい橙色へと明るさを増してローム粒子を多量に含み、ブロックの混入が見られ6・7層は砂質の混入が



多くなる。

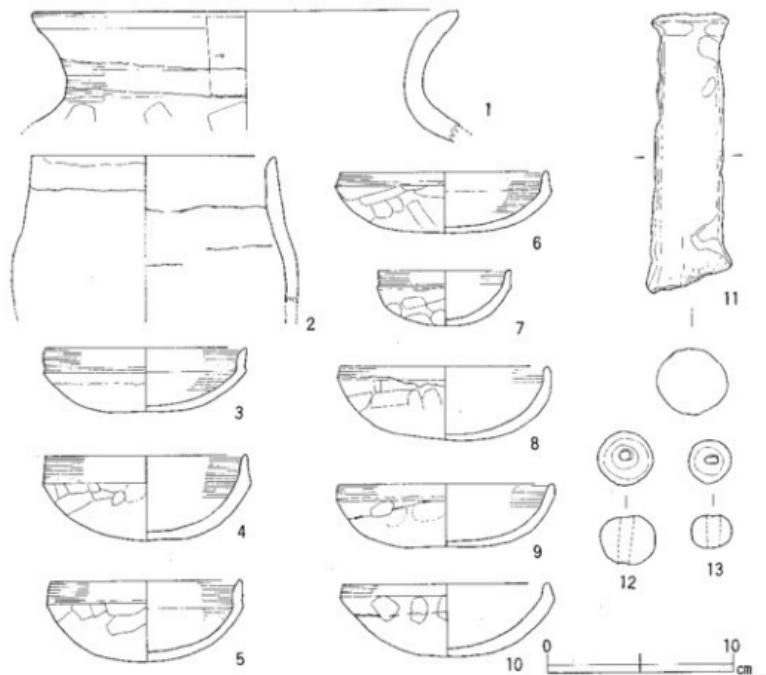
遺物は、全体的にやや多く認められたが床直のものは少なくいずれも破片が覆土層より出土している。竈南側前面からは口径の小さい壺が8点検出され重ねられるものも認められた。いずれも完形で出土している。



第58図 第20号住居址実測図

土製品一覧表

番 号	器 種	法 量(cm)			重 量(g)	材 質	出 土 地 点	備 考
		最 大 長	最 大 幅	最 大 厚				
11	支 脚	14.9	4.6			土 製	竈 内	竈内から上下逆で出土、ほぼ完、細い
12	土 瓶	2.5	2.9	0.7	18	土 製	覆土中	ほぼ球形状、孔部円形状
13	"	1.7	2.2	0.8	8	"	"	やや小型、つぶれた球形状、孔部長円形状



第59図 第20号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 22.7 B C	口頸部は「く」の字状に外反し、口唇部はやや尖り気味。器肉はやや厚め。 最大径を胴中位に置く器形か?	横ナデ、鏡削り ナデ	醜 淡い褐色 普通	口頸部 40 % + 23
2	甕 土師器	A 13.0 B C	頸部は弱く、口縁部は内傾気味に立ち上り口唇部は内面カット状に尖る。(二次焼成もろい)	ナデか? 剥落の為 不明	醜、長石 赤褐色(黒褐色) やや悪い	20 % + 35
3	环 土師器	A 10.7 B 3.4 C 3.7	平底からゆるやかに内脣して立ち上り、肩部に弱い稜を持ち、口縁部は直立気味、口唇部は丸く収める。輪樋痕残す。	横ナデ、ナデ	醜、長石 にぼい黒褐色 普通	98 % 床 直
4	环 土師器	A 10.8 B 4.5 C 3.5	丸底気味の底部から内脣して立ち上り、体部へ向って器肉を増し、肩部に弱い稜を持ち、口縁部は直立気味、口唇部は丸く収める。	横ナデ、鏡削り ナデ	醜、長石 長石 褐色 普通	98 % 床 直
5	环 土師器	A 10.2 B 4.5 C 2.7	丸底から内脣して立ち上り、肩部に弱い稜を持ち、口縁部は直立気味、口唇部は尖る。	横ナデ、鏡削り ナデ	醜、 暗褐色(黒褐色) 普通	98 % 床 直

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
6	环 土師器	A 10.7 B 3.2 C 4.0	丸底気味の底部からゆるやかに内彎して立ち上り、肩部に弱い稜を持ち、口縁部は近く内彎し、口唇部は丸く収めている。	横ナデ、箝削り ナデ	黒 暗褐色 普通	98 % 床直
7	环 土師器	A 7.1 B 3.0 C 2.1	丸底気味から内彎して立ち上り、肩部に弱い稜を持ち、口縁部は直立気味、口唇部は尖り気味。	横ナデ、箝削り ナデ	黒、長石 暗褐色 普通	98 % 床直
8	环 土師器	A 11.2 B 4.0 C 4.5	丸底気味の底部から内彎して立ち上り、口縁部は近く内彎し、口唇部は尖る。 下部磨耗多く不明	横ナデ、箝削り ナデ	黒、長石 暗褐色 普通	98 % 床直
9	环 土師器	A 11.6 B 3.4 C 4.4	平底からやや直立気味に立ち上り、口縁部は屈く直立し、口唇部は丸く収める。輪積腹、巻上縫を残す。	横ナデ、箝削り ナデ	黒、長石 におい黒褐色 普通	98 % 床直
10	环 土師器	A 11.1 B 3.9 C 3.8	丸底に近い底部からゆるやかに内彎して立ち上り、口縁部は内彎し、口唇部は尖り気味。	横ナデ箝削り、 ナデ	黒、長石 暗褐色 普通	98 % 床直

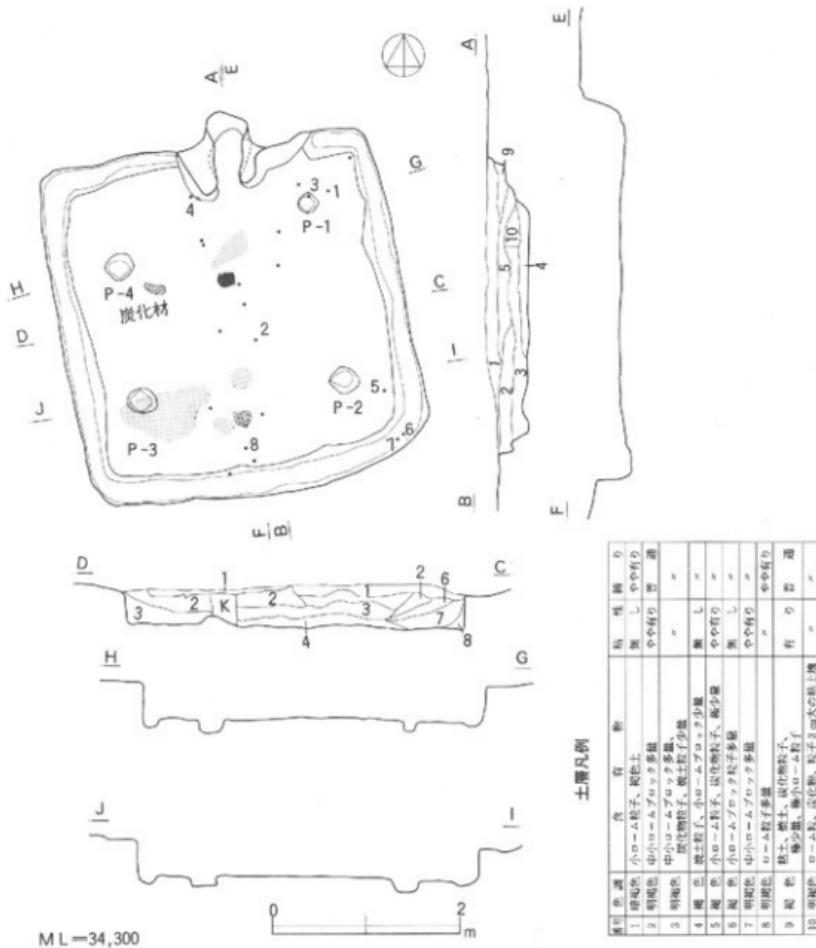
第21号住居址（第60・61・62図）

本址は、20号住居址の北側1区、Z-26・27グリットを中心に確認された住居址ではほぼ平坦な面に位置し検出された。主軸をN-12°-Wに置き、東西3.6m、南北3.6m南東隅部のやや丸味をもつ方形プランを呈している。壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは32cm～35cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められていたが壁面周辺部はやや弱く、中央部がやや高まる他はほぼ平坦に移行している。柱穴は4ヶ所確認されたがいずれも10～12cmと浅くP1は径15cm、深さ10cmと小さいものであった。周溝は幅広く、10cm程の深さをもち柱穴同様に近いU字状に掘り込まれ検出された。

竈は、北壁中央部に遺存していた。状態は良く袖部、火床部が認められ住居外へU字状に張り出して構築され袖部は遺存状態は良い。火床部が最も掘り込まれ煙道部は鋭角的に立ち上がりこの部分13層にはぶい赤褐色を呈している。形態的には[U]状に近い。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。焚口はやや狭く、火床部は中位に位置する。

覆土は南西側に小規模な椭円形の土坑が掘り込まれていたが、ほぼ自然埋積の様相を呈している。4層は床面に面するもので褐色ローム粒、焼土粒子を少量含み炭化物が少量みられた。

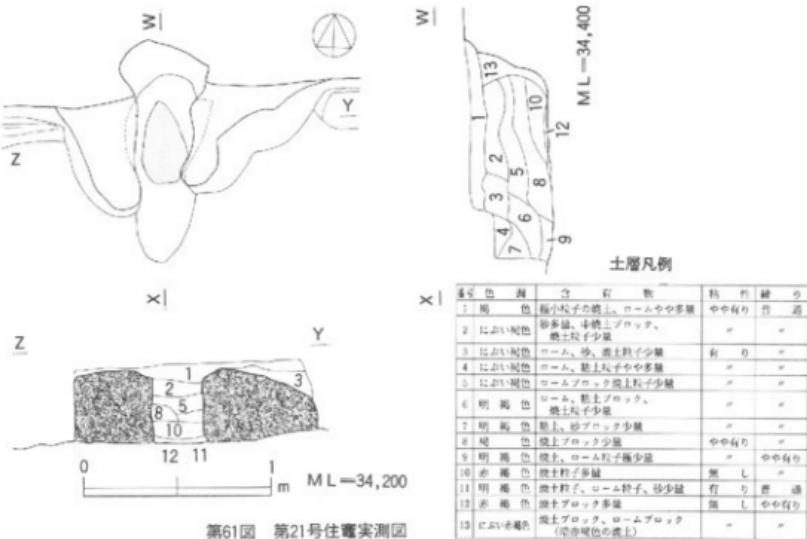
遺物は、全体的にはやや多く見られたがいずれも小破片で覆土層より出土している。甕は僅かに口唇部をつまみ出し壺は口縁部外反。



第60図 第21号住居址実測図

土種一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
9	土種	2.6	2.8	0.6	16	土製	床直	球形状、孔部円形状

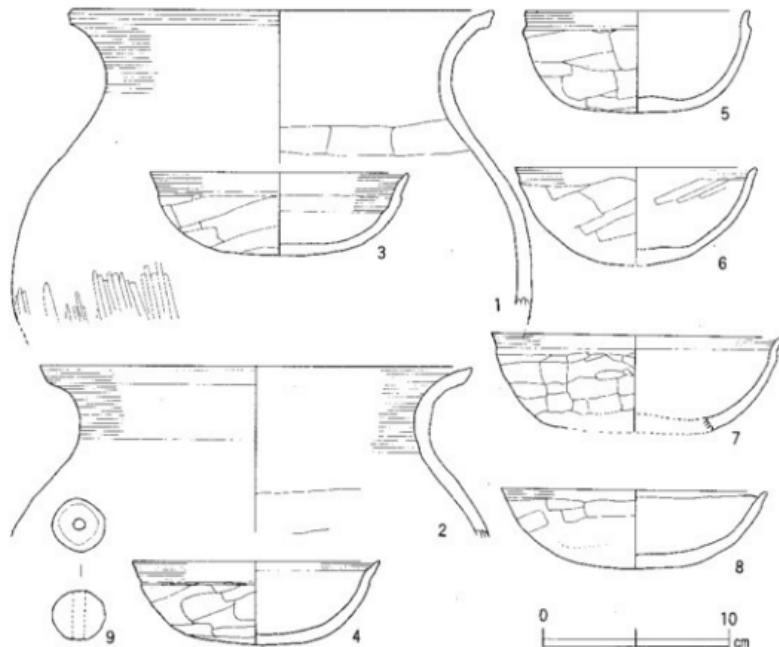


第61図 第21号住電実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	造形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土器	A 22.5 B C	頸部は「く」の字状の外反し、口縁部カット状、口唇部は上方へつまみ出し気味。	横ナデ 篦削り ナデ	礫、雲母、石英 褐色(口縁赤褐色) 普通	口頭部 60 % 床直
2	甕 土器	A 23.0 B C	頸部は「く」の字状に外反し、口縁部は水平に近く開き、口唇部は斜上方へ弱くつまみだす。	横ナデ ナデ 箒削り	礫、雲母、石英 に赤い褐色(赤褐色) 普通	10 % 床直
3	壺 土器	A 13.8 B 4.4 C 4.0	平底気味から内側して立ち上り、肩部に弱い稜をもち、口縁部は外傾し、口唇部は薄く尖る。	横ナデ、箒削り ナデ	礫 淡い橙色 普通	50 % + 16
4	壺 土器	A 13.2 B 4.4 C 3.0	丸底に近い底部から内側して立ち上り、肩部に弱い稜をもち、口縁部は外傾し、口唇部は丸く收める。上方へつまみ出し気味で尖る。	横ナデ、箒削り ナデ	礫 褐色 普通	40 % + 30
5	甕 土器	A 12.0 B 5.4 C 6.0	平底から内側して立ち上り、肩部に弱い稜をもち、口縁部は直立し、口唇部は丸く收める。	箒削り 横ナデ ナデ	礫 淡い褐色 (に赤い黒褐色) 普通	60 % 床直
6	甕 土器	A 12.9 B 5.4 C	丸底と思われる。内側して立ち上り肩部に弱い稜をもち口縁部は外傾気味で、丸く收める。斜上方へ尖る。	横ナデ 篒削り ナデ	礫、雲母、石英 に赤い黒褐色 (淡い橙色) 普通	40 % + 10
7	壺 土器	A 15.7 B 5.2 C	内側して立ち上り肩部に弱い稜状のものをもつ。口縁部は薄くて、口唇部は内側へカット状、尖る。	横ナデ 篒削り ナデ	砂 黒褐色 良	60 % 床直

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
8	壺 土師器	A 14.2 B 4.3 C 5.0	平底に近い底部からゆるやかに立ち上り、口 縁がわずかに外反し、口唇部は内側カット状、 尖り気味。	横ナデ 篦削り ナデ	礫、石英、褐色 褐色 普通	40 % 床直

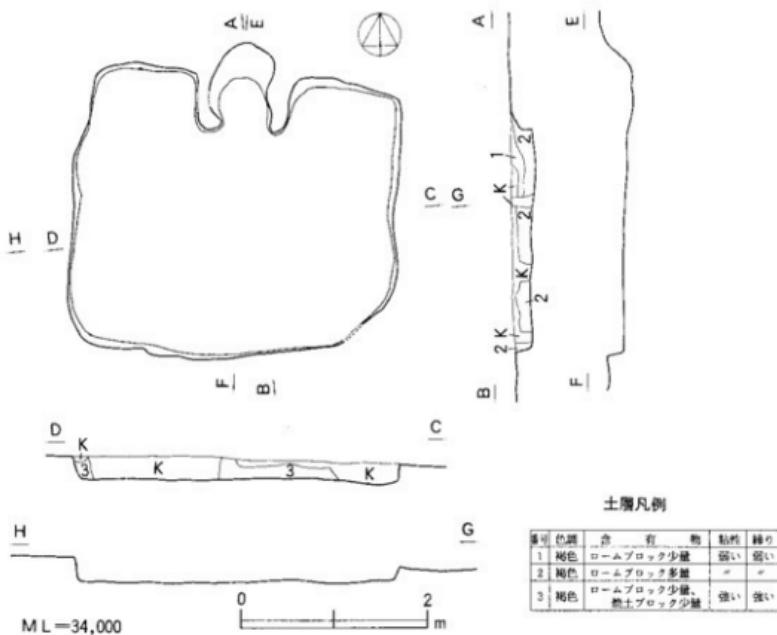


第62図 第21号住居址出土遺物実測図

第22号住居址（第63・64図）

本址は、20号住居址の西側1区、X-30・31グリットを中心に確認された住居址で台地がやや南東側に傾斜を示す面に位置し検出された。柱穴群に掘り込まれて複合関係にある。主軸をN-10°-Eに置き、東西3.2m、南北3mの方形プランを呈している。壁面は弱く外反して立ち上がり深さは14cm～28cmを測る。床面は竈の前面がやや踏み固められていたが全体に締りは弱い。中央部から竈側に向かってゆるく下がり気味の他はほぼ平坦に移行している。柱穴、周溝は確認出来ない。

竈は、北壁中央部に遺存していたがトレッチャに因って切り込まれた状態は良くない。袖部、

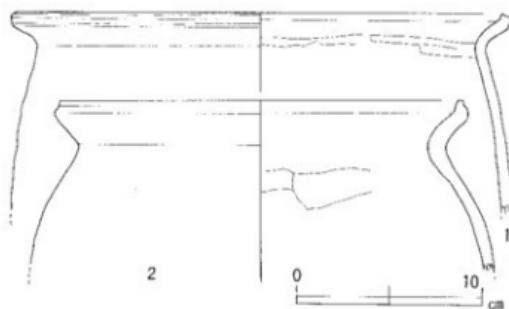


第63図 第22号住居址実測図

火床部は認められ住居外へU字状に20cm程張り出して構築され袖部は長目に付設。火床部が最も掘り込まれ煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には[U]字状に近い。袖部は砂質の多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。焚口はやや狭く、火床部は中位に位置する。

覆土は、擾乱、柱穴、トレンチャーなどにより明確につかめなかった。1・2層は褐色ローム粒子を少量含み、2層はブロックの混入が多くなる。

遺物は、全体的に少なく土師器甕は口唇部を上方つまみだすものがみられる。



第64図 第22号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

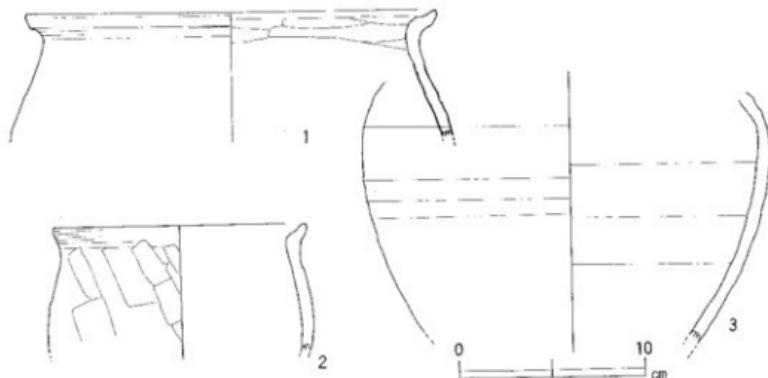
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 須恵器	A 26.6 B C	頸部は直立気味に立ち上り、くびれないで短い口縁部は水平に近く開き、外側上方へそれぞれつまみ出す。	ナデ叩木目	擦、雲母 灰褐色 普通	口縁部 20% 窓内
2	壺 土師器	A 21.5 B C	頸部は「く」の字状外反し、口縁部はやや長目で口器部上方へ丸くつまみ出す。	ナデ 鋸削り	擦、雲母 淡い赤褐色 普通	口縁部 30% 窓内

第23号住居址 (第65・66図)

本址は、1号住居址の東側1区、U-29・V-29グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦になる面に位置し検出された。芋穴、柱穴群に掘り込まれて遺存状態は悪い。主軸をN-7°-Wに置き、東西3.6m、南北3.4mの方形プランを呈している。壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは50cm~70cmを測る。床面は窓の西側がやや踏み固められていたが全体に弱い〔攢乱?〕ほぼ平坦に移行している。柱穴は確認出来ない。周溝は一部に浅い部分もみられたが巡ると推察される。

窓は、北壁中央部に遺存していたがトレンチャー、攢乱に因って切り込まれ状態は良くない。袖部は右側が遺存、住居外へU字状に70cm程へ張り出して構築される。火床部が最も掘り込まれ煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には〔U〕字状に近い。袖部は砂質の多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや強い。焚口は開き、火床部は中位に位置する。

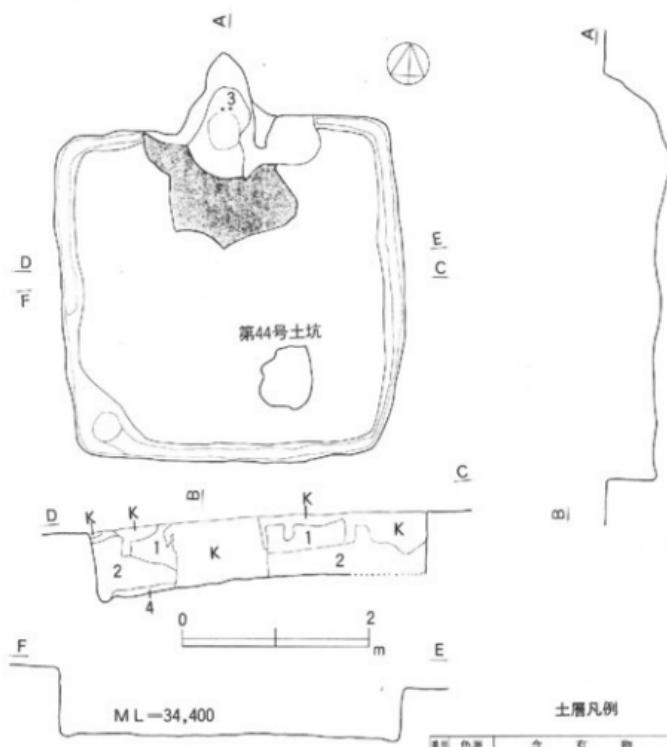
覆土は、攢乱、柱穴、トレンチャーなどにより切られていたが1・2・3層は褐色、ローム粒



第65図 第23号住居址出土遺物実測図

を含み、2・3層はブロックの混入が多くなる。

遺物は、全体的に少なく僅かに土師器の口唇部をつまみだすものがみられ竈内から須恵器の平行叩き目をもつものもみられた。



第66図 第23号住居址実測図

出土土器観察表

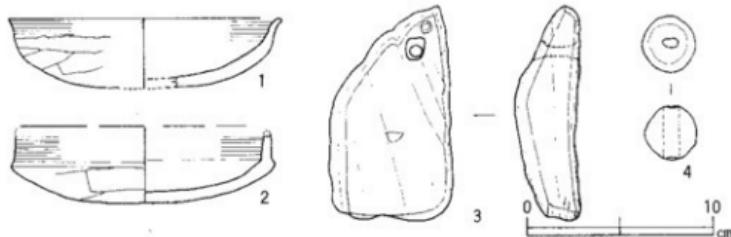
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	器形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 21.9 B C	頸部は弱く、口縁部は短く水平に近く開き、口唇部はつまみ出し気味、尖り気味。	ナデ 跡削り	礫、雲母 暗褐色 普通	口頸部 30% 甕内
2	小型甕 土師器	A 13.5 B C	肩部の張は弱く、口縁部は外反し、口唇部はつまみ出すように直立し丸く收める。	横ナデ 跡削り ナデ	礫、雲母 淡い赤褐色 やや悪い	口頸部 30% 甕内
3	長頸瓶 須恵器	A B C	ロクロ水引の可能性大、縦1~4mmやや多量、肩部で強く内傾。	ロクロ、水引か?	礫 灰褐色?青灰色 良	腹部20% 甕内

第24号住居址 (第67・68・69図)

本址は、1号住居址の東側1区、Z-31・32グリットを中心に確認された住居址で台地が南東側にゆるく傾斜を示す面に位置し検出された。トレントチャーチ等に切られて遺存状態は悪い。主軸をN-35°-Wに置き、東西、南北4.2mの方形プランを呈している。壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは35cm~65cmを測る。床面は甕の前面、中央部が踏み固められていたが壁周辺は弱い〔攢乱?〕ほぼ平坦に移行している。柱穴は4ヶ所確認され径25cm~35cm、深さ34cm~45cmではほぼ同様な掘り込み、南側に確認されたビットはV字状の形態で柱穴とは差違がみられる。周溝は一部に浅い部分もみられたが底幅5cm~10cm、深さ4cm~10cmで巡る。

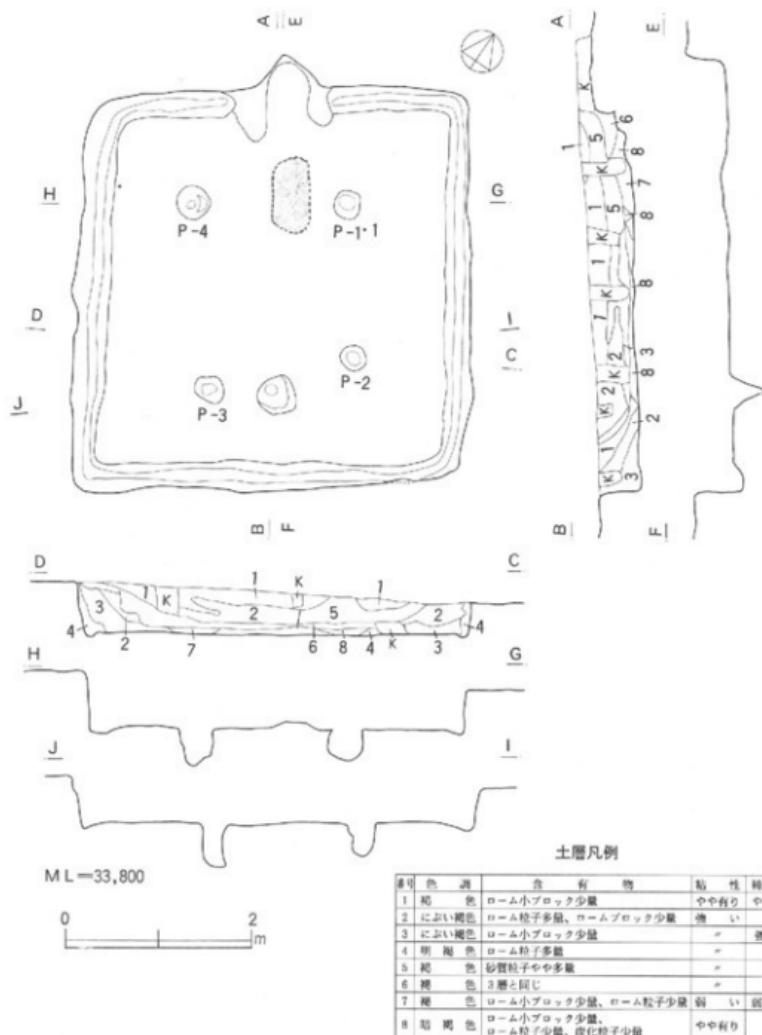
甕は、北壁中央部に遺存していたがトレントチャーチに因って切り込まれ状態は良くない。袖部は直線的に内側へ付設し遺存、住居外へ半円径に40cm程掘り込んでいる。火床部はほぼ平らに移行して煙道部は鋭角に立ち上がる。形態的には〔U〕字状に近い。袖部は砂質の多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや強い。焚口は開き、火床部は中位に位置している。

覆土はトレントチャーチなどにより切られていたが1・2・3層は褐色ローム粒子、粒を含み全体に焼土、炭化粒子を少量含む。自然埋積の状態を示す。

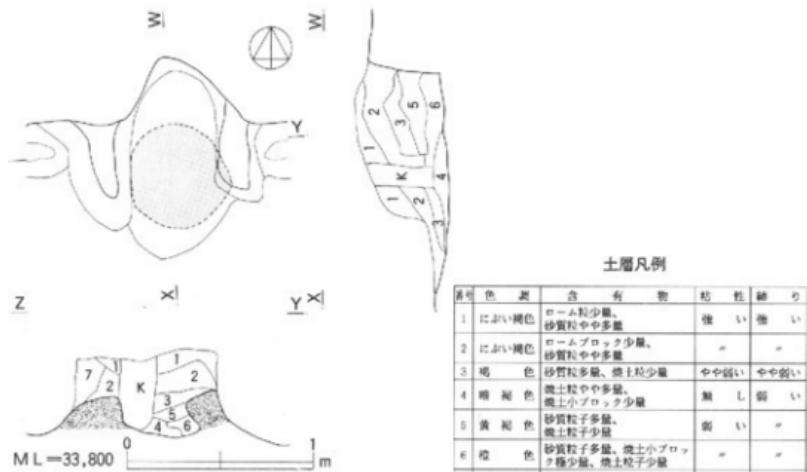


第67図 第24号住居址出土遺物実測図

遺物は、全体的に少なく僅かに土師器壊の外側に聞くもの、直立し長目のものがみられそのほか軽石の浮子が出土している。



第68図 第24号住居址実測図



第69図 第24号住居実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	环土器	A 14.5	内縁気味にゆるく立ち上り肩部で弱くくびれて、口縁部は外反し、口縁部は丸く收める。	横ナデ、箆削りナダ	褐 にぶい褐色 普通	10 %
		B 3.8				+ 9
		C				
2	环土器	A 約3.7	丸底気味からゆるく内縁して立ち上り、肩部に味顯著な棱をもち、口縁部は直立気味。	横ナデ、箆削り	褐 にぶい黒褐色 普通	10 %
		B				環土
		C				

浮子、土製品一覧表

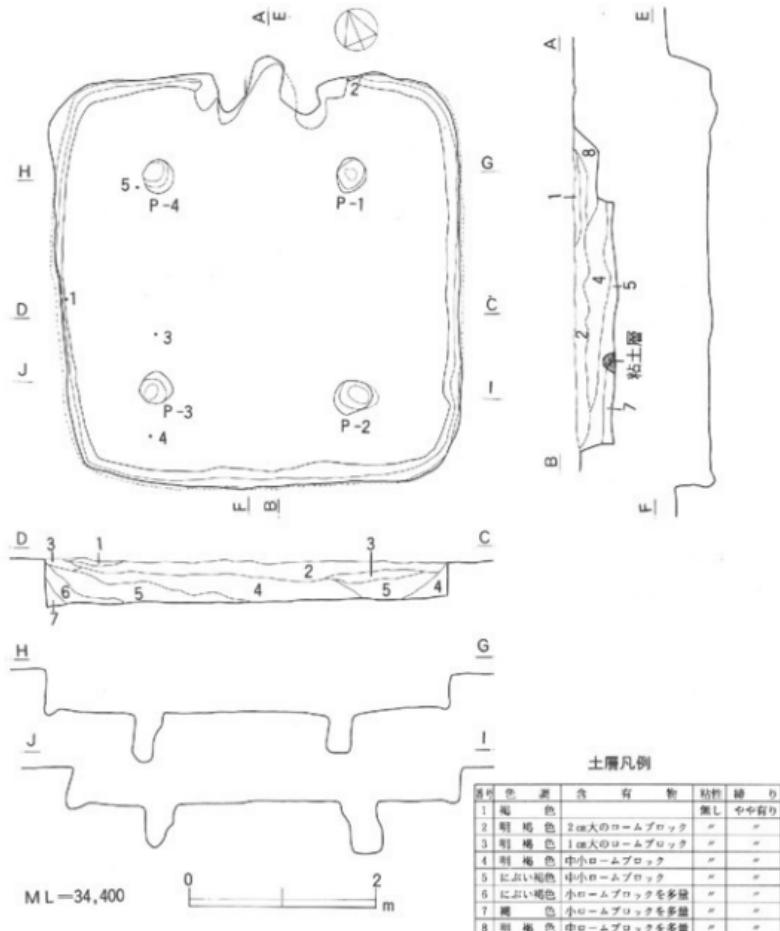
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
3	浮子	11.5	6.2	3.3	60	輕石	覆土中	三角形状、先端部に孔を突つ。(孔は両側から)
4	土鍤	2.8	2.9	0.9	22	土製	覆土中	不整形の球形状、孔部長円形状

第25号住居址 (第70・71図)

本址は、21号住居址の北西側1区、Y-24・25グリットを中心に確認された住居址で台地はほぼ平坦に移行する面に検出された。主軸をN-20°-Eに置き、東西4m南北4.2m、隅部が丸みをもつ方形プランを呈している。壁面は東、西、南側はオーバハンジの状態を呈し北側はほぼ垂直に立ち上がり深さは35cm~45cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められほぼ平坦に移行している。柱穴は4ヶ所みられ径30cm~40cm、円形の掘り方で深さは40cm~55cmを有している。

る。周溝は浅くU字状の掘り込みで巡る。

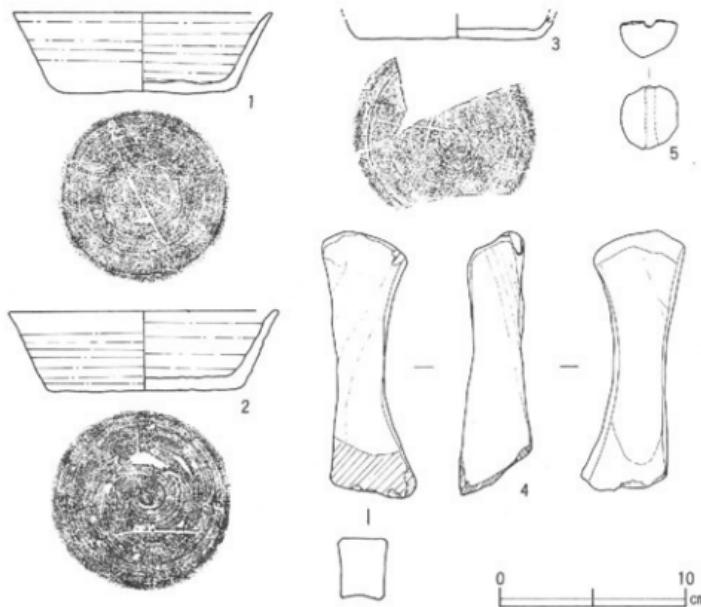
竈は、北壁中央部に遺存し状態は良く袖部、火床部が認められ住居外へU字状に掘り込まれ内部へは袖部が直線的に伸びている。天井部は一部が生きていた。火床部が最も掘り込まれていて煙道部は強く立ち上がる。形態的には「U」字状に近い。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。焚口部は開き、火床部は前面に位置。



第70図 第25号住居址実測図

覆土は、1層は褐色、2・3・4層は明褐色、ローム粒子、ブロックの混入が多く5・6・7層はローム粒が多量に含まれ前述の21号住居址同様変った層位をもつ住居址でこれらは数軒認められいずれも調査区の真中に位置している。

遺物は、全体的に少なく床直のものは僅かに6点のみで何れも破片であるが西側周溝から須恵器環2点がみられいずれも直線的に開いて立ち上がる器形、覆土層より磁石が1点検出された。



第71図 第25号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法寸(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	环 須恵器	A 13.7	平底から直線的に立ち上り、口唇部に向って器肉を減じ薄く光り気味。十字状のヘラ記号?。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ ナデ 左廻り	繩(1 mm~1 cm) 灰褐色 良	98 % 床直
		B 4.2				
		C 9.0				
2	环 須恵器	A 14.4	平底から直線的に立ち上り、口唇部はやや肥厚し丸く收める。1より直立気味で器内は厚い。十字状のヘラ記号。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ ナデ 左廻り	繩(1 mm~5 mm) 灰褐色 床直 やや良	60 % 床直
		B 4.2				
		C 10.3				

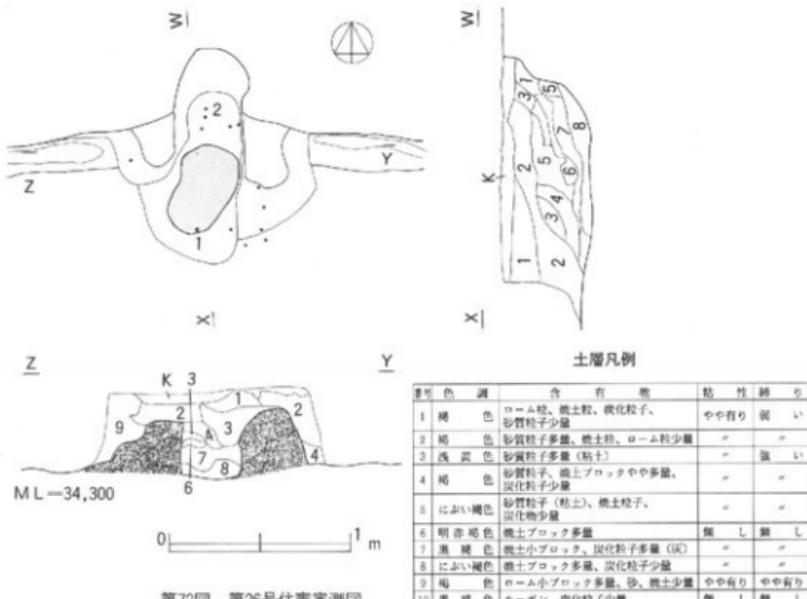
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	彫形技法	胎土、色調、焼成	備考
3	环 須恵器	A B C 9.7	平底から直線的に立ち上ると思われる。底部に十字状のヘラ記号あり。	粘土紙巻上げ 回転ミズビキ、ナデ左廻り	靈母、石英、深灰褐色 やや良	30 % + 8

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
4	砥石	14.3	4.6	3.1		凝灰岩	+ 3	四面とも使用痕ありかなり使いこなされている。
5	土鍤	3.3	3.0	0.5	15	土製	+ 42	ほぼ球形状、2分/1次

第26号住居址 (第72・73・74図)

本址は、21号住居址の北東側1区、Z-22・2A-22グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦な面に位置し検出された。主軸をN-1°Wに置き、東西3.6m、南北3.7m、隅部がゆるく丸味をもつ方形プランを呈している。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がり深さは41cm~45cmを測る。床面は竈の前面を中心良く踏み固められ中央部がやや高いがほぼ平坦に移行している。柱穴は認められず径30cm~35cm、深さ20cm~25cmの円形ピットが検出され、周溝はやや深く見られU字状の掘り込みで南、東側で途切れが見られた。

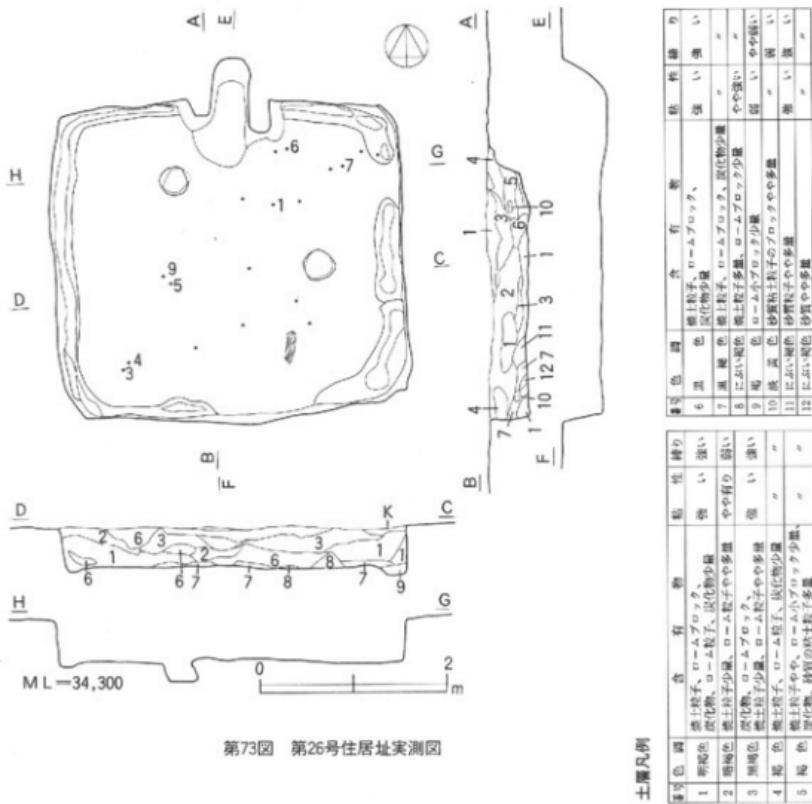


第72図 第26号住居実測図

竈は、北壁中央部に遺存、状態は良く袖部、火床部が認められ住居外へU字状に掘り込み築かれた袖部は内部へ直線的に伸びる。火床部はやや掘り込まれ前面に位置し煙道部はやや強く立ち上がる。形態的には〔U〕字状。袖部は砂質の少ない灰褐色の粘土を用い築かれ粘性は強い。竈内から土師器壺の平行叩き目を持つものがみられた。

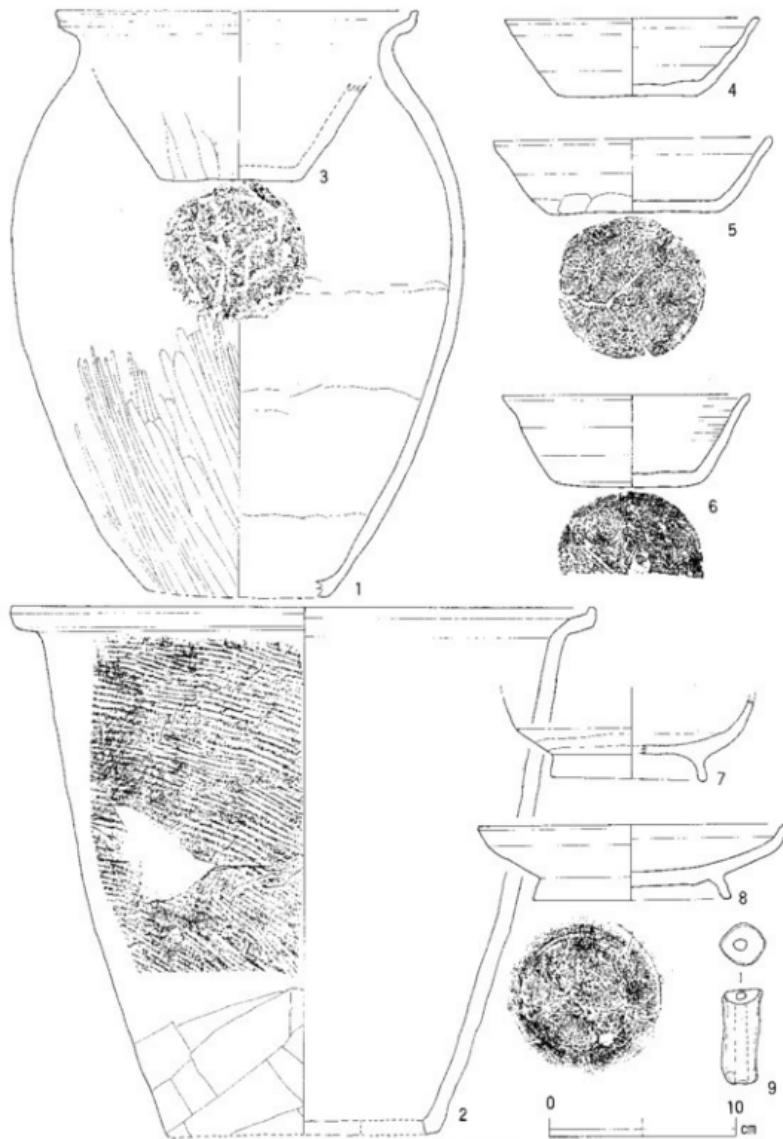
覆土は、前述の25号住居址より複雑な層序が見られ3・6・7層は黒褐色10・11・12層はプロック状砂質粘土を含む。いずれも粘性、締まりは強い。

遺物は、全体的に少なく床底のものは僅かに6点のみで須恵器がやや多くみられた。壺は口唇部つまみ出し、須恵器壺は円形孔の透し直線的に開いて立ち上がる器形、付高台壺、盤が検出された。



第73図 第26号住居址実測図

土壤凡例



第74図 第26号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土師器	A 19.3 B 31.6 C 約9.6	平底と思われる、胴部の張りは弱く最大径をほぼ中位におき、頸部は「く」の字状に外反し、短い口縁部は水平に近く開き、口唇部を上方へやや長目につまみ出す。	横ナデ、鏡削り ナデ	礫、石英 赤褐色 やや良い	60 % 床直
2	瓶 須恵器	A 31.3 B 28.5 C 14.5	底部から直線的に立ち上り、胴部中位に弱い張りをもち、口縁部は水平に近く短く開き、口唇部は上方へつまみ出す。外面平行叩目。	粘土紐巻上げ 叩き、ヘラケズリ	石英、雲母、礫 暗褐色 良	30 % 窯内
3	壺 土師器	A B C 7.7	平底から開いて立ち上る 内面二次焼成剥落 底部本垂腹。	ナデ ヘラナデ?	礫 赤褐色 やや不良	20 % 窯内
4	壺 土師器	A 13.5 B 4.2 C 7.5	平底から体部が弱く張りながら立ち上り、口唇部はやや肥厚し丸く収めている。	ナデ 回転ミズビキ 右回り	礫、雲母、石英 に弱い褐色(暗褐色) やや悪い	90 % 窯内
5	壺 須恵器	A 14.9 B 4.0 C 9.0	ヘラケズリした平底から体部が弱く張りながら立ち上り、口縁部は外傾し口唇部は丸く収めやや肥厚する。	粘土紐巻上げ 鏡削り、ナデ 回転ミズビキ	礫、雲母、石英 暗褐色 普通	40 % 床直
6	壺 須恵器	A 13.1 B 5.0 C 7.5	平底から直線的に立ち上り、口縁部は外傾し、口唇部はやや肥厚し丸く収める。 底部窓ナデ。	粘土紐巻上げ、ナデ 回転ミズビキ 回転ミズビキ	礫1 mm~5 mm石英 暗灰褐色(灰白色) 普通	45 % + 5
7	盤 ? 土師器	A B C 8.2	高台環は直立気味に立ち、环底部は2段になり、口縁部は外反気味に立ち上る。付高台、内面は網かなヘラミガキ状、(丁寧なヘラミガキ)	粘土紐巻上げ ナデ	礫 淡い黄褐色(黒褐色) 良	60 % + 25
8	盤 須恵器	A 16.5 B 4.1 C 10.5	底部は付高台、ゆるやかに立ち上り、U縁部は短く外傾し、口唇部は丸く収める。高台部は「ハ」の字状に薄く張る。	粘土紐巻上げ 回転 ミズビキ ナデ 左回り	礫極少量 褐色 良	90 % + 30

土錠一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
9	管状土錠	4.3	2.4	0.7	22.5	土 製	+ 30	円筒状、孔部円形、1部欠失。

第27号住居址 (第75・76・77図)

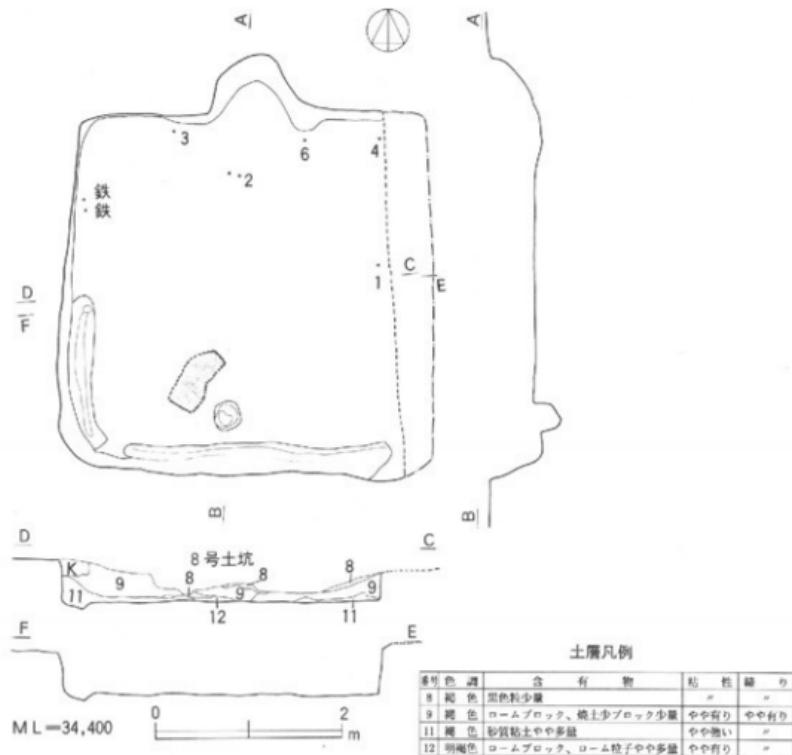
本址は、26号住居址に南東側2区-22・B-22グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦な面に位置し検出された。北西隅部で26号住居を僅かに切り中央西側に土坑が掘り込まれ一部をエリア外に置く。主軸をN-3°-Eに置き、東西南北3.5 m程の方形プランを呈すると思われる。壁面は、南、西側はゆるく北側はほぼ垂直に立ち上がり深さは45cm~60cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められれば平坦に移行している。柱穴は認められず径30cm深さ30cmの円形ピットが南側から検出された。周溝は、南、西側でやや深くU字状の掘り込みで認めら

れた。

竈は、北壁中央部に遺存し状態は良く袖部、火床部が認められ一部天井部が遺存、住居外へ半円形状に掘り込み築かれ内部へは袖部が僅かに出ている。火床部はやや掘り込まれて前面に位置し煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には半円形状。袖部は砂質の多いにぶい黄褐色の粘土を用い築かれ粘性は弱い。竈内から土師器壺破片が多く見られ支脚の代替?と思われるような状態で出土。平行叩き目をもつ。

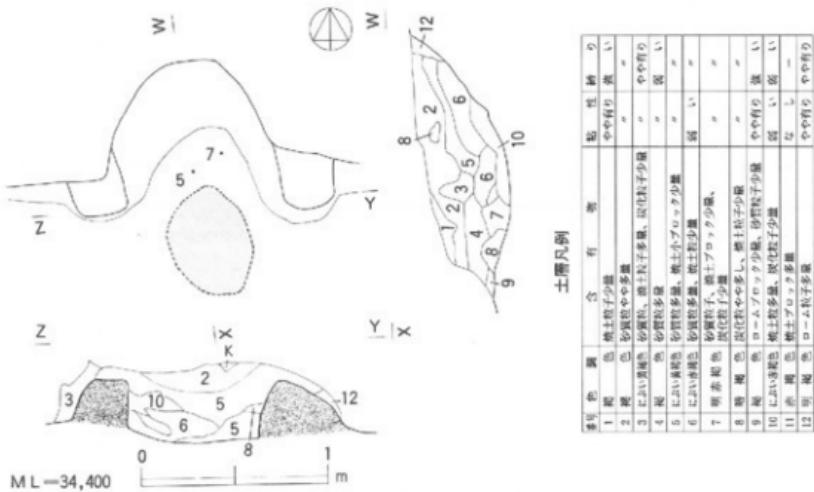
覆土は、上部の1・2・7層は黒色、3・6層は黒褐色これは前述の24・20号住居址の覆土と酷似する。12層はブロック状砂質粘土。

遺物は、全体的に少ないわりに床直のもが多く20点を数え須恵器がやや多くみられ壺は口唇部



第75図 第27号住居址実測図

つまみ出し、須恵器瓶、高台坏、盤、断面三角形の鉄製品小札と思われる。[第196図5・6]が検出された。

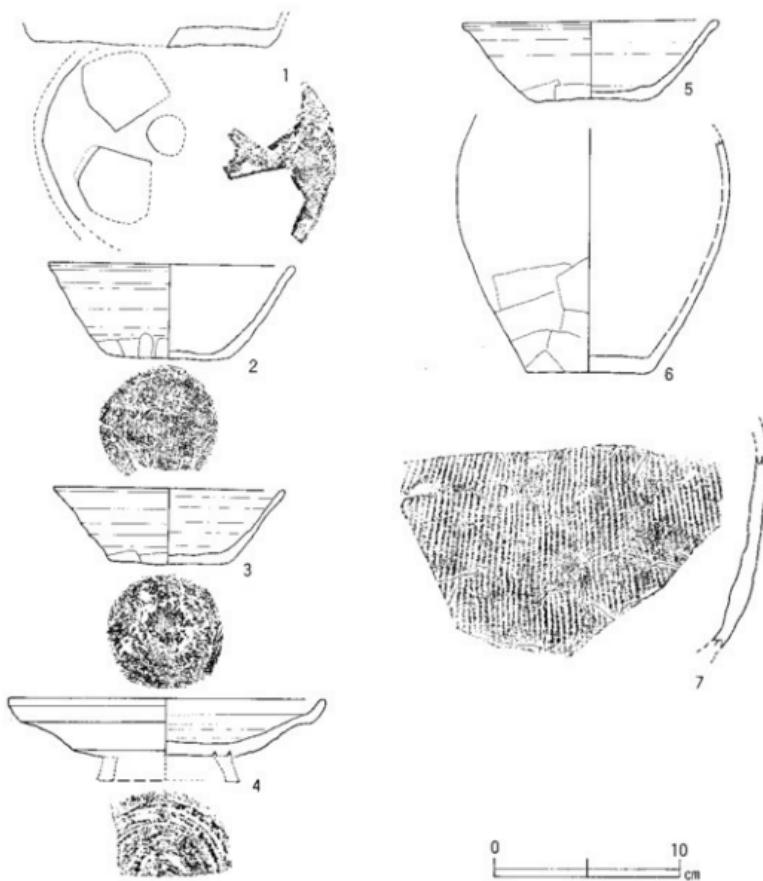


第76図 第27号住處実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	瓶 須恵器	A B C 12.3	中央部の円形を中心に方形状の孔部をもつ構成と思われる。孔部断面は、内、外三角形状と一定ではない。	粘土織巻上げ? ナデ、箆削り	礫、墨母 灰白色 普通	底部30% 床直
2	坏 須恵器	A 13.1 B 5.0 C 6.7	小さめの平底から体部で弱く張りながら立ち上り、口唇部はやや肥厚気味。底部は薄い。	粘土織巻上げ 回転ミズビキ、底部 箆削り	礫、石英 淡い褐色 良	60 % 床直
3	坏 須恵器	A 12.4 B 4.1 C 6.4	小さめの平底から直線的に口縁部に移行し、体部の器肉は薄い。口唇部はやや肥厚し丸く收める。	粘土織巻上げ 回転ミズビキ 左廻り	礫 褐色 やや良	80 % 細井で出土 + 15
4	盤 須恵器	A 16.9 B C	底部からゆるやかに内凹して立ち上り、体部で水平に近く開いてから外方へ開いて短く立ち上る。	粘土織巻上げ 回転ミズビキ、底部 ヘラ切り	礫 褐色 良	40 % + 47
5	坏 須恵器	A 13.5 B 4.2 C 6.8	安定した平底から体部は弱く張り直線的に口縁部に移行し、口唇部は肥厚し丸く收める。	ナデ、箆削り 回転ミズビキ 左廻り	礫、石英、墨母 にぼい褐色 普通	70 % 窓内

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
6	小型甕 土師器	A B C 6.6	安定した半球から直立気味に立ち上り最大径 を胴中位に置く。器肉薄くもろい。	粘土紐巻上げ、ナゲ 回転ミズビキ、鋸削 り	礫、石英 赤褐色 普通	40 % 窯内
7	壺か? 須恵器	A B C	胴部はやや長脚気味か? 大型の甕か?	叩き目 ナゲ	礫、石英、雲母 赤褐色 やや良	胴部 窯内

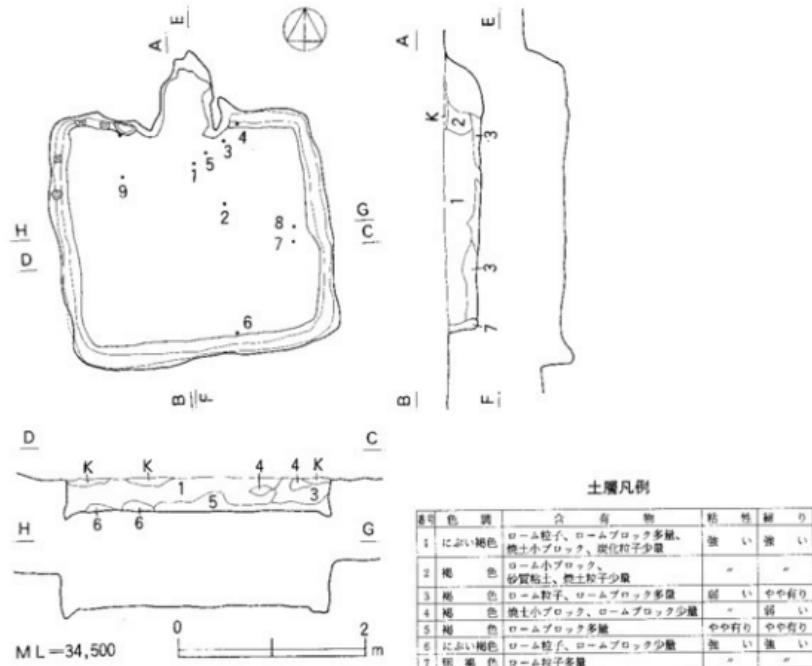


第77図 第27号住居址出土遺物実測図

第28号住居址（第78・79・80図）

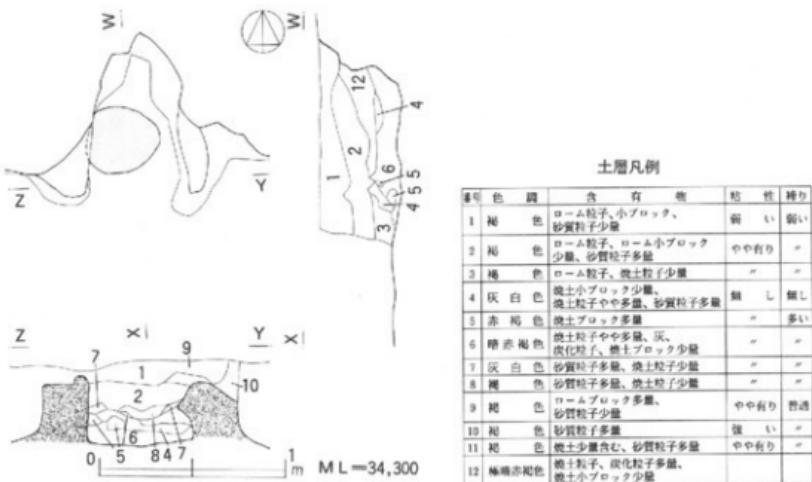
本址は、27号住居址の南側2区、A-24・B-24グリットを中心に確認された住居址で台地がゆるやかに南側へ傾斜を示す面に位置し検出された。主軸をN-6°-Wに置き、東西2.8m、南北2.7m 南側隅のやや丸みをもつ方形プランを呈している。壁面はほぼ鋭角に立ち上がり深さは南側で25cm 西、北側で45cm~55cmを測る。床面は竈の前面を中心とし踏み固められ、ほぼ平坦に移行している。柱穴は確認出来ない。周溝は、U字状にやや深く検出され一周する。

竈は、北壁中央部に遺存し状態は良く袖部、火床部は住居外へ張り出した奥部に位置し内部へは僅かに袖部が付設されているに過ぎない。火床部が最も掘り込まれていて煙道部はやや強く立ち上がる。形態的には「U」の字状を呈している。袖部は砂質の少ない灰褐色の粘土を用い築かれ粘性は強い。内部からは須恵器壺、蓋、盤が出土している。焚口部は開いている。覆土は、にぶい褐色が大半を占め、2・3・4・6・7層はブロック状褐色又は明褐色層でローム粒子、



第78図 第28号住居址実測図

粒、ブロックの混入の差である。投げ込みに依ることは明白である。遺物は、全体的に少なく須恵器蓋、坏が多く見られ全て底部は回転窓切り、蓋のカヘリは弱く退化、坏は何れも開いて直線的に立ち上がる。高台はすべて付高台である。土師器は少なく小破片であり床面から検出されたものは5片であった。

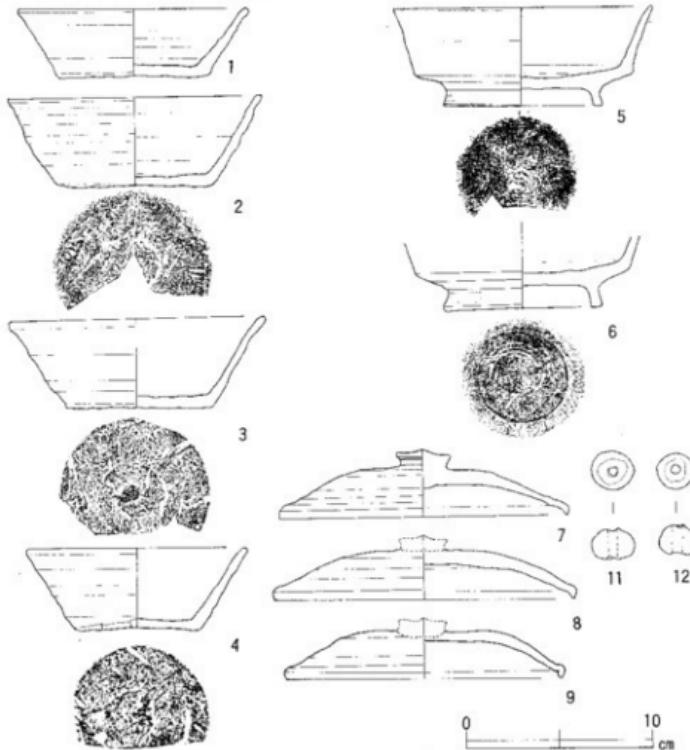


第79図 第28号住居実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	坏 土師器	A 12.4 B 3.6 C 8.7	平底から直線的に開いて立ち上り、口唇部肥厚し丸く収める。立ち上りながら器内を減じる。	粘土紐巻げ 回転ミズビキ、ナデ 底部窓切り、ナデ	礫、雲母 にぶい橙色 (にぶい赤褐色) 普通	50 % 床 直
2	坏 須恵器	A 13.6 B 4.7 C 8.4	平底から体部で弱く膨らみながら立ち上り口縁部に向って器内を減じ、口唇部は外傾し丸く収める。(1 よりは圓く開く)	粘土紐巻上げナデ 回転ミズビキ、底部 窓切り 左回り	礫、石英 褐色灰色(灰褐色) 普通	50 % 床 直
3	坏 須恵器	A 13.7 B 4.8 C 7.9	平底から直線的に口縁部に移行、口唇部は肥厚し、外反し、丸く収める。 1, 2, 3の中では一番強く立ち上る。	粘土紐巻上げ 回転 ミズビキ 底部へラ 切り、ナデ 左回り	礫(1 cm前後) 小量 褐色 やや良	50 % 床 直
4	坏 須恵器	A 11.9 B 4.3 C 6.6	平底から直線的に口縁部に移行、口唇部は丸く収める。やや小型化している。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、底部 窓ナデ、左回り	礫(5mm~1cm前後) 小量 青灰褐色 良	30 % 床 直
5	高台坏 須恵器	A 14.0 B 5.3 C 8.6	付高台部は弱く張り、高さは低く、張りは弱い。底部から直線的に口縁部へ移行口唇部は外傾し薄い、丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ 付高台 ナデ、右回り?	礫(1 cm前後) 小量 暗緑褐色(褐灰) 良	70 % 床 直

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
6	高台環 須恵器	A B C 8.6	付高台部は弱く張る、高台は低い、底部から直線的に体部は立ち上り(4Y)と同様の器形を呈すると思われる。	粘土紐巻上げ、ナデ 回転ミズビキ、付高台 左廻り	礫(5mm~1cm前後) 暗緑褐灰(褐灰) 良	50 % 床 直
7	蓋 須恵器	A 15.4 B 3.6 C 3.5	大井部に膨らみはやや弱く宝珠つまみ部分は扁平化し、貼付、カエリは弱存在する。端部は直通に收める。(つまみ貼付)	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 左廻り	礫、雲母(1cm前後)小量 灰褐色 良	70 % 床 直
8	蓋 須恵器	A 16.2 B C	天井部の膨らみは7よりも弱くつまみを欠失して不明、カエリはない。端部は垂直に尖る。断面三角形(つまみ貼付)	粘土紐巻上 回転ミズビキ、ナデ 左廻り	礫(1 cm~前後) 白灰色 良	90 % 床 直
9	蓋 須恵器	A 15.1 B C	天井部の膨らみはやや有る。つまみは欠失、口縁端部はやや丸味をもち内傾気味で丸く收めている。凹線が巡る。カエリはない。(つまみ貼付)	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 左廻り	礫(1 cm前後)小量 褐灰色 良	40 % + 13



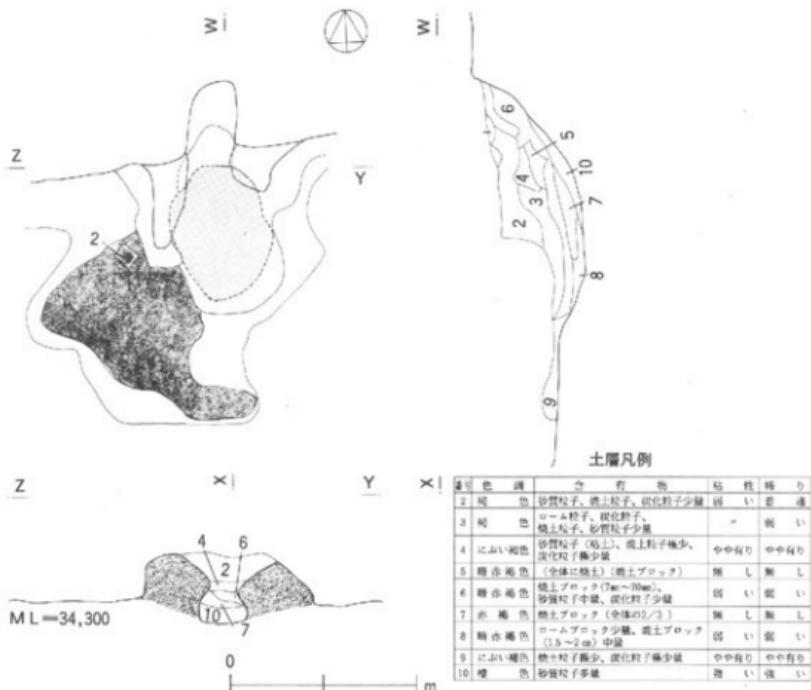
第80図 第28号住居址出土遺物実測図

土錐一覧表

番号	器種	法 番(㎝)			重量(g)	材質	出土地点	備 考
		最大長	最大幅	孔厚				
10	土錐	1.7	2.3	0.5	6	土製	覆土中	つぶれた球状、孔部円形狀
11	"	1.5	1.9	0.6	5	"	"	つぶれた球状、孔部円形狀

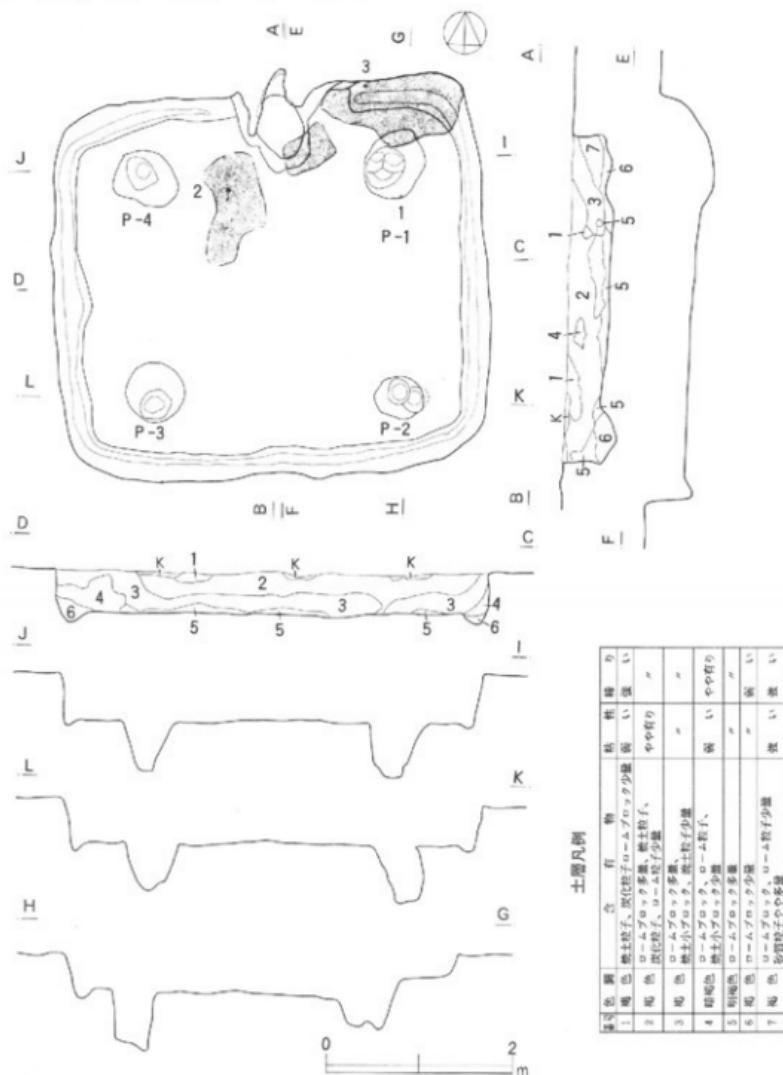
第29号住居址 (第81・82・83図)

本址は、26号住居址に北側1区、Z-20・21・2区、A-20・21グリットを中心に確認された住居址で台地がゆるやかに北側へ傾斜を示す面に位置し検出された。主軸をN-6°-Wに置き、東西4.1m、南北4.4m隅部のやや丸みをもつ方形プランを呈する。壁面はほぼ鋭角に近い立ち上がりを有し深さは45cm~65cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められ、ほぼ平坦に移行している。柱穴は4ヶ所認められP1を除き円形の掘り込みが見られ径45cm~62cm、深さ50cm



第81図 第29号住居実測図

~60cmを計測する。1は灰原に一部かかり上部ではやや大きく下部は他の柱穴と変わらない。周溝



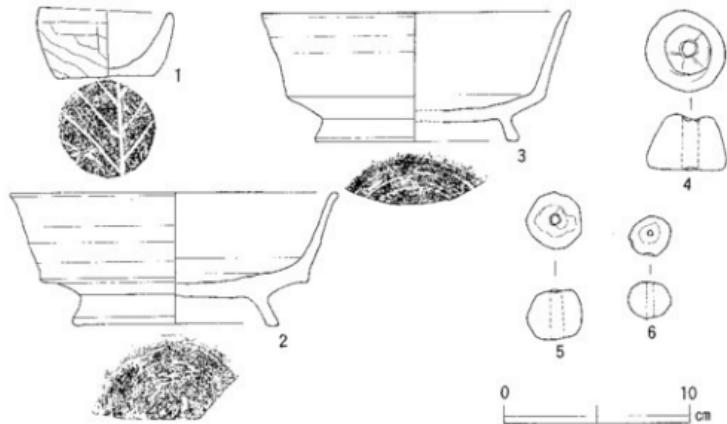
第29図 第29号住居址実測図

は、U字状にきれいに検出され一周する。竈両側で切れる。

竈は、北壁やや東側に寄って遺存し状態は良く袖部、火床部は住居内へ張り出して構築され外部へは僅かにV字状に煙道部が出ていてに過ぎない。火床部が最も掘り込まれていて緩く立ち上がり移行してから、煙道部は垂直に立ち上がる。形態的には[V]の字状を呈する。袖部は砂質の少ない灰褐色の粘土を用い築かれ粘性は強い。東側脚部には灰褐色の粘土が投げ込まれていた。焚口は開き、火床部は広く大きく前面に位置。

覆土は、褐色が大半を占め4層は壁面近くのブロック層、5層は明褐色ロームブロック層でローム粒子、粒、ブロックの混入の差である。投げ込みによる上層と考えられる。

遺物は、全体的に少なく須恵器高台坏がみられ全て回転窓切り、床面から手すくね的な盃状小鉢が出土地している。そのほか土製の紡錘車がみられた。



第83図 第29号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
1	鉢 土器	A 7.2	安定した平底から脇部が弱く張りながら立ち上り、口唇部は内傾気味で、口唇部は丸く收めている。小型の壺(に近く手すくね的)	横ナデ、箇削りナデ、	竈板小量 に多い橙色(浅い橙色) 良	100% 床面
		B 3.5				
		C 5.3				
2	高台坏 須恵器	A 16.5	高台部は「ハ」の字状に張り出しや長目、端部は水平に收める。底部と体部との境は鋭角で体部は直立気味に立ち上り、口唇部は丸く收める。	粘土絆巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 左廻り	竈(5mm~1cm)小量 褐灰色(灰褐色) 良	30% 1部 竈内
		B 6.8				
		C 10.8				
3	高台坏 須恵器	A 17.5	付高台は「ハ」の字状に強く張りや長目、端部は水平に收める。底部と体部との境は鋭角で、体部は直立気味に立ち上り器肉は薄い。口唇部は丸く收め、外傾。	粘土絆巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 左廻り	竈(5mm~1cm)小量 青灰褐色(褐灰) 良	30% + 30
		B 5.5				
		C 11.0				

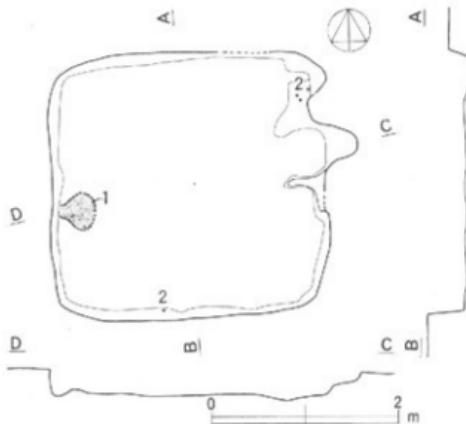
土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔径				
5	纺錘車	2.9	4.2	0.9	56	土 製	覆土中	断面台形状、4条の割目状あり、孔部円形状
6	土 鍤	2.6	2.9	0.6	22	土 製	+ 25	不整形長円状、孔部円形状
7	"	2.0	2.2	0.3	10	土 製	+ 10	小形でやや不整形の球状、孔部小径の円形状

第30号住居址（第84・85図）

本址は、29号住居址の北東側2区、B-29・30グリットを中心に確認された住居址で台地が東、南側に傾斜を示す面に位置し検出された。北東隅部で1号溝に切られ複合関係にある。主軸をN-89°-Eに置き、東西2.8m、南北2.6m、隅がやや丸みをもつて東西が20cm程長い方形プランを呈し竈を東壁に築いている。壁面はやや開き気味に立ち上がり深さは20cm～30cmを測る。床面は竈の前面では良く踏み固められていたがその他はやや弱く、トレンチャーによる擾乱等が見られる。中央部がゆるく下がり氣味の他はほぼ平坦に移行している。柱穴、周溝は確認、検出出来ない。小型のものは、柱穴の未検出が多い。

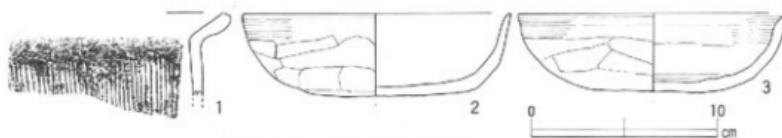
竈は、東壁やや北側に寄って遺存していたがトレンチャーに因って切り込まれ状態は良くなく左袖部は流れている。火床部は前面に位置し最も掘り込まれていて煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には半円形状を呈する。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。本遺跡では竈を東側に置くものは本址が唯一のものである。袖部は僅かに付設、短い。竈内から遺物の大半が出土している。



第84図 第30号住居址実測図

覆土は、レンズ状のほぼ自然埋積の様相を呈し褐色、暗褐色、ローム粒子、粒、炭化粒子、焼土粒子を少量含み、3・4層からはロームブロックを含む。

遺物は、全体的に少なく竈内からは土師器甕の破片が、覆土層より平行叩き目を持つものも出土している。その他环は外傾気味。



第85図 第30号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	摹形技法	胎上、色調、焼成	備考
1	甕？ 土師器	A B C	直立氣味の胴部から口縁部は強く外反、肥厚し、口唇部は上方へつま出すと思われる。 外面平行叩目。(縦位)	叩目、ナデ 押え	礫、雲母、石英 黒褐色 良	口縁10% 床直
2	环 土師器	A 14.3 B 4.5 C 7.5	安定した平底から強く内弯して立ち上り、口縁部に向って器内を減じ、尖る。外傾。	横ナデ、箇削り ナデ	礫、雲母 にぶい黒褐色 (淡い褐色) 普通	90% 床直
3	环 土師器	A 14.4 B 4.2 C 6.7	安定した平底から内弯して立ち上り、口縁部は強く外傾し、口唇部は外傾尖る。底部は、木葉板をもじ横ナデ調整で1部欠失、内面は回転調整痕を残す。	横ナデ、箇削り 不規則は回転台？ 左振り	礫、雲母、石英 にぶい黒褐色 やや良	40% 床直

第31号住居址（第86・87図）

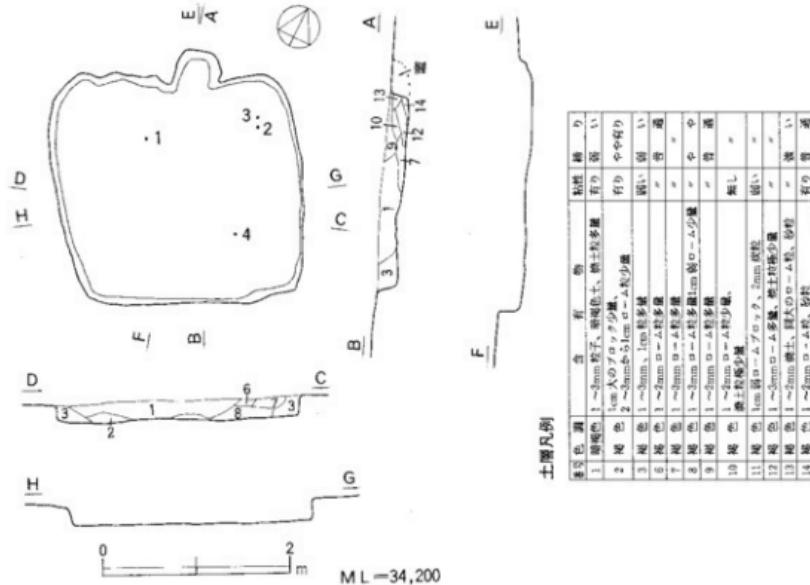
本址は、29号住居址の北東側2区、A-18グリットを中心に確認された住居址で台地がやや西、北側にゆるやかに傾斜を示す面に位置し検出された。主軸をN-30°-Wに置き、東西2.4m、南北2.4m隅がやや丸みをもち西側がゆるく円形状にはり出す正方形状プランを呈し竈を北壁に築いている。壁面はやや開き気味に立ち上がり深さは20cm～25cmを測る。床面は竈の前面では踏み固められていたがそのほかはやや弱い。ほぼ平坦に移行している。柱穴、周溝は確認、検出出来ない。

竈は、北壁の中央部より50cm程東側に寄って遺存していた。状態は良く袖部は僅かに付けたし状にみられる。火床部は奥部に位置しやや掘り込まれており煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には外側にU字形状を呈する。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。本遺跡では竈のこの様な形態は唯一のものである。

覆土は、レンズ状のほぼ自然埋積の様相を呈し褐色、暗褐色を呈しローム粒子、粒、炭化粒子、

焼土粒子を少量含み、ブロック状を呈し投げ込み的。

遺物は、全体的に少ないが床面から須恵器環が出土、口唇部を丸く収めるもの、カット状のもの、尖り気味のものが見られる。



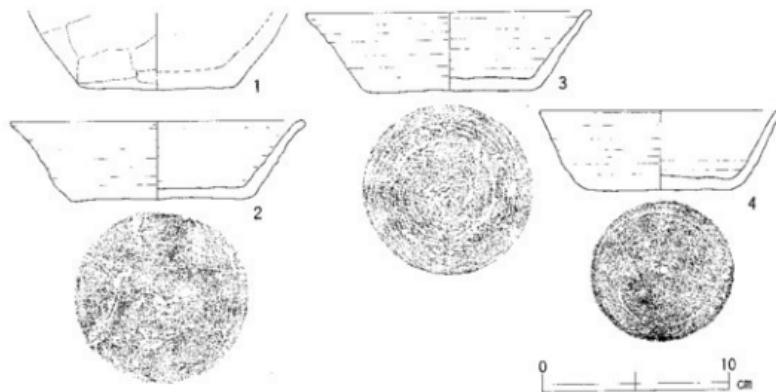
第86図 第31号住居址実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土師器	A B C 8.3	安定した平底から開いて立ち上る。 小型の壺形土器か？ 内面剥落多い。	鏝削り、ナデ	褐色 褐色 普通	10 % + 2
2	環 須恵器	A B C 15.7 4.2 9.7	安定した平底から直線的に立ち上り、口唇部 は外傾し、口唇部は丸く収める。立ち上りな がら器内を減じる。	粘土縁巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 左廻り	褐色 褐色 良	100 % 床 直
3	環 須恵器	A B C 15.2 4.2 8.9	安定した平底から開いて直線的に立ち上り、 口唇部は外傾気味、口唇部は丸く収める。立 ち上りながら器内を減じる。	粘土縁巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 左廻り	褐色 雲母 灰褐色 良	100 % 床 直

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
4	环 須恵器	A 12.9 B 4.3 C 8.7	安定した平底から弱く開いて直線的に立ち上り、口器部はわずかに外傾し丸く収める。	粘土総巻上げ 回転ミズビキ? ナデ 左廻り	薄 褐色 良	100 % 床直



第87図 第31号住居址出土遺物実測図

第32号住居址（第88・89・90・91図）

本址は、31号住居址の北東側2区、C-32・D-33グリットを中心に確認された住居址で台地にはほぼ平坦な面に位置し検出された。主軸をN-25°-Eに置き、東西2.8m、南北2.8m、隅のやや丸みをもつ正方形プランを呈している。壁面は開いて立ち上がり周溝との間にゆるく傾斜面をもつ（本遺跡ではこの様な壁面状態を持つものは少ない）。深さは30cm前後で一定している。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められほぼ平坦に移行している。柱穴は確認出来ず西側で2ヶ所、南側に1ヶ所ピットが検出されたが何れも浅い。周溝は浅いがほぼ巡る。

竈は、北壁中央部に遺存、状態は良く袖部はハート状にとて付けたような形態、火床部は住居外に半分以上置きやや床面より上がり煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には半円形状を呈する。袖部は砂質のやや多いにぼい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。本址は火災にあったものと考えられ多数の炭化物が出土、隅部から中央部に向かって伸び密集して出土している。これは廃屋で廃棄されたものではなく火災によるものと理解され本例が唯一の遺構であった。

覆土は、前述の29号住居址同様褐色層が大半を占め1~6、8~10層はローム粒子、粒、ブロックの混入の差である。このような層位は調査区の真中に位置する住居址だけである。

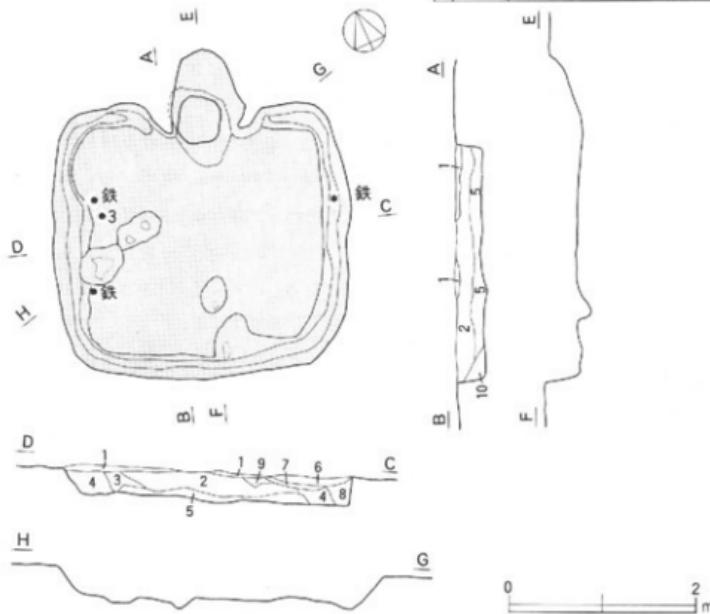
遺物は、全体的に少なく僅かに196図に示す鉄器が出土、遺存状態の良い鎌と刀子がありそのほか鍛錠車、瓶の把手と思われるものが出土している。



第88図 第32号住居址炭化物出土実測図

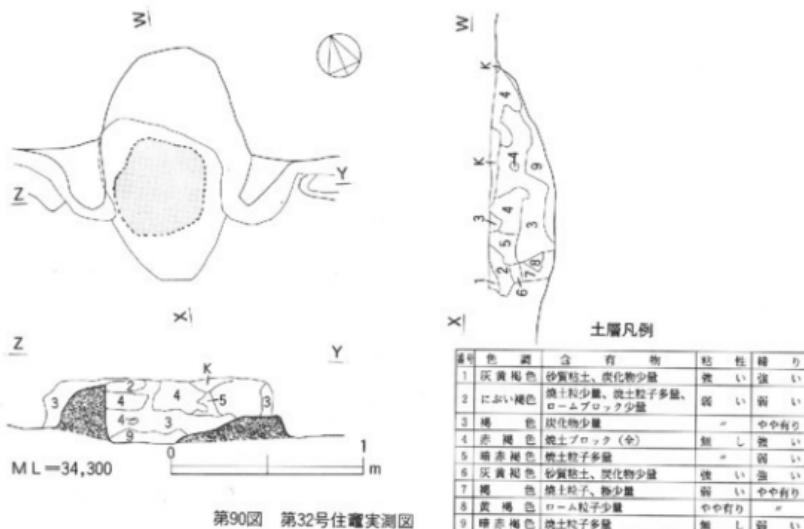
土層凡例

番号	色調	含有物	粘性	持り
1	褐色	5mmローム粒、炭化粒、(いわゆる土)	無し	普通
2	褐色	5mm-1cmのロームブロック(ハム)、炭化粒と燒土粒少量、1-3cmローム粒多量	弱い	〃
3	褐色	5mm-1cmのロームブロック(ハム)、炭化粒少量	やや有り	〃
4	褐色	1-2mm微土粒、炭化材、炭化粒、2-3mmローム粒少量	弱い	やや有り
5	褐色	炭化粒多量、炭化材、1-2mmローム粒(1-3mm)少量	無し	無し
6	褐色	5mm前後のローム粒、多量、燒土粒、炭化粒少量	有り	強い
7	褐色褐色	炭化粒多量5mm前後のローム粒、燒土粒少量	なし	無し
8	褐色	2-5mmローム粒多量(2mm前後の炭化物、同大燒土粒)	有り	普通
9	褐色	1-3mmローム粒多量、燒土粒少量	〃	〃
10	褐色	5mmローム、1mm、炭化土粒少量	やや有り	やや有り

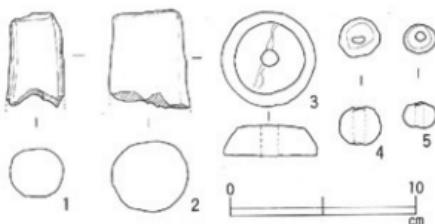


M L = 34,300

第89図 第32号住居址実測図



第90図 第32号住居実測図



第91図 第32号住居址出土遺物実測図

石器、土製品一覧表

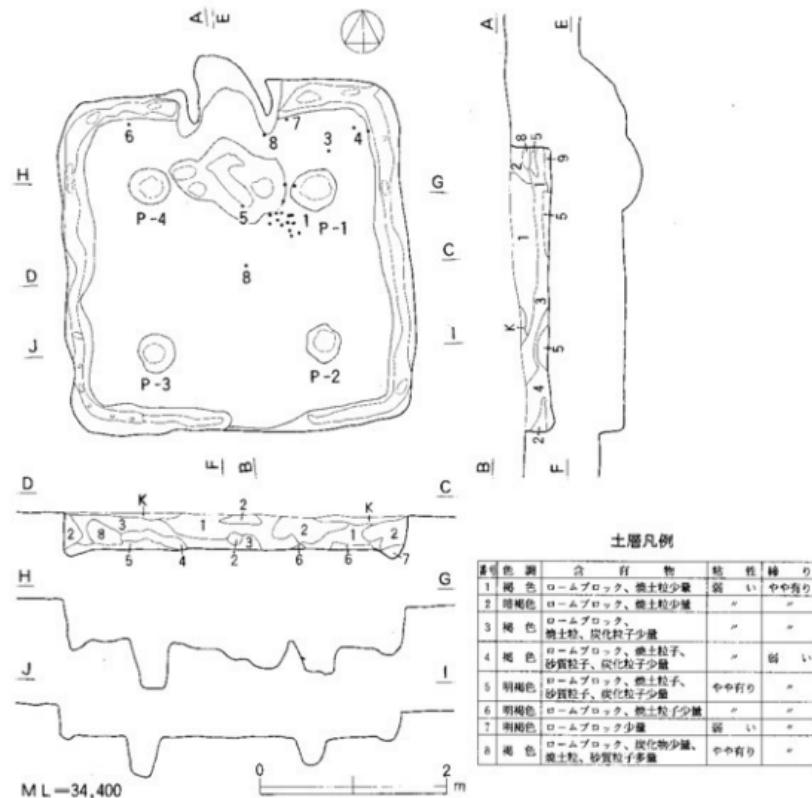
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
1	瓶把手？	5.0	3.0			土 製	覆土中	両側に角状の取手の1部と思われる。
2	支脚	5.2	4.3			〃	窓内	支脚上部、円筒状
3	紡錘車	1.7	5.0	0.9	52	緑泥岩	床 直	横位に2個体に割れて出土、孔部円形、台形状
4	土 錐	2.0	2.2	0.6	9	〃	覆土中	不整形状の球形、孔部三ヶ月状
5	〃	1.8	1.8	0.5	4	〃	押しつぶされたような球状形、小形、孔部円形状	

第33号住居址（第92・93・94・95図）

本址は、32号住居址の南東側2区、F-19・G-19 グリットを中心に確認された住居址で台地

がゆるやかに、南、東側に傾斜を示す位置に検出された。主軸をN-3°-Wに置き、東西3.6m、南北3.6m、隅部が僅かに丸みをもつ正方形プランを呈している。壁面は若干開いて立ち上がり周溝との間にゆるく傾斜面をもつ(本遺跡ではこの様な壁面状態を持つものは少ない)(32号住)。深さは35cm~55cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められ全体に良好な締まりを有し平坦に移行している。柱穴は、4ヶ所確認され径40cm~50cmの円形状、深さは40cm~50cmを認め周溝は、南側の一部に切れがみられるがU字状の形態でやや幅が広く巡る。

竈は、北壁中央部に遺存、状態は良く袖部は直線的にやや長く付設、開く。火床部は前面部に位置する。火床部前面には不規則な掘り込みの灰原がみられ灰、炭化粒子、焼土粒子が認められ

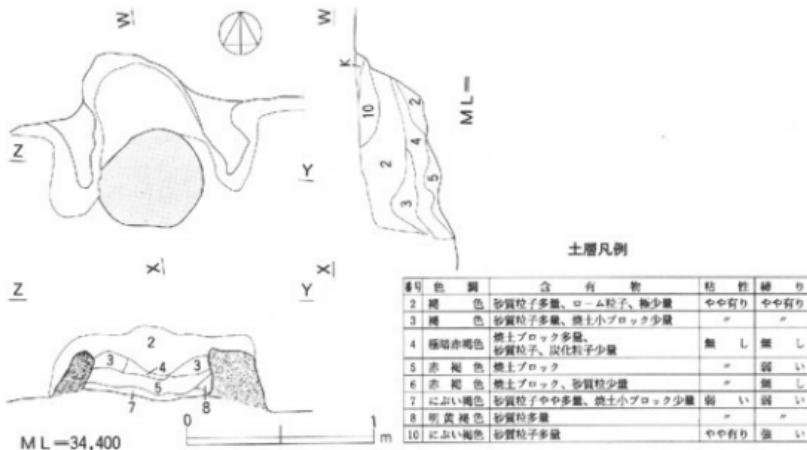


第92図 第33号住居址実測図

た。外部へは半円形状に掘り込み、煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には半円形状。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。

覆土は、前述の29号住居址同様褐色、明褐色層が大半を占め各層はローム粒子、粒、ブロックの混入の差である。このような層位は調査区の真中に位置する住居址だけである。投げ込み状と理解して置きたい。

遺物は、全体的に少なく竈前面から甕が押しつぶされた様な状態で見られ右袖外側からは須恵器壺が出土している。甕は口唇部つまみ出し須恵壺は底部に〔＊〕の箇記号がある。



第93図 第33号住居実測図

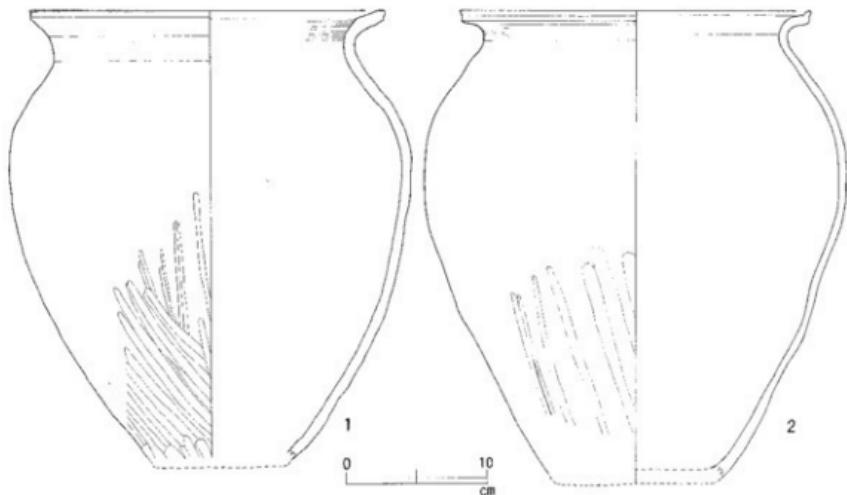
出土土器観察表

番号	器種	法積(cm)	器形の特徴及び文様	修形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 25.0 B約32.5 C約9.5	最大径を胴上位に置き長胴形、口縁部は短く「く」の字状に外反し、口唇部を斜め外方へつまみ出す。器内は薄い。底部を欠失するが甕として利用されたと思われる。	ナデ、箋削り 横ナデ	褐色、甕母 にぶい褐色 普通	90 % 床直
2	甕 土師器	A 24.8 B約33.5 C約11.0	最大径を胴上位に置き、長胴形を呈し、頭部は短く、口縁部は強く外反し水平に近い。口唇部は上方へ顯著につまみ出している。器肉薄い。	横ナデ、箋削り ナデ	褐色 暗い赤褐色 にぶい黒褐色 普通	30 % 床直
3	甕 土師器	A B C 9.5	安定した底から強く内彎して立ち上る。器肉は薄く、内面底部は丸く收めている。	ナデ、箋削り	褐色 暗い赤褐色(褐色) 普通	30 % 床直
4	壺 土師器	A 11.6 B 3.5 C 4.6	丸底からやるやかに内彎して立ち上り、肩部に稜をもち、口縁部は短く内傾気味、口唇部は尖る。	横ナデ、箋削り ナデ	褐色 黒褐色 やや良い	50 % + 28

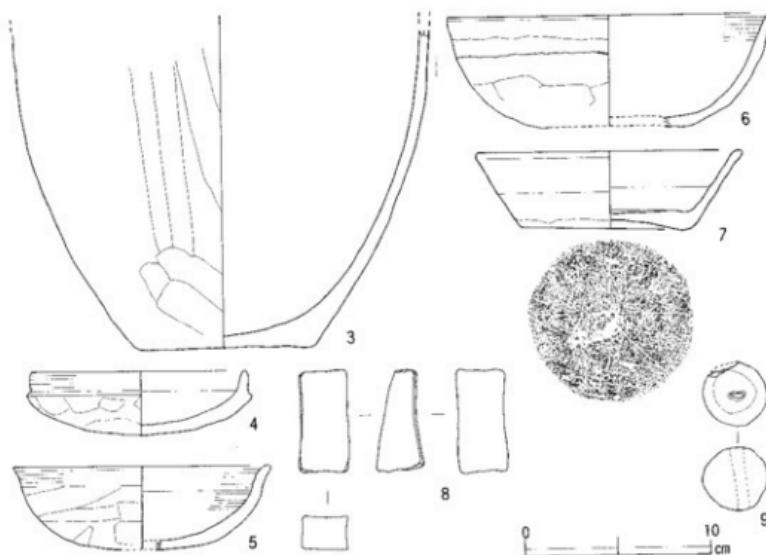
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
5	环 土師器	A 13.7 B約 4.5 C約 4.5	平底気味に底部から内彎して立ち上り、口縁部は外反し、口唇部は丸く收めている。	横ナデ、鉈削り ナデ	薄 にぶい褐色 良	30 % + 23
6	碗 土師器	A 17.3 B約 6 C約 8	安定した平底と思われる、内彎して立ち上り 体部は直線気味、口縁部は薄く丸味をもつ。 内面は丁寧なナデ調整。	鉈削り、ナデ	薄 褐色(にぶい褐色) 良	20 % + 28
7	环 須恵器	A 14.3 B 4.10 C 9.0	底部は凹み、体部は直線的に開いて立ち上り 口唇部は丸味をもって肥厚する。 丁寧なナデ調節の為不明?。	回転ミズビキ、ナデ 鉈削り 右削り?	薄、石英、雲母 褐色 良	60 % + 10

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
8	砾石	5.4	2.6	1.7	45	變灰岩	床 底	四面と七使用痕顯著。
9	土 鍋	3.3	3.4	0.8	30	土 製	覆土中	やや不整形の球形状、孔部三ヶ月状、1部欠



第94図 第33号住居址出土遺物実測図



第95図 第33号住居址出土遺物実測図

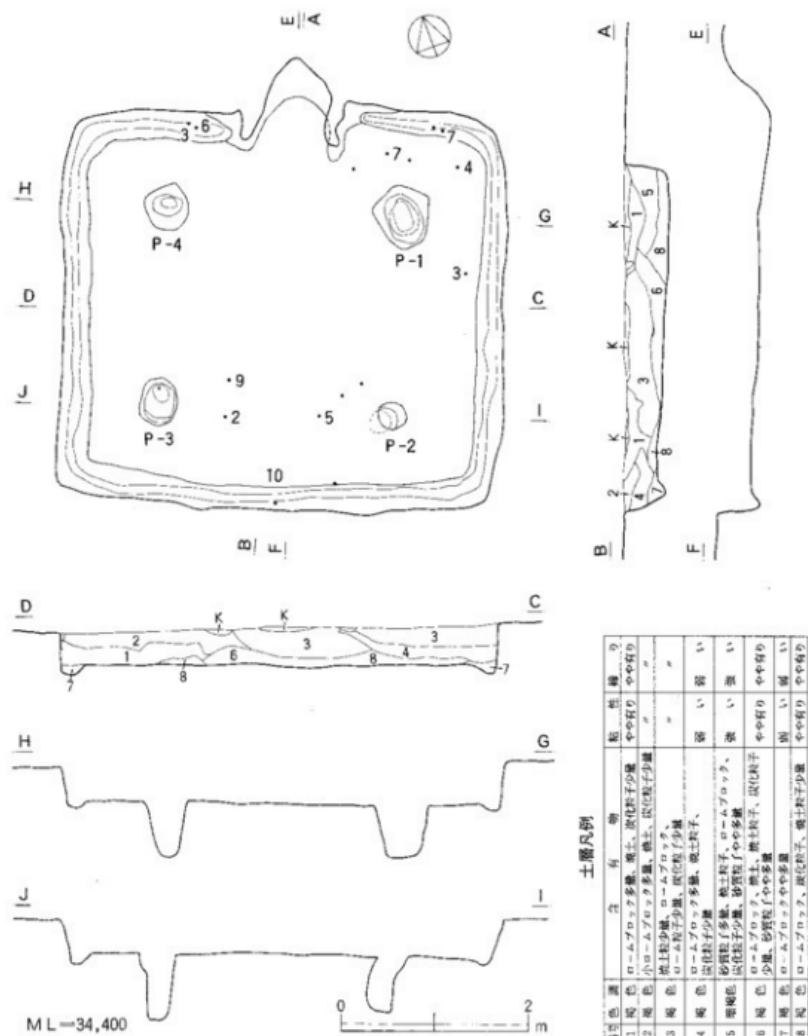
第34号住居址（第96・97・98図）

本址は、33号住居址の西側2区、C-18グリットを中心の確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する位置に検出された。主軸をN-24°-Eに置き、東西4.6m、南北4m、隅部が僅かに丸みをもつ長方形プランを呈している。壁面は、ほぼ垂直に近く立ち上がり深さは40cm前後で一定している。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められ全体に良好な縮まりを有し、平坦に移行する。柱穴は4ヶ所確認されP1はやや楕円気味、径60cm~70cm深さは50cmを測る。2・3・4は円形状。P2は径30cmとやや小さいが深さは55cmを、P3・P4は径50cm、深さ60cmを測りしっかりした掘り込みをもつ、周溝はU字状の形態で深く掘り込まれ一定の幅で広く巡る。

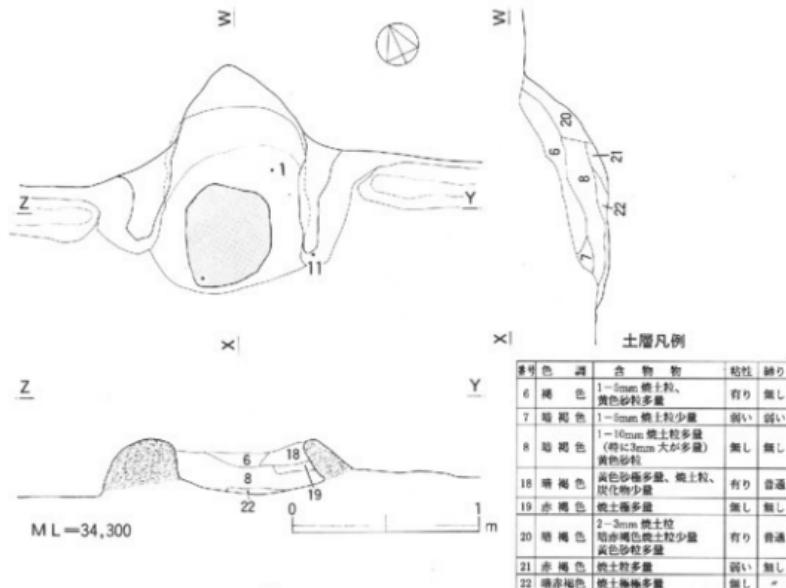
竈は北壁中央部に遺存、状態は良い、袖部は直線的にやや長く付設し火床部は前面に位置やや深く掘り込まれ、外部へは半円形状を呈し煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には幅の広いU字形状。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。内部からは小型甕など遺物が多くみられた。

覆土は、前述の29号・32号住居址同様褐色層が各層はローム粒子、粒、ブロックの混入の差。このような層位は調査区の真中に位置する住居址群だけである。投げ込み状と理解しておきたい。

遺物は、全体的に少なく竈前面、南側から認められるが床直は少なく左袖外側から須恵器小型壺が出でている。平行叩き目の須恵器壺、盤は静止糸切り、高台付壺の高台は張る。



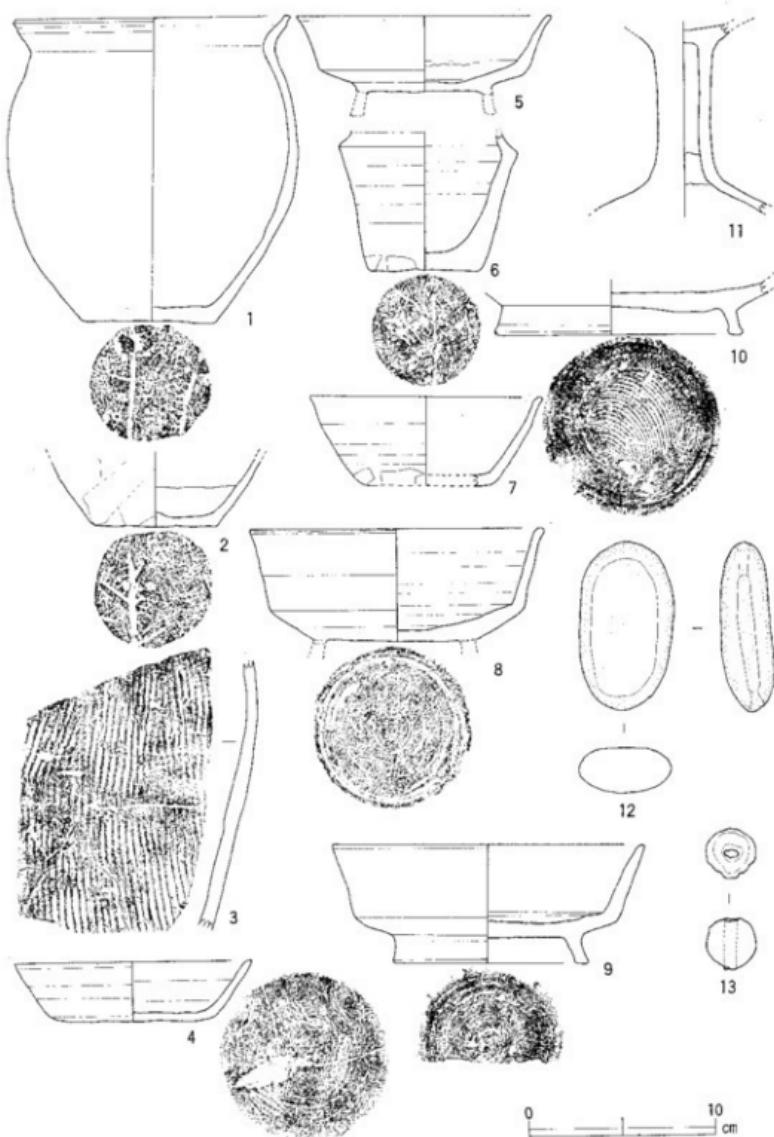
第96図 第34号住居址実測図



第97図 第34号住處実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土師器	A 14.8 B 16.2 C 7.0	安定した平底から内彎して立ち上り、最大径を胴中位に置き、口唇部は弱く外反し口唇部は上方へや長目につまり出す。	範削り、ナデ 外表面摩耗ひどい	黒、石英 暗褐色 やや不良(二次焼成)	99 % 雁内
2	壺 土師器	A B C 6.5	安定した平底の底底から直線的に立ち上る1と同様の器形を呈すると思われる。小型壺と推定される。底部木質痕。	範削り、ナデ	黒、 暗褐色(黒褐色) 普通	20 % + 44
3	瓶か? 土師器	A B C	縦位の平行即日をもつ。内面当板あるが道具は不規則で不明。	叩き、ナデ	黒、雲母、多量 にぼい橙色 普通	10 % 1 離 雁内
4	壺 土師器	A 12.7 B 3.2 C 8.0	安定した平底から開いて直線的に口唇部に移行し、口唇部はやや丸味をもつ。器肉は薄い。	ナデ、ヘラナデ (粘土糰巻上?) 回転ミズビキ(ロクロ?) 左彫り	黒、 明褐色(黒褐色) 普通(やや良)	90 % 床直
5	高台壺 土師器	A 13.5 B C	付高台部の張りは弱いと思われる底部は凹み気味、体部は開き気味に直線的に立ち上り、口唇部は弱く開き、口唇部は丸く収める。器肉は薄い、高台(欠)	粘土糰巻上げ? 回転ミズビキ(ロクロ?) 左彫り、付	黒、 暗褐色 やや不良	60 % + 19



第98図 第34号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
6	小型環須恵器	A B C 5.3	平底から直立気味に直線的に立ち上り、肩部でやや張り内縁、口縁部器肉薄く口唇部欠失不明。(遺左袖外側出土)	削り、粘土紐巻上 回転ミズビキ(ロクロ)? 左廻り	褐色 褐色 良	90% + 5
7	环 須恵器	A B C 12.4 4.6	平底の底部から口縁部に向って開きながら直線的に立ち上り、口唇部はやや開き気味、丸く収める。	粘土紐巻上げ (底部削り) 回転ミズビキ ナデ	褐色 褐色 良	40% 床直
8	高台环 須恵器	A B C 15.7	付高台部欠、底部から垂直に近く立ち上り口唇部外反しやや肥厚丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ ナデ	褐色 雲母 灰褐色 普通	80% 80%
9	高台环 須恵器	A B C 16.6 6.4 10.4	高台に張りはややあり長目、底部は水平に近く移行し、体部は開き気味に器肉を減じながら直線的に立ち上り、口唇部は丸く収める。	粘土紐巻上 回転ミズビキ ナデ 付高台	褐色 暗青灰色 良	50% + 5
10	盤? 須恵器	A B C 13.3	底部は静止糸切り、盤に近い器形? 水平に近い平底、高台部は付高台。	ナデ(粘土紐巻上?) 回転ミズビキ(ロクロ?) 左廻り	褐色 褐色 普通	30% + 8
11	高环 須恵器	A B C	筒部は円筒状脚桿部は「ハ」の字状に開く。环部は左回転(脚内部はナデ調整)	粘土巻上げ? 回転ミズビキ(ロクロ?)	褐色 暗青灰色 良	20% 窓内

石器、土製品一覧表

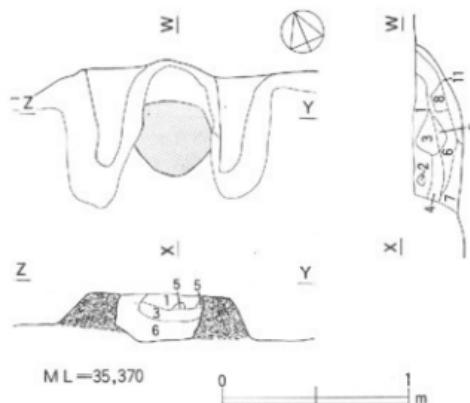
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大長	最大孔厚				
12	握輪?	9.1	5.0	2.4	181	安石岩	+ 4	自然石に近いが一部使用痕と思われる部分有り
13	土鍤	2.6	2.5	0.7	16	土製	+ 20	不整形球形、孔部三ヶ月状に近い

第35号住居址 (第99・100・101図)

本址は、34号住居址の北東側2区、F-17グリットを中心に確認された住居址で台地が平坦に移行する位置に検出された。主軸をN-20°-Wに置き、東西3.2m、南北2.7m、隅のやや丸みをもつ長方形プランを呈している。壁面はゆるく開いて立ち上がり深さは20cm~40cmを測る。床面は、竈の前面を中心に良く踏み固められていたが壁面周辺部はやや弱く、中央部がゆるく下がり気味の他はほぼ平坦に移行している。柱穴は確認出来ず十層の違うビットが1ヶ所見られた。周溝は南、西東側で半周して検出された。

竈は、北壁中央部に遺存し状態は良く、袖部は直線的に長めに付設、火床部はやや奥に位置、住居外へは僅かにU字状に張り出し構築されているに過ぎない。火床部が最も掘り込まれていて煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には[U]状。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。火床部からは土師器1が出土している。

覆土は、前述の29・32・34号住居址同様褐色層、明褐色の混合層でローム粒子、ローム粒、ブロックの混入の差で線引きを行った。いずれも焼土、炭化粒子を含む。人為的。

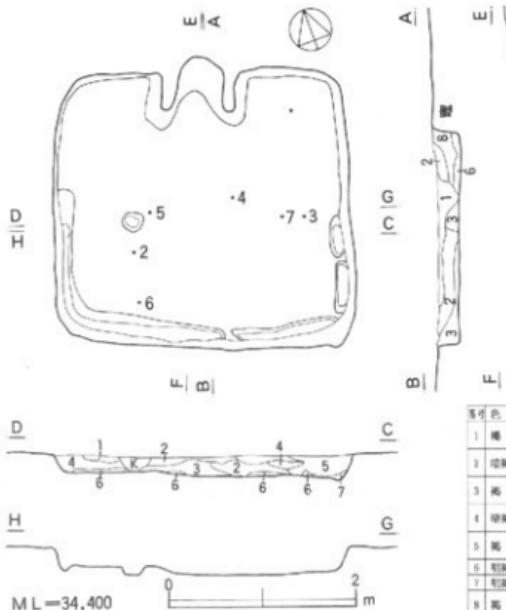


第99図 第35号住居実測図

遺物は、少なく床面からは土師器1点のみであった。覆土層より付高台の土師器、須恵器が出土、須恵器の量が多くみられ平行叩き目をもつ鉢、長頸瓶と思われるものがあった。

土層凡例

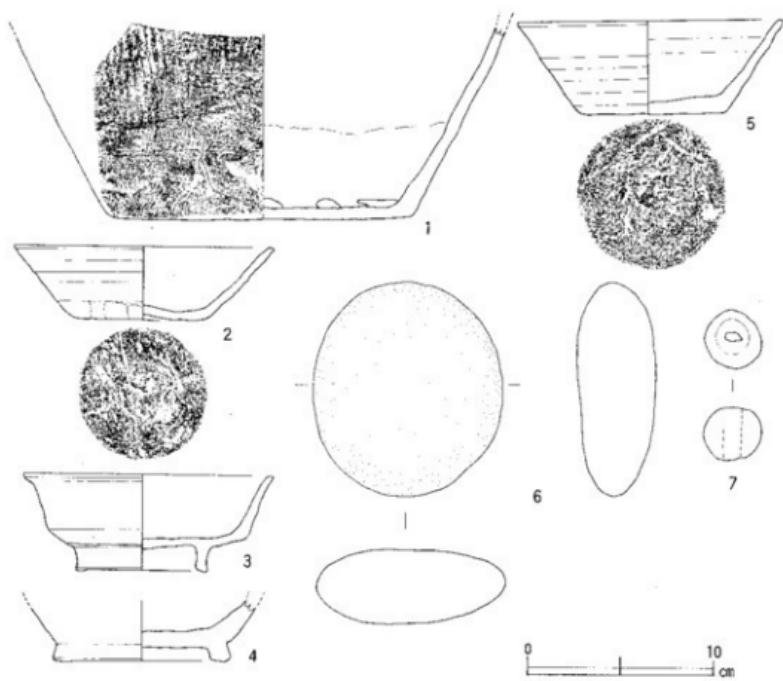
序号	色	含 有 物	特 性	持り
1	白	ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量	中や有り	中や有り
2	にじいろ褐色	砂質粘土や多量	無	無
3	にじいろ褐色	砂質粘土多量、ロームブロック少量	無	無
4	にじいろ褐色	砂質粘土や多量、ローム粒少量	無	無
5	明赤褐色	地土ブロック	無	無
6	暗赤褐色	地土粒、多量、焼土粒少量	無	無
7	にじいろ褐色	ロームやや多量、砂質粘土少量	中や有り	やや有り
8	褐	ローム小ブロック多量	無	無
9	褐	ローム粒少量、砂質粘土少量	無	無
10	褐	ロームブロック、ローム粒少量	中や有り	無
11	褐	ロームブロック、ローム粒少量、 地土粒、燒土粒少量	無	やや有り



第100図 第35号住居址実測図

土層凡例

序号	色	含 有 物	特 性	持り
1	褐	ロームブロック、 焼土粒子、炭化粒子少量	無	中や有り
2	暗褐色	焼土粒子やや多量、 ロームブロック、炭化粒子少量	弱	弱
3	褐	ロームブロック、炭化粒子、 地土粒子少量	無	無
4	深褐色	ロームブロック、炭化粒子、 地土粒子少量	無	やや有り
5	褐	ロームブロック多量、 炭化粒子少量	無	無
6	初期褐色	ロームブロック(小)、炭化粒子少量	弱	弱
7	初期褐色	ロームブロック、炭化粒子少量	無	無
8	褐	ロームブロック少量、 谷筋粘土多量、 地土粒子、炭化粒子少量	中や有り	やや有り



第101図 第35号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法徳(cm)	器形の特徴及び文様	彫影技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕？ 土師器	A B C 16.0	安定した平底から直線的に立ち上る鉢に近い器形を呈するとと思われる。器表面には平行叩目文を残し、底部近くは横位のヘラケズリがさされる。	叩き、箋削り、ナデ 粘土絆巻上げ? 輪積みか…	礫、石英 淡い赤褐色 普通	底部 40% 窓内
2	环 土師器	A 13.9 B 3.9 C 7.0	底部は凹む。開き気味に直線的に立ち上り口唇部上方へ開き、薄く尖り気味。口径大。	粘土絆巻上げ 回転ミズビキ、箋削り、ナデ、左廻り	礫、石英 暗褐色(明褐色) やや良い	100% + 10
3	高台壺 土師器	A 13.3 B 5.2 C 7.1	付高台ふんぱりは弱く直立気味。底部はほぼ水平、体部は直線的に立ち上り、口縁部やや外反気味、口唇部は肥厚し丸く収めている。	粘土絆巻上げ、ナデ 回転ミズビキ、ナデ 左廻り 付高台	礫 淡い黄褐色(黒褐色) やや良	0% + 7
4	瓶？ 須恵器	A B C 9.6	瓶と思われる。付高台部は短くふんぱり短い。長頸瓶の可もあ内面線繩がろられる。	ロクロ水引きか… 回転ミズビキ? 付高台	礫 灰釉(銀釉) 良	底部30% + 12

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
5	环 須器裏	A 14.1 B 5.0 C 7.6	安定した平底の底盤から口縁部に向って開きながら直線的に立ち上り、口唇部やや肥厚気味。立ち上りながら器肉を減じる。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ ナデ 左廻り	礫・長石、雲母 褐色 良	70 % + 5

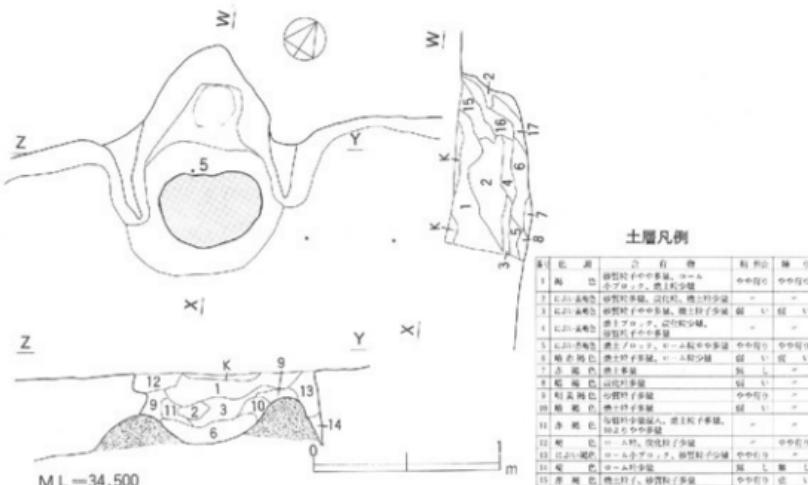
石器、土錐一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
6	敲石?	11.4	10.1	4.0	694	安山岩	+ 12	敲石状、若干の磨耗痕あり、横円形状
7	土錐	2.7	3.0	1.0	22	土 製	+ 14	やや不整形球状、孔部不整形長円状

第36号住居址（第102・103・104図）

本址は、35号住居址の東側2区、F-17グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に位置し検出された。主軸をN-40°-Wに置き、東西3.9m、南北3.6m、隅部のやや丸みをもつ方形プランを呈している。壁面はほぼ鋭角に立ち上がり深さは40cm~45cmを測る。床面は竈の前面を中心とし踏み固められていたが竈左右は僅かに落ちこみ、他は中央部が僅かに高いがほぼ平坦に移行している。柱穴は確認出来ず浅いピットが南側に1ヶ所、西側に1ヶ所検出されたが土層は覆土とは色、締まりから性質を異にすると考えられた。周溝は、浅いがゆるいU字状の掘り込みをもち巡る。北壁側では確認出来ない。

竈は、北壁中央部やや東側に検出され遺存状態は良く、袖部は直線的に付設、長目。火床部は

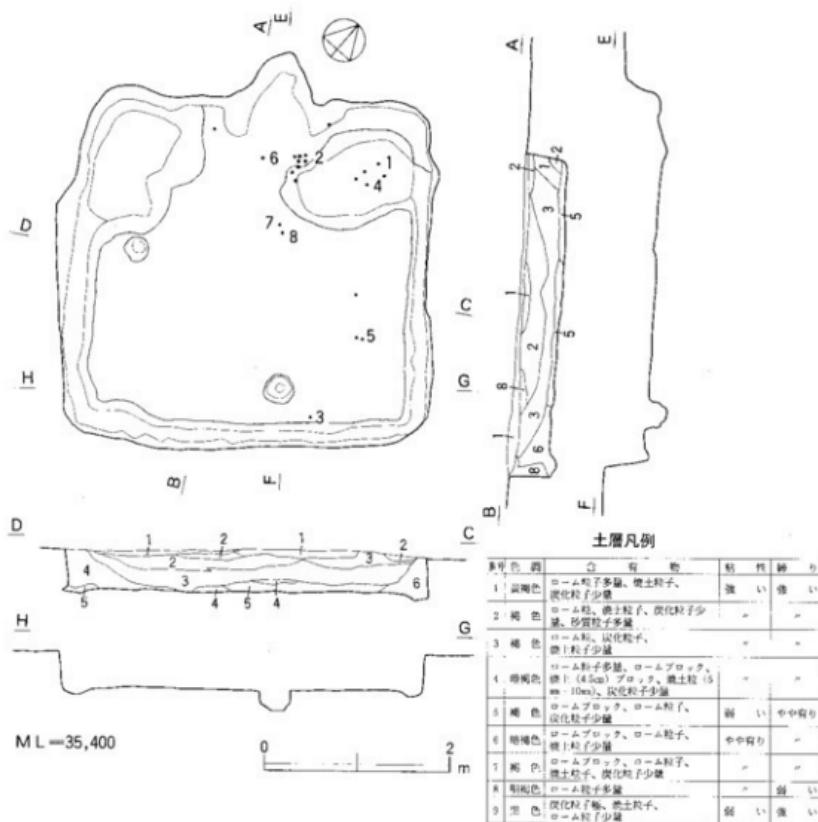


第102図 第36号住室実測図

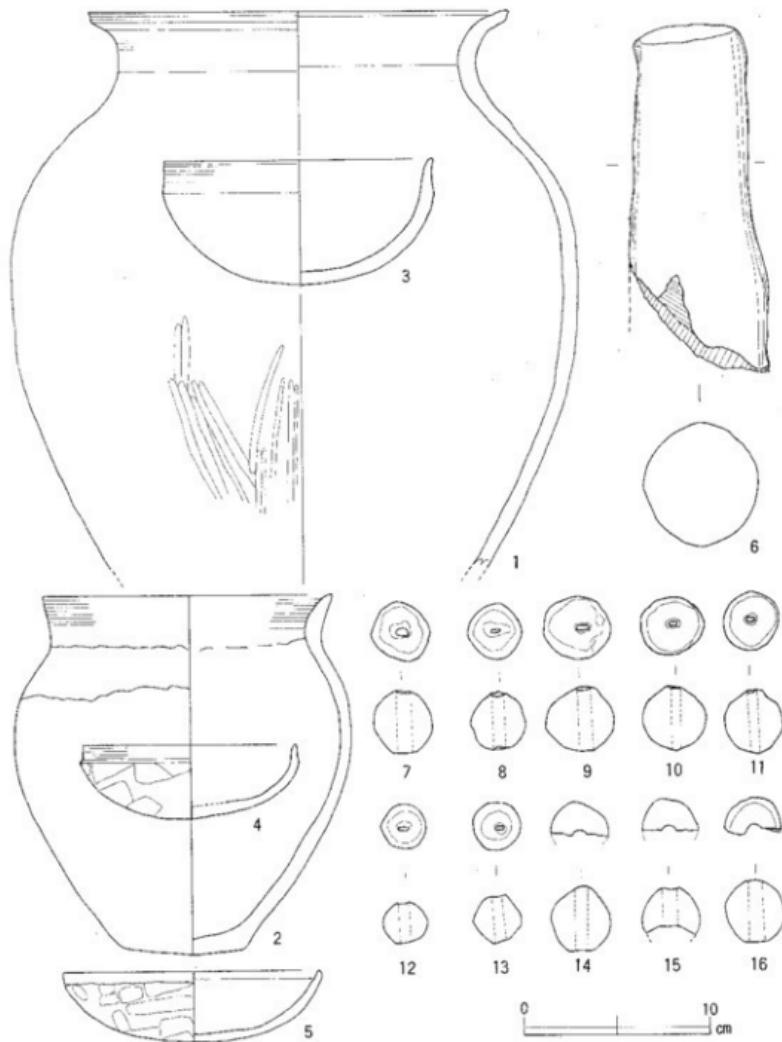
前面に位置し最も掘り込まれた道部は、ゆるく立ち上がる。形態的には〔U〕の字状の掘り込みを呈している。袖部は、砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性は弱い。内部からは支脚、環、蓋などが見られた。焚口部は開く。

覆土は、レンズ状にはば自然堆積の様相を呈している。1・2・4・6層は褐色、5層は黒褐色、7層は明褐色、これはローム粒子、ロームブロックの混入量の差である。

遺物は、やや多くみられ須恵器は数点出土しているに過ぎずいずれも小破片であり床面から検出されたものはない。土師器は最大径を胴上位におく裏と輪積痕を残す甕が窓内から、そのほか土製丸玉が10点、支脚等がみられた。



第103図 第36号住居址実測図



第104図 第36号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	器形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 上部器	A 7.5 B C	最大径を胴上位に置き、口縁部「く」の字状に外反し、口唇部弱くつまみ出し気味。	横ナデ、箇削りナデ	礫、雲母 に赤い褐色 普通	60 % 床直
2	小型甕 土師器	A 15.5 B 19.3 C 6.5	不安定な底部から内側して立ち上り最大径を胴部上位に置き、それは弱く口縁部は外反気味、肥厚し口唇部は尖り気味。	横ナデ、ナデ	礫、長石 に赤褐色(一部赤褐色) やや不良	80 % 窯内
3	环 土師器	A 14.5 B 6.2 C 3.0	丸底から内側して立ち上り、肩部に弱い稜をもち、口縁部はゆるく開き気味、口唇部は外へ開き尖る。	横ナデ ナデ	礫 1箇黒褐色に赤褐色 普通	95 % 床直
4	环 土師器	A 11.4 B 4.0 C 2.0	丸底でゆるく内側して立ち上り口縁部は直立丸縁部に弱い稜をもつ。口唇部尖る内面赤茶、一部深紅。	横ナデ、箇削りナデ	礫 褐色(赤褐色) 普通	7 % 床直
5	环 土師器	A 13.8 B 3.8 C 2.5	半球形の环で渦巻、ゆるやかに内側して立ち上り口縁部内側に凹みをもち、口唇部はわずかに内側し尖り気味。	横ナデ、箇削り 箇ナデ状	礫 暗褐色 普通	60 % 窯内

土製一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
6	支脚		7.4	6.7		土 製	床 直	5分／1欠失円筒状、下部でややふくらみ、欠失。
7	土 球	3.3	3.1	0.7	30	土 製	+ 9	長円形球状、孔部三ヶ月状
8	"	2.9	2.9	0.6	22	"	窯 内	やや不整形の長円形球状、孔部長く狭い、粗雑。
9	"	3.3	3.6	3.8	37	"	覆土中	不整形球状、孔部長方形状、粗雑。
10	"	3.3	3.4	0.4	33	"	"	球形状、孔部長円状。
11	"	3.4	2.9	0.5	29	"	"	不整形の長円状 孔部長方形状。
12	"	2.1	2.4	0.6	11	"	"	小型球形状、孔部長円状。
13	"	2.6	2.5	0.6	15	"	"	不整形球状、孔部狭く小さい長円状
14	"	3.5	3.1	0.6	15	"	+ 10	2分／1欠失不整形球状、孔部円形状？
15	"	2.1	3.0	0.7	12	"	"	3分／2欠失球形状、孔部円形状？
16	"	3.3	3.0	0.8	21	"	"	2分／1欠失長円形球状、孔部円形状？

第37号住居址（第105・106・107図）

本址は、33号住居址の東側2区、J-18・K-18グリットを中心に確認された住居址で台地がゆるやかに南側の傾斜を示す面に位置し南側の約五分の二程をエリア外に置いて検出された。主軸をN-41°-Wに置き、東西5.8m程の方形プランを呈するものと推定される。壁面は弱く開いて立ち上がり周溝との間にゆるい傾斜面をもつ部分も見られる。深さは30cm~50cm前後を測る。床面は窓の前面を中心に良く踏み固められほぼ平坦に移行している。柱穴は2ヶ所確認され梢円、円形状をそれぞれ呈し、深さは55cm。周溝は浅いがU字状にはぼ巡る。

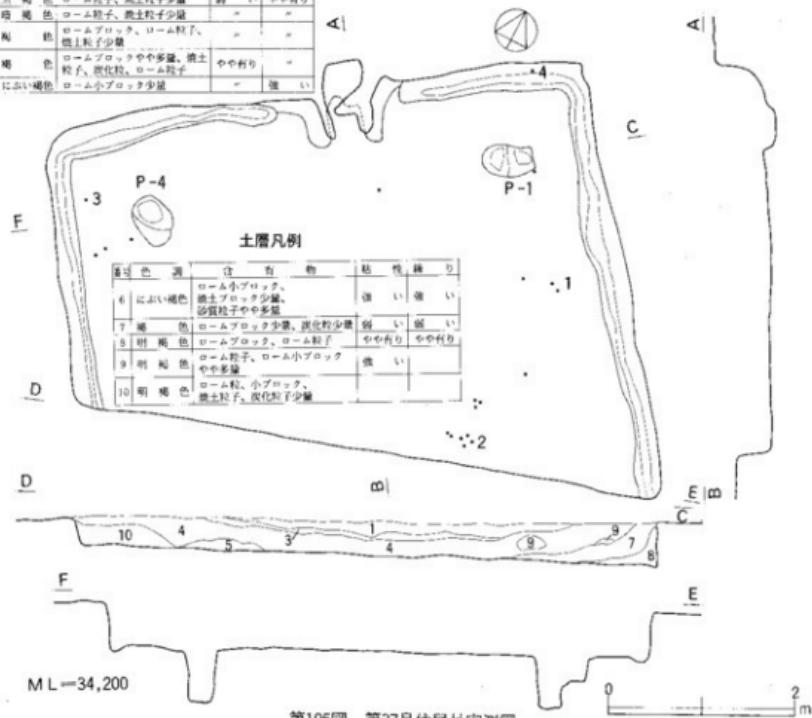
窓は、北壁中央部より30cm程東側に寄った位置に認められ遺存状態は良い。袖部は直線的に長目、天井部の一部が遺存、火床部は前面部に位置して床面より10cm程掘り込まれ煙道部は一旦ゆるく移行それから垂直気味に立ち上がる。形態的には半円形状に掘り込む。袖部、天井部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや強い。5層が本来の煙道と理解される。焚口は開いている。

覆土は、レンズ状に埋積し、1層は黒褐色、2層は暗褐色、3・4層は褐色でローム粒子、粒、ブロックの混入の差である。8・9・10層は明褐色でローム粒子、ロームブロックが多量に混入する層で壁面側に位置している。下位程明るさを増す。

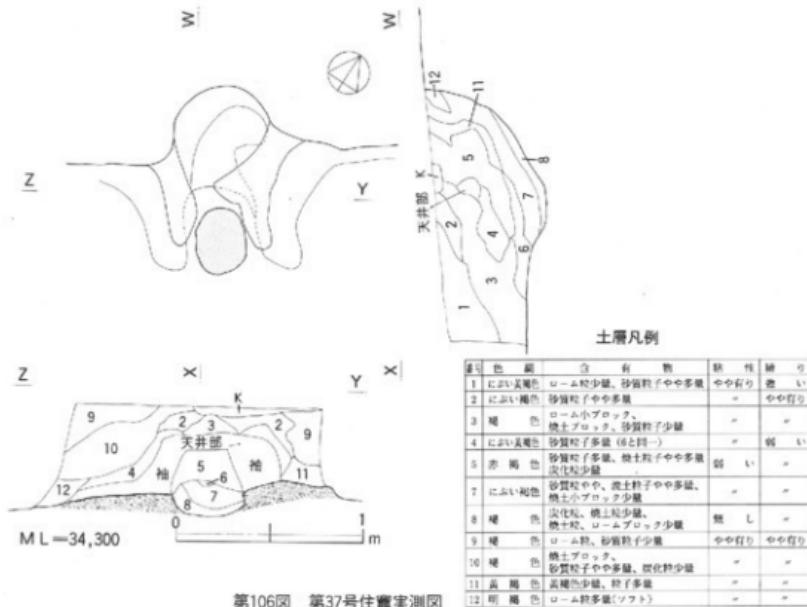
遺物は、全体的に少なく3は口唇部を丸く収め小型甕で安定した平底、坏は半球形その他第196図12に示す刀子が出土している。

土層凡例

番号	色	調	含	有	物	粘	性	繊	り
1	黒褐色	ローム粒子、	無土性	サブ層		弱	い	や	やけり
2	暗褐色	ローム粒子、	無土性	サブ層		一	一		
3	褐色	ロームブロック、	ローム粒子、	無土性		一	一		
4	褐色	ロームブロックや多量、	無土	サブ層		やや	利	一	
5	にぶい褐色	ロームブロック少量、	無土	サブ層		一	強	い	



第105図 第37号住居址実測図



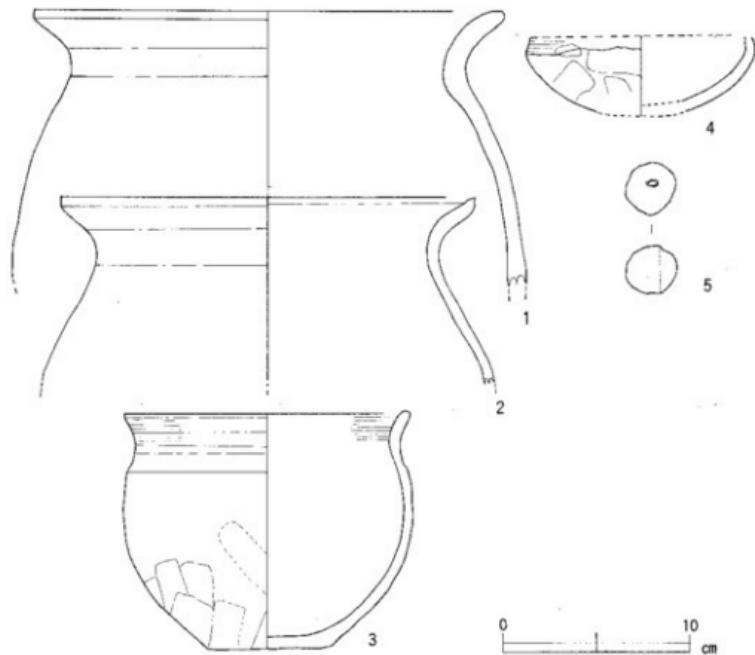
第106図 第37号住居実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 25.2 B C	口縁部は肥厚し、口唇部は丸く收め、頸部は「く」の字状に外反する。やや長脚形を呈すると思われる。	ナデ、箆削り	黒 にぶい黒褐色 普通	40 %
						+ 5
2	甕 土師器	A 22.2 B C	口縁部「く」の字状外反、口唇部弱く上方へつまみ出し気味。器内は絞じて薄い。	横ナデ、ナデ	黒、雲母 にぶい橙色 普通	10 %
						壇内
3	小型甕 土師器	A 15.3 B 12.6 C 6.5	平底の底面から内彎して立ち上り、頸部で弱くくびれ、口縁部は外傾気味、口唇部は丸く收める。	横ナデ、箆削り ナデ	黒、雲母 にぶい黒褐色 普通	70 %
						床直
4	环 土師器	A B C	丸底に近い底部を呈すると思われ、体部は内彎して立ち上り短い口縁部は内傾し、口唇部欠失。	横ナデ、箆削り ナデ	黒、長石 暗褐色 普通	30 %
						+ 10

土鍾一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
5	土鍾	2.6	2.7	0.6	21	土製	覆土中	不整形球状、孔部長円、三ヶ月状に近い

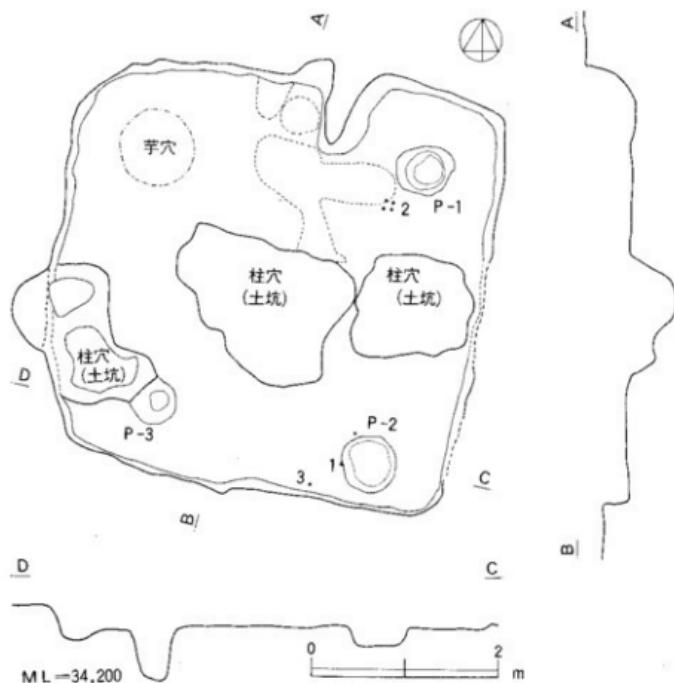


第107図 第37号住居址出土遺物実測図

第38号住居址（第108・109図）

本址は、23号住居址の東側1区、W-29・30・X-29・30 グリットを中心に確認された住居址で台地が南、東側に傾斜を示す面に位置し検出された。西側、中央部、東側は掘立柱の柱穴群に掘り込まれ遺存状態は悪い。主軸をN-11°-Eに置き、東西4.2m、南北4.2m、西側両隅がやや丸みをもつ正方形プランを呈する。壁面はそれぞれゆるく立ち上がり深さは東側の一部は5cm～25cm、北側の良好な壁面でも50cmであった。床面は、竈の前面を中心に良く踏み固められていたが前述のように掘り込みが入り状態は悪く遺存部ではほぼ平坦に移行している。柱穴は3ヶ所確認されいずれも梢円、円形を呈し径25cm～30cm、深さ10cm～20cmと浅い。周溝は確認出来ない。

竈は、北壁中央部やや東寄りに遺存していたが前述のように擾乱に因り切り込まれ状態は良くない。袖部の一部と火床部が認められ住居外へは僅かに半円形に張り出して構築され袖部は長く直線的に付設。火床部は掘り込まれ前面に位置し、煙道部はやや強く立ち上がる。形態的には半



第108図 第38号住居址実測図

円形状を呈している。袖部は砂質の少ない灰褐色の粘土を用い築かれ粘性は強い。層序は押しつぶされた状態を示す。

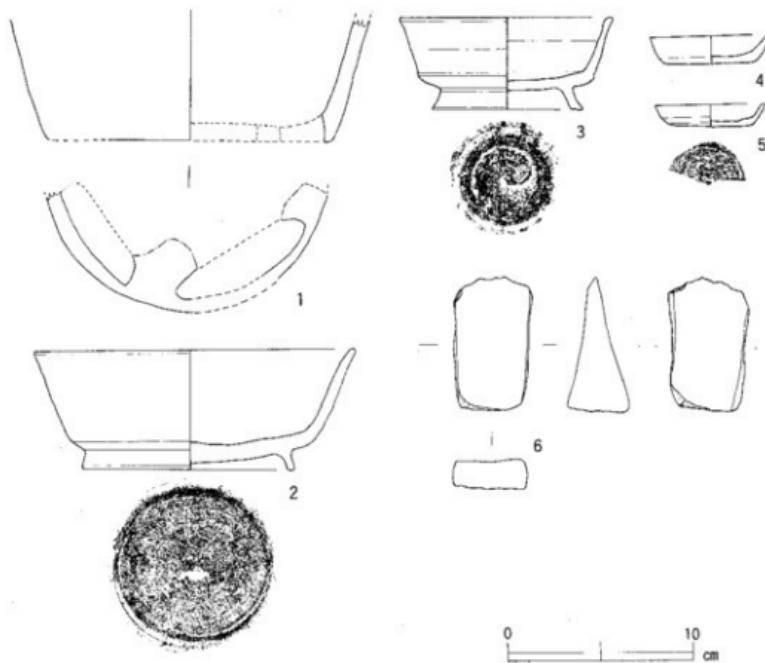
覆土は、竈前に砂質粘土の流れ込みがみられ、また切られているがほぼ自然埋積の様相を呈している。褐色、明褐色層でローム粒子を多量に含み、ブロックの混入が多くなる。

遺物は、全体的に少なく僅かに須恵器坏、孔部の三ヶ月状の透しを持つ瓶、付高台の坏は短く、張りは弱い。その他刀子、煙管、寛永通宝などが攪乱部から検出された。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	須恵器	A B C 15.14	安定した平底で底部は、半円形の孔を4ヶ所もち、中央に円形状の孔をもつものと思われ、側部は直線的に立ち上る。	ナゲ、鎌削り (粘土結晶上げ?)	礫、長石 暗緑灰色 やや良	20 % + 10

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
2	高台环 須恵器	A 17.1 B 6.4 C 10.8	高台部は「ハ」の字状に張り張り薄い。底部は水平に近い平底で体部は直線的に立ち上り口縁部外縁気味、口唇部丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 左廻り	織、雲母 にぶい褐色色傾氣 やや不良	70 % 床 直
3	高台环 須恵器	A 11.4 B 5.0 C 8.1	高台部は「ハ」の字状に張り端部は水平に近く張り出し薄く収め、体部は器内薄く、開き気味に直線的に口唇部に移行し丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 左廻り	織、石英 褐色 やや良	70 % 床 直
4	灯明皿 土師質 土 器	A 6.5 B 1.5 C 4.8	浅くロクロによる引出しが、底部は糸切りをへテ調整。中世～近世、灯明皿？（1部黒褐色部分あり）（掘立て建家の遺物）	ロクロ、水引き	織極微量 淡い橙色 やや良	50 % (土 烧) 覆 土
5	灯明皿 土師質 土 器	A 5.9 B 1.2 C 4.3	平底からゆるく開いて立ち上る。底部に回転糸切痕をそのまま残す。灯明皿？（掘立ての建家の遺物）	ロクロ、水引き	織極微量 暗い橙色（淡い橙色） 良	50 % (土 烧) 覆 土



第109図 第38号住居址出土遺物実測図

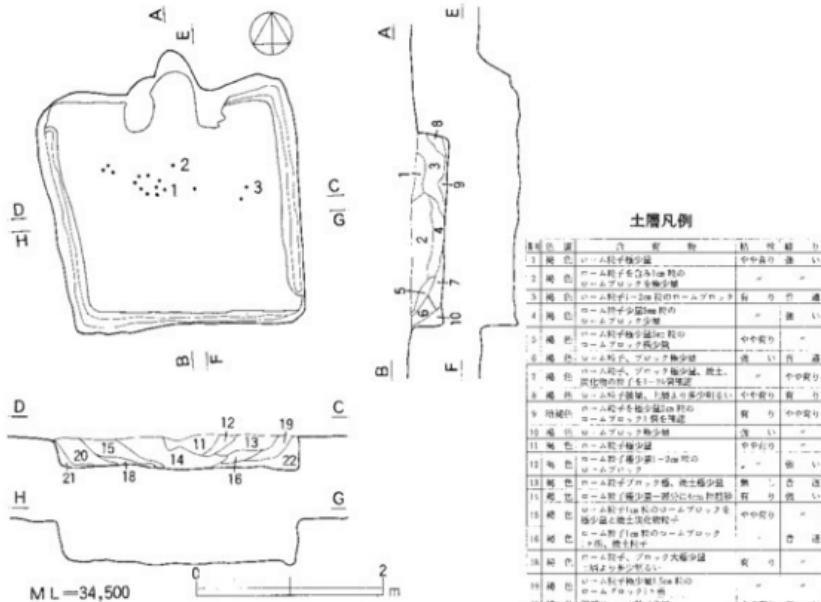
石製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
6	砥石	7.2	4.0	1.6		燧灰岩	覆土中	1部自然部を残す、2面使用痕顯著、内に反る。

第39号住居址 (第110・111・112図)

本址は、36号住居址の北側10m 2区、F-13グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に位置し検出された。主軸をN-3°-Wに置き、東西2.5m、南北2.6m、西北隅部がやや広がる変形な方形プランを呈する小型なものである。壁面はほぼ垂直気味に立ち上るが東側ではややだれる。深さは35cm~45cm前後を測る。床面は竈の前面は良く踏み固められていたが周囲は甘く中心部がやや低く移行している。柱穴は確認出来ず、周溝は、浅く狭いがほぼ巡る。

竈は、北壁中央部に遺存、状態は良く、袖部は直線的、長目に付設。火床部は前面に位置し床面よりやや掘り込む。煙道部はやや強く立ち上がる。形態的にはU字形状。袖部は砂質のやや多い黄褐色の粘土を用い築かれ、粘性はやや弱い。焚口は開く。

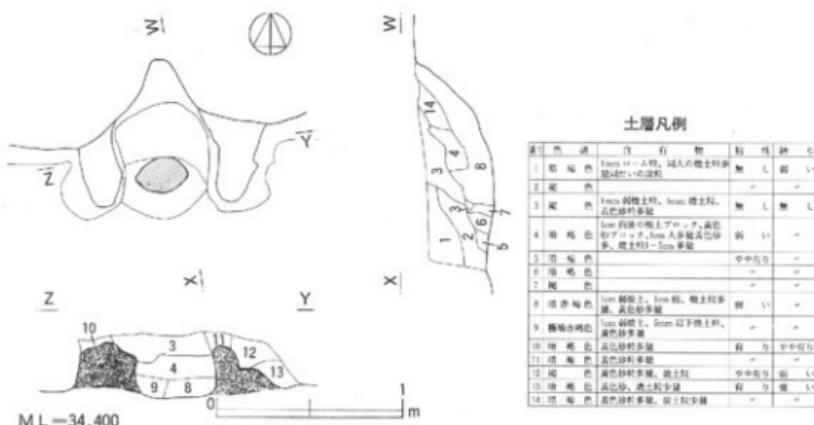


第110図 第39号住居址実測図

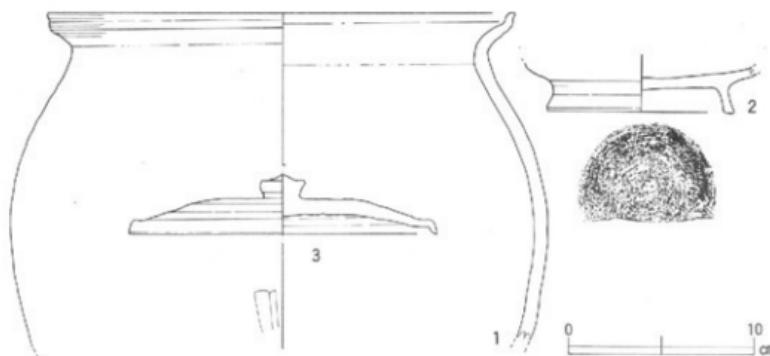
本址は検出された住居址では小型の部類に入る。

覆土は、前述の29号住居址同様褐色層が大部分を占め、1～8・10層はローム粒子、粒、ブロックの混入の差と締まり粘性の違いである。このような層位は調査区の真中に位置する住居址群だけである。9層はロームブロックを含むだけの暗褐色層。

遺物は、全体的に少ないが竈前面に集中して検出された。床直は1点であり、その他はいずれも覆土層からの出土であり口唇部長目につまみ出す壺、須恵器环は長目の付高台、蓋は宝珠つまみをもつがカエリは無い。



第111図 第39号住居実測図



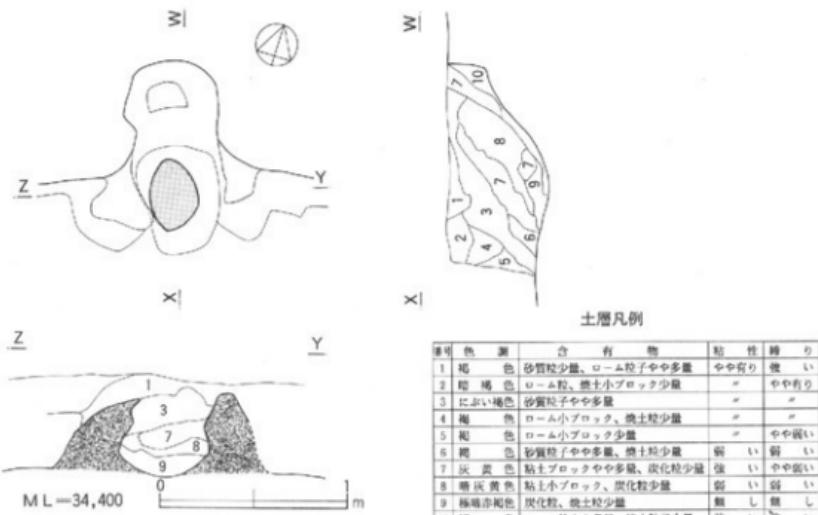
第112図 第39号住居址出土遺物実測図

出土土器觀察表

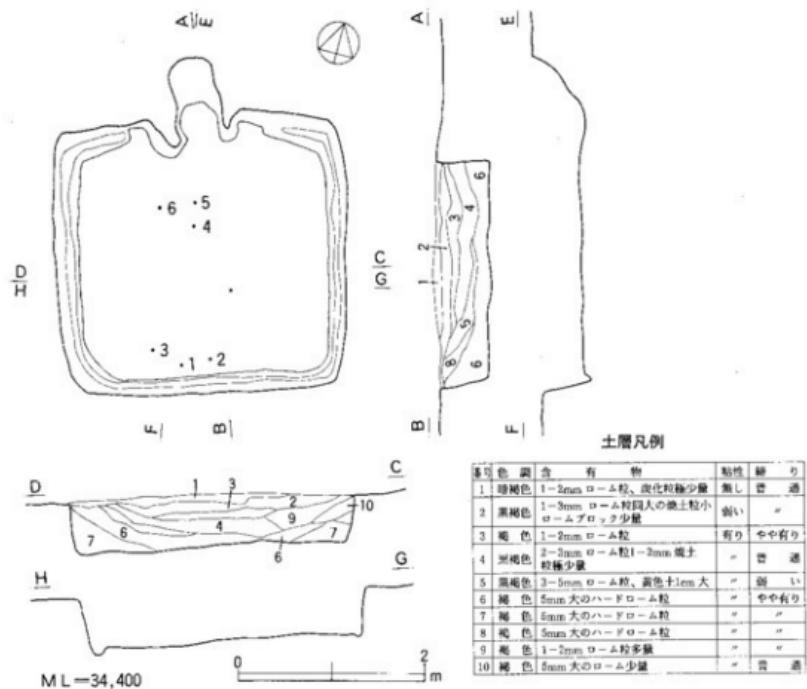
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土器	A 25.0 B C	最大径を胴中位に置き、頸部「く」の字状外反し短い。口唇部は上方へ長目につまみ出し、器肉は縮じて薄い。	横ナデ、ナデ、箝削り ナデ	黒、黒母 にぶい橙色い 普通	60 % + 7
2	高台环 須恵器	A B C 10.0	底部はほぼ水平に移行する。高台は弱く「ハ」の字状に伸び器内は薄い。	粘土紐巻上げ、ナデ 回転ミズビキ 左廻り	黒 褐灰色(灰褐色) やや良	底部20% + 8
3	甕 須恵器	A 7.0 B 3.2 C 16.4	天井部の膨らみは弱くやつぶれた宝珠形つまみを有し、端部は水平に伸びてから尖角的に收め尖る。カエリではなく凹がカエリの退化を示す。	粘土紐巻上げ、ナデ 回転ミズビキ 左廻り	黒 褐灰色 やや良	30 % 床直

第40号住居址 (第113・114・115図)

本址は、37号住居址の北側2区、J-17グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する位置に検出された。主軸をN-12°-Wに置き、東西、南北とも2.9m隅部が僅かに丸みをもつ正方形プランを呈している。壁面はやや弱く開いて立ち上がり、深さは50cm前後で一定している。床面は甕の前面を中心に良く踏み固められていたが壁面周辺は締まりは弱い。ほぼ平坦に移行している。柱穴は確認されず、周溝はU字状に掘り込まれ深めの部分も見られ一定



第113図 第40号住甕実測図



第114図 第40号住居址実測図

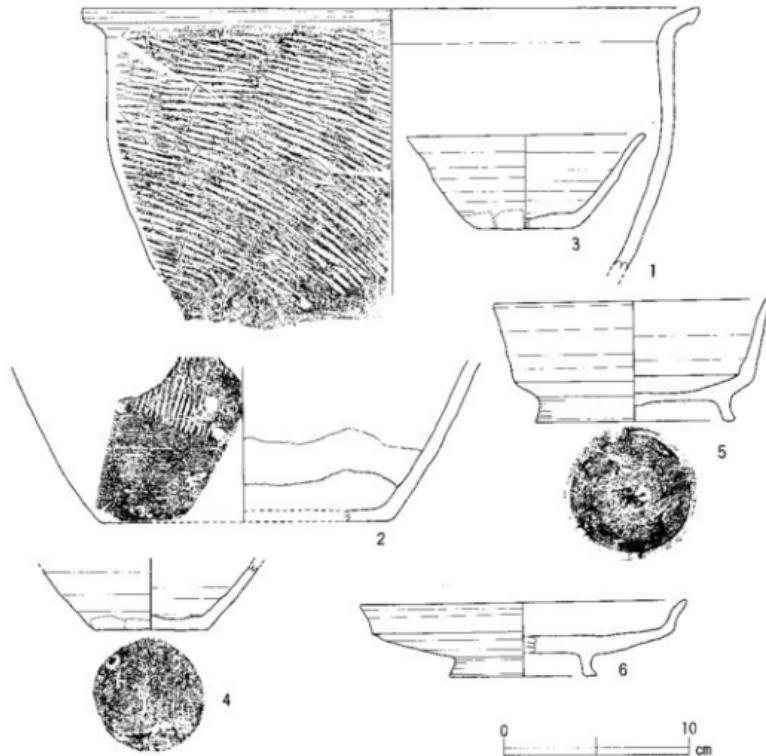
の幅で巡る。

竈は、北壁中央部に遺存、状態は良い。袖部はやや短く付設、火床部は中位に位置しやや深く外部へはU字状に掘り込まれ煙道部はやや強く立ち上がる。形態的にはU字形状。袖部は灰褐色の粘土にロームを混入して用い築かれ粘性はやや強い。焚口はやや狭くなる。

覆土は、レンズ状の埋積を示し自然埋積と理解されるが2・4層の黒褐色層の間に3層と言う褐色の間層が介在している。6・7・8層はローム粒の混入の差である。

遺物は、全体的に少なく中央部、南側から認められるが床直は1片のみ須恵器鉄鉢状の破片がみられ平行叩き目を残す、小さめの底部から開いて立ち上がる壺、盤は高台が短く張りの弱い小型の付高台。その他鐵鎌と思われるものが1点出土している。

番号	色調	含有物	粘性	練り
1	暗褐色	1~2mm ローム粒、炭化植物少量	無し	普通
2	黒褐色	1~3mm ローム粒、人の歯根粒小 ロームブロック少量	弱い	〃
3	褐色	1~2mm ローム粒	有り	やや有り
4	黒褐色	2~3mm ローム粒 1~2mm 炭土 粘土少量	〃	普通
5	黒褐色	3~5mm ローム粒、黄色土1cm 大	〃	弱い
6	褐色	5mm 大のハーフローム粒	〃	やや有り
7	褐色	5mm 大のハーフローム粒	〃	〃
8	褐色	5mm 大のハーフローム粒	〃	〃
9	褐色	1~2mm ローム粒多量	〃	〃
10	褐色	5mm 大のローム少量	〃	普通



第115図 第40号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

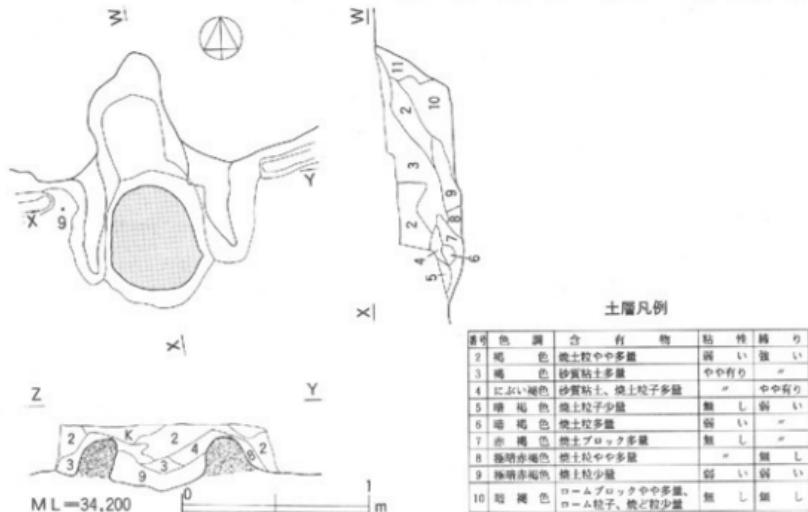
番号	器種	法量(cm)	圆形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1 鉢 須恵器	A B C	33.0	口縁部は水平に近く開き、口唇部は下方へ折り曲げ状脚部は弱く上部で張る。 横位の平行叩き目から斜位。底の可あり。	輪積み？叩き、ナデ	礫、石英 褐色 やや良	30 % + 3
2 甕 須恵器	A B C		安定した大きな底盤から直線的に開いて立ち上る。底部近くは横位のヘラケズリ。	輪積み、叩き、 削り、ナデ	礫雲母 にぼい黒褐色 普通	10 % + 10
3 环 須恵器	A B C	12.7 5.0 5.5	安定した平底から内側して立ち上り体部は弱く張り、口縁部は強く外張り口唇部は丸く収めている。	削り、ナデ 回転ミズビキ 左廻り	礫 褐色 やや良	100 % + 8
4 坏 土師器	A B C	8.0	小さな底盤から開いて立ち上り器内を減じる。回転により調整、生焼け状、(須恵質の胎土)。	削り、ナデ 回転ミズビキ(ロタ ロ?) 左廻り	礫、雲母 浅い橙色 やや良	30 % + 2

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土・色調・焼成	備考
5	高台環 須恵器	A 14.8 B 6.3 C 10.8	付高台は直立気味で短く、体部は直線的に立ち上り、口縁部はやや開き気味、口唇部は丸く收める。	粘土紐巻上げ、横ナデ、ナデ回転ミズビキ	黒 褐灰色 やや良	60 % + 5
6	盤 須恵器	A 17.5 B 3.9 C 8.0	付高台は直立気味高く、端部は張り出す底部はおおむね水平に移行し、口縁部は外傾気味、口唇部は丸く收める。	ロクロによる水引か? 断面からは水引の跡大	黒、石英 褐灰色 良	15 % + 11

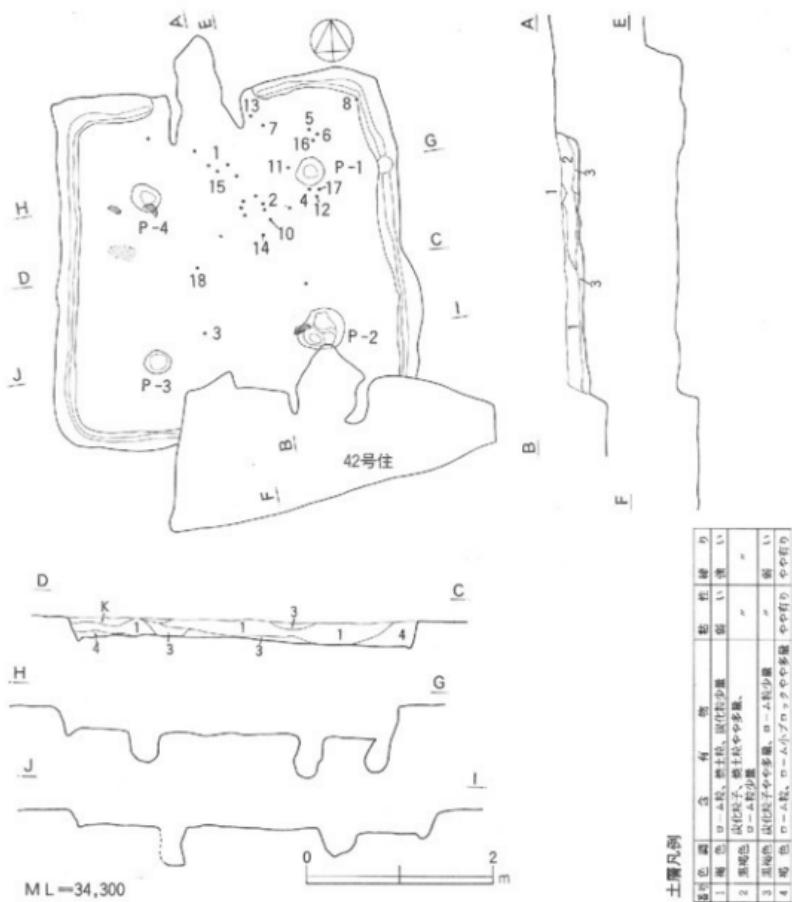
第41号住居址 (第116・117・118・119図)

本址は、37号住居址の東側2区、L-18・19グリットを中心に確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する面に検出され、南側を42号住居址に切られている。主軸を西側はN方向東側はN-5°-Wに置き、東西3.9m、南北3.9m、隅部が僅かに丸みをもつ方形プランを呈している。壁面は開いて立ち上がり深さは15cm~35cm前後を測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められ全体に良好な締まりを有し平坦に移行している。柱穴は4ヶ所確認されP3はやや梢円気味で径55cm、深さは40cmを測る。2・3・4は円形へ、径30cmとやや小さいが深さは40cm前後形態的にも相似する。周溝はU字状の形態で掘り込まれ一定の幅で巡る。

竈は北壁中央部の西側に寄った位置に遺存、状態は悪く櫛部は直線的にやや長く付設、火床部は前面に位置しやや深く掘り込まれ外部へはU字状に張り出し、煙道部は強く立ち上がる。形態的にはU字形状。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。焚口部



第116図 第41号住窓実測図



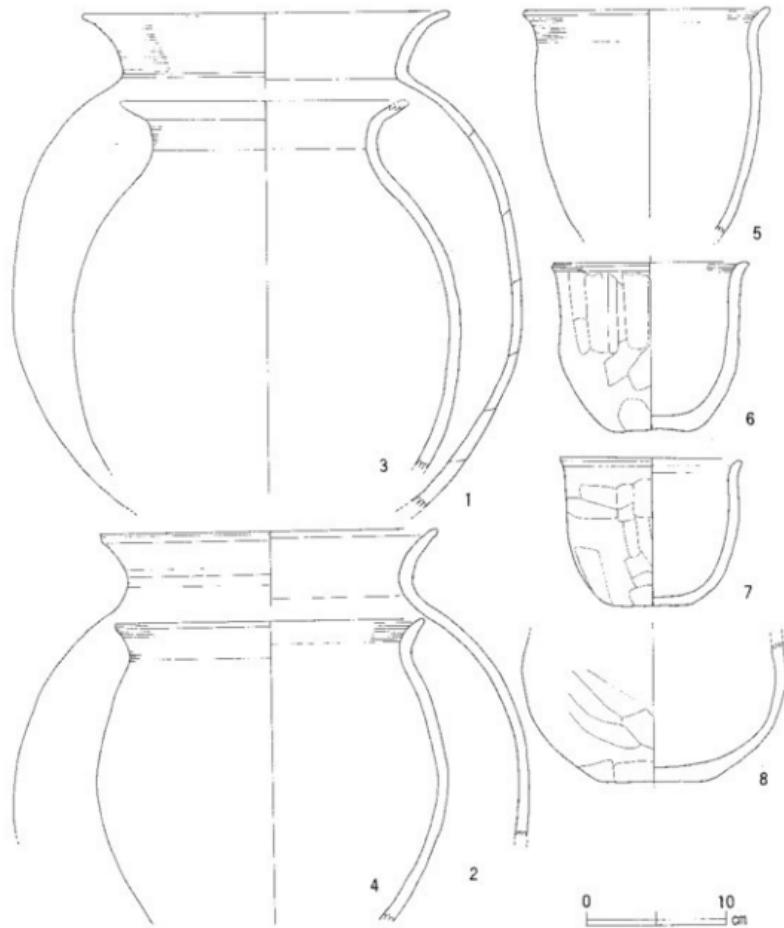
第117図 第41号住居址実測図

は閉き気味。

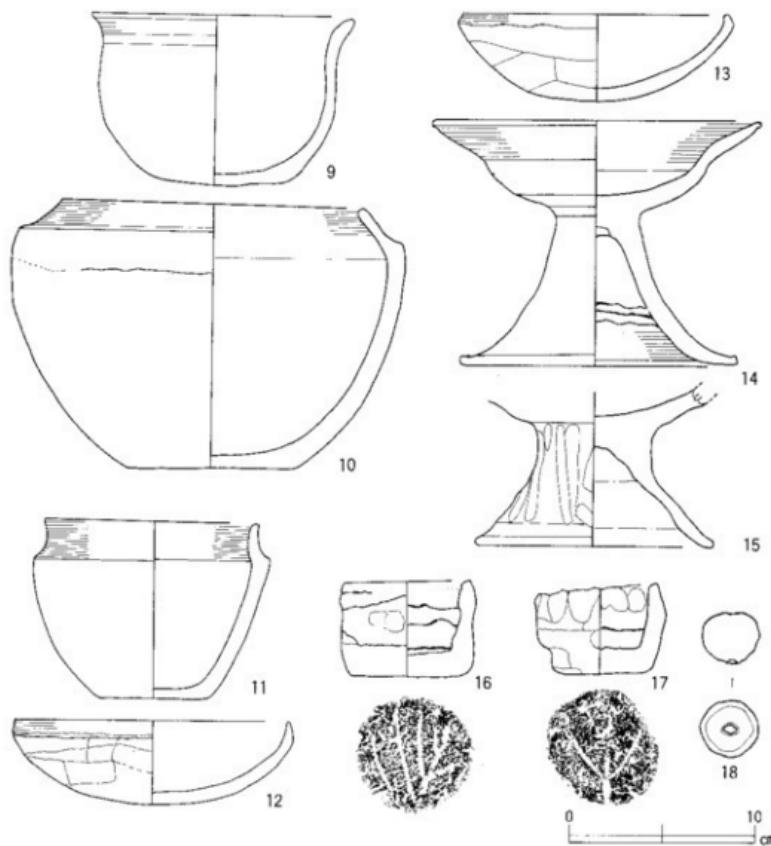
覆土は、下層は黒褐色層が占め壁面部でローム粒子、粒、ブロックを含む褐色層になりレンズ状の自然埋積を示し 2 層は焼上粒子を多く含む。

遺物は、竈前面、中央部に多量に認められ床直も多く認められ、須恵器は 1 点出土しているが一部は投げこみの感じで認められる。床面からは球胴形の甕、形態的には壺に近いもの、小型の甕は鉢に近いもの、壺は半球形、口唇部は内傾し尖る。高壺は壺体部で外反し長めの口縁は水平

に移行、脚部は裾部がラッパ状に開き瓶は砲弾形、口縁は短く水平に開く、そのほか手すくねが
2点みられた。



第118図 第41号住居址出土遺物実測図



第119図 第41号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土	色調	焼成	備考
1 土師器	A	26.0	球胴形の大型のカメで頸部「く」の字状に外反し、口唇部薄いが丸く収めている。 器肉は絶じて薄い。(散在して出土)	横ナデ、ナデ	疊	にぶい煙色	70 %	
	B				普通		+ 10	
	C							
2 土器群	A	24.0	球胴形に近い胴部を有し、頭部「く」の字状に外反し、口唇部は尖り弱くまみ出し気味、器肉は絶じて薄い。	ナデ ナデ	疊、石英、雲母	にぶい赤褐色	40 %	
	B				普通	(にぶい黄褐色)		
	C							床直

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
3	甕 土師器	A 約20.5 B C	やや長胴形に近い器形、最大径を胴中位に置く。頸部「く」の字状に外反し、口唇部不明。	横ナデ ナデ	黒 にぶい褐色 普通	50 % + 6
4	甕 土師器	A 21.9 B C	頸部のくびれは弱く、口縁短くゆるく外反し、唇部丸く收める。最大径を胴中位に置く。長胴形の器形を呈する。	横ナデ ナデ	黒、長石 にぶい褐色 普通	50 % 床 直
5	甕 ? 土師器	A 17.5 B C	黒の可能性が強い。口縁は外輪し、口唇部肥厚、器表面は粗雑な調整。	横ナデ ナデ	黒、長石 黒褐色 やや不良	40 % 床 直
6	鉢 土師器	A 14.0 B 12.0 C 6.0	平底の底部から内輪、直立気味に立ち上がり、口縁部は外反、口唇部尖る。	横ナデ、窓削り ナデ	黒 にぶい黒褐色 やや不良	70 % + 10
7	小型甕 土師器	A 12.9 B 10.5 C 5.5	やや不安定な底部から内輪気味に立ち上がり、口縁部は短く外反、口唇部は肥厚する。 鉢に近い。	ナデ、窓削り ナデ	黒 にぶい褐色 (にぶい黒褐色) やや不良	70 % + 7
8	小型甕 土師器	A B C 8.3	安定した平底から内輪して立ち上がり胴部中位に最大径をもつと忌われ器肉は縮じて厚い。	ナデ、窓削り	黒、長石 にぶい褐色 普通	30 % + 4
9	小型甕 土師器	A 14.0 B 9.2 C 6.3	丸みをもつ底部から内輪気味に立ち上がり頸部はしまりがなく、口縁部はやや肥厚し外反、口唇部は丸く收めている。	ナデ ナデ	黒、長石 褐色 普通	95 % 床 直
10	甕 土師器	A 16.3 B 14.2 C 8.8	平底の底部から内輪して立ち上がり肩部で内傾、口縁部はやや薄目で、口唇部は丸く收める。(外面に輪積痕を残す)	横ナデ ナデ ナデ	黒、長石 にぶい褐色(褐色) 普通	90 % 床 直
11	小型鉢 土師器	A 10.5 B 9.6 C 5.8	安定した平底から開き気味に立ち上り、肩部に弱い稜状の張りをもつ口縁は内傾気味、口唇部は丸味を持つ。	横ナデ、ナデ ナデ	黒 1部黒褐色(褐色) 1部浅い褐色 やや良	95 % 床 直
12	环 土師器	A 14.9 B 4.5 C 2.0	半球形体部を有し口縁部短く直立口唇部尖る。輪積痕を残す。(粗雑な調整)	横ナデ、窓削り ナデ	黒、長石 にぶい黒褐色 普通	95 % 床 直
13	环 土師器	A 14.4 B 4.6 C 3.0	丸底の底部からゆるやかに内輪して立ち上がり、口縁部は短く内傾、口唇部は丸く收める。(半球形)	横ナデ、窓削り ナデ	黒 にぶい黒褐色 やや不良	95 % 床 直
14	高 环 土師器	A 17.6 B 13.2 C 15.0	脚筒部は「ハ」の字状に開き端部は肥厚し、丸く收める。環部はゆるやかに内輪して立ち上り、長目の口縁部は丸く收める。	横ナデ、ナデ	黒、長石 浅い褐色 やや良	50 % 床 直
15	高 环 土師器	A B C 12.7	脚部は短く「ハ」の字状に強く開く。端部は丸く收め環部は大半が欠失し、内面は丁重なナデ。	ナデ、窓削り ナデ	黒 にぶい赤褐色(黒褐色) 普通	40 % + 4
16	手 程 土師器	A 6.9 B 5.0 C 5.6	輪積痕を残す。粗雑な調整で平底から直立して立ち上り口唇部凹凸あり。底部木葉痕。	輪積み 指頭押へ ナデ	黒 暗褐色(黒褐色) 普通	70 % + 4
17	手 程 土師器	A 7.0 B 4.9 C 4.5	指頭による押へ、輪積痕を残す。粗雑な作り、平底から直線的に立ち上り口縁部は凹凸あり。底部木葉痕	指頭押へ	黒 にぶい黒褐色(黒褐色) 普通 ナデ	80 % 床 直

土縫一覧表

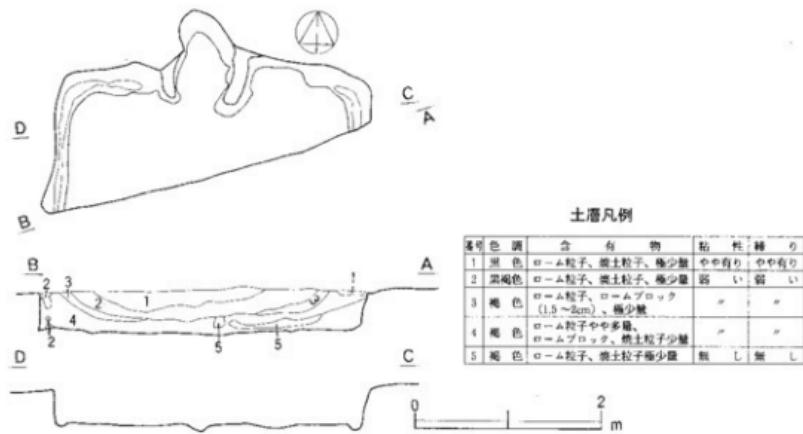
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	孔厚				
18	土縫	2.7	3.1	0.6	23	土製	+ 8	球形状、孔部円形

第42号住居址（第120・121・122図）

本址は、41号住居址の北側2区、L-19、M-19グリットを中心に確認された住居址で台地がゆるく南側に傾斜を示す位置に検出されたが大半をエリア外に置き調査は全体の五分の二前後と思われ41号住居址を一部切込んでいる。主軸をN-6°-Eに置き、東西3.5mを測り隅部が僅かに丸みをもつ方形プランを呈するものと思われる。壁面は、西側ではほぼ垂直に立ち上がり東側はやや開き気味、深さは40cm前後で一定している。床面は竈の前面では僅かに良く踏み固められた部分が見られた。他は縮まりが悪い。ほぼ平坦に移行している。柱穴は確認されない。周溝はU字状の形態で5cm～10cm程の深さで掘り込まれ竈東側では確認出来ない。

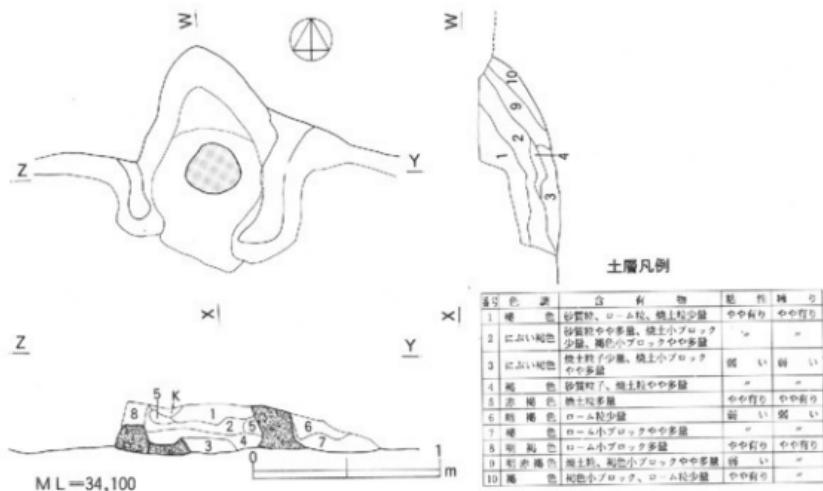
竈は、北壁中央部やや西寄りに築かれ遺存状態は良い。袖部はハの字状にやや長く付設、火床部はやや奥まって位置し、ゆるやかに立ち上がりそのまま煙道部へ移行している。形態的にはU字形状外部へ張りだす。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや弱い。焚口は狭くなる。

覆土は、1層は黒色、2層は黒褐色、3・4・5層とも褐色層、各層はローム粒子、ブロック、焼土粒子の混入の差である。

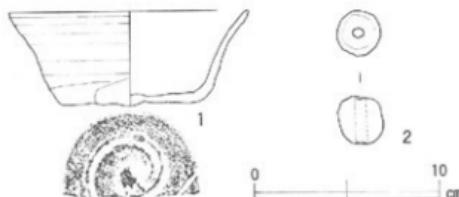


第120図 第42号住居址実測図

遺物は、全体的に少なく図示出来たものは須恵器 1 点のみ、底部は回転鎌切り。



第121図 第42号住室実測図



第122図 第42号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

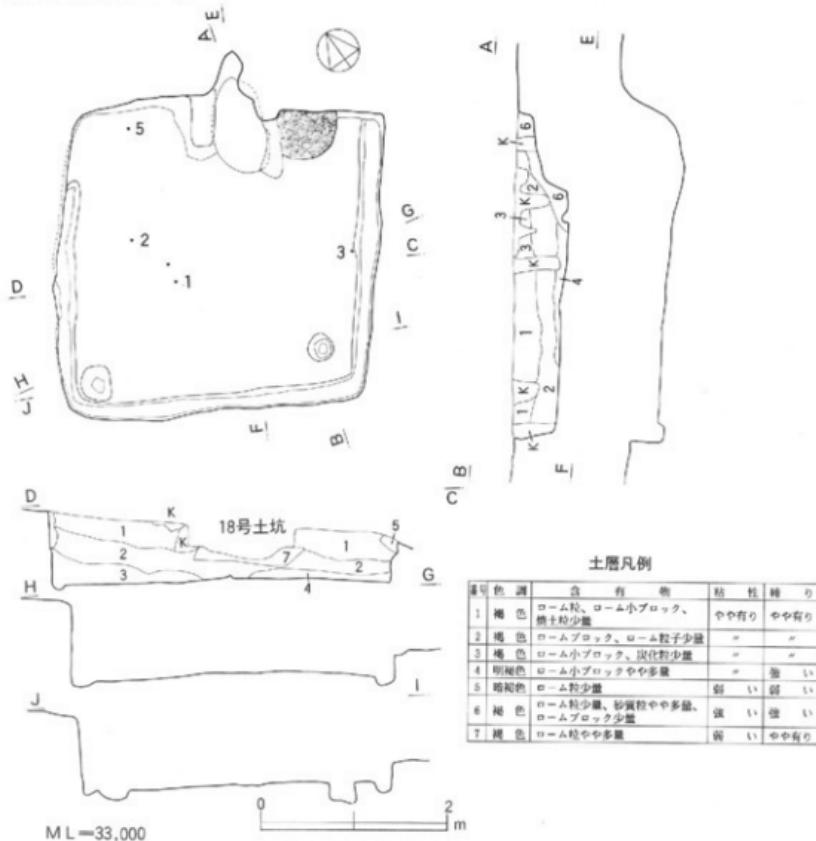
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	环 須恵器	A 13.0 B 5.0 C 7.2	平底から内部は直立気味に立ち上り外反し、口縁部は薄く尖り氣味。(底部回転ヘラ切り) 竈左袖上部出土	粘土焼き上げ、鋸削り、ナダ、回転スズビキ、左廻り	褐色 灰褐色 普通	40 % + 12

土鍋一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔径				
2	土鍋	2.6	2.3	0.6	13	土製	覆土中	長円球形状、孔部ほぼ円形状

第43号住居址 (第123・124・125図)

本址は、20号住居址の東南側2区、A-31・32、B-31・32グリットを中心に確認された住居址で台地が強く東側に傾斜を示す位置に検出され、45号住居址の一部を切込んでいる。主軸をN-40°-Eに置き、東西3.2m、南北3.1mを測り隅部が僅かに丸みをもつ方形プランを呈する。壁面はほぼ垂直に近く立ち上がり東側は22cm、西側は85cm、南側は25cmを測る。床面は竈の前面を中心とし踏みかたためられ中央部がやや高い。柱穴は確認されないが南壁側に浅い円形のピットが認められる。周溝はU字状の形態で10~15cm程の深さで掘り込まれ幅は20cm程で巡り竈東側、西側では確認出来ない。

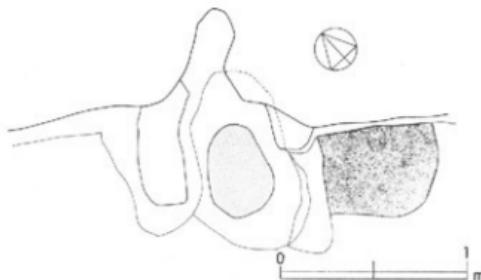


第123図 第43号住居址実測図

竈は、北部中央部に築かれ遺存状態は良い、袖部はゆるく内湾気味にやや長く付設、火床部は中位に位置し、浅く掘り込み煙道部はやや強く立ち上がる。形態的にはU字形状を呈しているが、外部への掘り込みは短く大半は住居内に位置している。袖部は砂質の少ない灰褐色の粘土を用い築かれ粘性は強く煙道部の一部は遺存していた。焚口はやや狭い。

覆土は、中央部に18号土坑による掘り込みがあり一部乱れるが東側に向って流れほぼ自然埋積の状態を示している。1・2・3層は褐色層4・5層はローム粒子、ブロックを含みその混入の差である。竈東側には粘土の投げ込みが認められた。

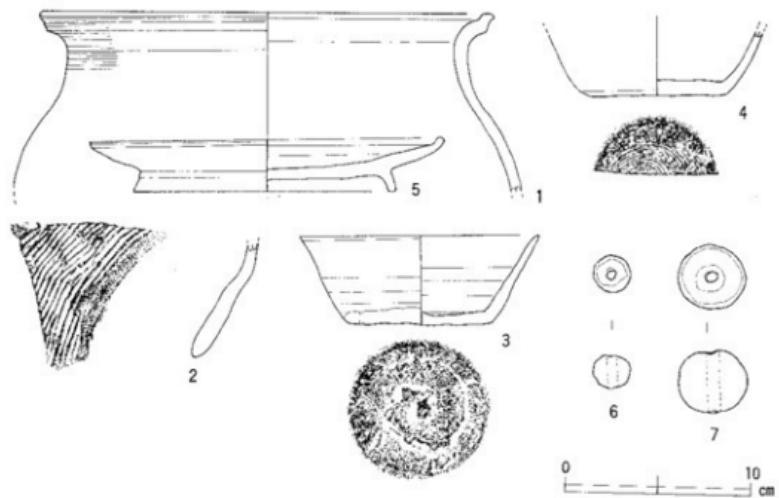
遺物は、全体的に少なく口唇部をつまみ出し平行叩き目をもつ瓶、皿に近い付高台の盤等が見られた。环は回転糸切りの底部も一点認められる。



第124図 第43号住竈実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土器器	A 23.4 B C	頸部は短く、口頸部は「く」の字状に外反肥厚し、口唇部上方へつまみ出す。調査は内外粗雑、器内は薄い。	横ナデ、ナデ	礫、雲母 暗褐色 普通	15 % + 17
2	甕 須恵器	A B C	孔部は断面三角形状 横位の平行叩目を残す。	粘土紐巻上げ 叩目 ナデ	礫 石英 灰褐色 やや良	5 % + 18
3	环 須恵器	A 12.8 B 4.8 C 7.7	安定した平底から直線的に器内を減じて開いて立ち上り、口唇部薄く尖る。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ 開口 左切り	礫 (1~4mm 多量) 灰褐色 やや良	80 % + 27
4	环 須恵器	A B C 6.5	平底からゆるやかに内擣して立ち上る。底部回転糸切り。外面ナデ調査 糸切状態はやや回転が弱いと思われる。	ロクロ水引き? ナデ	礫、雲母、長石 灰褐色 やや良	10 % 覆土
5	皿 須恵器	A 19.0 B 2.8 C 19.0	付高台の張りは弱い。底部はゆるく反りをもち口唇部は上方へ丸くつまみ出している。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ ナデ	礫、雲母、長石 褐色 やや良	90 % 床直



第125図 第43号住居址出土遺物実測図

土器一覧表

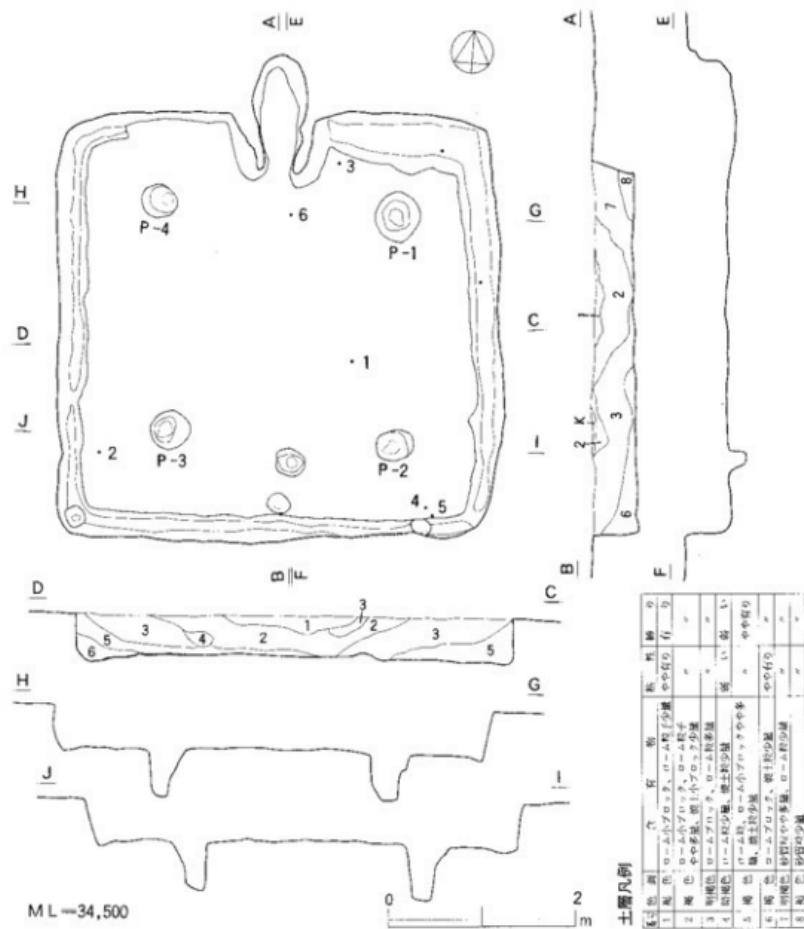
番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	孔厚				
6	土器	3.3	3.7	0.7	35	土製	覆土中	不整形球状、孔部橢円形状、粗雑、大型
7	"	1.7	2.0	0.6	7	"	"	不整形球状、孔部橢円形状、粗雑、小型

第44号住居址（第126・127・128図）

本址は、36号住居址の北東側2区、I-15、J-15グリットを中心確認された住居址で台地がほぼ平坦に移行する位置に検出された。主軸をN-5°-Wに置き、東西4.6m、南北4.5mを測り方形プランを呈している。壁面は、ほぼ垂直に近く立ち上がり深さは60cm前後で一定している。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められ全体に良好な締まりを有し中央部が僅かに高まりをもつがほぼ平坦に移行している。柱穴は4ヶ所確認され径40~50cm、深さは50cm~60cmを測りいずれも円形状の掘り込みをもつ、その他南壁面に小ピットが2ヶ見られ掘り込みは浅い、周溝は浅くU字状の形態で掘り込まれ北東側では幅が広く巡る。

竈は、北壁中央部に遺存、状態は良い。焚口部はハの字状に開く、袖部はやや長く付設、火床部はやや前面に位置し、ゆるく掘り込まれ煙道部は鋭角に立ち上がる。形態的には焚口部の狭くなるU字形状。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はややある。

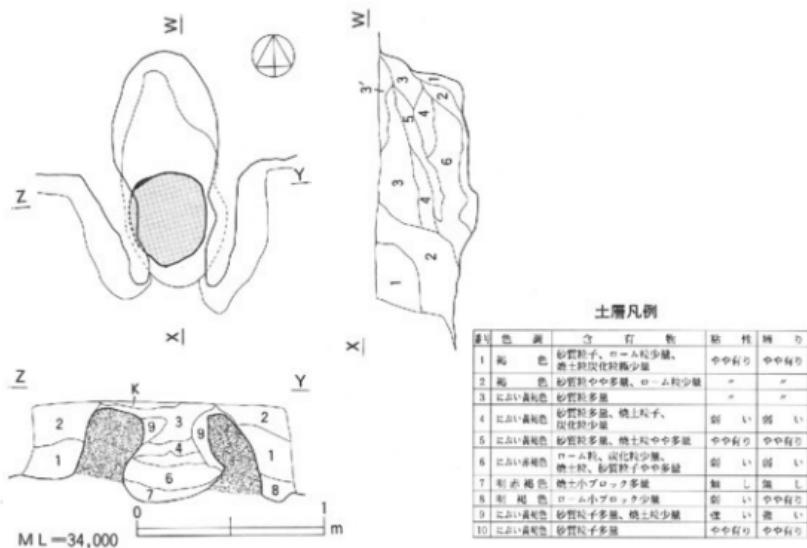
覆土は、前述の29号、32号住居址同様褐色層が占め各層はローム粒子、粒、ブロック、焼土粒、



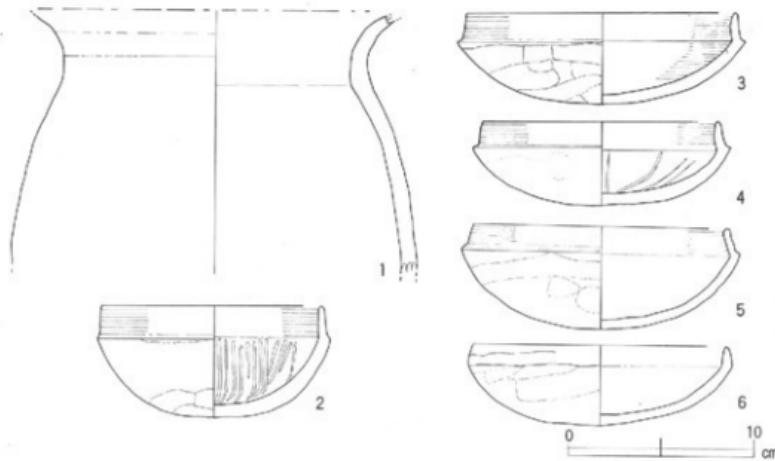
第126図 第44号住居址実測図

粘性のある砂質粒子の混入差である。このような層位は調査区の真中に位置する住居址だけであり投げ込み状と理解して置きたい。

遺物は、全体的に少なく壺前面、中央部、南側から甕、壺が認められたが床直は中央部の甕だけで長胴形を呈し、壺は口縁部内傾、口唇部尖がり気味、内面暗文状の箇磨きをもつものも認められる。



第127図 第44号住窓実測図



第128図 第44号住居址出土遺物実測図

出土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土師器	A B C	口縁部を欠失する。頸部〔く〕の字状外反、やや長胴形の器形を呈すと思われる。	横ナデ、ナデ	礫、砂 暗い橙色 やや不良	10 % 床直
2	壺 土師器	A 12.0 B 6.0 C 3.8	体部は半球形に近い、肩部に弱い棱を有し口縁部は長目で薄く口唇部丸く収める。半球形狀。	横ナデ、ナデ 窓削り ヘラ磨き	礫 にぶい黒褐色 普通	95 % 床直
3	壺 土師器	A 14.5 B 4.9 C 3.0	丸底に近い底部からゆるやかに立ち上り、肩部にやや顯著な稜を有し、口縁部はやや長目で内傾、薄く口唇部は尖り気味。	横ナデ、窓削り ナデ	礫 黒褐色 やや良	40 % + 30
4	壺 土師器	A 12.7 B 4.5 C 3.8	平底に近い底部からゆるやかに内側して立ち上り肩部に顯著な稜を有し、口縁部や長目で内傾、口唇部は尖る。	横ナデ、ナデ 窓ナデ状 ヘラ磨き	礫 黒褐色 普通	90 % + 10
5	壺 土師器	A 13.0 B 5.6 C 2.0	丸底氣味の底部からゆるやかに内側して立ち上り肩部に弱い棱をもつ。口縁はやや長目で内傾、薄く口唇部丸く収める。	横ナデ、窓削り ナデ	礫、長石 暗い橙色 普通	90 % + 14
6	壺 土師器	A 13.7 B 4.3 C 2.5	丸底の底部からゆるやかに内側して立ち上り、口縁部は短く内傾氣味。口唇部は尖る。輪積痕を残す。	ナデ、窓削り	礫、長石 淡い橙色 普通	90 % + 8

第45号住居址（第129・130図）

本址は、43号住居址の南側2区、A・B-31・32グリットを中心に確認された住居址で台地は強く東側に傾斜を示す位置に検出された。主軸をN-37°-Wに置き、東西5.3m、南北6m程の長方形プランを呈するものと思われるが北側を43号住居址に切り込まれ東北側は欠失し、トレチャーや土坑等による擾乱部が多かった。壁面は西側、南側はほぼ垂直に近く立ち上がり深さは30cm~40cm前後。床面は炉址西側は良く踏み固められ全体に良好な締まりを有し、ほぼ平坦に移行している。柱穴は確認されず小ピットが2ヶ所見られ掘り込みは浅い。周溝は確認出来なかった。西、南側には焼土が多量に見られ一部炭化物も西側にかたよって見られ焼却の感じをもつ。

炉は、中央部や北西側によって認められ焼土が盛り上がるよう見られ、火床部はゆるく浅い、長さ1.3m・80cmの長円形状でブロック状に焼けたロームが見られ地床炉。

覆土は、褐色、焼土を含むにぶい赤褐色、黒褐色層が認められ3層に分類された。

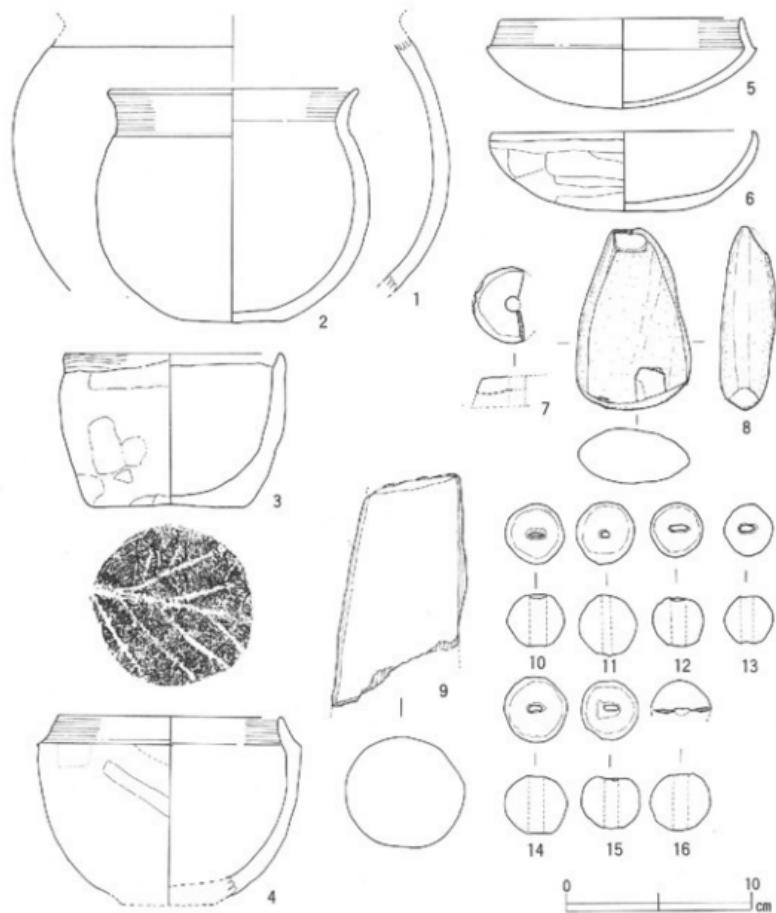
遺物は、全体的に少なくいざれも南、西側壁面に添って検出された。床面からは鉢、壺などが見られた。



第129図 第45号住居址実測図

出土土器觀察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
I	壺 土師器	A B C	球形胴を呈する壺と思われる二次焼成等、外 面は剥落面多し。	ナデ、横ナデ?	礫、砂 にぼい黄褐色 (1部黒褐色) やや不良	20 % 床直



第130図 第45号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法寸(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	粘土、色調、焼成	備考
2	小型壺 土師器	A 13.3 B 12.6 C 5.5	安定した平底から内側して立ち上り最大径を中位に置き、くびれは凹く口唇部は外傾気味、口唇部丸く収める。内面は剥落面多し。	横ナデ、ヘラナデ ナデ	■ 赤褐色(におい黒褐色) 普通	60 % + 2
3	鉢 土師器	A 11.6 B 8.2 C 8.3	安定した平底から直立気味に立ち上り、手捏的な調整、口唇部は薄く尖る。内面は丁寧なナデ調整。	横ナデ、ナデ押し	■ におい黒褐色 普通	100 % 床直

番号	器種	法量(cm)	器の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
4	小型甕 土師器	A 12.0 B C	底部を欠失するが安定した平底と思われる胴部は内側して立ち上り、肩部に弱い稜を有し口縁部は内傾、口唇部はやや尖り気味。	横ナデ、箒削り ナデ	醜、長石 にぶい黒褐色 普通	40 % + 3
5	环 土師器	A 13.0 B 4.8 C 3.0	丸底の底部からゆるやかに内側して立ち上り肩部に顕著な稜を有し、口縁や長目で内傾し、口唇部尖り気味。	横ナデ、ナデ	醜、雲母 にぶい黒褐色 普通	70 % 床直
6	环 土師器	A 14.1 B 4.3 C 5.4	半球形形状を有する器形で短い口縁部は内傾し、口唇部は尖る。器面、ナデミガキ状。	ナデ、箒削り	醜 にぶい橙色(黒褐色) やや良	60 % + 8

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
7	紡錘車	14.1	2.7	0.9	11	土 製	覆土中	大半を欠失する。約4分/1、孔部正円状
8	石斧	9.7	6.1	2.9	300	安山岩	+ 10	蛤刃的、刃部使用痕跡有、1部欠
9	支脚		6.5	6.0	—	土 製	+ 8	約2分/1程欠失、円筒状に近い
10	土錘	2.8	3.1	1.0	26	土 製	床 直	やや不整形球状、孔部三ヶ月状
11	"	3.2	3.0	0.5	32	"	"	不整形長円球状、孔部長方形状
12	"	2.5	2.7	1.0	19	"	"	ほぼ球形状、孔部長円形状
13	"	2.5	2.6	0.6	16	"	"	不整形球形状、孔部長円形状
14	"	3.1	3.3	0.6	36	"	覆土中	ほぼ球形状、孔部三ヶ月状
15	"	2.7	3.0	0.7	30	"	"	つぶれた球形状、孔部長円形状
16	"	3.0	3.2	0.8	15	"	"	不整形球形状、2分の1欠

第47号住居址（第131・132・133図）

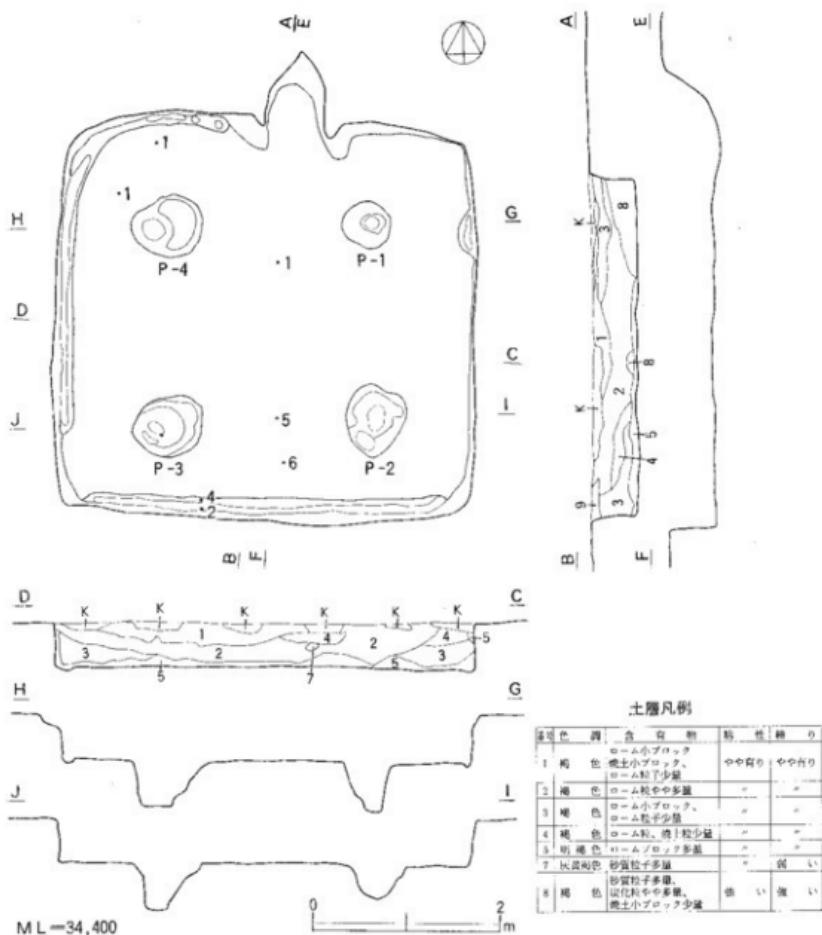
本址は、41号住居址の北側2区、L-16・17 グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に位置し検出された。北側で48号住居址を切り込み複合関係にある。主軸をほぼ北に置き、東西4.4m、南北4.1m、北隅のやや丸味をもつ方形プランを呈している。壁面はほぼ鋭角に立ち上がり深さは50cm～55cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められ壁面周辺部はやや弱い。中央部が僅かに高いがほぼ平坦に移行している。柱穴は4ヶ所確認され径60cm～80cmほどの楕円、深さは30～50cmを測り二回前後の掘り替が考えられる。周溝は、西側と南側及び竈西に浅く認められる。

竈は、北壁中央部やや東寄りに遺存し状態は良い。袖部は僅かに付設した感じで認められ焚口は開き、火床部は中程に位置。壁面は赤褐色に焼けている。火床部が最も掘り込まれていて煙道部はゆるく立ち上がる。形態的にはUの字状の掘り込みを呈している。袖部は砂質のやや多い褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや強い。

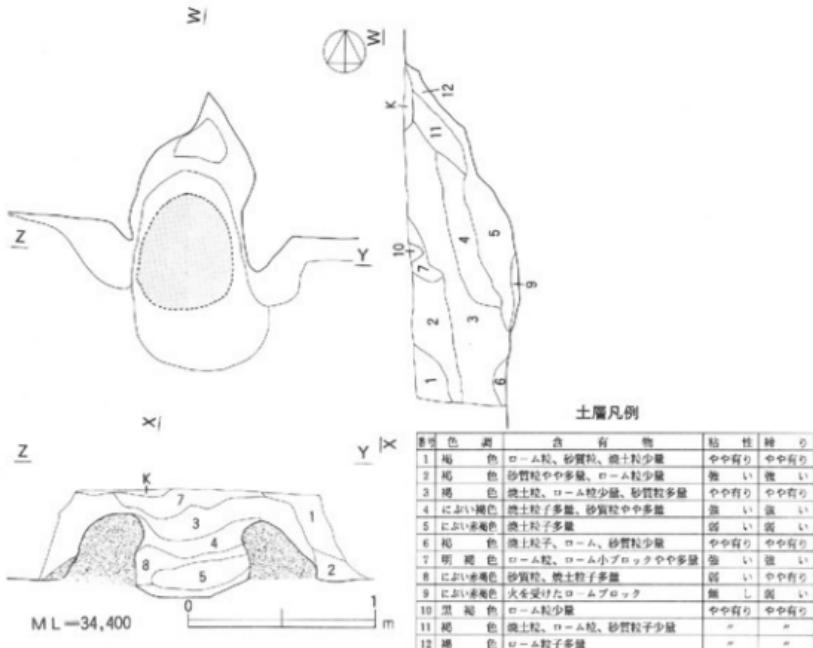
覆土は、5・7層を除きいずれも褐色層でローム粒子、ローム粒、ロームブロックの混入の差であり5層は、明褐色へと明るさを増してロームブロックを多量に含む。1層は灰褐色質粘土を

含む。

遺物は、全体的に少なく須恵器等が数点出土している。壺の口縁部は丸く收めるものとつまみ出し気味のものが見られ器肉は薄く水平に近く開く。碗は内傾、小型のものもみられそのほか手捏土器が出土している。



第131図 第47号住居址実測図

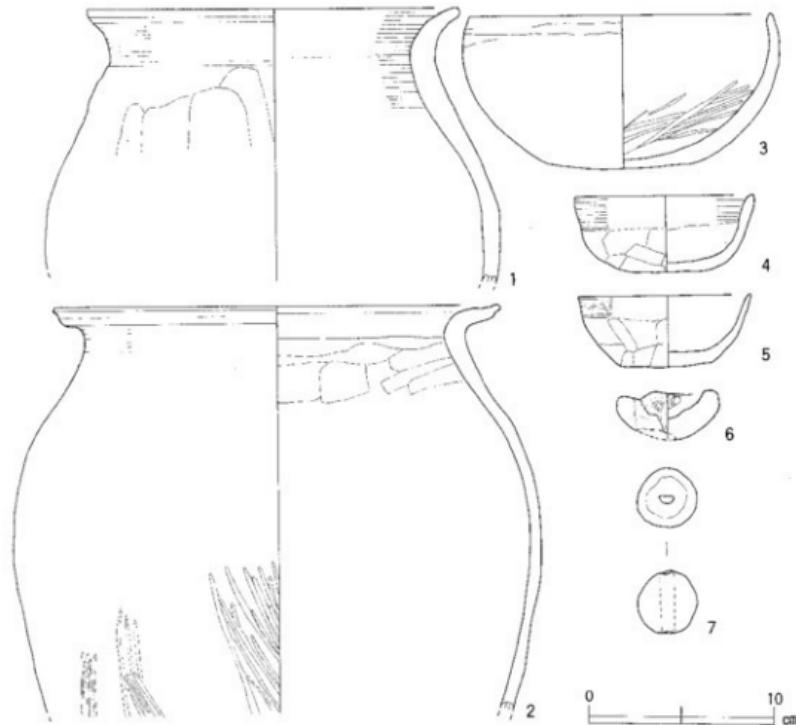


第132図 第47号住居実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、施成	備考
1	甕 土師器	A 19.8	頸部くびれは弱い、口縁部外反、口唇部肥厚 気味、丸く収め凹凸あり。	横ナデ、鏡削り ナデ	礫、長石 にじみ褐色 普通	30 %
		B				電内
		C				
2	甕 土師器	A 23.3	やや長脚形を呈する。最大径を胴上位に置き 頸部「く」の字状に強く外反、口唇部は斜上方へつまみ出す。器内は薄い。	横ナデ、鏡ナデ 状 鏡削り ナデ	礫、雲母、石英、長石 にじみ褐色 普通	30 %
		B				+
		C				5
3	碗 土師器	A 16.2	平底気味から内側して立ち上り口縁部内側口 唇部尖り気味、外面部後度收す。环より碗に 近い。内面削制の鏡削き	ナデ 鏡削き 粘土紐巻上げ?	粘土(礫、板状) にじみ褐色 (にじみ黄褐色) やや良	30 %
		B 8.3				P.覆土
		C 6.3				
4	小型碗 土師器	A 9.3	安定した平底からゆるく内側して器肉を減じ ながら立ち上り、口縁部は尖る。	横ナデ、鏡削り ナデ	礫、長石、石英 淡い赤褐色 普通	80 %
		B 3.9				+
		C 5.0				17
5	碗 土師器	A 9.6	安定した平底から内側して立ち上り、口縁部に かけてやや肥厚、口唇部は丸く收める。(底 部へラケズ)	横ナデ、鏡削り ナデ	礫、長石 にじみ褐色 普通	60 %
		B 4.1				+
		C 4.2				10

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
6	手捏 土師器	A 5.4 B 約 3.4 C 5.2	平底気味、指頭押えによる指文を残し、口縁 圓凸、内側「U」字状。粗雜	指頭による押え。ナデ	雲母、小砂 淡い黄褐色 やや不良	90 % + 7



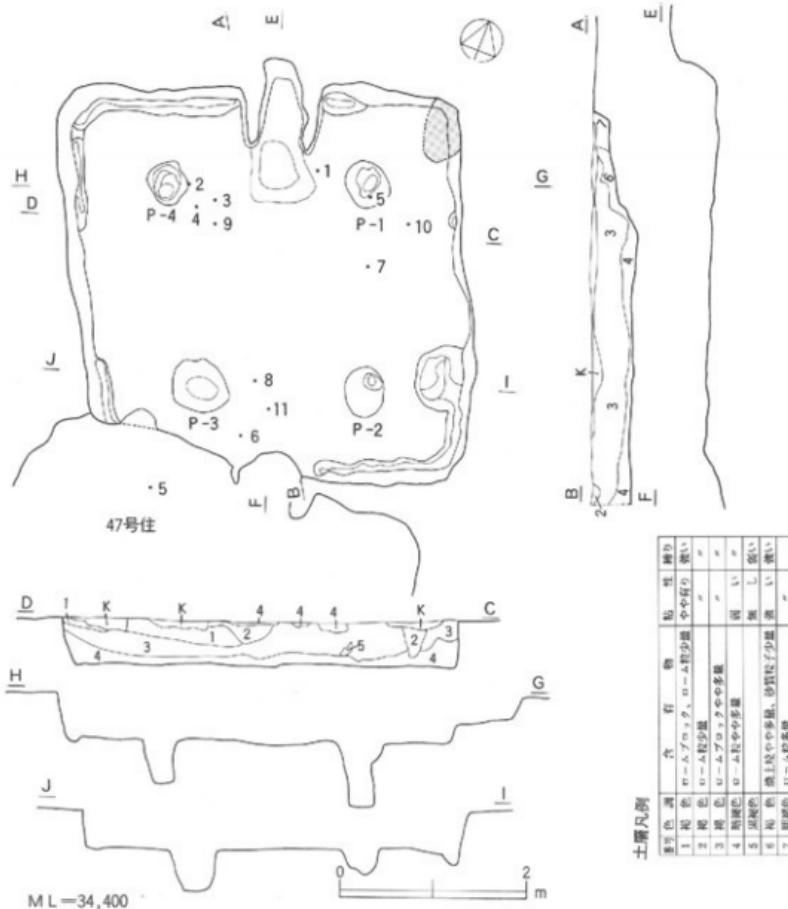
第133図 第47号住居址出土遺物実測図

土鍤一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
7	土鍤	3.3	3.2	0.9	28	土製	覆土中	長円形状、孔部三ヶ月状

第48号住居址（第134・135・136・137図）

本址は、47号住居址の北側2区、L-14・15 グリットを中心に確認された住居址で台地のはば平坦な面に位置し検出されたが南側の一部を47号住居址に切り込まれる。主軸をN-20°-Wに置き、東西、南北とも4.4mを測り、隅部のやや丸味を持つ方形プランを呈している。壁面はほぼ銳角に立ち上がり深さは40cm～50cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められ良好、ほぼ平坦に移行している。柱穴は4ヶ所確認され径40cm～50cmの楕円気味、深さはP2は30cm、P



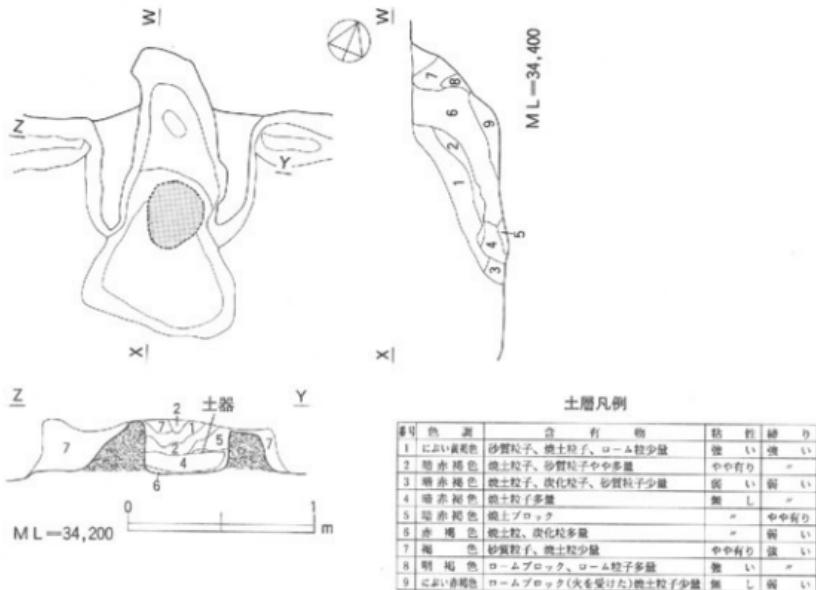
第134図 第48号住居址実測図

1は70cmそのほかは50cm前後と径と深さが同一である。周溝は、北東隅部を除き浅いがゆるいU字状の掘り込みをもち隅だけ巡る。その他、北壁東側に僅かに確認出来た。

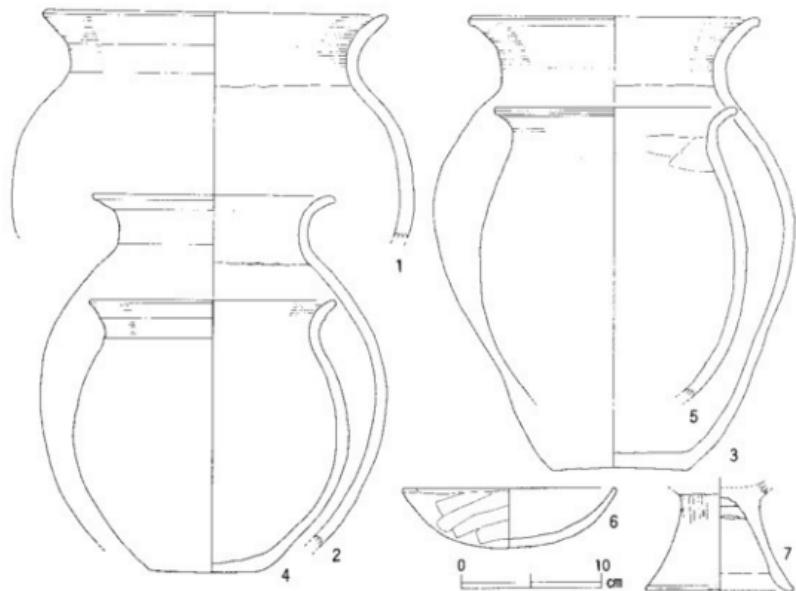
竈は、北壁中央やや東側寄りに検出され遺存状態は良い。袖部は直線的に付設、焚口部で僅かに内湾。火床部は前面に位置し底部は平に移行、煙道部は強く立ち上がる。形態的にはUの字状の掘り込みを呈しているが掘り込みは浅い。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性は弱い。前面には灰原と考えられる浅い掘り込みがみられた。

覆土は、褐色から暗褐色へ変り自然埋積の様相を呈している。1・2・3・6層は褐色、4層は暗褐色、7層は明褐色、これはローム粒子、粒、ロームブロックの混入の差である。

遺物は、全体には少ないが竈前面に集中して出土、そのほか南側壁部近くに坏が見られいずれも柱穴付近に位置して検出された。土師器壺は口縁部長目、口唇部は丸く收め球洞形と長洞気味のものが見られる。坏は半球形、高坏は脚部が弱く聞くものがある。



第135図 第48号住竈実測図

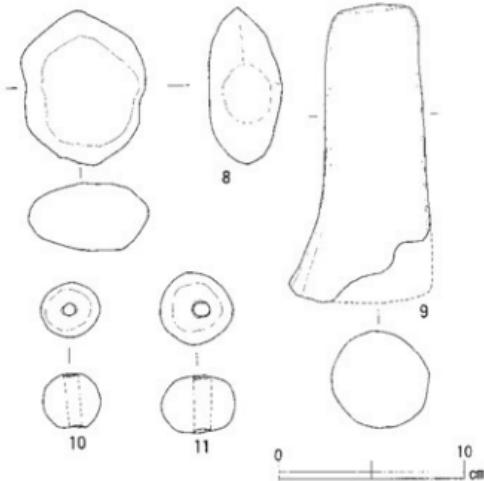


第136図 第48号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 上部器	A 24.3 B C	頸部「く」の字状外反、口唇部肥厚し、口唇部丸く収める。球形胴に近い器形。 内面輪積痕を残す。	横ナデ?ナデ 横ナデ	陶、石英 淡い黄褐色 やや良	30 % 床直
2	壺 土器	A 17.0 B C	球形胴を呈し頸部「く」の字状口縫は水平に開き口唇部は丸く収める。頸部長目。	ナデ	陶、砂 口唇黄褐色 (にぶい黒褐色) やや不良	60 % 床直
3	壺 上部器	A 20.4 B 32.0 C 9.5	安定した平底から内脣して立ち上り、最大径を横ナデ、ナデ 剥上位に置き、やや長胴形に近い器形。頸部、「く」の字状外反、口唇部、下方へ肥厚丸く 収める。	陶 にぶい黒褐色 普通	70 % 床直	

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
4	甕 土師器	A 17.3 B 19.3 C 7.7	安定した平底から内側して立ち上り、頸部「く」の字状外反、口唇部は丸く収める。(内外剥離多し)	横ナデ、ナデ	礫、砂 にぶい黒褐色 やや不良	80 % 床 直
5	甕 土師器	A 17.1 B C	最大径を胴中位に置き頸部のくびれは弱い。口縁部水平に近く外反口唇部丸く収める。長脚形状小型甕。	横ナデ、ナデ 長脚削り	礫、砂 にぶい黒褐色 やや不良	30 % + 9
6	甕 土師器	A 15.0 B 4.3 C 2.0	丸底気味からゆるやかに内側して立ち上り口唇部はわずかに直立気味。半球形状。口唇部は外面カット状。	箝削り、ナデ	礫 にぶい黒褐色、 (にぶい黄褐色) 普通	50 % 床 直
7	高 甕 土師器	A B C 10.5	頸部を欠少し形態不明、腹部はゆるく「ハ」の字状に開き、端部は肥厚し丸く収めている。	箝削り、ヘラミガキ ナデ	礫 暗褐色 やや不良	30 % + 13



第137図 第48号住居址出土遺物実測図

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	山土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
8	敲 石	8.1	6.5	4.0		砂岩	甕土中	敲石か不整形で使用痕はわずか
9	支 脚	15.8	5.9	6.4		土 製	床 直	下部欠。由支脚部が下位で強く「ハ」の字状に開く
10	土 篓	3.0	3.8	0.9	39	"	+ 36	球形状、孔部使用のため丸味を両端にもつ
11	"	2.8	3.1	0.7	23	"	+ 27	つぶれた球形状、孔部円形

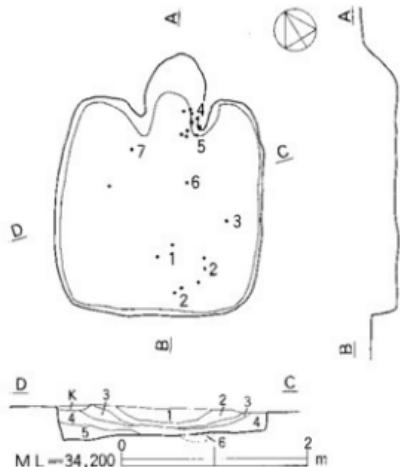
第49号住居址（第138・139・140図）

本址は、47号住居址の東側2区、N-16グリットを中心に確認された住居址で台地がゆるく南、東側に傾斜をする位置に検出された。主軸をN-32°-Eに置き、東西2m、南北2.2m隅部の丸味をもつ小型の方形プランを呈する。壁面はやや開いて立ち上がり深さは南側で30cm、東側22cm、西側は40cmを測る。この付近から台地の傾斜はやや強くなる。床面は竈前面は踏み固められていたがその他はローム剥き出しの感じで締まりは悪く中央部が僅かに高い。柱穴、周溝は確認出来なかつた。

竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は良い。袖部は直線状に付設し開く。火床部は中位に位置し浅く掘り込まれていて煙道部はややゆるく立ち上がる。半円形状の掘り込みを呈し形態的にはU字状。袖部は砂質の少ないにぶい灰褐色の粘土を用い築かれ粘性は強い。

覆土は、レンズ状にはほぼ自然埋積の様相を呈している。序々に明褐色層へ替わる。1層確認面は黒褐色その他の層は、ローム粒子、ロームブロックの混入の差である。

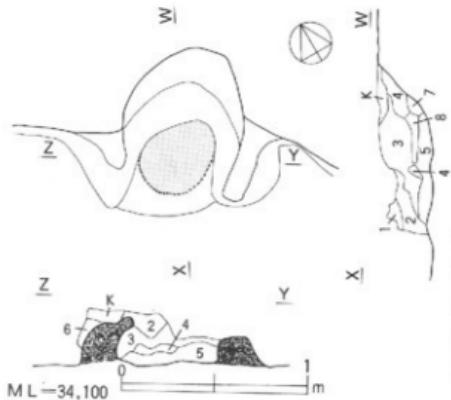
遺物は、やや多くみられ口縁短く〔く〕の字状に外反するものと口唇部につまみ出すもの、鉢に近い小型甕、平行叩き目をもち孔部三ヶ月の透しをもつ甕、壺は、器肉を減じて立ち上り口唇部丸く収める須恵器、盤等が見られ、いずれも竈前、竈の中から出土、そのほか刀子[196図16]が検出された。



土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘 性	結 り
1	黒褐色	ローム粒、焼土粒少量	弱	い やや硬り
2	暗褐色	ローム小ブロック、焼土粒少量	やや有り	〃
3	褐 色	ロームブロック、焼土粒少量、ローム粒	〃	〃
4	褐 色	ローム粒、ローム小ブロック	強	い 強 い
5	明褐色	ロームブロックや多量	やや有り	〃
6	明褐色	漆	-	-
7	明褐色	ローム粒、砂質粒 ローム粒子少量	強	い 強 い

第138図 第49号住居址実測図



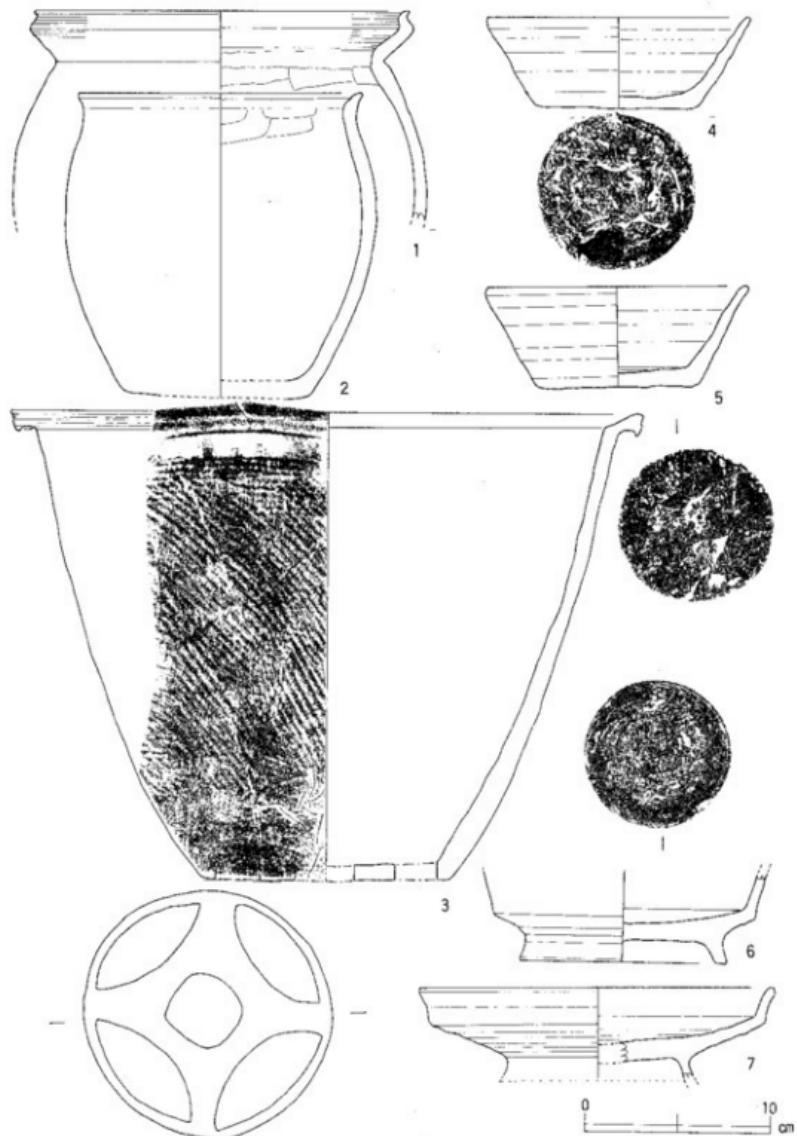
土層凡例

番号	色調	含有物	性状	硬さ
1	褐色	地土粒、砂質粒子少量	弱い	弱い
2	褐色	地土粒少、砂質粒子や多量	やや有り	=
3	にぼい赤褐色	地土粒子、砂質粒子や多量	"	やや有り
4	明赤褐色	地土ブロック多量	無し	弱い
5	移暗赤褐色	地土粒や多量、ローム粒少	"	=
6	褐色	ローム粒少量	やや有り	=
7	暗赤褐色	炭化粒、ロームブロックや多量	無し	=
8	にぼい赤褐色	砂質粒多量、地土粒少量	やや有り	やや有り

第139図 第49号住居実測図

出土器銀表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土器	A 20.0 B C	器肉は薄く、頸部「く」の字状に外反、口唇部は一旦内傾してから上方へ長目につまみ出す。(調整粗雑)	横ナデ、ナデ 鏡削り	礫、石英、雲母 暗い褐色暗褐色 やや良	10 % + 3
2	小型甕 土器	A 15.3 B 16.4 C 9.5	安定した平底と思われる底部から内傾して立ち上り、短い口縁部へ移行し、口唇部は斜上方へつまみ出し気味丸く収める。躰に近い。	ナデ、跑削り	礫 淡い褐色 普通	70 % + 5
3	瓶 須恵器	A 33.3 B 25.4 C 13.3	底部中央に円形、四方に半円形状“すかし”孔をもち、胴部は開き気味に直線的に立ち上り、口唇部は水平に聞く、口唇部下方へつまみ出す。調整や粗雑。(輪粗削を残す)	叩き 鏡削り ナデ	礫、石英、雲母 灰白色 普通	60 % 床直
4	环 須恵器	A 14.0 B 5.0 C 8.5	安定した平底から開き気味に直線的に立ち上り、口唇部は器肉を減じているが丸く収める。	粘土絞巻き上げ 回転ミズビキ(ロク ロ水引?) 左廻り	礫、石英 褐色 やや良	90 % + 4
5	环 須恵器	A 14.0 B 5.5 C 8.5	安定した平底から開き気味に直線的に立ち上り、口唇部外傾し丸く収める。(底部ヘラ切り)のちナデ調整か?。	粘土絞巻き上げ 回転ミズビキ 左廻り	礫、石英 褐色 やや良	95 % 窯内
6	高台环 須恵器	A B C 11.0	付高台は、直立気味に立つ端部をわずかに張る、体部は直線的に立ち上る。高台や長目。	粘土絞巻き上げ 回転ミズビキ ナデ 左廻り(付高台)	礫、石英 青灰色 やや良	60 % + 2
7	盤 須恵器	A 19.0 B C	付高台部は薄く直立気味、体部は開き気味に立ち上り口縁部外傾、口唇部丸く収める。高台部薄く張は弱い。	粘土絞巻き上げ 回転ミズビキ、ロク ロ?(付高台)	礫、石英 褐色 やや良	10 % + 20



第140図 第49号住居址出土遺物実測図

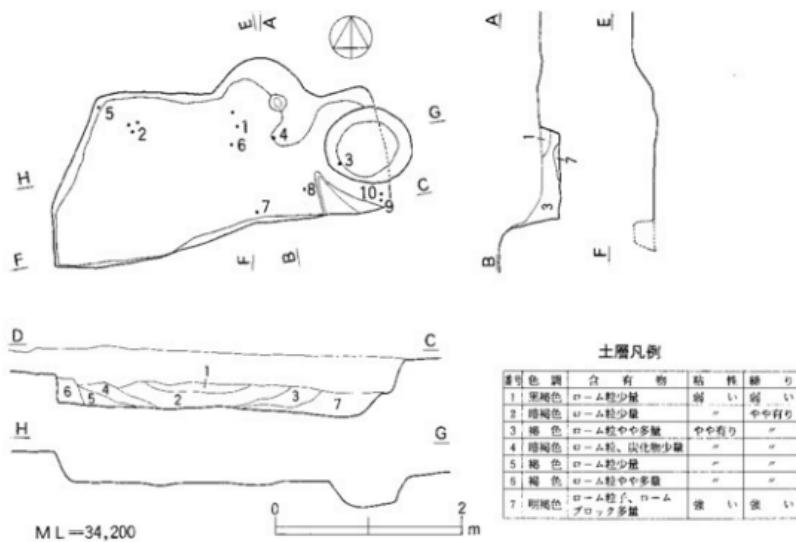
第50号住居址（第141・142図）

本址は、41号住居址の東側2区、Q-17グリットを中心に確認された住居址で台地がゆるく南側に傾斜をする位置に検出された。主軸をN-15°-E前後に置き、東西3m前部のやや丸味をもつ方形プランを呈すると思われるが大半をエリア外に置き又芋穴等の攪乱があり正確な形態は不明。壁面は東側は鋭角に西側はゆるく立ち上がり深さは30cm~35cmを測る。床面は竈の前面は踏み固められていたがその他はローム剥き出しの感じで中央部が僅かに高い。柱穴、周溝は確認出来なかった。

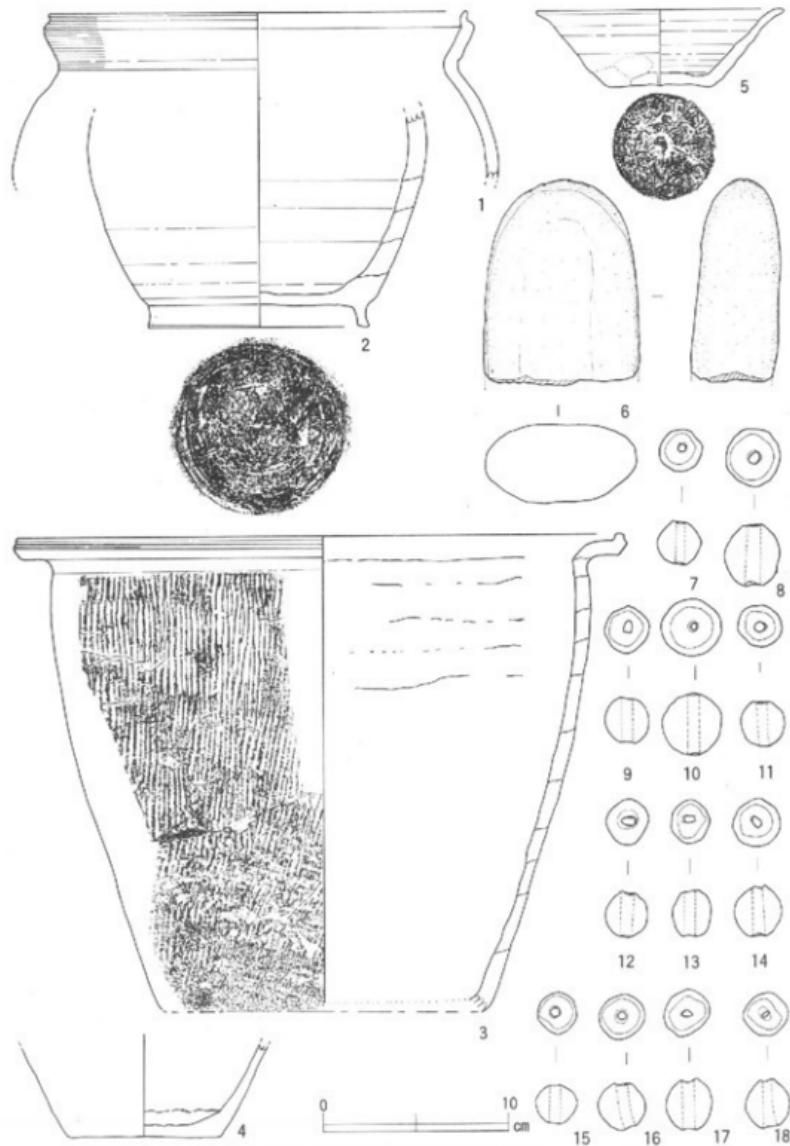
竈は、北壁中央部や東側寄りに検出され遺存状態は悪く片方袖無し？右袖は内傾気味に付設火床部は前面に位置し浅く掘り込まれていて煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的には半円形状を呈する。袖部は砂質の多いにぶい黄褐色の粘土を用い築かれ粘性は弱い。

覆土は、レンズ状にはば自然埋積の様相を呈している。2・4層は暗褐色、1層は黒褐色、3・4層は褐色、7層は明褐色、これはローム粒子、ロームブロックの混入の差である。

遺物は、やや多くみられ長頸瓶と思われる2、平行叩き目を持つ3の須恵器と口唇部上方につまみ出す甕が見られる。いずれも竈前から投げ込み状で出土、そのほか土製丸玉が12点程が検出された。



第141図 第50号住居址実測図



第142図 第50号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 22.4 B C	器形的には長胴形を呈すると思われる。頸部「く」の字状外反や厚唇、口唇部は5mm程長くつまみ出し直立気味、器内薄い。	横ナデ、ナデ	礫、石英 にぶい暗褐色 普通	10 % 窯内
2	長頸瓶 須恵器	A B C 11.9	脚部は短く直立気味、胴部は内彎して立ち上がる。(粘土絆巻上?) 長頸瓶の可能性が強い。器身は1~1.5 cmと厚い。	粘土絆巻上げ? 回転ミズビキ(クロコ水引か?)	礫 灰褐色 やや良	50 % + 15
3	鉢 土師器	A 32.7 B C	安定した平底と思われる底面から開き気味に立ち上り、腹部はわずかにくびれ、口縁部は水平に近く開き口唇部上方へ丸くつまみ出す。(下部へラケズリ) 外面縁位の平行叩き目。	叩き、ナデ、鍛削り 粘土絆巻上げか?	礫、石英、雲母 黒褐色 普通	30 % + 9
4	小型甕 土師器	A B C 8.1	平底から開いて直線的に立ち上る。器肉は薄い。小型甕か? 底部に木葉痕あり、器内外側離多く不明、内面粗雑な調整。	ナデ?	礫 にぶい暗褐色 やや不良	15 % + 15
5	环 須恵器	A 13.2 B 4.0 C 5.7	底部はやや小さめで、体部は開いて立ち上り、口縁部は水平に近く口唇部は丸く收めている。口唇に向って器肉を減じている。	粘土絆巻上げ、鍛削り 回転ミズビキ ナデ	礫、石英、雲母 灰白色 やや良	40 % + 13

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
6	敲石		8.2	4.3	669	安山岩	+ 11	敲石? 片側欠失刃部磨耗痕顯著
7	土鍤	1.9	2.3	0.5	10	土質	+ 23	不整形球状、孔部小円形状、小型
8	"	2.2	2.3	0.5	26	"	+ 2	長円形球状、孔部楕円形状、大型
9	"	3.2	2.9	0.7	14	"	+ 12	長円形球状、孔部長円形状、
10	"	2.4	2.4	0.8	31	"	+ 11	ほぼ球形状、孔部小円形状、大型
11	"	3.3	3.2	0.7	12	"	床直	不整形球状、孔部円形状
12	"	2.4	2.2	0.7	12	"	覆土中	長円形球状、孔部長円形状、
13	"	2.5	2.0	0.6	12	"	"	長円形球状、孔部長方形状
14	"	2.6	2.5	0.5	15	"	"	不整形長円球状、孔部長円凹気味
15	"	2.1	2.1	0.5	14	"	"	不整形球状、孔部正円形状、小型
16	"	2.5	2.4	0.6	12	"	"	不整形球状、孔部橢円形状、澗曲
17	"	2.6	2.4	0.6	12	"	"	長円形球状、孔部三ヶ月状
18	"	2.5	2.4	0.4	11.5	"	"	長円形球状、孔部長円形状

第51号住居址 (第143・144図)

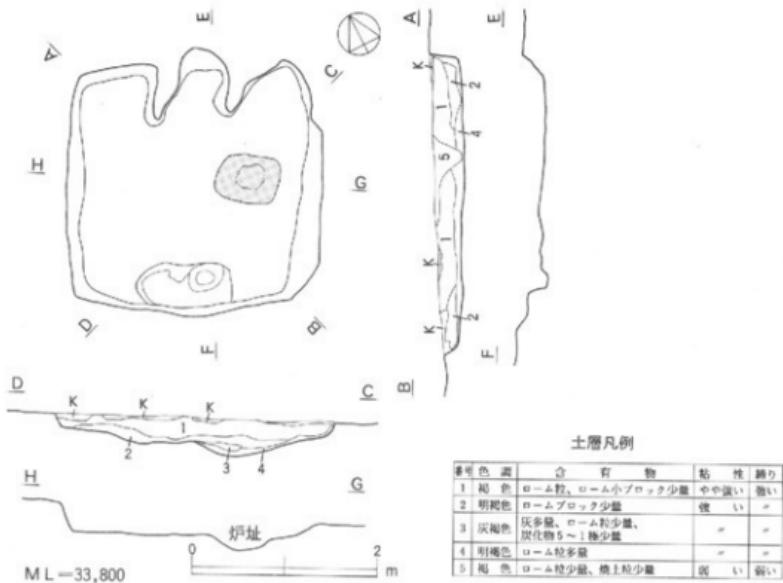
本址は、50号住居址の東側2区、Q-15・16、R-15・16グリットを中心に確認された住居址で東南側に傾斜を示す位置に検出された。主軸をN-26°-Eに置き、東西、南北2.5m程の隅部のやや丸みをもつ方形プランを呈している。壁面はゆるく開いて立ち上がり深さは南側で10cm、

東側で15cm、北側15cm、西側は40cmを測る。床面は凹凸が多く縮まりは悪く僅かに竈の前が踏み固められていたに過ぎず、中央部東側にはやや浅い掘り込みながら炉跡が検出され、南側壁面部には小ビットが認められる。柱穴、周溝は確認出来ない。

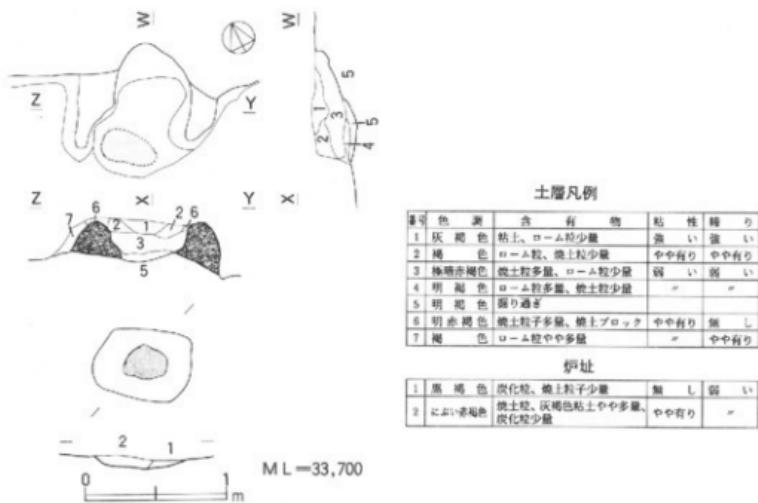
竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は良い。袖部は直線的に長く伸びる。火床部は袖部の前面に位置しやや掘り込まれていて煙道部はゆるく立ち上がる。形態的には[U]の字状を呈しているが外部への掘り込みは僅かで住居内に築いている。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性は強い。焚口は開く。

覆土は、ゆるやかなレンズ状のほぼ自然埋積の様相を呈している。1・5層は褐色、2・4層は明褐色、これはローム粒子、粒、ブロックの混入の差である。3層は炉跡の層序になり灰を多量に含み灰褐色、炭化粒及び粒子、焼土粒子と灰褐色粘土を多く含む層等が認められ底部はロームがブロック化していた。地床炉？。(本遺跡唯一の例)

遺物は少なく須恵器破片が数点土師器破片が30片程出土しているに過ぎずいずれも小破片であり床面から検出されたものは無く図示出来るものはなかった。時期的には50号住居址前後と思われる。



第143図 第51号住居址実測図



第144図 第51号住居実測図

第52号住居址（第145・146・147図）

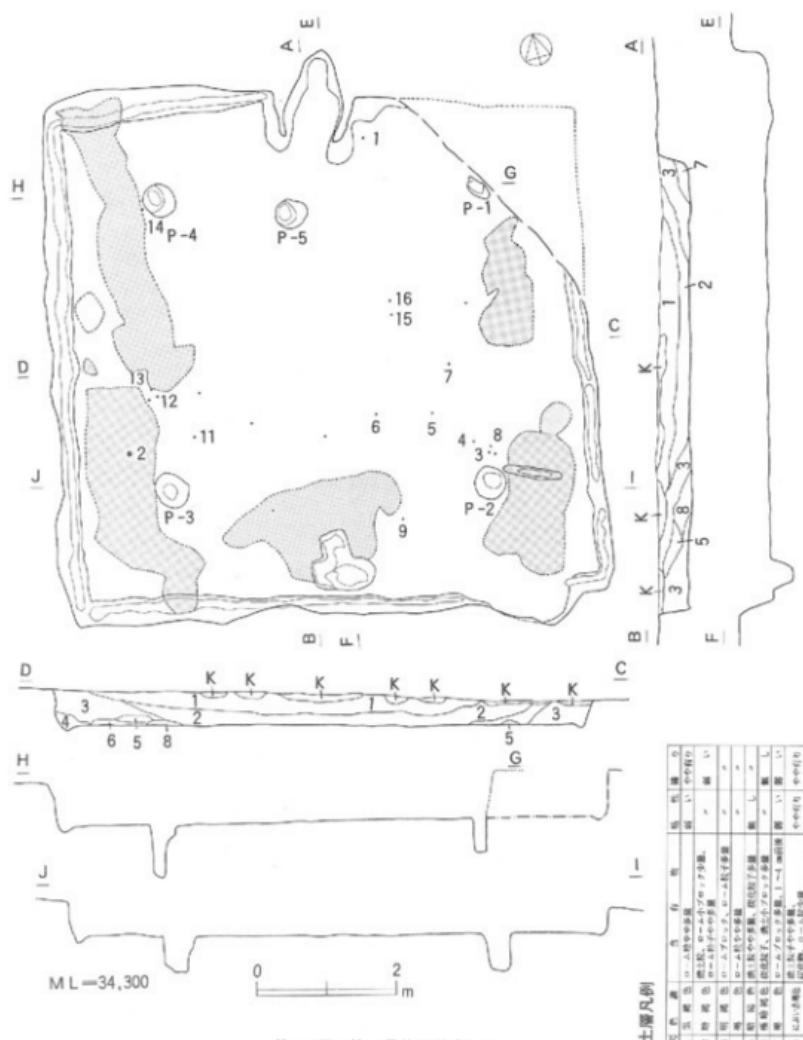
本址は、51号住居址の北側2区、P-10・11、Q-10・11グリットを中心に確認された住居址で台地はゆるやかに東側に傾斜を示す面に検出された。主軸をN-17°-Eに置き、東西7.8m、南北7.6mのほぼ方形、大形のプランであった。壁面はやや開いて立ち上がり深さは38cm～55cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められ平均に良く締まり踏み固められていた。中央部が僅かに高いがほぼ平坦に移行し一部に床面の焼け、炭化物等もみられる。柱穴は4ヶ所確認され35cm～50cmの円形、深さは50cm～70cmその他ピットが竈前に1ヶ所、南側に1ヶ所検出されたが南側のものは上層はから柱穴とは性格を異にすると考えら貯蔵穴の“ナゴリ”とも推察される掘り方である。周溝は、浅いがU字状の掘り込みで巡る。

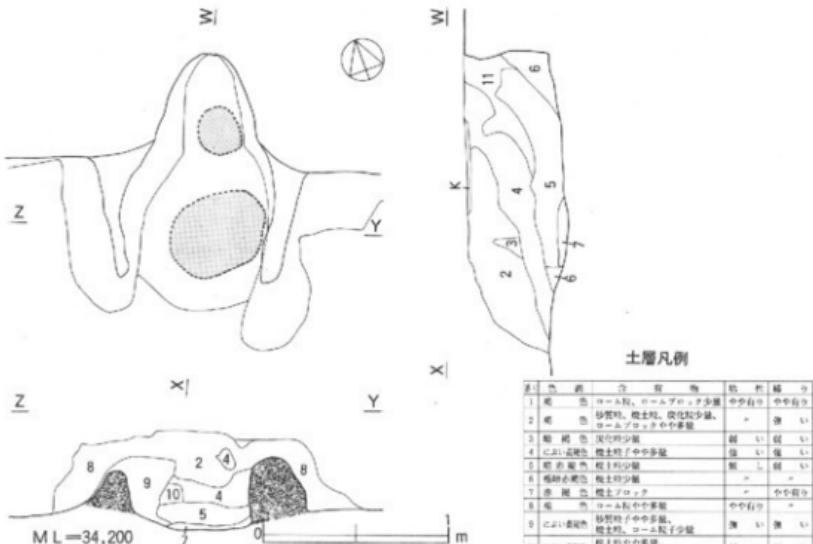
竈は、北壁中央部に検出された遺存状態は良い。袖部は直線的に伸び焚口部を僅かに内傾させ長目に付設、火床部は袖部の中程とU字状の掘り込みの内部の二ヶ所に認められ、前面の火床部はやや掘り込まれ奥は平坦に移行、煙道部は垂直に立ち上がる。形態的にはUの字状を呈している。袖部は砂質のやや多いにほい黄褐色の粘土を用い築かれ粘性はややある。

覆土は、レンズ状にゆるくほぼ自然埋積の様相を呈している。1層は黒褐色、2層は暗褐色、3層は明褐色、そのほか壁面周辺に投げ込み状の層も見られる。

遺物は、やや多くみられ小型坩が焼土下の床直で出土し甕は器肉が厚く口唇部は丸く収め、坏

は肩部に顯著な稜をもつものと半球形のものがみられる。土製丸玉が13点程、支脚等が出土している。





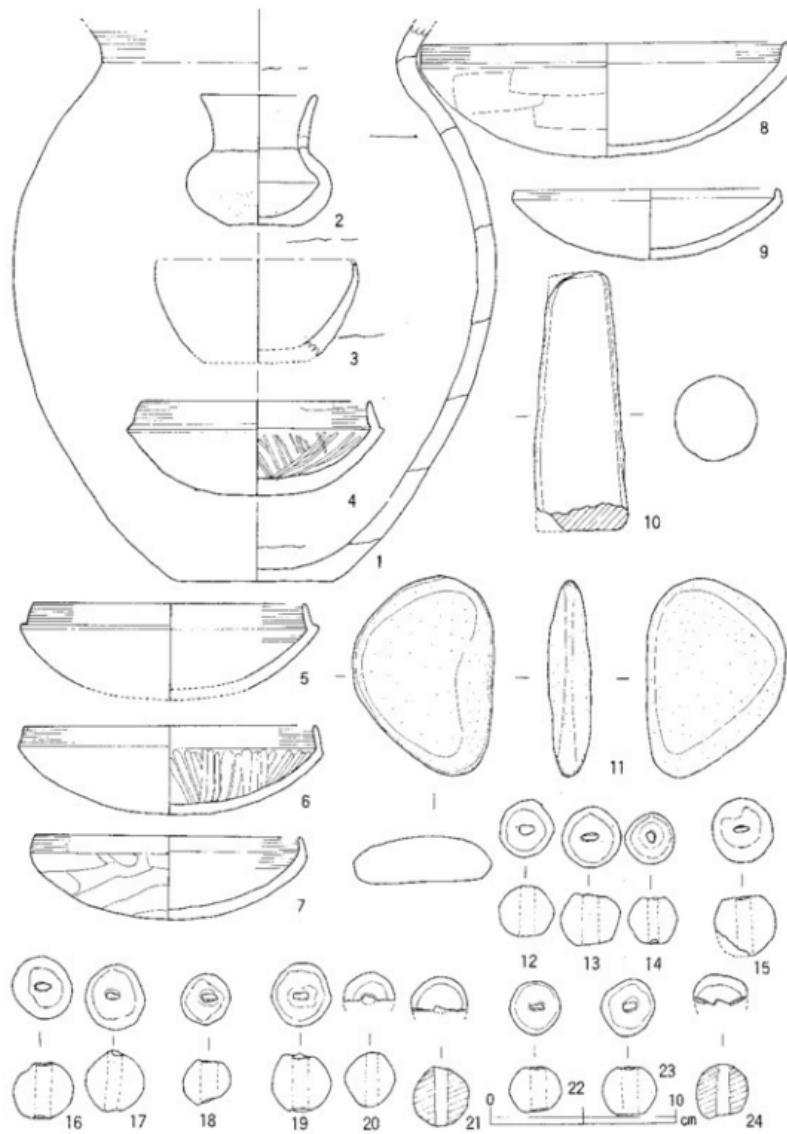
第146図 第52号住居実測図

土層凡例

番号	色	性質	含水率	物質	粒度	粒度	分類
1	褐色	ローム粘、ロームブリト、ク少量	やや有り	やや有り	細	細	Ⅰ
2	褐色	ロームブリトやや多量	無	無	粗	粗	Ⅱ
3	褐色	褐色の少量	無	無	細	細	Ⅲ
4	こいの葉色	褐色粘土のやや多量	無	無	粗	粗	Ⅳ
5	褐色	褐色の少量	無	無	細	細	Ⅴ
6	褐色の赤色	褐色粘土の少量	無	無	粗	粗	Ⅵ
7	褐色	褐色ブロック	無	無	細	細	Ⅶ
8	褐色	ローム粘やや多量	やや有り	無	粗	粗	Ⅷ
9	こいの葉色	褐色粘土のやや多量、褐色砂利、上部粘土少量	無	無	細	細	Ⅸ
10	こいの葉色	褐色粘土の少量、褐色砂利、下部粘土少量	無	無	細	細	Ⅹ
11	褐色	褐色粘土の多量	強	強	粗	粗	Ⅺ

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土師器	A B C 8.3	安定した平底から内側して立ち上がり最大径を胴部中位に置き、やや長削化している。器肉は一定して1cm前後と厚い。	横ナデ? ナデ、ヘラ ナデ状(内面輪筋痕 跡を残す)	礫、石英、雲母 にぶい暗褐色 普通	40 % 床直
2	小型壺 土師器	A B C 6.2 7.0 4.0	平底から内側して立ち上り胴中位で「く」の字 状に内傾、颈部から開き気味で直線的に口盤部へ立ち上る。口唇部は開き気味丸く収める。 胴部つぶれた球形状(ミニアーチ的)。	ヘラ磨状、箝削り ナデ	礫 赤褐色	99 % 床直
3	碗?	A約17 B約 5.6 C約 5.5	平底を呈する小型の碗形と思われる。内側で直線的に立ち上り口縁でつよく内傾、口縁部に向て器肉を感じる。	ナデ	礫、石英 にぶい黒褐色 普通	30 % 床直
4	环 土師器	A B C 12.4 5.1 3.7	丸底気味の底部からゆるく内側して立ち上り 肩部に顕著な棱を有し口縁部内傾、やや長目、 口唇部尖る。内面亂剥き。	横ナデ、ヘラ磨き	礫、長石、石英 にぶい赤褐色 やや良	60 % + 20
5	环 土師器	A B C 14.8 5.2 3.7	丸底に近い底部からゆるやかに内側して立ち 上り肩部に顕著な棱をもち口縁部内傾、器肉 薄い、口唇部丸く収める。	横ナデ、ナデ	礫 I部に浅い赤褐色 にぶい黒褐色 普通	20 % + 8
6	环 土師器	A B C 15.9 5.8 2.5	丸底気味の底部からゆるやかに内側して立ち 上り口縁部は「く」の字状に内傾、薄い。口 唇部は尖る。内面亂剥き。	横ナデ、ヘラ磨き ヘラ磨き	礫 にぶい黒褐色 普通	床直



第147図 第52号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
7	环 土師器	A 14.3 B 4.5 C 1.5	丸底からゆるやかに内側して立ち上り肩部から内傾し、器肉を減じて口唇部へ移行尖る。 口唇部や長目。	横ナデ、施削りナダ	疊 にない灰褐色 普通	95 % + 10
8	环 土師器	A 19.7 B 6.1 C 3.6	口径19.7cmを測る大型の环で、丸底気味からゆるやかに内側して立ち上り口縁部直立し、 口唇部尖り気味。	横ナデ、施削りナダ	疊 にない黒褐色 普通	70 % 床 直
9	环 土師器	A 14.5 B 3.7 C 1.5	丸底の底部からゆるやかに内側して立ち上り口縁部短く直立し、口唇部尖り気味。	ヘラナデ、ミガキ状	疊 にない黒褐色 普通	80 % 床 直

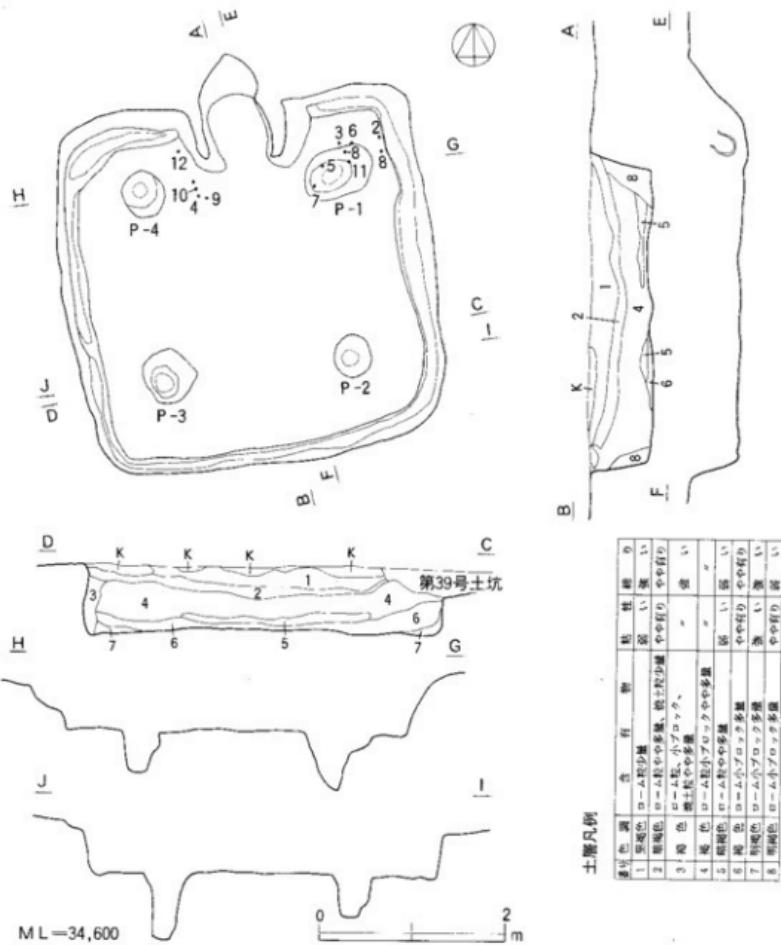
石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
10	支脚?		4.9	4.6		土 製	床 直	下部を欠失しているが軸身の円筒状
11	石器?	10.7	7.5	2.5	9	砂 岩	床 直	砾石?両端部に磨耗痕あり自然石状
12	土 磬	3.0	3.2	0.9	22	土 製	+ 3	ほぼ球形状、孔部横円形
13	"	3.2	3.1	0.8	29	"	+ 3	不整形の球形状、孔部三ヶ月状
14	"	2.3	2.6	0.9	13	"	+ 33	不整形の球形状、孔部長円状
15	"	2.9	3.1	0.8	28	"	+ 25	球形状、孔部長円形、1部欠失
16	"	2.8	3.1	0.6	9	"	+ 3	不整形球状、孔部長円形状
17	"	3.2	3.0	0.7	15	"	覆土中	長円形球状、孔部長方形形状
18	"	2.3	2.7	0.8	16	"	"	不整形球状、孔部1部欠失?
19	"	2.5	2.9	0.9	19	"	"	長円形球状、孔部長方形形状
20	"	2.6	2.8文	0.8	16	"	"	長円形球状、孔部長方形形状? 2分/1欠失
21	"	2.6	2.9	0.8	21	"	"	長円形球状、孔部長方形形状? 2分/1欠失
22	"	2.7	3.1	0.8	21	"	"	ややつぶれた球状、孔部長方形形状
23	"	2.5	2.6	0.5	17	"	"	球形状、孔部長円形状
24	"	3.1	3.2	0.8	22	"	"	長円形球状、孔部長方形? 2分/1欠失

第53号住居址（第148・149・150・151図）

本址は、52号住居址の西側2区、L-10・11、Q-10・11グリットを中心に確認された住居址で台地がややゆるやかに西側に傾斜を示す面に検出された。南東側隅部で第39号土坑に覆土を掘り込まれて複合関係にある。主軸をN-7°-Wに置き、東西3.7m、南北3.8m隅のやや丸みをもつ方形プランを呈している。壁面は開き気味に立ち上がり深さは50cm~62cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められ状態は良いが周辺部はやや弱い、中央部がやや高まる他はほぼ平坦に移行している。柱穴は4ヶ所確認されP4は径50、80cmの楕円形、深さは60cmを測るP1・2・3はほぼ円形50cm~60cm深さはP3が70cmと深い他は40cm~50cm、周溝は、浅いがゆるくU字状の掘り込みが認められ巡る。

竈は、北壁中央部に遺存し状態は良い。袖部は弱い「ハ」の字形状、火床部は前面に位置し外



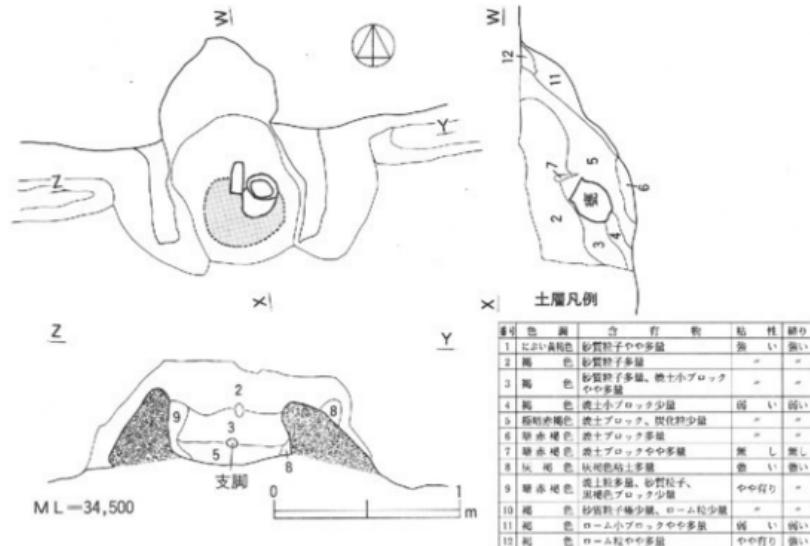
第148図 第53号住居址実測図

部へは僅かに半円状に掘り込む。火床部はやや掘り込まれ煙道部はゆるやかに立ち上がる。形態的にはU字状。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土上に用い築かれ粘性はやや弱い。

覆土は、一部が前述の39号土坑に掘り込まれる他はほぼ自然埋積の状態を呈している。1層は黒褐色、2・5層は暗褐色、3・4・6層は褐色、7・8層は明褐色と明さを増してローム粒子を多量に含み、ブロックの混入が多くなる。このような層位、上面黒褐色を呈する住居址は数軒

であり上坑を持つものが多い。

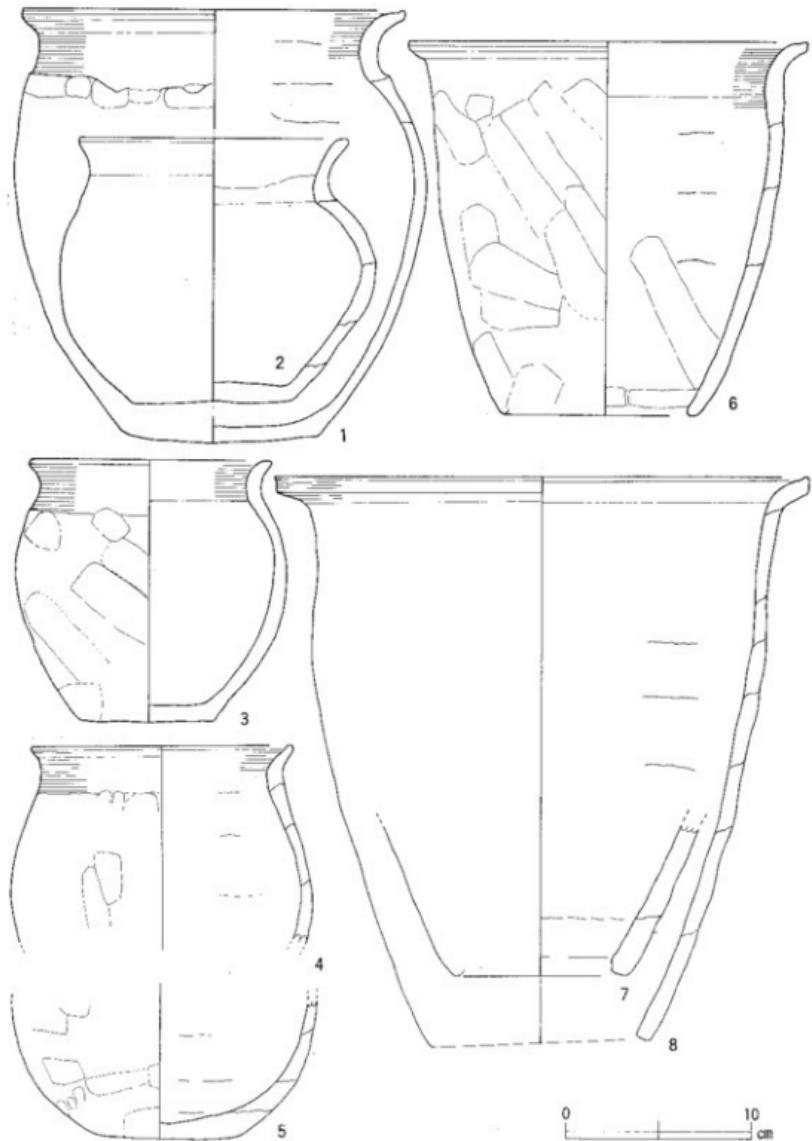
遺物は、全体的には少ないが完形品が竈の前、西側、東側及び内部から7点程出土しており中には瓶が二重に入る状態のもの、竈内からは支脚、甕が出土している。甕は口縁部が水平に開き短め口唇部をつまみ出し気味、甕は口唇部が短く砲弾形に近い形態と口縁部が水平に近く開き長目、器肉は薄く長胴形の二種類が見られ須恵器は安定した底部から直線的に立ち上がり底部は回転箇切り、粘土紐巻き上げ痕を残す。



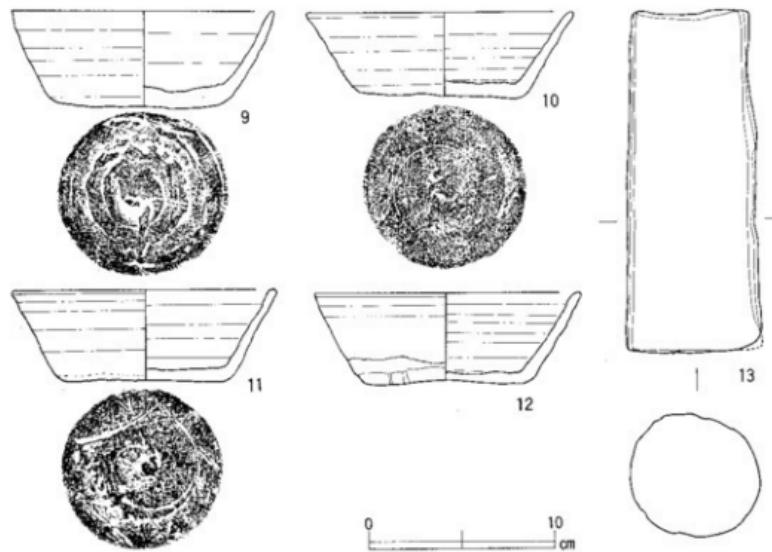
第149図 第53号住居実測図

出土土器観察表

番号	器 種	法 品(cm)	器形の特徴及び文様	発形技法	胎土・色調・焼成	備 考
1	壺 土師器	A 20.5 B 23.2 C 10.4	不安定な底部から内側して立ち上り最大径を調節やや上位に置き、頸部「く」の字状に外反、口唇部は上方へわずかにつまみ出し丸く收める。肩部に調整ハミダシ状の弱い棱状のものをもつ。内面輪積痕残す。	横ナデ、箠削りナデ	陶、石英、雲母 浅い黄褐色 下部にい黄褐色 やや良	100 % 竈内
2	小型甕 土師器	A 14.4 B 14.1 C 8.7	安定した平底から内側して立ち上り、最大径を中位に置き、頸部はやや強くくびれ口縁部は開いて立ち上り口唇部は丸味をもつ。	ナデ? 箠削り 暗褐色(黒褐色) 不良	陶、砂、石英	96 % 床直
3	小型甕 土師器	A 14.5 B 14.1 C 8.4	平底から内側して立ち上り頸部はゆるくくびれ口縁部は短く、口唇部は丸く收める。	横ナデ、箠削りナデ	陶、石英 にい黄褐色 普通	90 % 床直



第150図 第53号住居址出土遺物実測図



第151図 第53号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
4	小型甕 土師器	A 13.9	器肉は薄く、頭部のくびれは倒いが口唇部は斜上方へわずかにつまみ出し丸く収めている。	横ナデ、箒削り ナデ	礫、雲母、石英 淡い橙色(暗褐色) 普通	40 %
		B				+
		C				9
5	小型甕 土師器	A	安定した平底から内縁して立ち上る。やや球形側に近い小腹窪、内側に輪積痕を残す。	箒削り、押え、ナデ	礫、石英 にぶい橙色 普通	30 %
		B				床直
		C 7.0				
6	瓶 土師器	A 21.4	器形的には砲弾形状を呈し、頭部弱くくびれ 口縁部外反、口唇部は上方へわずかにつまみ 出し丸く収めている。器形的にはやや古い形 態をもつ。	箒削り、横ナデ ナデ	礫、石英 淡い黄橙色	98 %
		B 20.1				
		C 10.5			普通	床直
7	瓶 土師器	A	孔部は内側でカット、直線的に開く器形で器 肉は1~1.7cmと厚い。砲弾形状か?	ナデ	礫 にぶい黄橙色、一部黒 褐色、普通	15 %
		B				+
		C 9.1				20
8	瓶 土師器	A 28.6	孔部は角ばって収めや直線的に立ち上り口 縁部水平に近く外反し、口唇部上方へつまみ だす。器肉はやや薄い。	横ナデ、ナデ	礫、石英 にぶい黄褐色 やや良	99 %
		B 33.0				床直
		C 21.6				
9	环 須恵器	A 13.9	粘土紐巻上の痕跡を残し、右回転で盤形平底 から開き気味に直線的に立ち上る。口唇部丸 く収める。(底部ヘラ切り)	粘土紐巻上: 回転ミズビキ 箒切り	礫 褐色 やや良	100 %
		B 5.1				床直
		C				

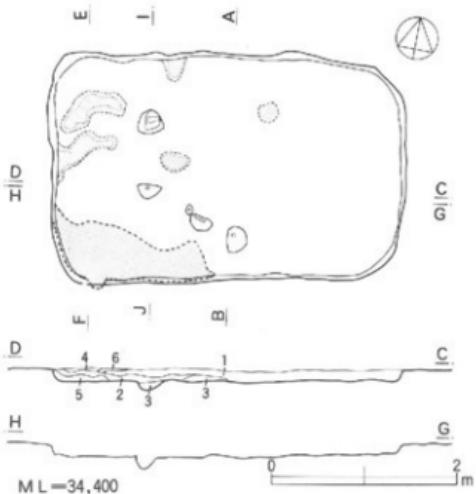
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
10	环 須恵器	A 14.3 B 4.5 C 8.7	安定した平底から開きながら直線的に口縁部に移行、口唇部はやや尖り気味（底部へラ切り）、縁輪1部あり。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 壓切り、左廻り	麗 緑褐色 良	100 % 床 直
11	环 須恵器	A 14.1 B 4.9 C 8.8	安定した平底から開きながら直線的に口縁部に移行。口唇部は肥厚し丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ 左廻り	麗、雲母 灰白色 やや良	40 % 床 直
12	环 須恵器	A 14.2 B 4.7 C 8.5	底部はやや上底気味に凹あり体部は口縁部に向って直線的に開いて立ち上り、口唇部はやや肥厚気味丸く収める。	粘土巻上げ、ナデ 回転ミズビキ、圧 削り、左廻り	麗、雲母、石英 灰褐色 普通	95 % 床 直

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
13	支脚	18.3	7.3	7.2		土 製	窓 内	円筒状、ほぼ光形に近い

第54号住居址（第152図）

本址は、36号住居址の北西側2区、G-16グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に位置し検出された。長軸をN-86°-Eに置き、長軸3.6m、短軸2.3m、隅部のやや丸みをもつ長方形プランを呈している。壁面は開いて立ち上がり深さは10cm前後と浅い。床面はほ



第152図 第54号住居址実測図

層号	色	調	含 有 物	粘 性	綿 り
1	暗褐色		ローム粒少量、燒上粒、 施錆褐色粒や多量	弱	い 強 い
2	暗赤褐色		燒上粒、施錆褐色粒多量	=	=
3	褐色		ローム粒子少量	やや有り	やや有り
4	褐色		燒土粒子少量	弱	い 強 い
5	褐色		施錆褐色粒子少量	やや有り	やや有り
6	暗褐色		燒上粒、施錆褐色粒少量	弱	い 強 い

ば平均し踏み固められ中央部が僅かに低いがほぼ平坦に移行している。柱穴は確認出来ず深いピットが中央部に五ヶ所程認められた。周溝は確認出来ない。

覆土1層は暗黒褐色、焼土を小量含む、2層は暗赤褐色、焼土粒子を多量に含む、3・4・5層は褐色これはローム粒子、焼土粒子の混入の差である。西側床面には多量の焼土がみられた。

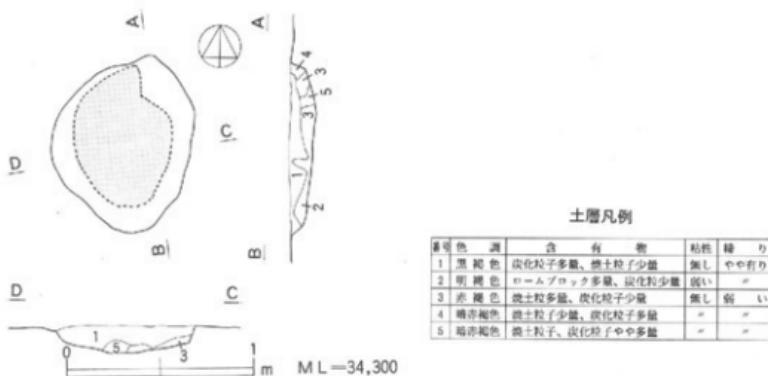
遺物は皆無に近く時期を確定出来るものは無い。総数で15片程度石を含む、他は縄文中期加曾利E式と思われるが細片の為断定は出来ない。

第55号住居址（第153・154図）

本址は、53号住居址の南西側2区、L-12・13、K-12・13グリットを中心に確認された住居址で台地のはぼ平坦な面に位置し検出された。長径7m、短径5.5mの楕円形プランを呈している。壁面は開いて立ち上がり深さは10cm～15cmと浅い。床面は炉跡の周辺を中心に縮まりがみられるが壁面周辺はローム剥き出しの状態で中央部が僅かに高く移行し炭化材が多量に検出され本跡は火災に因るものか焼却したものと考えられる。柱穴は14ヶ所検出され主柱穴はP1・2・3・4・5・6が推定されP7～14は何れもやや中心部に対しゆるい角度を持って掘り込まれ円形状の30cm程の深さ主柱穴は30cm～50cmとやや深く掘り込まれている。周溝は確認出来ない。

覆土1・2層は明褐色、3層は極暗褐色、4層は黒褐色、6層は暗褐色1・2層を除き炭化粒子、焼土粒子を含み、4層は炭化粒子を多量に含む。

遺物は、少なくいざれも小破片でこれらから判断すれば縄文時代中期後加曾利EⅢ式前後の時期が考えられる。中央部にはやや浅めの掘り込みがみられ炉跡が検出された。径75cm～1mの楕円形を呈し北側からは石が1点検出されたが火は受けていない。（地床炉）



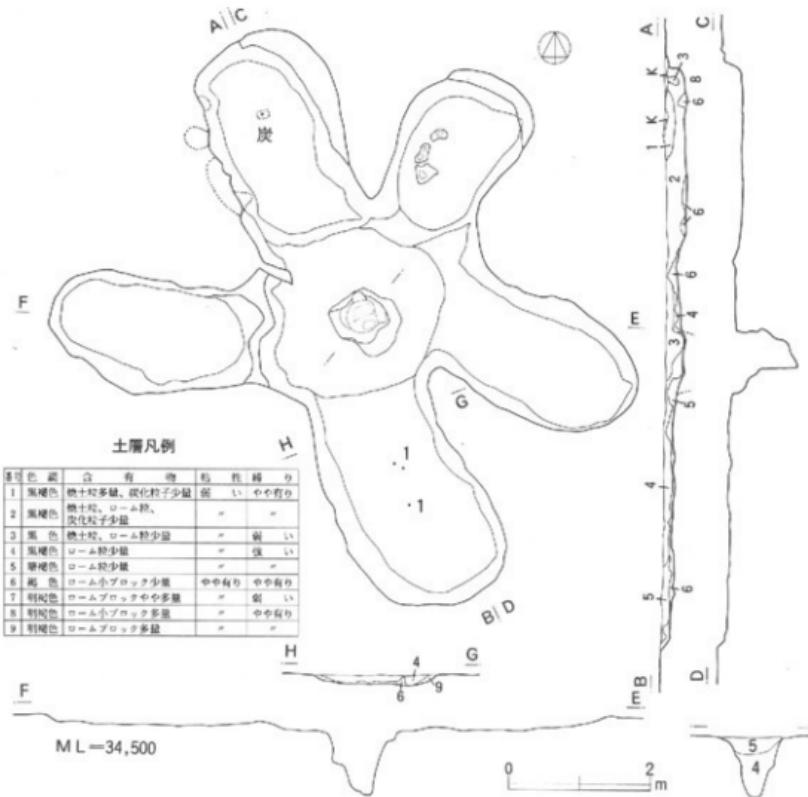
第153図 第55号炉址実測図



第56号住居址 (第155・156図)

本址は、55号住居址の西側2区、G-11・12、H-11・12グリットを中心に確認された住居址？ではほぼ平坦な面に位置し検出された。中央部の直径3m程の円形を中心に2m～3mのU字状の張り出し部をもち、東西8.3m、南北8.6mのヒトデ型プランを呈している。壁面は北側を除きゆるやかに立ち上り各張り出し部はそれぞれに独立しており、特に西側は中央の円形に対し高くなり縁きり状、北側は一段低くなる。他はほぼ同一レベルを有している。掘り込みは浅く北側で20cmであった。他は10cm前後である。中央部の真中に径1m、深さ90cm程のV字状の掘り込みを持つ。他にピットはない。

覆土は、各部ともほぼ自然埋積の様相を呈している。1・2・4層は黒褐色、3層は黒色、5



第155図 第56号住居址実測図

層は暗褐色、6層は褐色、7・8・9層は明褐色へと明さを増してロームブロックの混入が多くなり各層とも締まりはやや有る。

遺物は、少なく僅かに内耳上器と思われる口徑30cm程の縹？が床面から出土している。外側から穿孔が見られる。これが唯一の出土遺物であった。北側の張り出し部周辺には焼土、壁面の焼けた部分も僅かに認められた。

遺物から判断すれば中世期の遺構と推察出来るが住居址になるかは不明である。が一応住居址として扱ったが筆者の管見する限りこの様のものは知り得ない。



第156図 第56号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	土 縷 内耳型 土 器	A 30.8 B約13.6 C約10.4	やや上底気味の底部から開いて立ち上り口縁 部立しほぼ平底。胴部上位に外側から穿孔 している。下位一部黒色部あり。	ナゲ、ミガキ状 剥削り	礫、石英、雲母 におい黄褐色 普通	30 % 床直

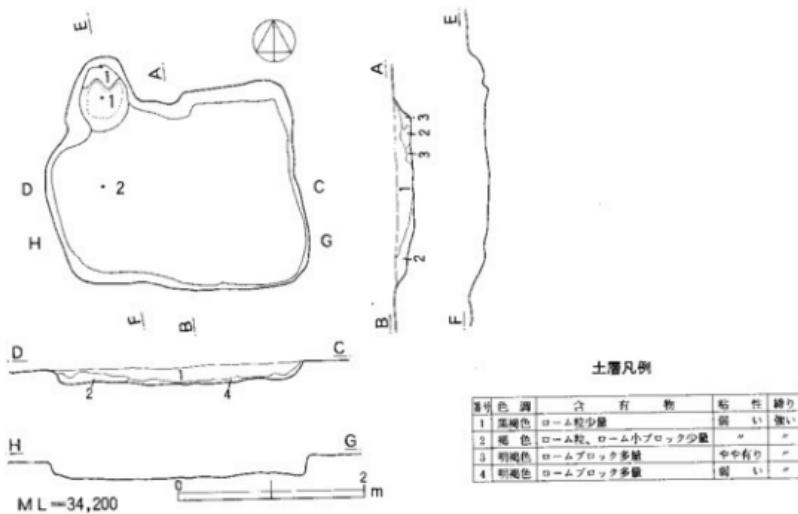
第57号住居址（第157・158図）

本址は、56号住居址の西側2区、C-13グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に位置し検出された。N-90°-Eに置き長軸2.5m、短軸2.2m、北西隅部に半円形の張り出しを持つ変形な長方形プランを呈している。壁面はゆるく開いて立ち上がり深さは10cm～20cmを測る。床面は比較的良く踏み固められている。中央部が僅かに低く掘り込まれている。柱穴、周構は確認出来なかった。炉址も未検出。

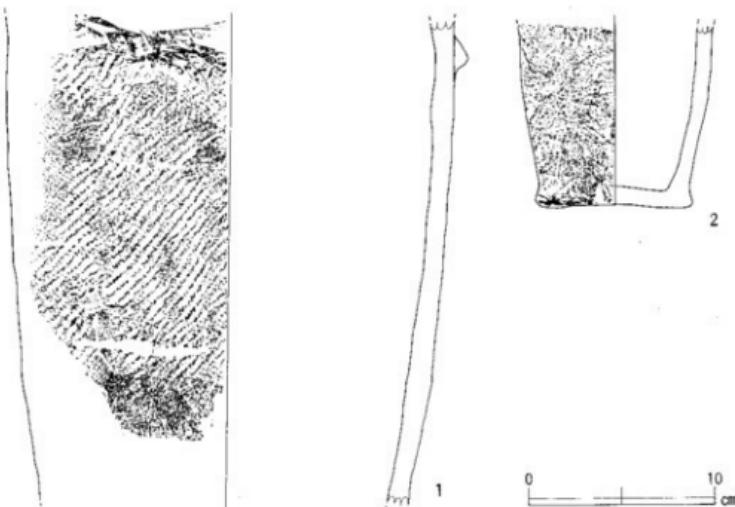
覆土は、黒褐色が大方を占め褐色、明褐色が壁面、床面近くに見られれば自然埋積の状態を呈している。

遺物は、北西隅部から深鉢型土器の底部が数点出土しているに過ぎず、いずれも小破片で床面から検出されたものと同一個体であった。その他円筒状の胴下半部が見られた。

出土遺物からは縄文時代中期後半加曾利式の住居址と思われるが土坑扱いも可能か…。



第157図 第57号住居址実測図



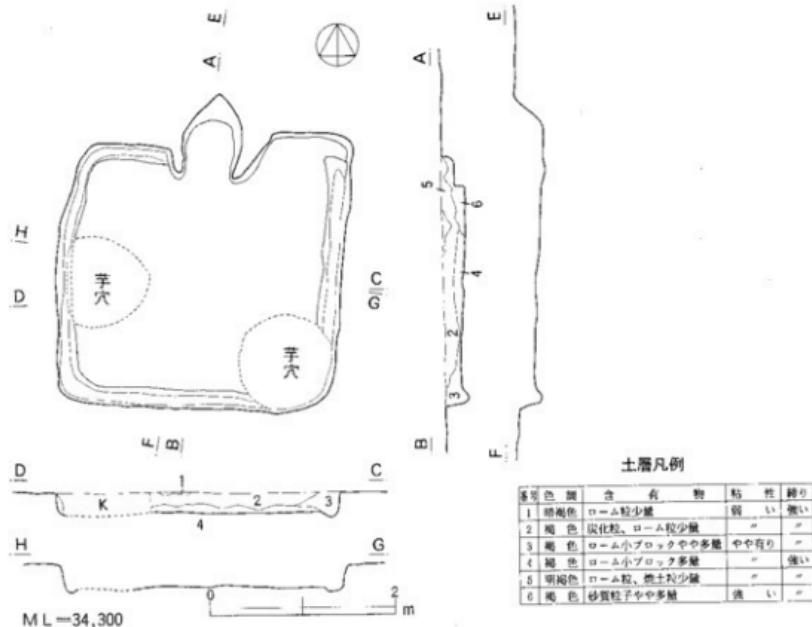
第158図 第57号住居址出土遺物実測図

第58号住居址 (第159・160図)

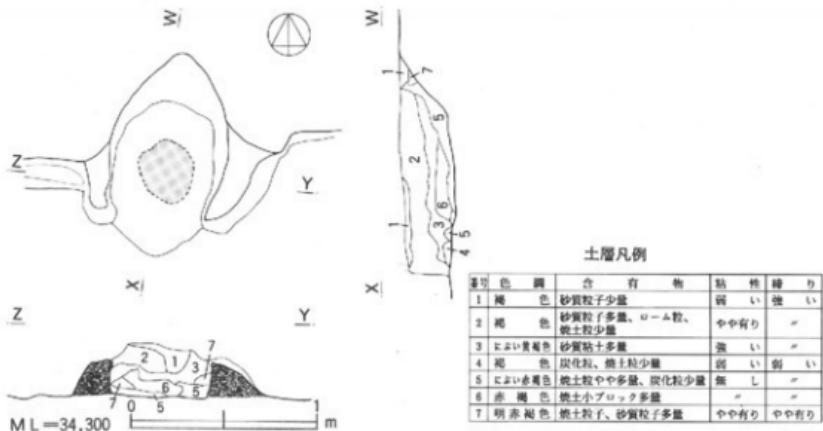
本址は、26号住居址の西側1区、W-17・X-17グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に位置し検出された。主軸をN-5°-Eに置き、東西2.8m、南北2.8mの隅部の僅かに丸みをもつ小型の方形プランを呈する。壁面はほぼ鋭角に立ち上がり深さは30cm~35cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められていたが芋穴による攪乱がみられ、その他は中央部が僅かに高いがほぼ平坦に移行している。柱穴は確認出来ない。周溝は、やや深くU字状の掘り込みをもち巡る。北壁側、竈東では確認出来ない。

竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は良い。袖部は、直線的に伸び焚口部で内縁気味に狭くなる。火床部は中位に位置し平坦に移行、煙道部はゆるく立ち上がる。形態的にはUの字状やや深めの掘り込みをもつ。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性は弱い。覆土は、レンズ状にほぼ自然埋積の様相を呈している。1層は暗褐色、2・3・4層は褐色、これはローム粒子、ロームブロックの混入の差である。5層は明褐色焼上粒子を含む。

遺物は総数で50片程しか検出されず鉄製品のみしか図示出来るものはなかった。鉄製品は第196図19、20で鎌、刀子、鉄簇が見られた。



第159図 第58号住居址実測図



第160図 第58号住竈実測図

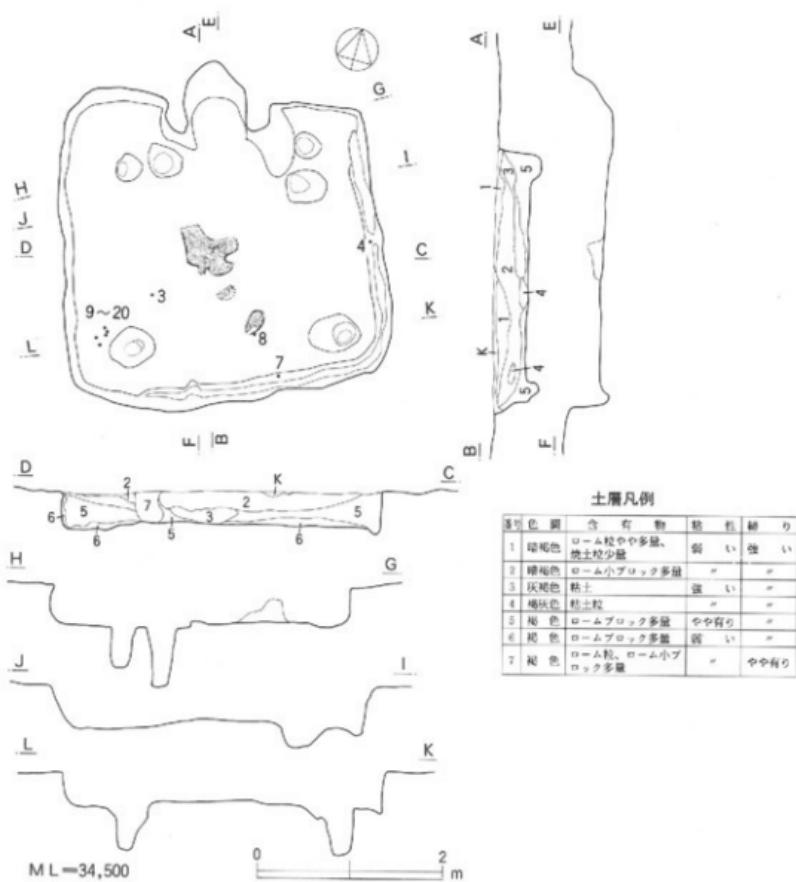
第59号住居址（第161・162・163図）

本址は、56号住居址の北西側2区、F-5・6、G-5・6グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に位置し検出された。主軸をN-20°-Wに置き、東西3.5m、南北2.8m、隅部の僅かに丸みをもつ小型の長方形形状プランを呈する。壁面はほぼ鋭角に立ち上がり深さは40cm~45cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められていたが周辺部の締まりは弱い。中央部が僅かに高い他はほぼ平坦に移行している。粘土ブロックが3ヶ所見られた。柱穴は4ヶ所認められその他竈前に2ヶ所のピットが検出され、いずれも円形状で30cm~50cmの掘り込みが認められる。周溝は、やや深くU字状の掘り込みをもち東、南側を巡る。西壁側、竈西では確認出来ない。

竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は良い。袖部は、直線的に伸び焚口部で僅かに狭くなる。火床部は前面に位置しやや掘り込み、煙道部はゆるく立ち上がる。形態的にはUの字状。掘り込み形態は半円形。袖部は砂質の少ない灰褐色の粘土を用い築かれ粘性は強い。

覆土はゆるやかなレンズ状のほぼ自然埋積の様相を呈している。1・2層は暗褐色、3層は灰褐色粘土層、4層も粘土粒を多量に含む、5・6・7層はローム粒子、ロームブロックの混入の差である。5層は明褐色、焼土粒子を含む。床面に粘土ブロックが認められた。

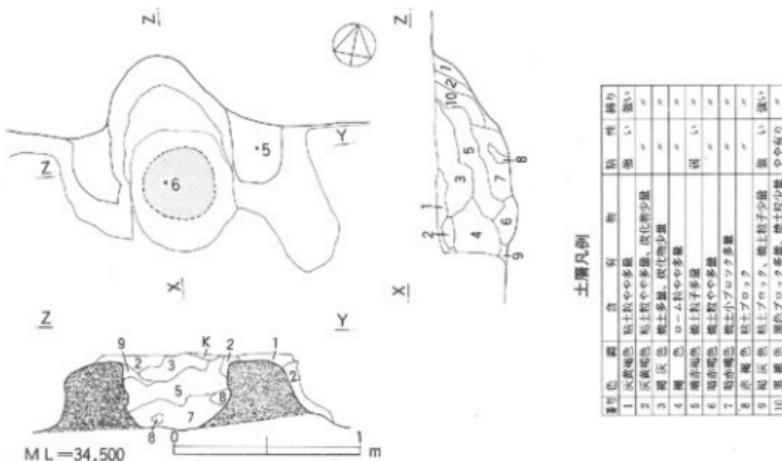
遺物は、総数で50片程しか検出されなかったが、床面から完形に近いものと南側壁面から土製丸玉が13点まとめて出土している。器形の窺われる甕は口唇部つまり出し、須恵器高台坏はやや張り長目、盤もほぼ同様、蓋は宝珠形態を良く残す、甕は平行叩き目をもち内側には同心円のあて痕を残している。



第161図 第59号住居址実測図

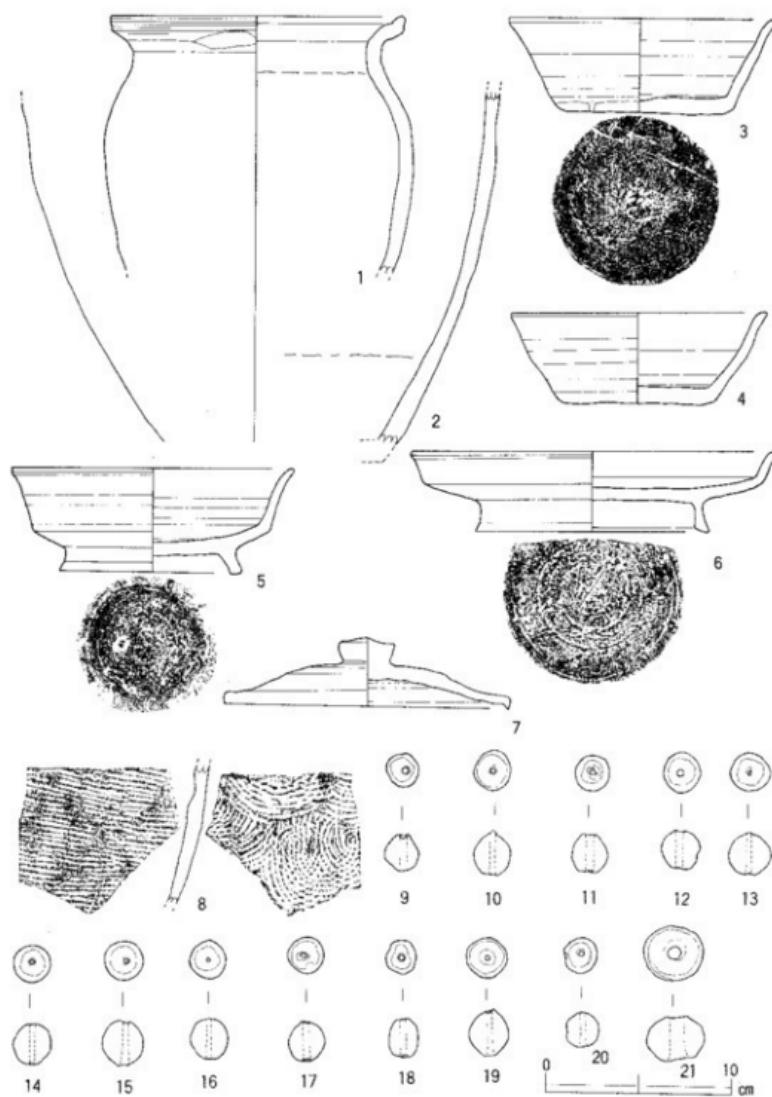
出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	彫形技法	熟土、色調、焼成	備考
1	甕 土器	A 15.7 B C	最大径を胴上位にそむき、頸部は「く」の字状外反、口縁部は上方へ丸くつまみ出す。	横ナデ、ナデ(粗雑)	硬 にぶい黄褐色 やや不良	20 % 罐内



第162図 第59号住竈実測図

番号	器種	法量(cm)	图形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
2	壺 土器	A B C	底部は欠失しているが、壺型土器と思われる。ゆるやかに内側して立ち上り器肉は薄い。	ナデ、薬削り	礫、雲母、石英 暗い橙色 普通	20 % 窓内
3	环 須恵器	A 14.6 B 5.0 C 9.2	平底から開き気味に直線的に立ち上り口縁部外傾、口唇部丸く収める。(底部回転ヘラ切り)	粘土紐巻上げ、薬削り 回転ミズビキ 左廻り	礫 褐色 やや良	90 % 床直
4	环 須恵器	A 13.6 B 4.7 C 8.2	安定した平底からゆるく張って開いて立ち上り、口縁部外傾気味口唇部尖り気味で水平に近い底部ヘラケズリ	粘土紐巻上げ、ナデ、 薬削り、回転ミズビキ 左廻り	礫、雲母、石英 灰白色 やや良	96 % 床直
5	高台环 須恵器	A 15.1 B 5.6 C 9.8	付高台はやや強く「ハ」の字状に張り廻め、体部は直線的に開いて立ち上り口縁部外傾。口唇部は丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ (付高台)	礫 灰褐色 やや良	90 % 窓袖
6	盤 須恵器	A 19.5 B 4.3 C 12.5	付高台は直立に近く端部まで直線、口縁部はやや外傾し、口唇部はやや肥厚丸く収める。	粘土紐巻上げ 回転ミズビキ、ナデ ヘラ切り(左廻り)	礫 褐色 やや良	50 % 窓内
7	蓋 須恵器	A 15.4 B 3.7 C 5.0	天井のフクラミはややある。凝虫跡つまみも扁平化はあまり進行せず形態を残している。口縁部下端は尖り、内面はやや丸味をもちカエリはない。	粘土紐巻上げ、ナデ 回転ミズビキ	礫 褐色 やや良	98 % + 4
8	壺 須恵器	A B C	外面は、横位の平行叩き目をもち、内面には円形の当箇をもつ。	平行叩き	礫、石英、長石 褐色 やや良	10 % + 16



第163図 第59号住居址出土遺物実測図

土錐一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	孔厚				
9	土錐	1.9	1.7	0.4	5	土製	+	4 不整形長円形球状、孔部円形状(小型)
10	"	2.3	2.0	0.3	7	"	+	4 不整形長円形球状、孔部円形状(")
11	"	2.0	1.8	0.4	6	"	+	4 不整形長円形球状、孔部三角形状(")
12	"	2.0	2.0	0.4	6	"	+	5 不整形球状、孔部円形状(")
13	"	2.2	2.1	0.2	7	"	+	6 不整形球状、孔部円形状(小孔)(")
14	"	2.1	1.9	0.3	7	"	+	4 長円形状、孔部円形状(小孔)(")
15	"	2.4	2.0	0.4	8	"	+	6 長円形状、孔部円形状(")(")
16	"	2.2	1.9	0.3	8	"	+	7 長円形状、孔部円形状(")(")
17	"	2.1	1.6	0.3	6	"	+	7 長円形球状、孔部三ヶ月状(")
18	"	2.1	1.9	0.3	6	"	+	1 管状に近い球形状、孔部円形状(")
19	"	2.5	2.2	0.4	11	"	覆土中	長円形球状、孔部円形(小孔)(")
20	"	1.9	1.7	0.3	8	"	"	不整形球状、孔部円形(小孔)(")
21	"	2.4	3.2	0.6	22	"	竈内	つぶれた球形状、孔部円形状(唯一の大型)

第60号住居址 (第164・165図)

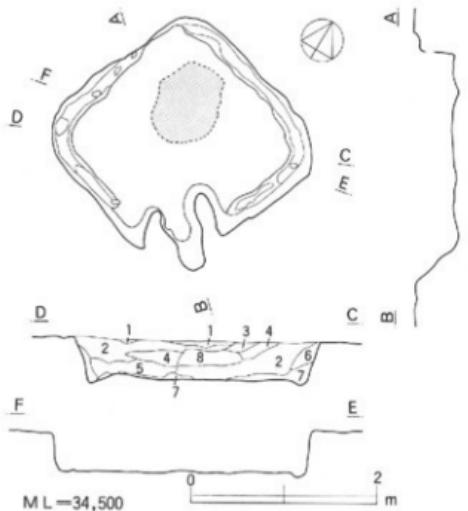
本址は、48号住居址の北側2区、K-13・14、L-13・14グリットを中心に確認された住居址で台地はほぼ平坦に移行している。主軸をN-73°-Eに置き、東西2.2m、南北2.1m、隅部のやや丸みをもつ方形プランを呈している。壁面はほぼ鋭角に立ち上がり深さは40cm~50cmを測る。床面は竈の前面を中心にやや踏み固められていた。中央部が僅かに高いがほぼ平坦に移行している。柱穴は確認出来ず。周溝は浅いがゆるいU字状の掘り込みをもち巡る。西北隅部では確認出来ない。

竈は、東壁南隅部のコーナーに検出され遺存状態は良く袖部は直線的に付設、火床部は中程に位置しやや掘り込まれ、煙道部は強く立ち上がる。形態的にはUの字状を呈しているが、その大部分は狭い住居の中に付設され火床部は余り火を焚いた痕跡はなく、袖部とも焼けは弱い。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用いて築かれ、粘性は弱い。

本遺跡では竈の位置を始め2.2mと言う小型プランは唯一の遺構で類例はない。

覆土は、レンズ状にほぼ自然埋積の様相を呈しているが、中央部に8層として捉えた赤褐色の焼上層が浮いた状態で見られる。そのほかは褐色層でローム粒、ロームブロックの混入の差である。各層共縋まりはある。

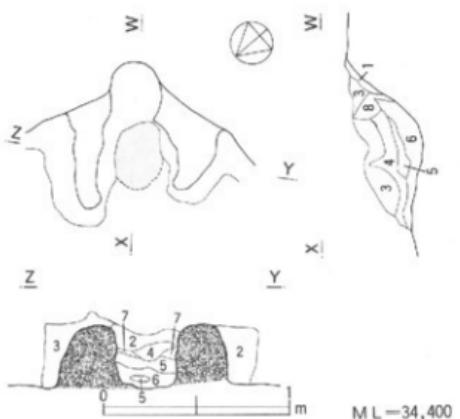
遺物は、皆無に近く岡示出来るものはない。須恵器片が数点出土しているに過ぎず、いずれも小破片であり床面から検出されたものはない。



土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘 性	練り
1	黒褐色	燒土粒、炭化粒少量	弱い	弱い
2	褐 色	ローム粒少量	〃	強い
3	褐 色	燒土粒や多量	〃	〃
4	暗褐色	ローム粒少量	〃	〃
5	褐 色	ロームブロック少量	〃	〃
6	褐 色	ローム・ローム粒少量	やや有り	〃
7	褐 色	ロームブロックや多量	弱い	弱い
8	赤褐色	燒土粒子多量	無し	〃

第164図 第60号住居址実測図



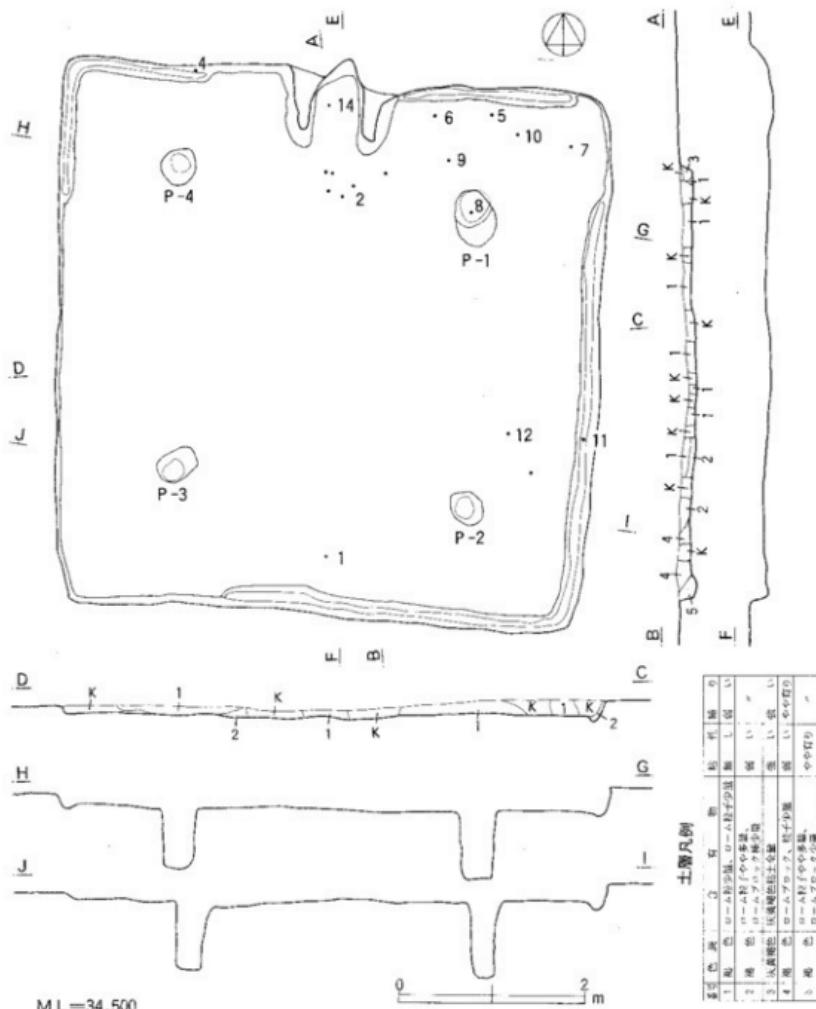
土層凡例

番号	色調	含 有 物	粘 性	練り
1	暗褐色	ローム粒少量、 粘土や砂多量	やや強い	強い
2	褐 色	ローム粒、 砂質粒少量	強い	〃
3	褐 色	ローム粒少量、 砂質粒子や多量	〃	〃
4	暗褐色	燒土粒や多量	やや有り	やや有り
5	赤褐色	燒土ブロック	無し	弱い
6	暗褐色	燒土小ブロック、 炭化物少量	〃	〃
7	褐 灰 色	粘土ブロック多量	やや有り	〃
8	にふい黄褐色	焼土、砂質粒子や多量、 ローム小ブロック少量	〃	やや有り

第165図 第60号住居址実測図

第61号住居址 (第166・167・168図)

本址は、52号住居址の東側2区、S-9・10グリットを中心に確認された住居址で台地はほぼ平坦に移行する。主軸をN-4°-Eに置き、東西5.4m、南北5.8m、南北方向で40cm程長い方



形プランを呈している。壁面はほぼ鋭角に立ち上がり深さは10cm～15cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められていたが西側は芋穴、トレンチャー等の攪乱などが見られプラン確認がやっとであった。西側、南側がやや高く北側に僅かに低く移行している。柱穴は20cm～28cmの円形、楕円形、深さは65cm～70cmと円筒状の掘り込みを有する。周溝は南、東側及び北、西側の一部でU字状の掘り込みをもち巡る。

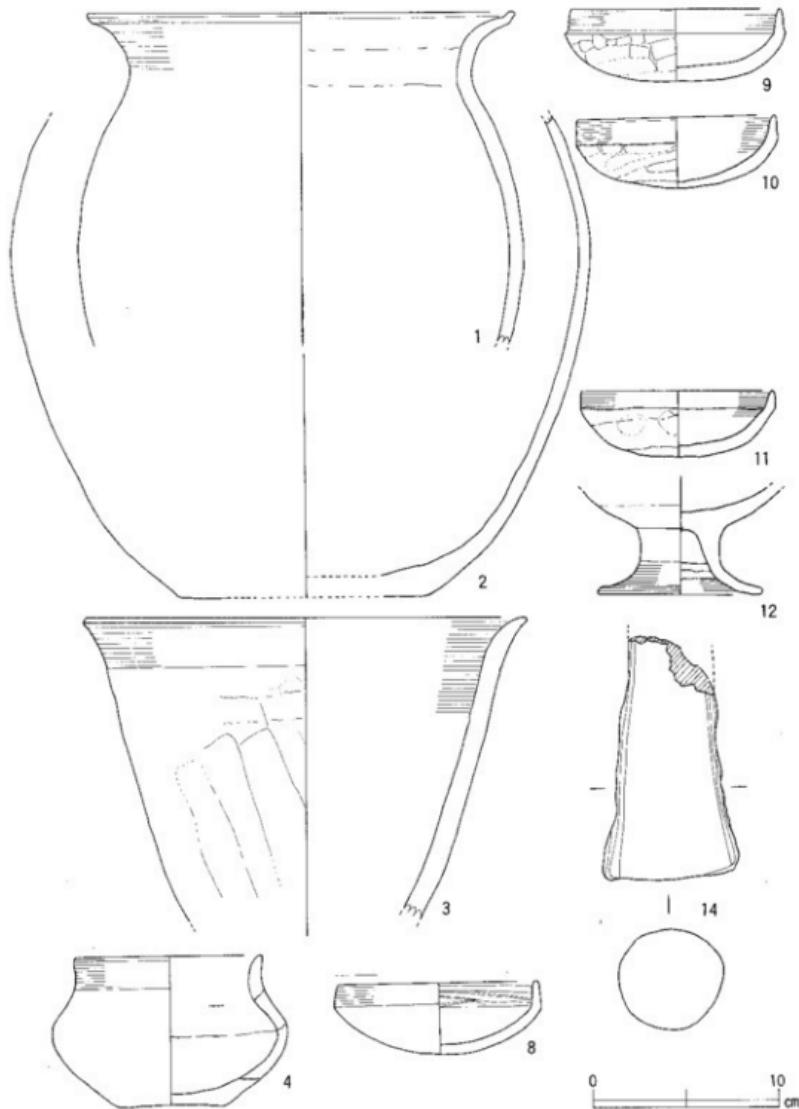
竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は悪く、袖部は直線的に伸びる。火床部は中程に位置しやや掘り込まれて煙道部はゆるく立ち上がる。形態的にはUの字状を呈している。外部へは僅かに掘り込みを認めるに過ぎず竈は住居内に付設。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性は弱い、内部からは支脚などがみられた。

覆土1・2・4・5層は褐色、これはローム粒子、粒、ブロックの混入の差である。3層は灰黄褐色の粘土層。

遺物は、覆土の浅い割には竈東側からまとまって出土していた。この付近は僅かに低くなる。いずれも床直で土師器は最大径を胴上位に置き口唇部を斜上方へつまみ出すもの、球形胴を呈するもの、瓶は砲弾形状のもの、器肉が薄く長胴形で口縁部が長目で水平に開くものとこの中間的形態を呈する3種類が認められた。坏は半球形状。

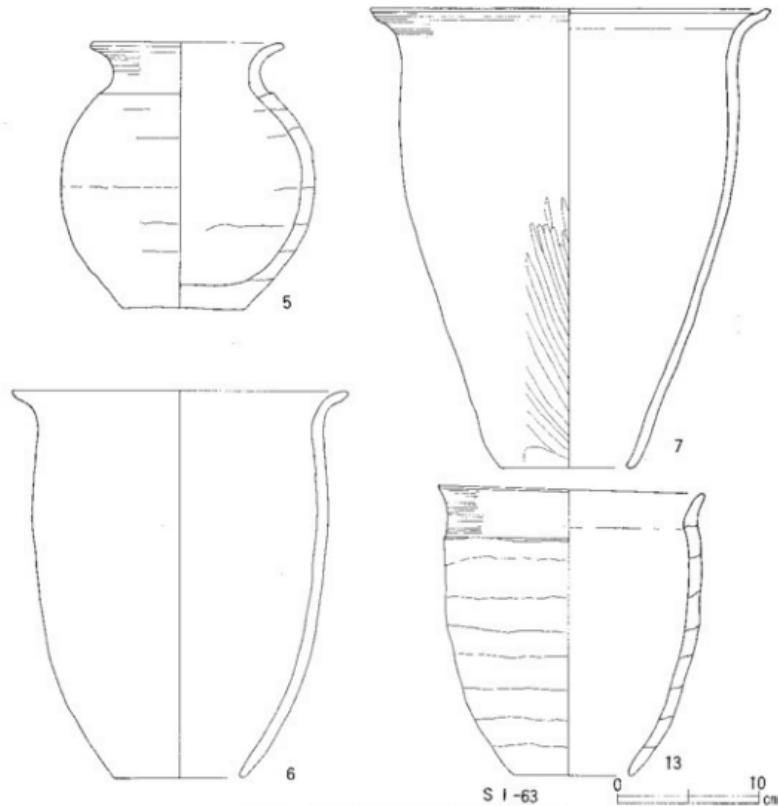
出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	窓形の特徴及び文様	窓形技法	胎土、色調、焼成	備考
1 竈 土師器	A	23.0	最大径を胴中位に置きや長胴気味、頸部を「く」の字状に外反、口縁部や長目、口唇部斜上方へつまみ出す。	横ナデ、ナデ	礫、石英、長石 褐色(黒褐色) やや良	20 %
	B					床直
	C					
2 窓 土師器	A		平底から内脇して立ち上り、最大径を胴中位に置く。立ち上るにつれて器内を減じていく。	ナデ、ヘラナデ状	礫、石英、雲母 にぶい暗褐色(褐色) 普通	40 %
	B					床直
	C	12.4	口縁部欠の如不明。			
3 窓 土師器	A	23.2	孔部は欠しているが、は剥離して直線的に立ち上り、頸部で聞くくびれ、口縁部は短く、口唇部はやや尖り氣味、器肉は1～1.5cmと厚い。	横ナデ、窓削り ナデ	礫、雲母、石英 黒褐色(にぶい褐色) 普通	20 %
	B					覆土
	C					
4 小型窓 土師器	A	10.6	平底からくるく内脇して立ち上り胴部で「く」の字状に内傾、口縁部直立、口唇部開き氣味で丸く收める。	横ナデ、ナデ	礫、石英 暗い赤褐色 (にぶい黄褐色) 普通	50 %
	B	8.0				+
	C	5.2				6
5 小型窓 土師器 第16回	A	13.6	安定した平底から内脇して立ち上り最大径を胴中位に置く。頸部を「く」の字状に外反し、口縁部は水平に近く聞く、口唇部丸く收めている。	横ナデ 輪縦痕を残す	礫 にぶい暗褐色 普通	95 %
	B	18.8				
	C	8.7				
6 窓 土師器 第16回	A	23.7	長胴形ながら、口縁部は短く水平に開く。	横ナデ、ナデ	礫、石英 淡い褐色 やや不良	70 %
	B	27.4	孔端部は丸く收める。外面剥落多し。			
	C	9.0				
7 窓 土師器 第16回	A	28.2	長胴形を呈し口縁部外反、口唇部外側へつまみ出し器肉薄く孔部は丸味をもつ。	横ナデ、ナデ 窓磨状、窓削り	礫、雲母 黄褐色 やや良	80 %
	B	32.4				床直
	C	9.5				
8 环 土師器	A	10.9	丸底からくるやかに内脇して立ち上り口縁部直立、口唇部丸く收める。	横ナデ、ナデ 窓磨き	礫(極少量) 淡い黄褐色 やや良	90 %
	B	3.7				床直
	C					



第167図 第61号住居址出土遺物実測図

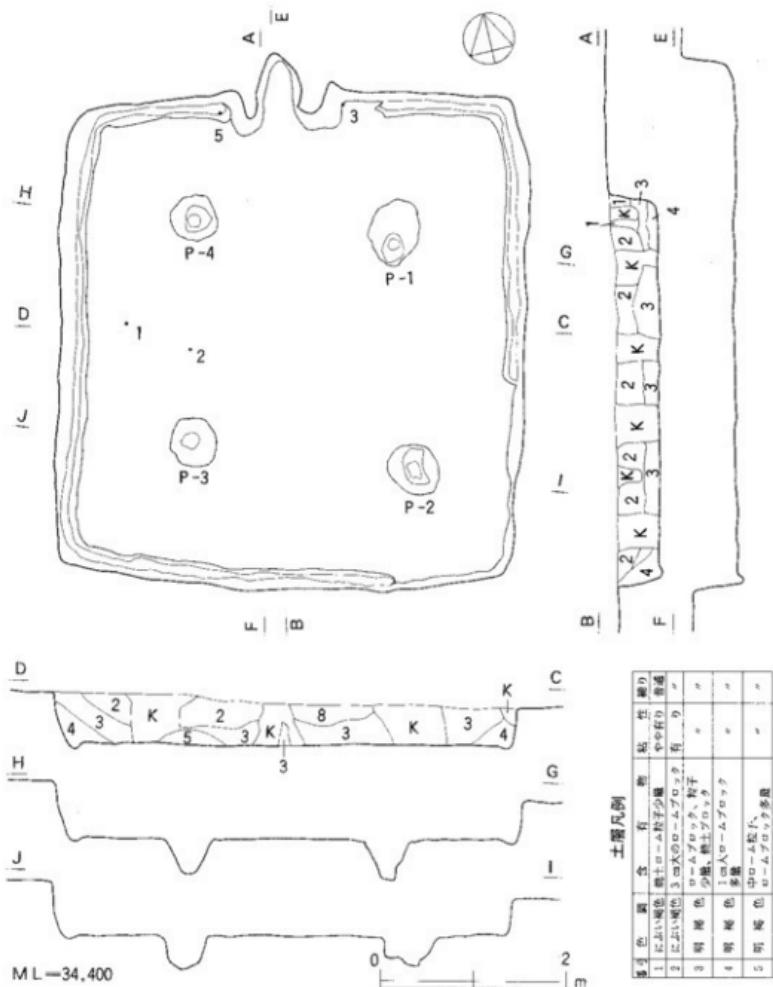
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
9	杯 土師器	A 11.4 B 4.0 C 4.4	平底に近い底部からゆるく内脣して立ち上り 肩部に弱い縫を有し口縁部直立、口唇部尖る。	横ナデ、箆削り ナデ	纏、石英 暗褐色 普通	50 % + 4
10	杯 土師器	A 10.4 B 3.5 C 3.0	半球形状、体部と口縁部との間に弱いは み出しがみられ口縁部直立、口唇部尖り 氣味。	横ナデ、ナデ ヘラナデ (輪積痕?)	纏、石英、雲母 にぶい褐色 普通	40 % 床 直
11	环 土師器	A 10.7 B 3.8 C -	丸底気味の底部からゆるく内脣して立ち上り 肩部に弱い縫、口縁部直立、口唇部尖る。	横ナデ、箆削り ナデ	纏、石英 にぶい褐色 やや良	40 % 床 直
12	高 环 土師器	A 8.8 B - C -	脚部の短いもので極部は「ハ」に字状に開 き端部は丸く収める。环部は欠失。	箆ナデ、横ナデ ナデ、箆削り	纏(極微量) 褐色、やや良	40 % 床 直



第168図 第61号、63号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
14	支脚		7.3	5.4		土製	壇内	円筒状下端やや径を増す、上部欠

第62号住居址 (第168・169・170図)



第169図 第62号住居址実測図

本址は、61号住居址の東南側2区、U-10・11グリットを中心に確認された住居址で台地がゆるく東側へ傾斜を示す位置に検出された。主軸をN-13°-Eに置き、東西4.8m、南北5.2m、南北方向で40cm程長い方形プランを呈している。壁面は西側を除きほぼ鋭角に立ち上がり深さは40cm~60cmを測る。床面は竈の前面を中心に良く踏み固められていたがトレンチャーによる擾乱がある。ほぼ平坦に移行している。柱穴は50cm~60cmの円形、楕円形状、深さは30cm~40cmとV字状の掘り込みを呈する。周溝は東南側の一部で検出出来ないが他はU字状の掘り込みをもち巡る。

竈は、北壁中央部やや西によって検出され遺存状態は悪く、袖部は直線的に短か目に付設し、火床部は前面に位置し僅かに掘り込まれ煙道部は垂直に立ち上がる。形態的にはUの字状を呈している。外部へは40cm程掘り込みを認める。袖部は砂質のやや多いにぶい黄褐色の粘土を用い築かれ粘性は弱い。本遺構の竈形態、火床部の位置と外部との掘り込みの状態は唯一のものである。

覆土1・2層はにぶい褐色、4・5層が下位の層序を2分する変則な埋積、8層は褐色層で土坑の存在が考えられるが、捉える事が出来なかった。炭化物を多量、焼土粒子を少量含む。

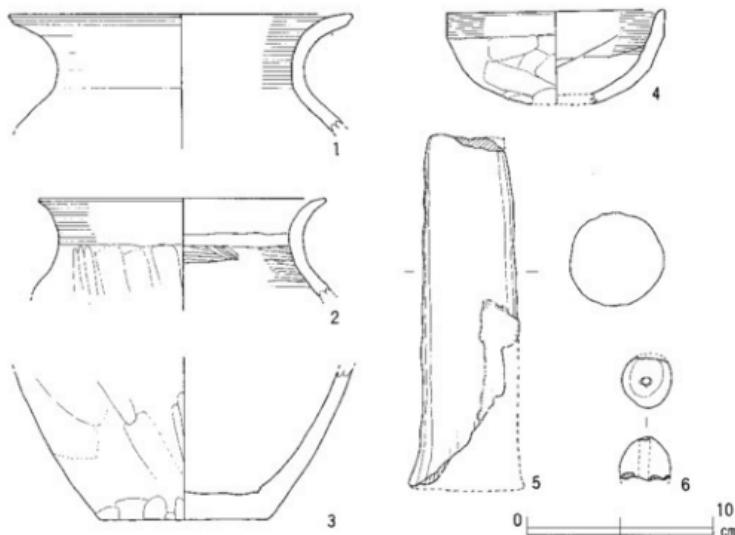
遺物は、覆土の深い割には少なく口縁部が水平に開き尖り気味の甕、半球状の环、支脚等が見られた。

出土土器觀察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A 18.4 B C	頸部は「く」の字状に外反、やや長目の口縁部は水平に近く開き、口唇部は横位につまみ出し気味に丸く収める。	ナデ、横ナデ	礫、石英、長石 にぶい灰褐色 やや良	5 % + 11
2	小型甕 土師器	A 15.4 B C	頸部「く」の字状に外反口縁は水平に近く開いて口唇部尖り気味。	刷毛状工具によるナデ、箒削り ナデ	礫、長石、石英 にぶい黄褐色 普通	5 % 床 直
3	甕 土師器	A B C 9.0	安定した平底から内彎して器肉を減じながら立ち上る。内部に輪積痕を残す。	ヘラナデ状、箒削り ナデ	礫、スコリア にぶい橙色 普通	30 % + 12
4	环 土師器	A 11.7 B 約5.0 C 約3.3	丸底気味から内彎して立ち上り肩部に弱い穂をもち、口縁部は開き気味、口唇部丸く収める。	横ナデ、箒削り ナデ	礫、砂、石英 淡い橙色 (にぶい暗褐色) 普通	30 % 覆 土

土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
5	支脚	19.0	5.0	5.0		土 製	+ 11	ほぼ円筒形状下端の1部欠失する。
6	土 離	2.3	2.6	0.6	14	土 製	覆土中	長円形球状、孔部楕円形、下部2分/1欠失



第170図 第62号住居址出土遺物実測図

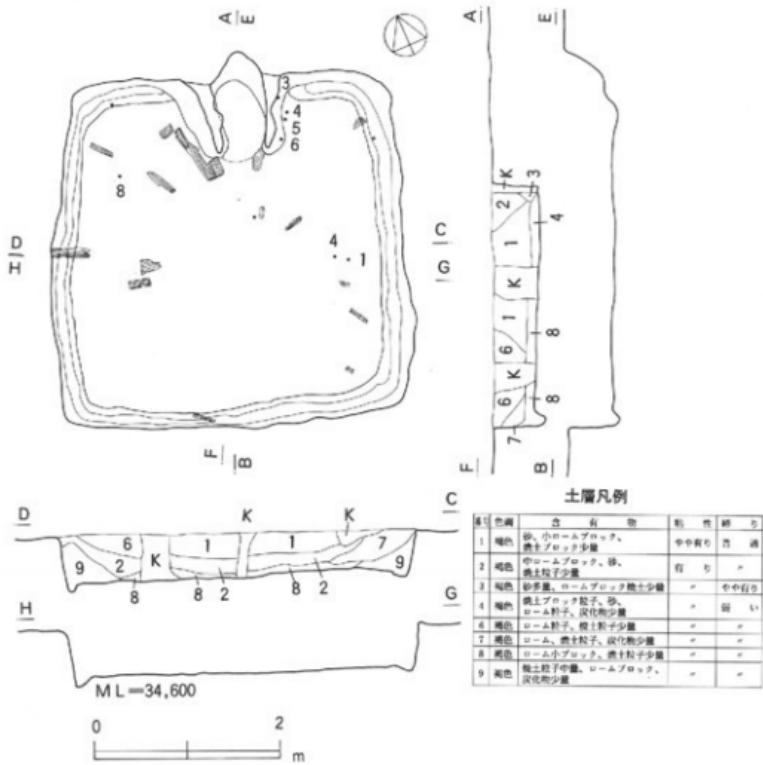
第63号住居址（第171・172・173図）

本址は、62号住居址の北側2区、G-7・8、V-7・8グリットを中心に確認された住居址で台地のはば平坦な面に位置し検出された。主軸をN-19°-Wに置き、東西3.6m、南北3.6m、隅部の僅かに丸味をもつ正方形プランを呈している。壁面はほぼ鋭角に立ち上がり深さは40cm～45cmを測る。床面は竈の前面を中心に踏み固められていたが周辺部は悪い、ほぼ平坦に移行している。柱穴は確認出来ず、周溝は10cm～20cmの幅、5cm～15cmの深さでゆるいU字状の掘り込みをもち巡る。炭化物が散在して認められる。

竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は良い。袖部は直線的に80cmと長く付設。火床部は中位に位置しやや掘り込まれ、煙道部は弱く開き、立ち上がる。形態的にはUの字状形態を呈しているが外部への掘り込みは僅かである。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性は弱い。焚口部はやや狭くなる。

覆土は、レンズ状にはば自然埋積の様相を呈しているが複雑な埋積状態、理解に苦しむ層序も見られる。1～9層は褐色、いずれもローム粒子、ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子の混入の差である。

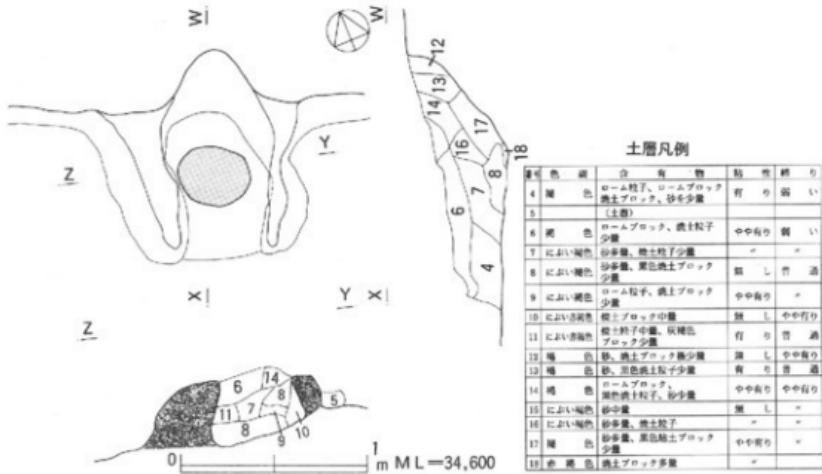
遺物は、やや多くみられ球形胴に近い甕、瓶は孔部の尖るものとやや丸く収めるものがあり、いずれも砲弾形状、环は小型の半球形状、筒部円筒状の高环等がみられた。



第171図 第63号住居址実測図

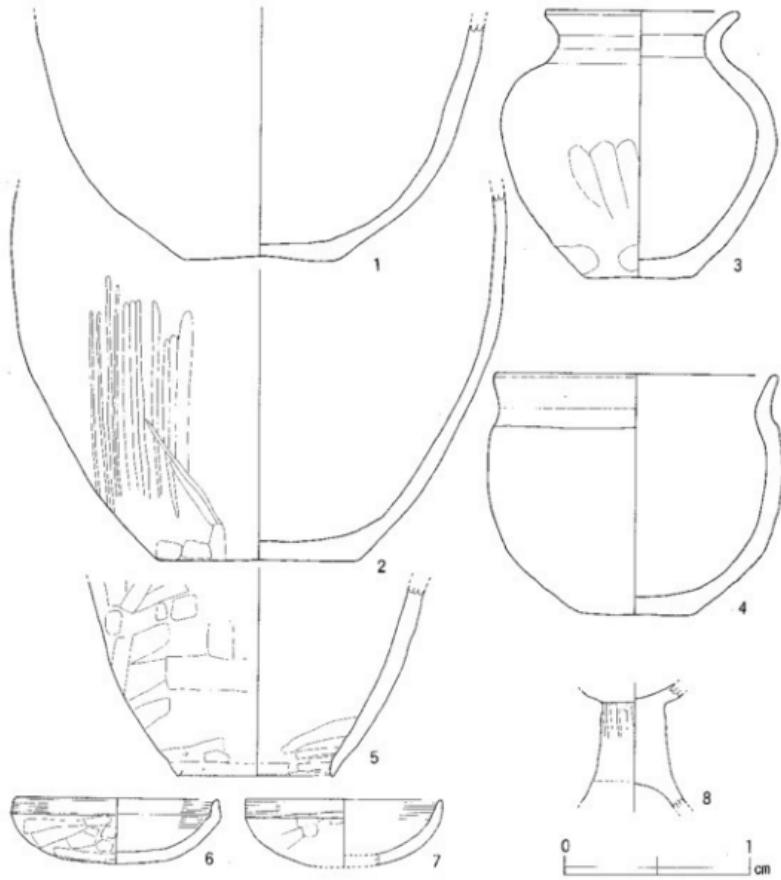
出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	甕 土器	A B C 8.0	安定した平底から内側して立ち上り球頭形状の脇部に移行する。やや器内は厚い。(二次焼成) 内面剥離多し。	ナデ、箋削り?	黒、砂、雲母、石英 暗い赤褐色 (にぶい黒褐色) やや不良	30 % 床直
2	甕 土器	A B C 10.6	安定した平底から内側して立ち上る。器内の薄いや長頭気味のカメか?	ナデ、箋削り (箋ナテ状)	黒、石英、雲母 にぶい黄褐色 普通	30 % + 2



第172図 第63号住跡実測図

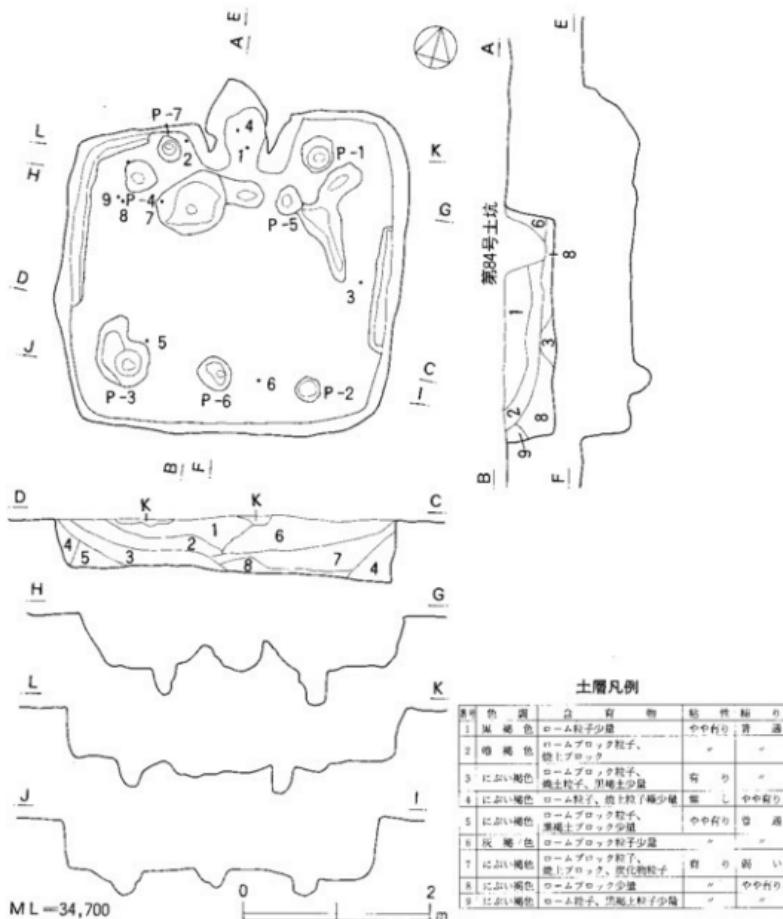
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎上・色調・焼成	備考
3	小型壺 土師器	A 10.4 B 14.3 C 5.8	やや小さめの底部から強く内側して立ち上り最 大径を胴中位におき頸部は強くくびれ、「く」 の字状に外反し口縁部は短め、口唇部丸く収 める。	ナデ、箒削り (箒ナデ状)	礫、石英、長石 に赤い黃褐色 (土部黒褐色) 普通	98 % 床直
4	甕 土師器	A 15.2 B 13.0 C 6.0	平底から内側して立ち上り頸部のくびれは弱く、 口縁部はやや外傾気味、口唇部丸く収める。 (二次焼成の為整形調整は不明)	ナデ? 不明	砂、礫 暗い赤褐色 (に赤い暗褐色) やや不良(2次焼成)	60 % 床直
5	瓶 土師器	A B C 8.3	孔部は尖り頸部に向って器肉を増し、開き氣 味に立ち上る。(外面はやや粗雑な調整)	箒削り、ナデ	礫、石英 に赤い黒褐色 (に赤い暗褐色) 普通	30 % + 3
6	环 土師器	A 11.0 B 3.5 C	平底に近い底部からゆるく内側して立ち上り、 肩部の彼は退化し弱く、口縁部は内傾 気味、口縁部は丸く収めている。	横ナデ、箒ナデ状 ナデ(調整は良い)	礫、石英、長石 に赤い黒褐色 普通	95 % 床直
7	环 土師器	A 10.6 B 約3.6 C 約3.6	丸底に近い底部からゆるく内側して立ち上り そのまま、口縁部へ移行口唇部尖り気味、輪 積板を器表面に残す。	横ナデ、ナデ 箒ナデ状	礫(やや多)、石英、雲母 に赤い暗褐色 普通	30 % + 4
8	高 环 土師器	A B C	脚部は円筒状、頸部は「ハ」の字状に開く? 端部、環部は不明	箒削り、ナデ	礫、石英、長石 暗い赤褐色 普通	20 % 床直
9	瓶 土師器 第168図	A 18.2 B 19.8 C 8.8	口縁部短く外傾、口唇部丸く収め、砲弾形状 脚部、器肉厚い。口縁部に最大径をもつ。	横ナデ、箒削り 輪積板	礫、砂 淡い橙色(黒褐色) 普通	95 % 床直



第173図 第63号住居址出土遺物実測図

第64号住居址（第174・175図）

本址は、63号住居址の北側2区、Y-5・6、Z-5・6 グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に位置し検出された。竪東側を84号土坑に掘り込まれているが床面には到達しない。主軸をN-20°-Wに置き、東西3.2m、南北3.1m 变形な隅の丸味をもつ方形プランを呈している。壁面は、ほぼ鋭角に立ち上がり深さは50cm~60cmを測る。床面は竪の前面を中心



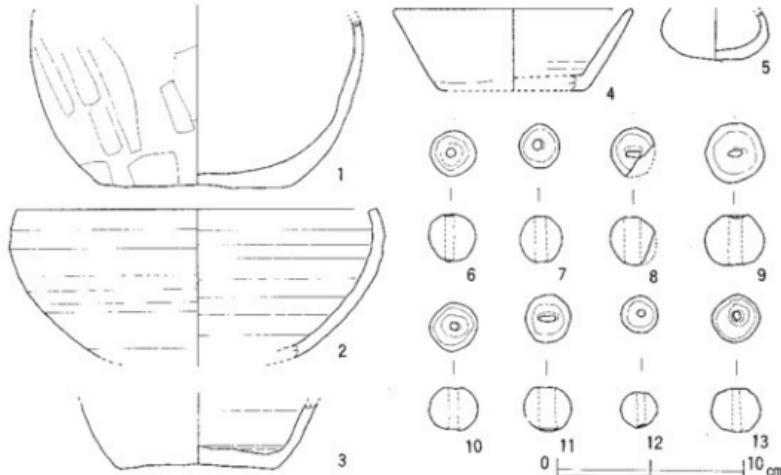
第174図 第64号住居址実測図

心に踏み固められていたが周辺部は悪い、ほぼ平坦に移行している。柱穴は7ヶ所認められたがすべて同時期とは調査時には判断できなかった。P1・2・3・4が推察される。周溝は東、北西隅に一部認められ浅い。

竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は良い。袖部は直線的に50cm程長めに付設。火床部は焚口部に位置しやや掘り込まれ、煙道部は強く立ち上がる。形態的にはハート状。外部へは20cm程掘り込み、やや深い。袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ、粘性はやや弱い。前面部には灰原に利用したと思われる掘り込みをもつ。

覆土は、レンズ状にほぼ自然埋積の様相を呈しているが複雑な埋積状態、理解に苦しむ層序も見られた。1層は黒褐色、2層は暗褐色、3層はにぶい褐色、ローム粒子、ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子の混入の差である。[3~7層]

遺物は、少なく小型坩ミニチャ的に近いもの、坏は安定した平底、須恵器坏、鉢状のものが見られ十製丸玉が8点程見られた。



第175図 第64号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	黏土、色調、焼成	備考
1	小型壺 土師器	A B C 10.0	平底から内彎し器肉を減じながら立ち上り、最大径を胴上位に置く。小型の壺型土器か？	ナデ、薬削り	纏、長石、石英 にぶい黄褐色 普通	20 % 窓内
2	鉢 須恵器	A 19.3 B C	丸底気味を呈すると思われる。内彎して立ち上り口縁部は内傾、口唇部内極気味、カット状、平滑。	ロクロ水引？	纏、石英、長石 緑灰色(灰褐色) 良	10 % 床直

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
3	环 須恵器	A B C 8.5	安定した平底から開いて立ち上り内面に回転 腹を良く残している。底部はやや上がり気味。	粘土縦巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 左廻り	礫、石英、蟹母 灰白色 やや良	20 % + 21
4	环 須恵器	A B C 12.8	体部は開いて直線的に立ち上り、口唇部丸く 収め底部へラナデ調整。回転方向不明	横ナデ、ナデ 削り、回転ミズビキ	礫、石英 灰褐色 やや良	20 % 竈内
5	堆 ? 土師器	A B C 2.0	丸底気味から立ち上り「く」の字状に内傾、 器肉は薄い。ミニチアの堆形土器か。	ナデ	礫、石英 にぶい赤褐色 やや良	30 % 床直

土錐一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
6	土錐	2.5	2.4	0.5	17	土 製	+ 20	ほぼ球形状、孔部円形
7	"	2.5	2.2	0.5	14	"	+ 12	長円形球状、孔部円形
8	"	2.6	2.3	0.8	29	"	+ 29	長円形球状、孔部長方形状、3分の1欠失
9	"	2.6	3.1	0.8	11	"	+ 31	つぶれた球形状、孔部長円形状
10	"	2.3	2.5	0.3	17	"	床 直	つぶれた球形状、孔部円形状
11	"	2.2	2.4	0.9	18	"	覆 土	粗雑な球形状、孔部三ヶ月状
12	"	1.9	1.9	0.4	8	"	"	ほぼ球形状、孔部円形、小型
13	"	2.4	2.5	0.7	16	"	"	不整形球形状、孔部長円形

第65号住居址（第176・177・178図）

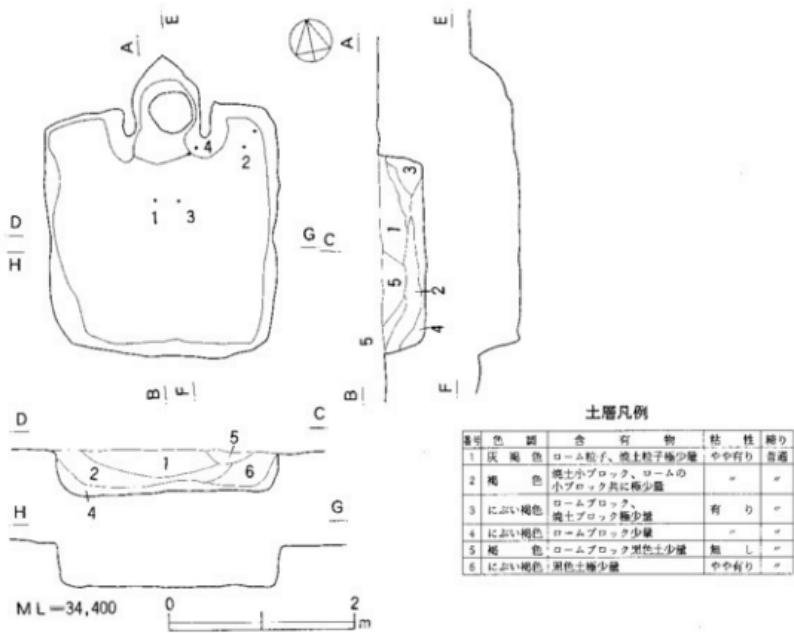
本址は、64号住居址の東南側3区、C-8グリットを中心に確認された住居址で、台地はゆるく東側に傾斜を示し調査区の東端に位置し検出された。南側を80号土坑に掘り込まれているが床面には到達しない。主軸をN-11°-Eに置き、東西2.2m、南北2.5mのやや変形な隅に丸味をもつ小型の方形プランを呈している。壁面は、ほぼ鋭角に立ち上がり深さは45cm～50cmを測る。床面は竈の前面を中心に踏み固められていたが周辺部は弱い。ほぼ平坦に移行している。柱穴、馬溝は確認出来なかった。

竈は、北壁中央部に検出され遺存状態は良い。袖部は直線的に30cm程短く付設している。火床部は奥部に位置し、煙道部はやや強く立ち上がる。形態的にはハート状形態をしている。外部への掘り込みは60cmとやや深く、袖部は砂質のやや多いにぶい褐色の粘土を用い築かれ、粘性は弱い。焚口部はやや狭くなる。

覆土は、レンズ状にほぼ自然埋積の様相を呈しているが複雑な層序である。1・2層は褐色、3・4層はにぶい褐色、ローム粒子、ロームブロック、焼上ブロックを含む5・6層は黒色粒子、ローム粒子を小量含む。人為的も考慮しなければならない。

遺物は、少なく床直は1点もなくいずれも覆土からの出土、口唇部をつまみ出す甕、瓶、半球

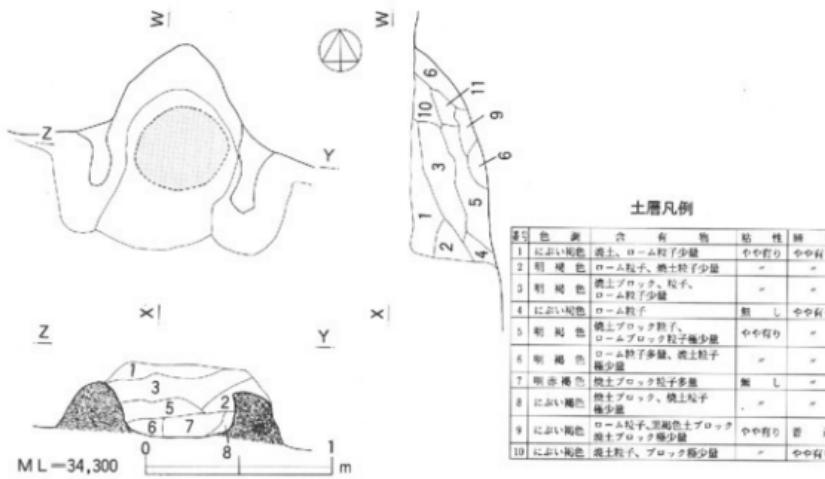
形状の坏、安定した平底をもつ須恵器坏が見られた。



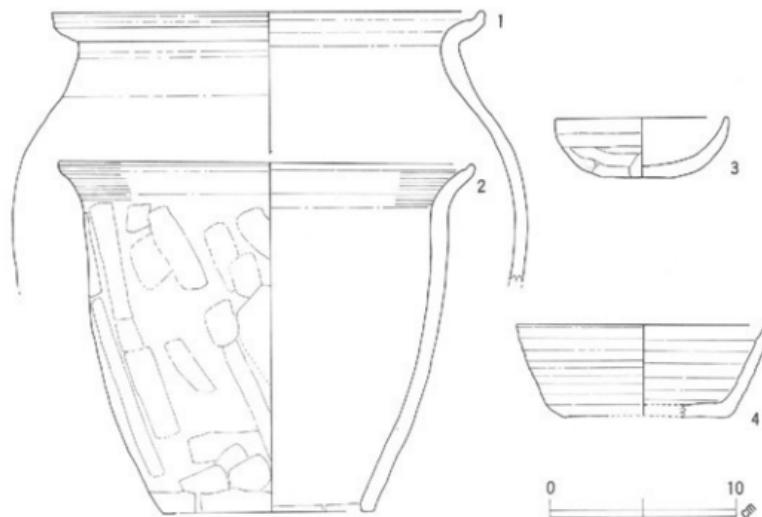
第176図 第65号住居址実測図

出土土器観察表

番号	器種	法値(cm)	器形の特徴及び文様	壺形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	縁土師器	A 23.2 B 18.9 C 11.3	や長脚形状の器形を呈すると思われ頸部や長目、口縁短く水平に近く開き、口唇部は上方へ長くつまみ出し丸く收める。	横ナデ、ナデ	礫、雲母、石英 にぼい褐色 やや良	20 % + 21
2	瓶土師器	A 22.3 B 18.9 C 11.3	孔部端部は平面、内側カット状、直立気味に立ち上り口縁部外縁、口唇部上方へつまみ出す。器面はやや粗雑な調整。	横ナデ、箠削り ナデ(下部は接着)	礫、石英、長石 黒褐色(1部焼色) 普通	95 % + 12
3	小型環土師器	A 9.3 B 3.2 C 3.7	平底の底部からゆるやかに立ち上りながら器肉を減じ、口唇部や丸く收める。(底部へラ調整)	横ナデ、箠削り ナデ	礫、石英、長石 黒褐色 普通	98 % + 39
4	坏須恵器	A 13.5 B 5.0 C 9.0	平底から直線的に開いて立ち上り、口唇部は丸く收めている。(底部へラ調整)	粘土細巻上げ 回転ミズビキ、ナデ 左回り	礫、石英、長石、雲母 灰褐色 普通	95 % 裏内



第177図 第65号住居実測図



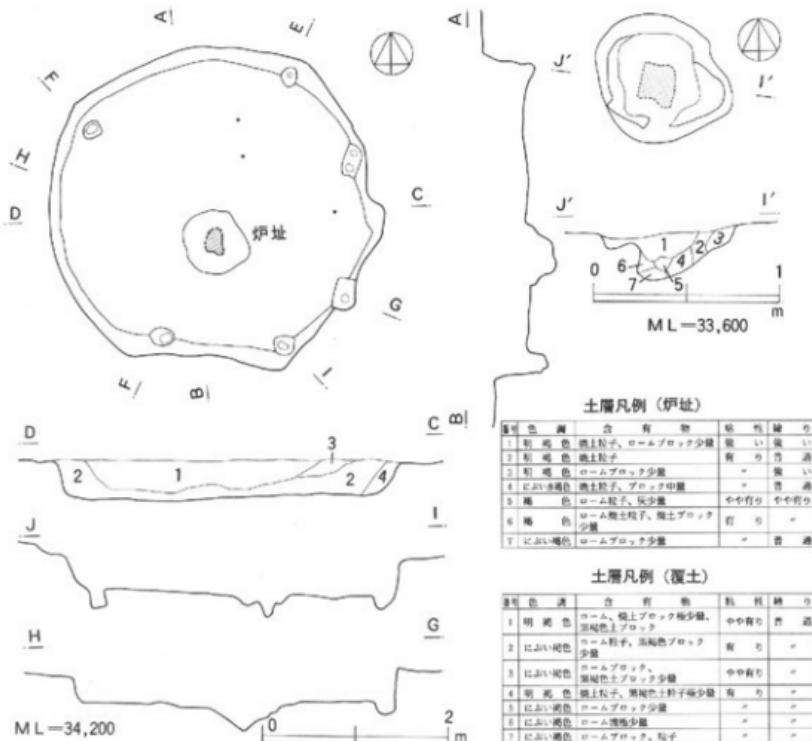
第178図 第65号住居址出土遺物実測図

第66号住居址（第179・180図）

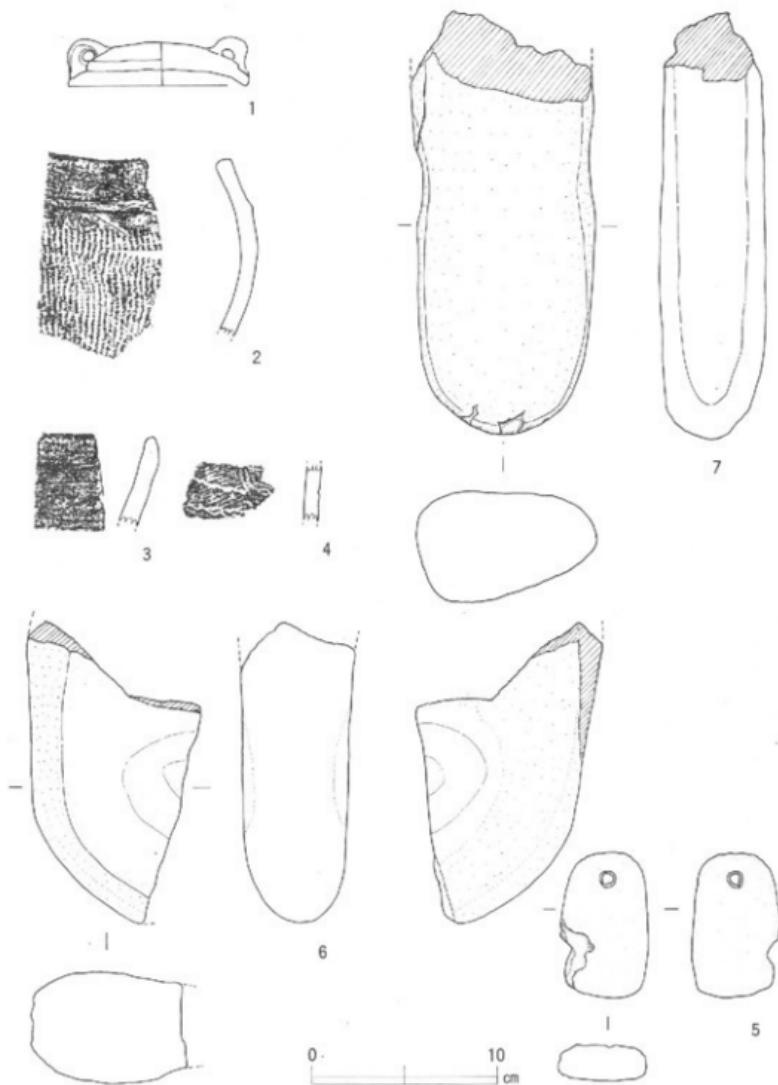
本址は、65号住居址の南側3区、B-13グリットを中心に確認された住居址で台地はゆるく南側に傾斜を示す。直径3.2m～3.6mの円形状の小型プランを呈する縄文時代の遺構で壁面は、やや開いて立ち上がり深さは30cm～45cmを測る。床面は炉周囲を中心に踏み固められていたが周辺部は弱くゆるい凹凸が見られる。柱穴は壁面周囲に6ヶ所確認されいずれも椭円形状、深さは15cm～20cmを測る。周溝は確認出来なかった。

覆土は、レンズ状にはぼ自然埋積の様相を呈している。1層は明褐色、2層はにぶい褐色、3層は褐色、4層はにぶい褐色、ロームブロックを小量含む、5層はローム粒子、ロームブロックを含む。

遺物は、少なく床直は8点いずれも石器、石で土器は1点もなかった。



第179図 第66号住居址・炉実測図



第180図 第66号住居址出土遺物実測図

炉址は中央部やや西側に寄った所に位置し検出され遺存状態は良く、深さは25cm程掘り込まれ径70~75cmとやや梢円気味、中央部中位に焼土層が見られる他は周辺にはそれほどブロック化していない。石、土器等の開いは認められなかった。(地床炉)

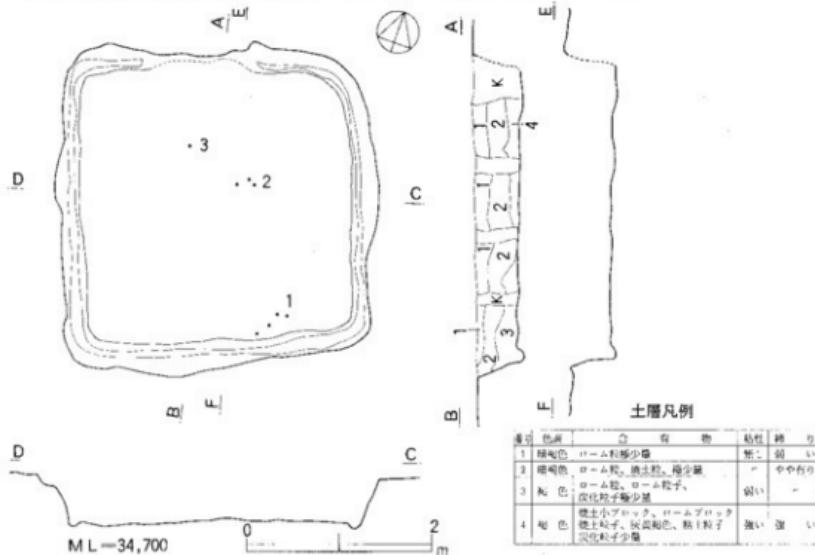
出土上器は細片の為図示したのは3片のみで口縁部無文帯の間に微隆起をもち弱いキャリバー状、末端、S字状結節をもつものがみられた。その他、“フタ”と思われるもの1、敲石、石皿と思われるものが出土している。いずれも1部欠失する。時期は中期後半加曾利EⅢ式と推察する。

浮子、石器一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	孔厚				
5	浮子	7.8	4.6	0.9	15	軽石	覆土中	長方形状、片側に両側からの突孔あり
6	石皿?					砂岩	"	大半を欠失する
7	敲石		9.5	6.0		安山岩	床直	1部欠失、自然石部多い。

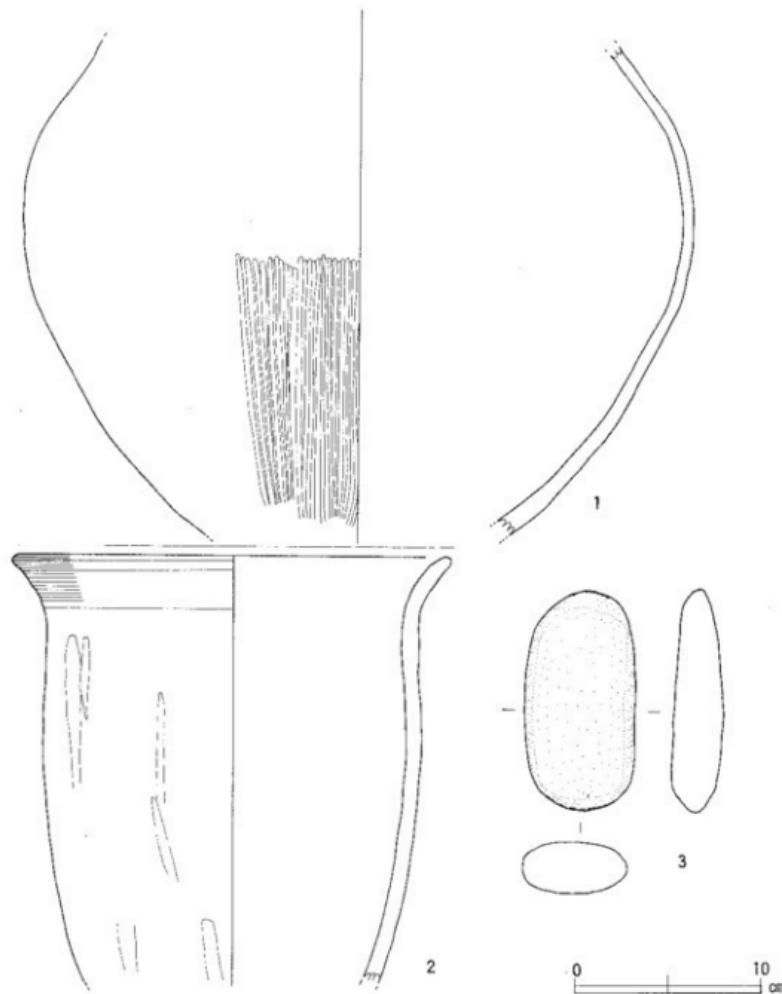
第67号住居址 (第181・182図)

本址は、63号住居址の北側2区、U-6グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦



第181図 第67号住居址実測図

な面に検出された。主軸をN-23°-Wに置き、東西3.2m、南北3.4m 北隅の丸味をもつ方形プランを呈している。壁面は、開いて立ち上がり深さは40cm~45cm を測る。床面は平均して踏み固められていたが周辺部は弱く、ほぼ平坦に移行しているがトレンチャーにより切られている。



第182図 第67号住居址出土遺物実測図

柱穴は検出されず、周溝は浅く狭いが竈の擾乱部を除き巡る。

竈は、北壁中央部に存在していたが芋穴の掘り込みにより欠失し僅かに火床部と思われる部分が検出されたに過ぎない。外部への掘り込みは浅いと推察される。砂質のにぶい褐色の粘土を用い築かれたと推定される。

覆土は、レンズ状にはほぼ自然埋積の様相を呈している。1・2層は暗褐色、3層は褐色、3・4層は褐色、3層は炭化粒子極少量、4層は焼土ブロック、粒子、炭化粒子、灰黄褐色粘土粒子を含む。

遺物は、少なく球胴形の甕、口縁部の短い砲弾形の瓶、蛤刃をもつ石器などが見られたに過ぎない。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	粘土、色調、焼成	備考
1	甕 土師器	A B C	最大径を胴部や上位に置き器肉は薄い。底部、頸部口縁部を欠失している。(中位下部は幅のこまかいヘラミガキ状に近いへら調整が行なわれている。)	ナデ、亂削り (亂ナデ状)	礫、長石、雲母 にぶい橙色 普通	40 %
						+ 17
2	瓶 土師器	A B C	長胴・円筒気味の胴部を有し、頸部のくびれは弱く口縁部はゆるく外反、口唇部は丸く收める。	横ナデ、ナデ 亂削り	礫、砂、石英 にぶい橙色 (一部黒褐色) 普通	50 %
						床直

石器一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
3	敲石	11.9	6.0	2.8	300	安山岩	覆土中	刃部は、ハマグリ刃状、使用痕を残す。

第68号住居址（第183・184・185図）

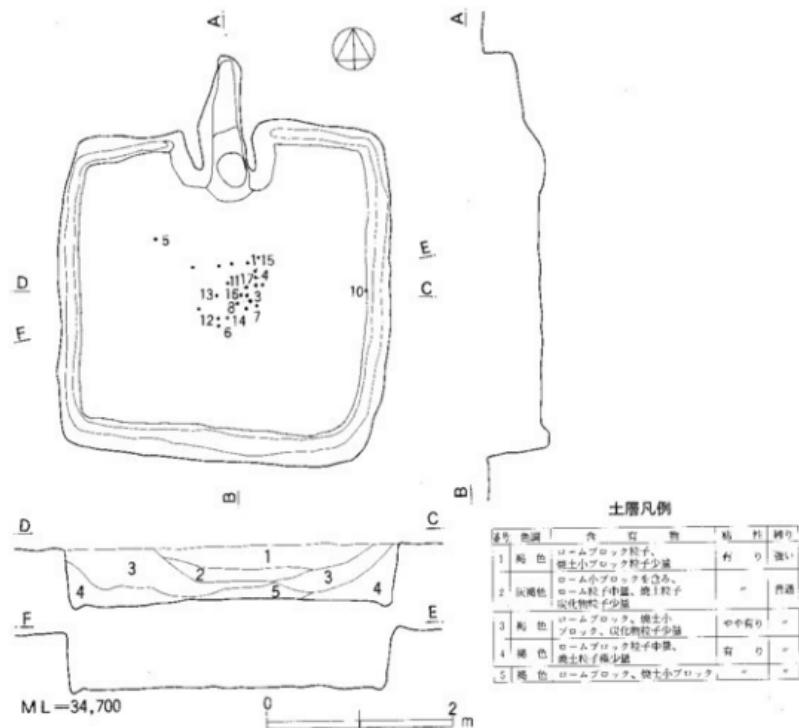
本址は、67号住居址の東側2区、W-5・6、X-5・6グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に検出された。主軸をN-3°-Eに置き、東西3.3m、南北3.6m隅のやや丸味をもつ方形プランを呈している。壁面はほぼ垂直に立ち上がり深さは55cm～60cmを測る。床面は平均して踏み固められていたが周辺部はやや弱い。ほぼ平坦に移行している。柱穴は検出されず、周溝は浅くU字状に巡る。

竈は、北壁中央部に構築され外部へU字状に80cm程掘り込み袖部は50cmほど付設、火床部は前面に位置し僅かに掘り込む。煙道部はゆるく移行してから垂直に立ち上がる。にぶい褐色の粘土を用い築かれ粘性はやや強い、焚口部は僅かに開き気味で本遺跡での類例は少ない。

覆土は、レンズ状にはほぼ自然埋積の様相を呈している。1層は褐色、2層は灰褐色、3層はに

ぶい褐色、4層は淡い橙色、5層は明褐色ローム粒子、粒、ブロックを含む。

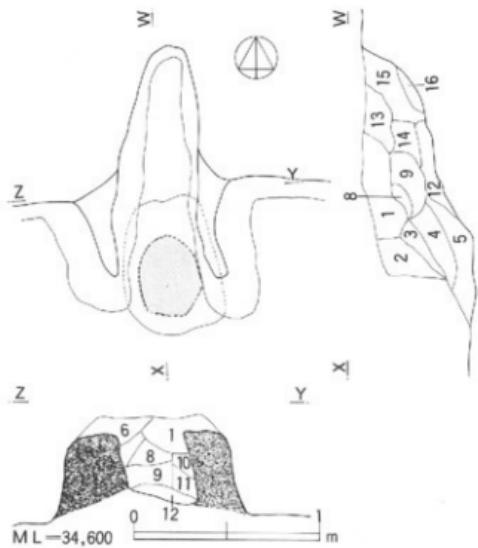
遺物は、中央部から集中して壺の破片が50片程出土球形洞の大型の壺に近いもの、砲弾形状の瓶、环は肩部に顕著な稜をもち口縁部が短かめ、内傾するものと半球形状で口唇部の尖るもののがみられる。



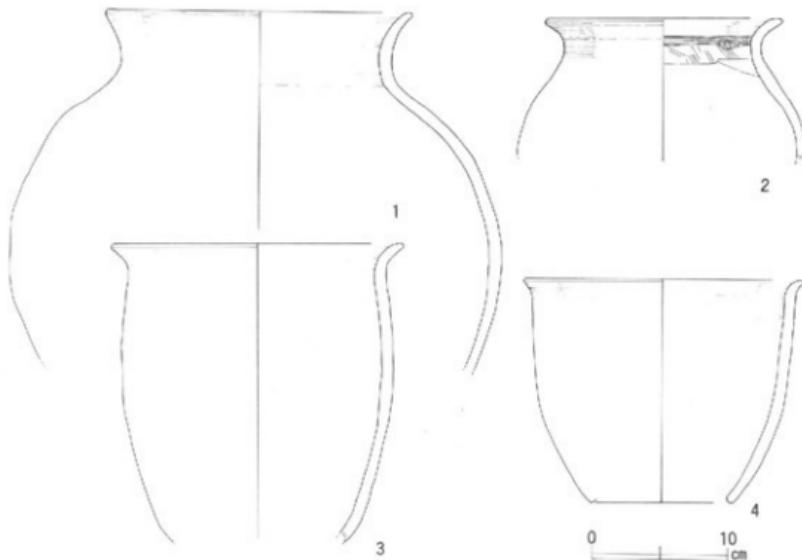
第183図 第68号住居址実測図

出土土器観察表

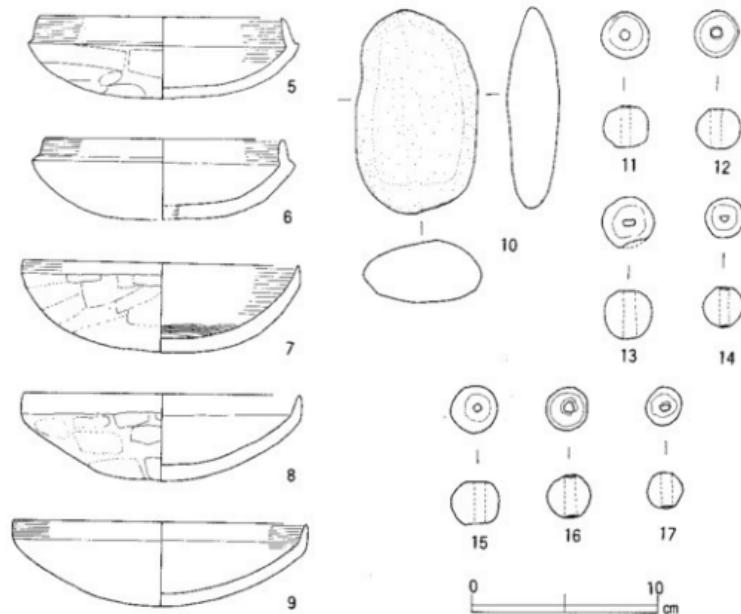
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土器	A 22.6 B C	最大径を胸中位に置き球形に近い。頸部は「く」の字状に強く、頭びれ、口縁部は短く水平に近く開き、口唇部はやや尖り気味、器肉は絶じて薄い。	横ナデ、ナデ (下部ヘラナデ)	礫、石英、雲母 にぶい黄褐色 やや良	60 % + 9



第184図 第68号住居実測図



第185図 第68号住居址出土遺物実測図



第186図 第68号住居址出土遺物実測図

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
2	甕 土師器	A 17.2 B C	肩下部を失する。頸部はやや強くくびれ、口縁部は短く外反、口唇部は水平に近く丸く収める。(内面はハケ状工具調整)	横ナデ、ナデ ハケ状工具調整	繩、長石、石英 淡い赤褐色 普通	20 % 窓内
3	瓶 土師器	A 20.4 B C	器形は長楕形、頸部のくびれ弱く口縁短く内傾、口唇部水平に近く丸く収める。	横ナデ、ナデ	繩、石英 黒褐色(一部に赤褐色) 普通	30 % + 9
4	瓶 土師器	A 20.5 B 16.6 C 10.5	孔部は円窓カットされ弱く開き気味に立ち上り、口縁部は短く外反、口唇部水平に開き丸く収める。(鉢状形態)	横ナデ、ナデ	繩、石英 赤褐色(に赤褐色) やや不良	50 % + 4
5	环 土師器	A 13.2 B 4.4 C 3.7	平底気味からゆるやかに立ち上り肩部にやや顯著な稜をもち口縁部内傾、口唇部薄く尖る。	横ナデ、路削り ナデ	繩、長石、石英 に赤褐色 やや良	70 % + 10
6	环 土師器	A 12.9 B 4.5 C 4.6	平底に近い底部からゆるやかに立ち上り肩部にやや顯著な稜をもち、口縁部は短く内傾気味、口唇部は弱く尖り気味。	横ナデ、ナデ	繩、石英 に黒褐色 やや不良	30 % + 10
7	环 土師器	A 14.9 B 4.8 C 2.7	半球状の形態、口唇部尖る。内面に不規則な横位のハケ目状調整痕	横ナデ、路削り ハケ目状	繩、雲母 に黒褐色 や良	70 % + 7

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
8	环 土師器	A 14.9 B 4.7 C 1.5	半球状形態の环で肩部から口縁部は直立、口唇部は尖る。	ナデ、ヘラナデ状	黒、石英 にぶい黒褐色(黒褐色) やや不良	70 % + 4
9	环 土師器	A 15.8 B 4.6 C 1.5	半球形状のもので、体部はゆるやかに立ち上り短い口縁部は直立気味、口唇部は尖る。 (外側二次焼成による赤褐色部分あり)	横ナデ、ナデ 窓削り?	黒、石英、雲母 にぶい赤褐色 やや不良	60 % 窓内

石器、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	山土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
10	石斧?	11.0	6.6	3.3		砂岩	+ 6	自然石をそのままもちい1部に使用痕あり
11	土 離	2.1	2.5	0.5	16	土 製	+ 10	不整形球状、孔部円形
12	"	2.1	2.3	0.6	14	"	+ 19	球形状に近い、孔部円形
13	"	2.6	2.7	0.6	18	"	+ 11	長円形球状、孔部長円形状、3分/1欠失
14	"	2.1	2.1	0.5	11	"	+ 43	不整形球状、孔部三ヶ月状。(小型)
15	"	2.2	2.5	0.6	15	"	+ 9	不整形球状、孔部角ばる円形
16	"	1.8	1.8	0.5	7	"	+ 22	ほぼ球形状、孔部長円形状
17	"	2.2	2.2	0.6	11	"	長円形球状、孔部三ヶ月状(小型)	

第69号住居址 (第187・188・189図)

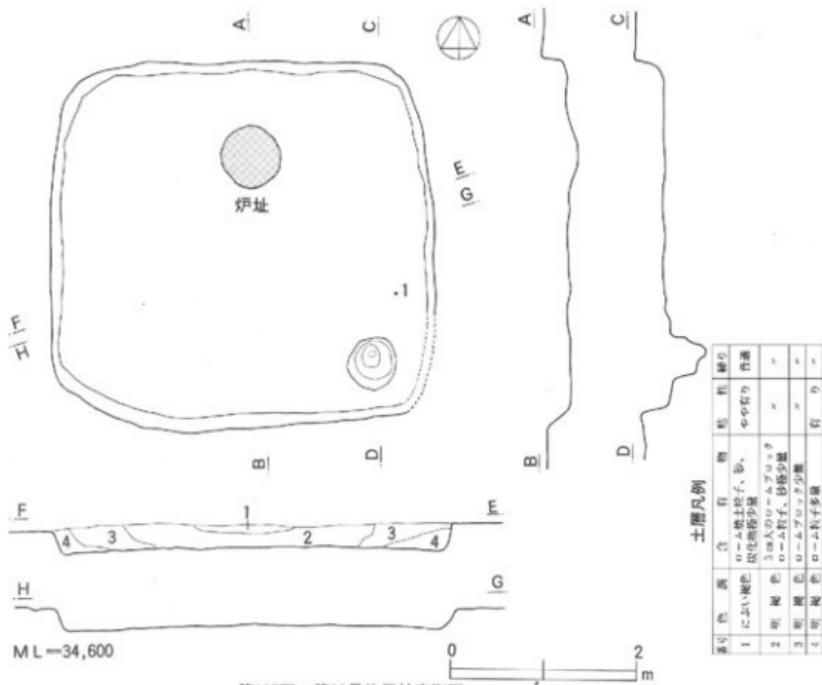
本址は、63号住居址の西側2区、T-7、U-7グリットを中心に確認された住居址で台地のほぼ平坦な面に位置し検出された。東南隅部を63号住居址に掘り込まれて一部消失する。主軸をN-1°-Eに置き、東西3.9m、南北3.9m、隅丸の方形プランを呈している。壁面はゆるく開いて立ち上がり深さは15cm~20cmを測る。床面は炉の周囲を中心に踏み固められていたが壁周辺部は悪くローム面剥き出しに近く中央部がやや高く移行している。柱穴は確認出来ず東南隅部に円形の二段掘り込みの深さ40cmのピットが検出された。周溝は認められない。

覆土は、レンズ状にはば自然埋積の様相を呈し、1層は暗褐色、2層はにぶい暗褐色、3層は明褐色、1層はローム粒、焼上粒子、炭化粒子極少量含む。

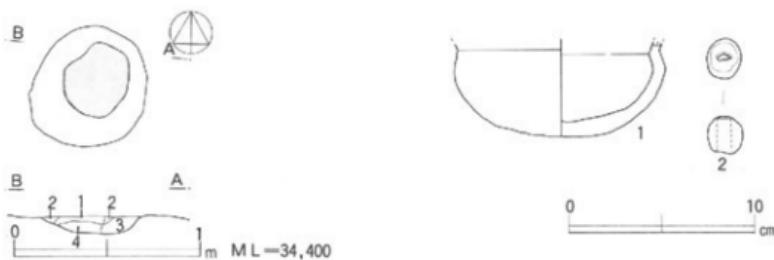
遺物は、少なく球形状の碗に近いもの、炉の傍からは雲母片岩、土製の丸玉1点が見られたに過ぎなかった。

炉は、中央部北側に位置し検出され径50cm程の円形。炉床部はロームが火を受けブロック化している。掘り込みは10cm程の浅いものでゆるやかな掘り込みをもつ。(地床炉)

遺物からは和泉期の遺構と推定される。



第187図 第69号住居址実測図



土層凡例

層号	色 調	含 有 物	粘 性	繊 球
1	褐色	燒土粒子少量	やや有り	やや有り
2	明褐色	燒土小ブロック、 ローム粒子多量	—	—
3	明褐色	ローム小ブロック、 燒土小ブロック粒子多量	—	—
4	明赤褐色	燒土粒子多量、ブロック少量	—	—

第188図 第69号炉址実測図

第189図 第69号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	埴？ 土師器	A B C 4.0	半球形の体部か「く」の字状外反し口縁部は開く…と思われる。赤彩され丁重な作り。 (培形土器に近い器形を呈する)	ヘラミガキ、ナデ (赤彩)	陶、石英 赤褐色 やや良	50 %

土錐一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
2	土錐	1.9	1.8	0.8	8	土製	覆土中	不整形球状、孔部三ヶ月状

第70号住居址 (第190・191・192図)

本址は、63号住居址の東側2区、V-7、W-7グリットを中心に確認された住居址で台地はゆるく南、東側へ傾斜を示す位置に検出された。西南部を63号住居址に掘り込まれて一部欠失する。主軸をN-26°-Wに置き、東西3.5m、南北3.9m隅丸の方形プランを呈している。壁面は、ゆるく開いて立ち上がり深さは20cm~30cmを測る。床面は炉の周囲を中心に踏み固められ締まりは良く、ほぼ平坦に移行している。柱穴と思われる円形状の掘り込みが北東、西南の隅部に認められ深さ27cm、42cmを測るピットが検出されたが西北、東南隅部は63号住居址、攪乱などで検出されないが柱穴の可能性が高い。周溝は認められない。

覆土は、レンズ状にほぼ自然埋積の様相を呈し、1・2・3・4・5・6層はいずれも褐色、いずれもローム粒子、ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子の混入の差である。

遺物は、少なく体部球形胴の埴がP1上部から細片で出土。刷毛目をもつ台付甕底部が見られたに過ぎなかった。1は碗状、床面から出土。3は高杯。

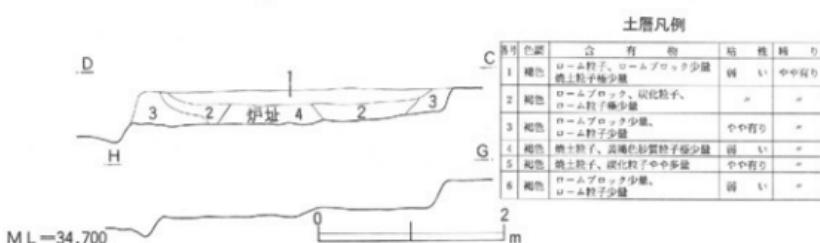
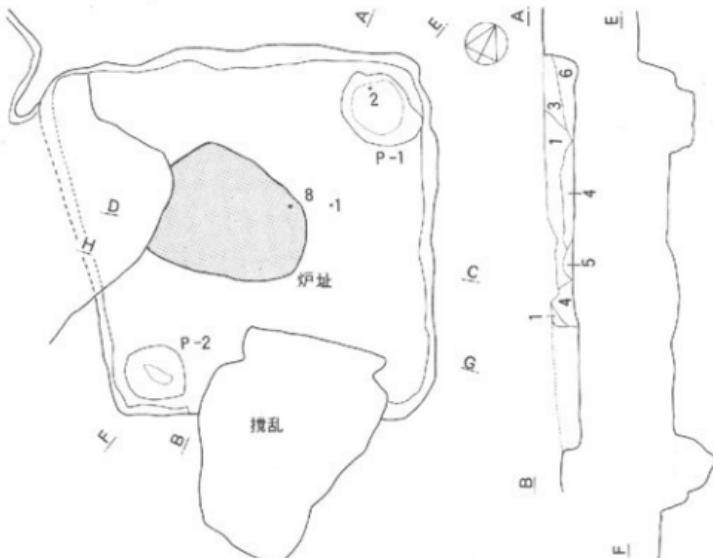
炉は、中央部西側に寄った位置に検出され長円形状60cm~170cmを測る大きなもので有ったが内部は5ヶ所の円形状の小炉に別れ炉床部はロームが焼けてブロック化している。掘り込みはいずれも10cm程の浅いもので各小炉の境はそれほど明確なものではなかった。(地床炉)

遺物からは和泉期のやや古い時期と推定される。

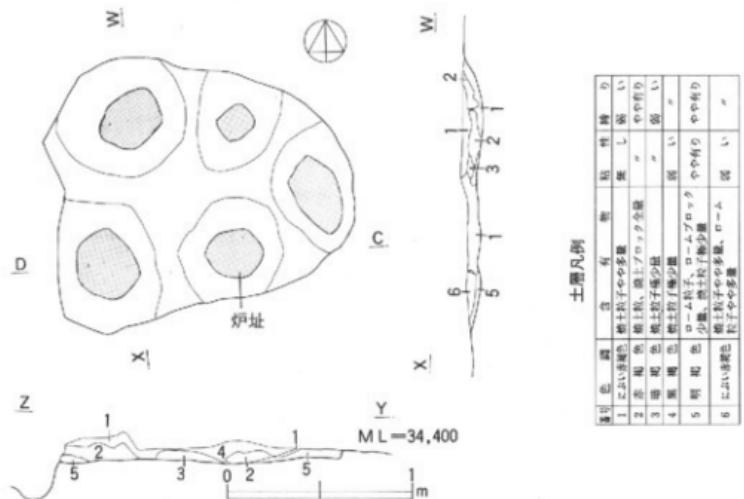
出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	埴 土師器	A 13.8 B 6.0 C 4.8	上底の底部からゆるく内脣して立ち上り、体部中程で一旦くびれてから開いて口縁部に直線的に移行。口齊部は尖る。	刷毛、ナデ	陶、石英、雲母 にぶい黄褐色 (内底赤褐色) 普通	70 % 床直

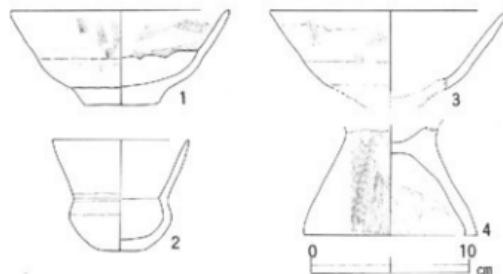
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
2	壺 土師器	A 8.6 B 7.0 C 2.0	底部は小さく体部は内側して立ち上り、口縁部は長く開いて直線的に尖り気味の口唇部へ移行する。ミニシア的、赤影	ナダ、ヘラミガキ (丁寧なナデ)	輝、石英 暗い赤褐色 やや良	70 % + 21
3	高壺 土師器	A 15.0 B C	脚部を欠失する。壺部は丁字状で体部は弱く2段に張りをもち、開いて器肉を減じて立ち上り、口唇部丸味をもつ。	刷毛、ナダ ナデミガキ	輝、石英、雲母 にぼい褐色 普通	10 % P. 1 覆土
4	高壺 土師器	A B C 10.9	脚部のみ弱く「く」の字状に開いて壺部に移行し、壺部とは「く」の字状になり器台に近い器形か。	刷毛、ナダ、箋押へ	輝、砂、石英 にぼい褐褐色 やや不良	50 % + 9



第190図 第70号住居址実測図



第191図 第70号炉址実測図



第192図 第70号住居址出土遺物実測図

土製品一覧表 (図なし)

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
5	土鍋	2.7	2.5	0.7	21.5	土製	床直	長円球状、孔部円形(実測図なし)
6	"			1.1		土製	覆土	2分/1欠失 (")

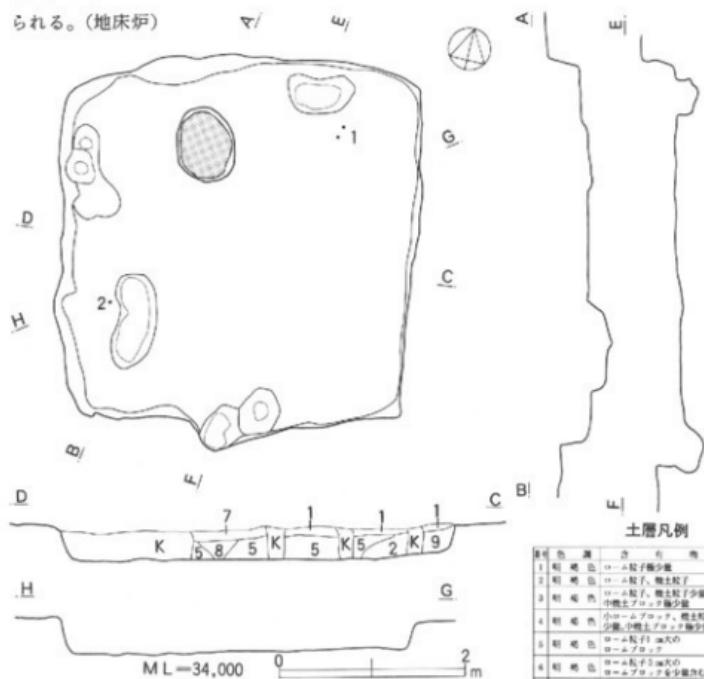
第71号住居址 (第193・194・195図)

本址は、66号住居址の西側2区、Y-11、12グリットを中心に確認された住居址で台地がゆるく東、南側に傾斜を示す位置に検出された。主軸をN-14°-Wに置き、東西3.6m、南北3.8mの隅の丸味をもつ方形プランを呈する。壁面は、やや弱く開いて立ち上がり深さは22cm~38cmを測る。床面は炉の周囲を中心に踏み固められていたが壁周辺部は弱い、ほぼ平坦に移行している。ピットは3ヶ所認められたが柱穴とは位置、掘り方からは判断出来なかった。深さは20cm前後。周溝は検出出来なかった。

覆土は、1層が水平に近く埋積、2層は壁面部に認められ、3層はロームブロック焼土粒、粒子を含む。1・2・3・4・5層は明褐色、6層はにぶい褐色を示す。

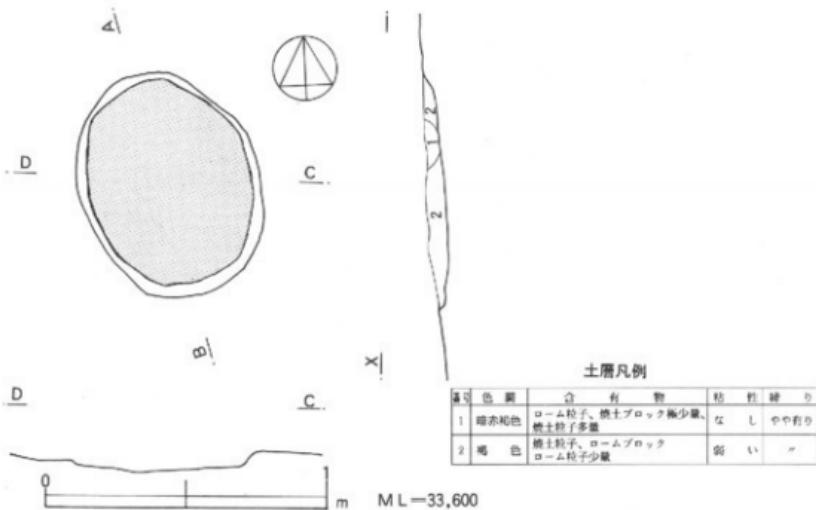
遺物は、少なく甕型土器の口縁部、底部がみられいずれも球胴形状。

炉は、北壁中央部に検出され遺存状態は良く、掘り込みは約10cm程と浅く径60cm~80cmの梢円径、炉床はブロック化している。炉址の位置は北側に偏在している。遺物からは和泉期を考えられる。(地床炉)

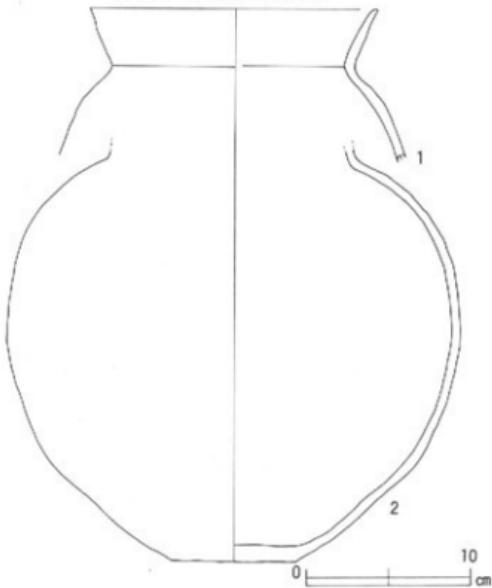


第193図 第71号住居址実測図

層	色	漬	古	有	無	性	特	記
1	明褐色	ローム粒子少量		中中	有り	中中	有り	
2	明褐色	ローム粒子		一	一			
3	明褐色	ローム粒子、陶土粒子少量		一	有り	9		
4	明褐色	少量、小塊、中塊土ブロック少量		一	中中	有り		
5	明褐色	ローム粒子、土塊		一	一			
6	明褐色	ローム粒子少量		一	有り	9		
7	にじ褐色	ローム粒子少量		一	中中	有り		
8	にじ褐色	少量、小塊、中塊土ブロック少量		一	一			
9	明褐色	ローム粒子、ロームブロック		一	一			



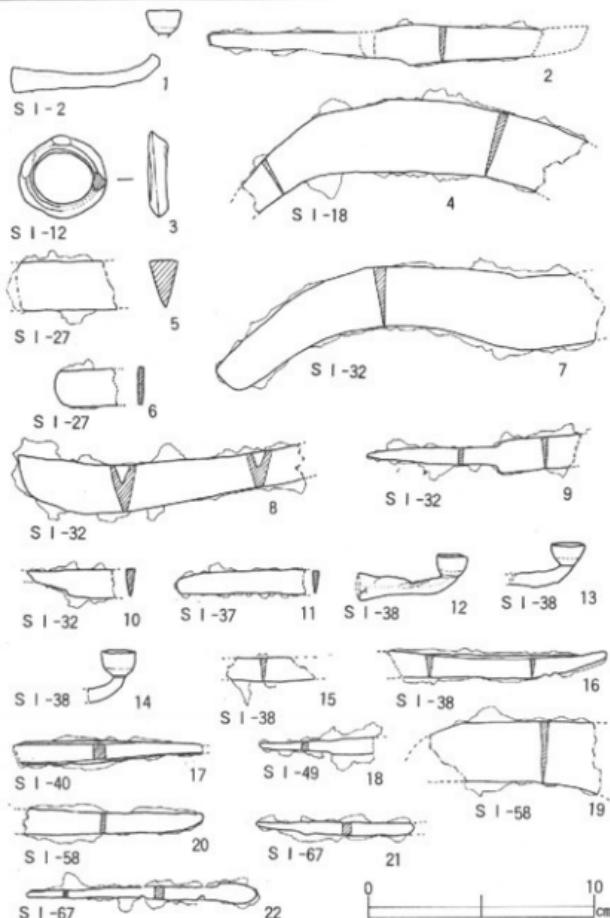
第194図 第71号炉址実測図



第195図 第71号住居址出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	壺 土師器	A 17.8 B C	頸部「く」の字状に外反、口縁部反日に開く。 口唇部内面カット状、尖り気味。	ナデ	礫、石英 暗褐色 普通	30 % 床 直
2	壺 土師器	A 4.0 B C	小さめの底盤から、内擗して立ち上がり球形 調、口縁部矧く不明なれど、壺形の器形を呈 すると思われ、器内は薄い。	ナデ(斜め、横位) やや粗雑	礫少混 黄灰褐色 普通	30 % 床 直



第196図 住居址出土銅、鉄製品実測図 (SIは住居址略号)

鉄(銅) 製品観察表 (Aは長さ及び遺存長)

番号	種別	法量(cm)	特徴	備考(出土)
1	煙管 銅	A B 6.5 1.0	火皿は朝彌形、雁首はゆるく立ち上る。つなぎは左	1号住居址 覆土中
2	刀子 鉄	遺存長14.9 刃幅 棘幅 1.8 0.2	刀部切削部を欠失する。 遺存状態はやや良。茎 長さ9cm	2号 住居址 +10
3	耳輪? 銅	径 断面径 3.8 0.6	耳輪状、やや円形気味。 上部に押へ金具のつけた痕跡をもつ。	12号 住居址 +20
4	鍔 鉄	A 刃幅 背幅 15.1 3.0 0.3	両端はやや鋭角な曲りをもつもので刃部中央は直線的背部は直線的	18号 住居址灰土 遺存やや不良
5	刀子? 鉄	A 刃部幅 棘幅 4.0 2.0 1.3	断面三角状に近く刀子? 小刀?	27号 住居址 +15
6	小札? 鉄	最大幅 厚さ 2.9 0.3	片面円形状、大半を欠失している。	2号 住居址 +10
7	鍔 鉄	遺存長13.6 最大幅 3.2	刃先に向って身幅は減じ丸く収めている。1部に木質が遺存する。	32号 住居址 床 直
8	鑓? 鉄	最大幅 棘幅 2.6 1.2	断面三角形弱く外開く V字状態に木質遺存、 鑓の右側か	32号 住居址 床 直
9	刀子 鉄	長さ 刃部幅 9.0 1.4	両端のやや大形の刀子と思われる。刃部大半を欠失し茎はほぼ残る。	32号 住居址 床 直
10	刀子	長さ 刃幅 棘幅 3.7 1.3 3.5	刃部大半欠失し、闊く膨らみ気味。茎長さ1.8cm。	32号 住居址 覆 土
11	刀子 鉄	長さ 刃幅 棘幅 5.7 1.1 0.3	刃部大半欠失(断面直線的)	37号住 居址覆土
12	雁首 銅	長さ 径 4.7 1.3	ややつぶされているが火皿部分は良好で朝彌形。(火皿)	38号住居址 覆 土
13	雁首 銅	径 (火皿) 1.6	1部欠失するが火皿部分は良好で朝彌形。	38号住居址 覆 土
14	雁首 銅	径 (火皿) 1.7	1部欠失火皿は朝彌形で深味をもつ。首部はやや鍔首状に立ち上る。	38号 覆 土
15	刀子 鉄	長さ 刃幅 棘幅 3.6 1.1 0.3	銹化激しく明確につかめず、断面からは刀子刃部状、片開	3号 住居址 覆 土

番号	種別	法量(cm)	特徴	備考(出土)
16	刀子 鉄	遺存長 刃幅 棘幅 9.8 1.0 0.3	遺存状態はやや良。茎 欠、刃部欠、刀子か?	38号 住居址 +10
17	刀子? 鉄	遺存長 幅 8.3 0.5	遺存状態はやや良、欠失 ヤリカンナ?	48号 住居址
18	刀子? 鉄	遺存長 刃幅 棘幅 5.0 0.7 0.2	銹化激しい。鍔の茎? 刀子か	40号 住居址 覆 土
19	鍔 鉄	遺存長 刃幅 刃幅 7.3 2.7 0.4	切先、刃部大欠。遺存 状態はやや良	58号 住居址
20	鍔	遺存長 幅 7.9 0.6	断面長方形。肉端部欠失 欠失	67号 住居址
21	鍔 鉄	遺存長 厚さ 7.1 0.4	銹化激しい、鍔部欠。	67号 住居址
22	鍔 鉄	長さ 厚さ 10.1 0.6	鍔形態不明? 銹化激し 鍔は柳葉形状	67号 住居址
23	煙管 銅	長さ 径 9.9 7.0 212匁	直線的な形態(内部紙入 る)遺存している品質は なし。(調整必要あり)。	1号 土 拡 覆 土
24	煙管 銅 "	長さ 径 5.5 1.2	鍔口部が、ゆるく立ち上 る。(やや径が大きい) つなぎは左。雁首	16号 土 拡 覆 土
25	煙管 銅 "	長さ 径 2.6 1.2	つなぎは左鍔口部	P. 16 柱 穴
26	鰐 銅 "	長さ 径 5.9 1.1	鍔口部は、ゆるく立ち上 る。つなぎは左。	P. 16 柱 穴
27	煙管 銅 "	長さ 径 5.8 1.1	火皿は口縁が内傾し浅 い朝彌状。火皿部、雁首	P. 17 柱 穴
28	煙管 銅	長さ 径 1.6	火皿の1部欠、朝彌形	W - 2 G
29	煙管 銅 "	長さ 径 5.9 1.3	やや強く立ち上り、雁部 にたが状に輪をめぐらす。 皿部欠、つなぎは左。	X - 2 G
30	和釘 鉄 "	長さ 幅 厚さ 12.0 1.2 4.0	平釘(の可能性大)近世 頭部は折り曲げられて れていわゆる人相釘の形態 遺存状態はやや良。	W - 31 表 土
31	和釘 鉄 "	長さ 径 厚さ 8.3 1.0 5.0	平釘(の可能性大)近世 頭部は折り曲げている。 いわゆる大和釘の形態 遺存状態はやや良。	2A - 40 表 土

つなぎは向って(吸口)の右→左を指し…破線←左 実線→右

2 土 坑

土坑は95基検出されたがその中で約20基程が掘立て柱の建家のものであった。これらの土坑を大別すれば時期不明のもの15基〔中世～近世〕、江戸時代前後の墓と思われるもの2基、時期は特定出来ないが掘り方、上層から中世期以前と考えられるもの4基、古墳時代と考えられるもの5基、縄文時代のもの11基〔縄文時代のものは2～3基に更に細分出来る〕。分析の結果攢乱、又は芋穴的のもの、木の抜根痕と思われるものが見られこれらは除外した。従って総数と数が一致しない。以下各土坑の形態、特徴、出土遺物について前述の順で述べる。したがって土坑番号の順位は不同である。

第2号土坑（第197図）

本址は9号住居址の覆土中1区Y-40グリットに位置し半分程堀り込んでいた。ほぼ径70cmの円形状、底部は中央部がやや高いがほぼ平坦、ゆるく開いて立ち上がる。

覆土は上部から暗褐色、褐色などの4層に分けられ1層は焼土、炭化粒子を含む。2・3・4層は炭化粒子を含み各層共縮まりはあるが遺物は検出されなかった。

第3号土坑（第197図）

本址は14号住居址の東側1区X-42グリットに位置し径1m、1.15cmのほぼ円形状、底部は水平に移行、掘り込み深さは35cmやや開いて立ち上がる。

覆土は6層に分けられ1・2・3・4層はゆるくレンズ状に埋積、5・6層はこれらの層を切るように存在、2層は炭化粒、物5mm～1.5cmを多量に含み黒褐色と他層と際立った差が見られる。遺物は土師器破片が5点ほど覆土中から出土している。

第4号土坑（第197図）

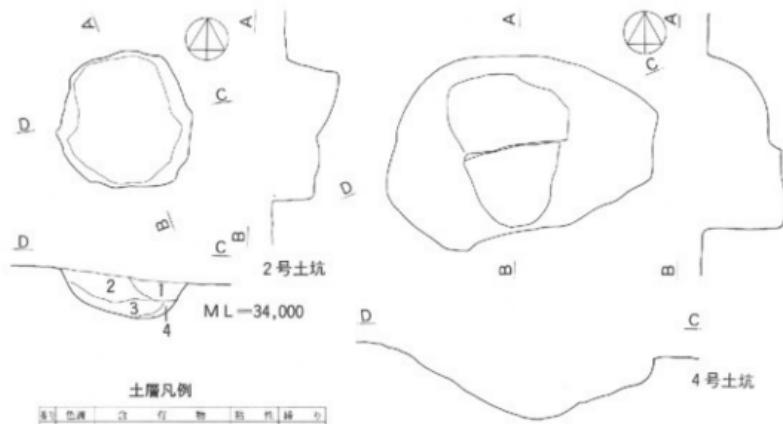
本址は10号住居址の北側に位置し1.4m×92cmの楕円形状、西、東はゆるく南、北は垂直に立ち上がり底部は僅かではあるが2段になる。深さは45cmを測る。

覆土は上部に黒褐色の炭化粒子、粒を含む他はローム粒子、ブロックを含む。縮まりは弱く抜根痕跡の可能性が高い。遺物は土師器破片3片であった。

第5号土坑（第197図）

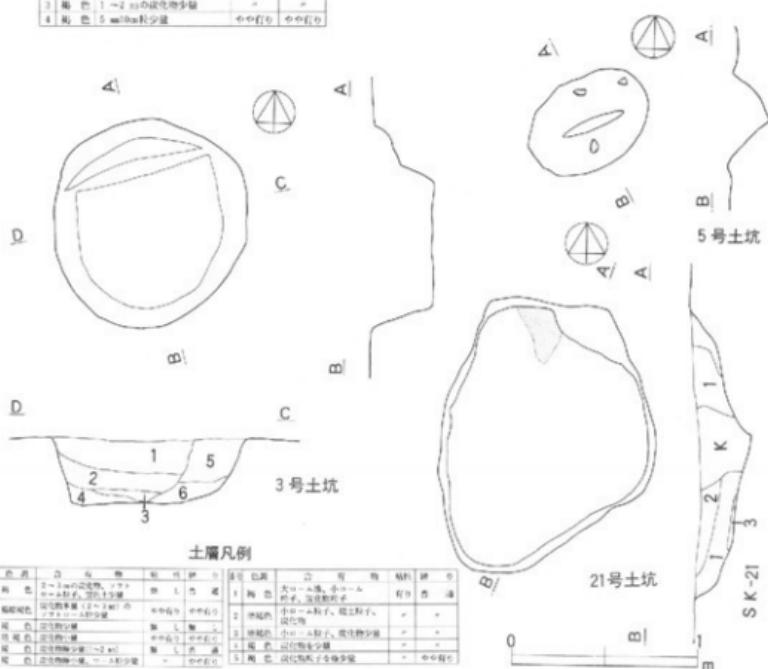
本址は21号住居址の覆土中に掘り込まれていた。70cm×50cmの楕円形状、東西はゆるいU字状、南北はV字状の掘り込み。

覆土は5層に分けられ2層を除き褐色、炭化粒子、ロームブロックを含む、2層は焼土粒子を含み各層共縮まりはある。遺物は炭化物が3点見られ（長さ1.5cm）10cm～25cm程浮いた状態で検出されている。本址も抜根痕の可能性が考えられよう。



土層凡例

土層	色調	含有物	性質	特徴
1	褐色	少量の炭化物、灰白色少量	有り	古
2	褐色	3 mmの炭化物少量	無	—
3	褐色	1~2 cmの炭化物少量	無	—
4	褐色	5 mmの灰少量	やや有り	やや古



土層凡例

土層	色調	含有物	性質	特徴
1	褐色	2~3 cmの炭化物、灰白色	有り	古
2	褐色	炭化物少	無	—
3	褐色	炭化物少	無	—
4	褐色	炭化物少	無	—
5	褐色	炭化物少	無	—
6	褐色	炭化物少	無	—

第197図 第2、3、4、5、21号土坑実測図

第21号土坑 (第197図)

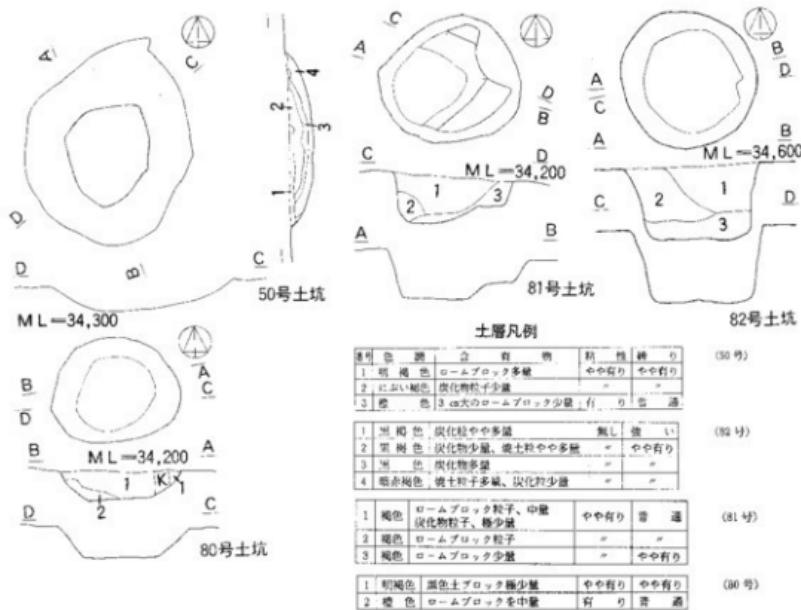
本址は1号溝の覆土中1区X・Y-26グリットに位置し、ほぼ掘り込んでいた。長軸径1.45m × 1.2mの長円形状、底部は、中央部がゆるく凹む緩く立ち上がりながら移行壁面はゆるく開く。

覆土は、上部から暗褐色、黒褐色などの3層に分けられ1層は炭化粒子をやや多く含む。2層は炭化粒子を少量含み3層はローム粒を少量含み各層共締まりはやや弱い。遺物は検出されなかつた。南側に焼土、炭化粒子が少量見られた。

第50号土坑 (第198図)

本址は32号住居址の東北側2区D-16グリットに位置し、径1.45m × 1.2m楕円形状、底部はゆるいU字状に移行、掘り込み深さは20cm強く開いて立ち上がる。

覆土は4層に分けられ1・2・3層はゆるくレンズ状に埋積、4層は僅かに立ち上がる部分に存在、1・2層は黒褐色で炭化粒、焼土粒子を含む、3層は黒色で炭化物を多量に含む。遺物は1点も検出されなかつた。



第198図 第50、80、81、82号土坑実測図

第80号土坑（第198図）

本址は、65号住居址の覆土の中に位置し75cm×85cmの楕円形状、各面共ゆるく立ち上がり底部は水平に移行する。深さは20cmを測る。

覆土は1層が明褐色で黒色ブロックを含む、2層は橙色、ロームブロックをやや多く含む。縒まりはややある。遺物は皆無。

第81号土坑（第198図）

本址は、65号住居址の東側に位置し検出された。85cm×1mの楕円形状、底部は二段になりゆるく傾斜をもつ、壁面は垂直に近く立ち上がる。

覆土は3層に別けられ、1層は明褐色、ロームブロックを含む、2層は炭化粒子を含み、3層は3cm前後のロームブロックを含む。各層共縒まりはややある。遺物は皆無。

第82号土坑（第198図）

本址は、65号住居址の西側に位置し検出された。径95cm程の円形を呈し底部は真中がやや高い他はほぼ水平に移行している。壁面は垂直に近く立ち上がる。

覆土は3層に分類されるがいずれもローム粒子、ブロックの混入差で縒まりはややある。掘り方、プランから芋穴の可能性が強い。

第8号土坑（第199図）

本址は、27号住居址の覆土中2区B-22グリットに位置し掘り込んでいた。径95cm×95cmの隅部のやや丸みをもつ方形状、底部は水平に移行、壁面はゆるく開いて立ち上がる。

覆土は当初大きい範囲と考えて調査を始めた為確認が遅れた上部は黒褐色の2層に分けられ1層は炭化粒子をやや多く含む。2層は炭化粒子を多量に含み底部には焼土が認められる。各層共縒まりはやや弱い。遺物は検出されなかった。

第18号土坑（第199図）

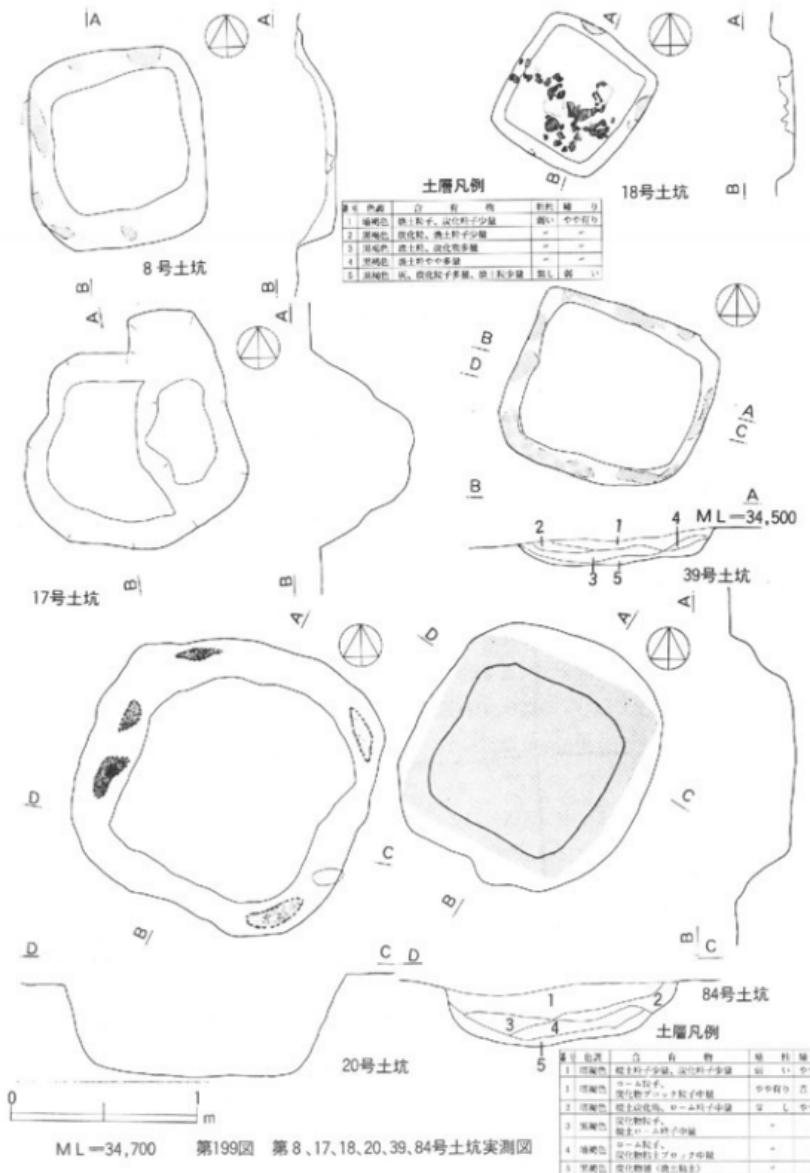
本址は、43号住居址の覆土中2区A-31グリットに位置し75cm×80cmの方形状プラン、底部は水平に移行、掘り込み深さは12cm壁面は開いて立ち上がる。

覆土は3層に分けられ1層は褐色、炭化粒子をやや多く含む2・3層は黒色で炭化粒、物を多量に焼土粒子を少量含む、3層は赤褐色で炭化物を少量、焼土粒子を多量に含む。各層とも縒まりは弱い。遺物は1点も検出されなかった。

第60号土坑（第199図）

本址は、21号住居址を掘り込み検出された。長径1.2m、短径1.1mの楕円形状と方形状の掘り込みを合わせたような形態を呈する。底部は二段に掘り込まれ、壁面はU字状に立ち上る。深さは52cmを測る。

覆土は6層に分けられ下層は水平の埋積を示し30cm前後と厚いが炭化粒子、ローム粒子の混入



量の差、各層共締まりはやや弱い。遺物は皆無。

第18号土坑（図なし）

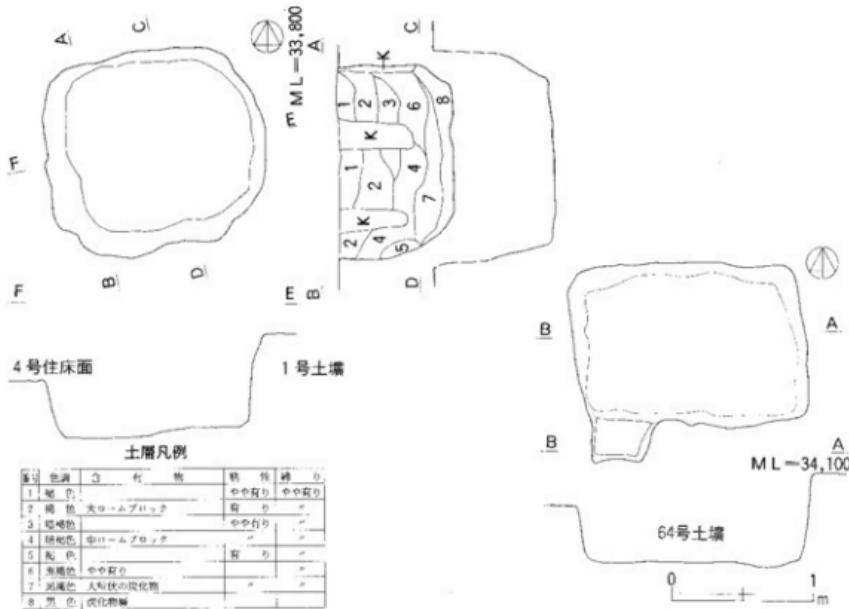
本址は掘立て建家の土坑で新旧二回の掘り込みが認められ長方形状、底部は二段になり各面共やや強く立ち上がり、底部は若干の凹凸はあるが水平に移行する。長さは1m～1.2m、幅は60cm前後、深さは55cmを測る。

覆土は明褐色でロームブロック混入の差。遺物は皆無。

第20号土坑（第199図）

本址は、1号溝を掘り込み検出された。1.55m×1.55mの隅部の丸みをもつ方形プラン、底部は水平に移行し縁をもつ、壁面は強く立ち上がり焼土粒子が付着、火を燃やした可能性が強い。深さは55cmを測る。

覆土は9層に分けられ下層は水平の埋積を示し15cm前後と厚い。他は炭化粒子、ローム粒子の混入の差、各層共締まりはやや弱い。遺物は皆無。



第200図 第1、64号土壤実測図

第84号土坑（第199図）

本址は、64号住居址の覆土中に位置し検出された。1.3m程の長方形を呈し底部はゆるく傾斜をもつ。壁面はゆるやかに立ち上がる。

覆土は5層に分けられるが1・2・4層を除き黒褐色いずれも炭化粒子、焼土粒子を含む。下部の5層は炭化物層、焼土を含む。縦まりはやや有る。遺物は皆無。

第39号土坑（第199図）

本址は、53号住居址の覆土中に大部分位置し94cm×1.1mの隅のやや丸い長方形プランを呈し底部はゆるやかな傾斜を示して移行。壁面は開きゆるく立ち上がり焼土粒子が付着。

覆土は5層に分けられ1層を除き何れも黒褐色、炭化粒子、焼土粒子の混入差で5層は灰、炭化粒子を多量に含む、縦まりはややあり。遺物は皆無。

第1号土壙（第200図）

本址は、4号住居址の中2区X-38グリットに位置し覆土及び床面を掘り込んでいた。長軸1.4m×1.6mの長方形形状プラン、底部は中央部がやや上がりながら移行、壁面は垂直に近く立ち上がり深さは65cm。

覆土はレンズ状の埋積が見られる。上部から褐色、暗褐色、黒褐色、黒色などの8層に分けられ7層は炭化粒子を含む。8層は炭化物を多量に含み各層共縦まりはややあり。遺物はいずれも4号住居址に伴うものと考えられる土師器、須恵器がみられたが本遺構とは合い入れないものと考える。

第64号土壙（第200図）

本址は、23号住居址の東側1区W-29グリットに位置し長辺1.55m×1.1m長方形形状、底部は水平に移行、掘り込み深さは65cm垂直に立ち上がる。

覆土は3層に分けられるがいずれもローム粒子、ブロックの混入の差で人為的な埋積状態。遺物は1点も検出されなかった。

第51号土坑（第201図）

本址は2区D-18グリットに位置し80cm×1.05cmの梢円形状を呈し各面共やや強く立ち上がり底部は凹凸がある。深さは43cmを測る。

覆土は1～4層が褐色、5層が明褐色埋積状態は人為的。遺物は土師器細片が6点検出された。時期は古墳時代か？。

第53号土坑（第201図）

本址は2区D-17グリットに位置し検出された。径1.5m程の円形状を呈し深さは40cm、底部はほぼ平坦に移行、壁面はやや開いて立ち上がる。

覆土は6層に別けられるが2・4層に焼土粒子が含まれる他はロームブロックの混入の差で分け各層共締まりは強い。遺物は土師器細片2点のみ。覆土は人為的の埋積か？。

第58号土坑（第201図）

本址は、32号住居址の東側2区C-18グリットに位置し検出された。95cm×1.1mの梢円形状、深さは35cmを測る。底部は中央部がゆるく凹む、ゆるく立ち上がりながら移行壁面は開き気味に移行。

覆土は上部から褐色、明褐色などの3層に分けられローム粒子、ブロックの混入の差締まりはややある。遺物は検出されなかった。

第69号土坑（第201図）

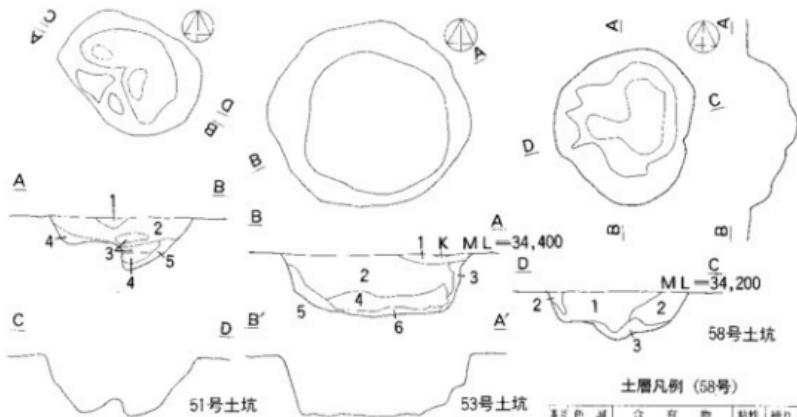
本址は、58号住居址の南側1区Y-23グリットに位置し80cm×1.3mの梢円形状、底部は僅かに高まり移行、掘り込み深さは50cm、壁面は開き気味に立ち上がる。

覆土は3層に分けられ、ゆるくレンズ状に埋積1・2層は褐色でローム粒、ブロックを含む、3層は明褐色でローム粒子を多量に含む。締まりは強い。遺物は1点も検出されなかった。

第73号土坑（第201図）

本址は、2号溝の北側に位置し1m×2.3mの長梢円形状各面共ゆるく立ち上がり底部は凹凸が見られ、深さは20cmを測る。

覆土は1・4層が明褐色2・3層は明褐色ロームブロック、粒、粒子の混入の差である。締まりは強い。遺物は皆無。



土層凡例 (51号)

番号	色調	含 有 物	性 性	粘 性 細り
1	褐色	ロームブロック少量	弱い	弱い
2	褐色	ローム少量	~	~
3	褐色	ロームブロック少量	弱い	~
4	褐色	ローム少量	~	~
5	明褐色	ローム少量	弱い	弱い

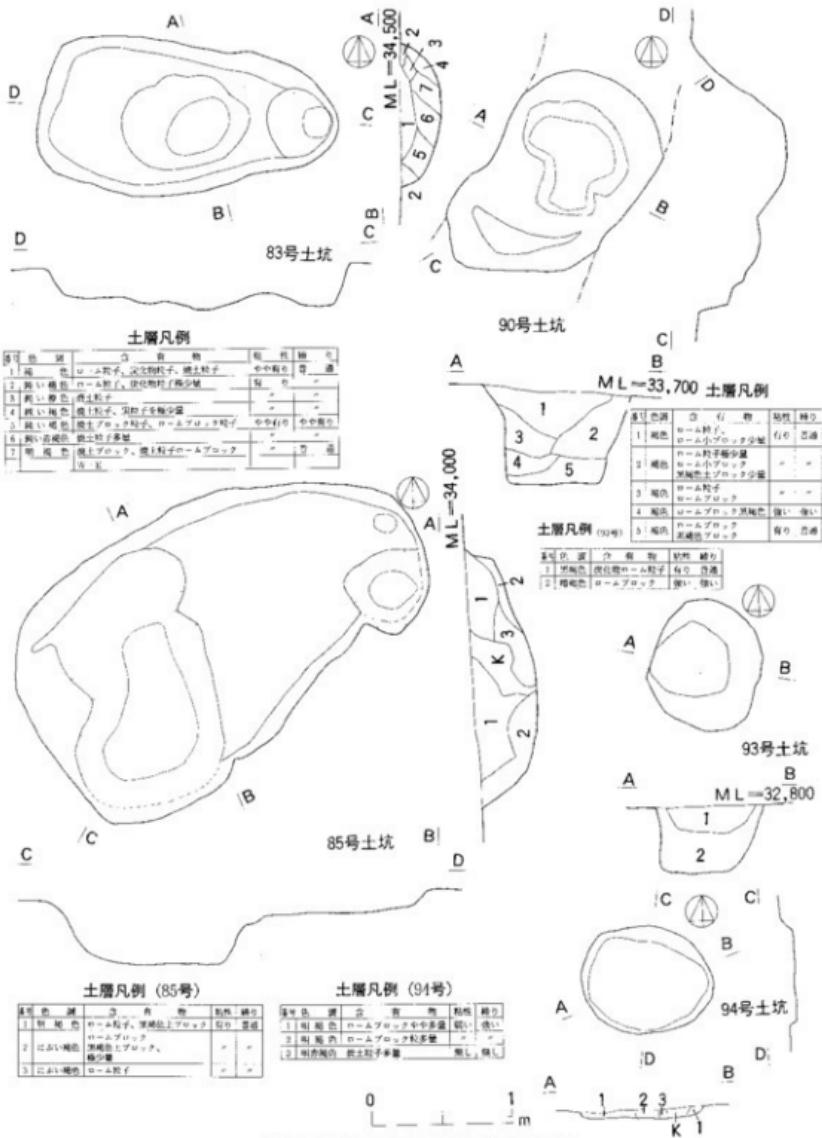
土層凡例 (53号)

番号	色 調	含 有 物	粘 性 細り
1	褐色	ローム粒少量	やや弱り 弱い
2	褐色	ローム小ブロック多量	中化性少量
3	明褐色	ロームブロック多量	やや弱り
4	暗褐色	ローム粒、中化性少量	無し 弱い
5	明褐色	ローム粒、ロームブロック多量	強い 弱い
6	褐色	ローム粒、ロームブロック少量	弱い 弱い



番号	色 調	含 有 物	粘 性 紹り
1	褐色	ローム粒子少量	やや弱り 弱い
2	明褐色	ローム小ブロックや多量	~ ~
3	明褐色	ロームブロック、ローム粒子多量	強い ~
4	褐色	ローム小ブロックや多量	やや弱り ~

第201図 第51、53、56、69、73号土坑実測図



第202図 第83、85、90、93、94号土坑実測図

第83号土坑（第202図）

本址は、71号住居址の東側3区A-12グリットに位置し検出された。1.1m×2.1mの長い楕円形を呈し、底部は真中が低く炉址状の焼土が見られ西側に浅い掘り込みが見られ、水平に移行し締まりはある。壁面は垂直に近く立ち上がる。

覆土は、7層に分類され各層とも焼土粒子を含む。6層は焼土粒子を多量に含み、鈍い赤褐色。締まりはややある。遺物は縄文中期の深鉢の破片7、土師器甕口縁部1点であった。掘り方、土層から古墳時代の遺構の可能性が高いが縄文の可能性もある。

第85号土坑（第202図）

本址は、83号土坑の南側3区A-12グリットに位置し1.8m×3.05mの長い楕円形、底部は2段になり深い部分は40cm、東側の浅い部分は10cmで30cm程の差が見られ二つの土坑の可能性が強い。それぞれ締まりを持ち水平に移行、壁面は開いて立ち上がる。

覆土は6層に分けられたがロームブロック、粒、粒子と黒褐色粒子の混入の差である。遺物は縄文中期の深鉢3、土師器1、石1点で古墳時代？の可能性もある。

第90号土坑（第202図）

本址は、3号溝の中2区W-13グリットに位置し溝の底部を掘り込んでいた。長径1m×1.7mの長円形状深さは65cm、底部は、東西方向は水平に移行、壁面は南側はなだらかに立ち上がる。

覆土は5層で褐色、下部に黒褐色ブロックを含む層が認められる。各層共締まりはややある。遺物は検出されなかった。覆土は人為的埋積と思われる。江戸期？

第93号土坑（第202図）

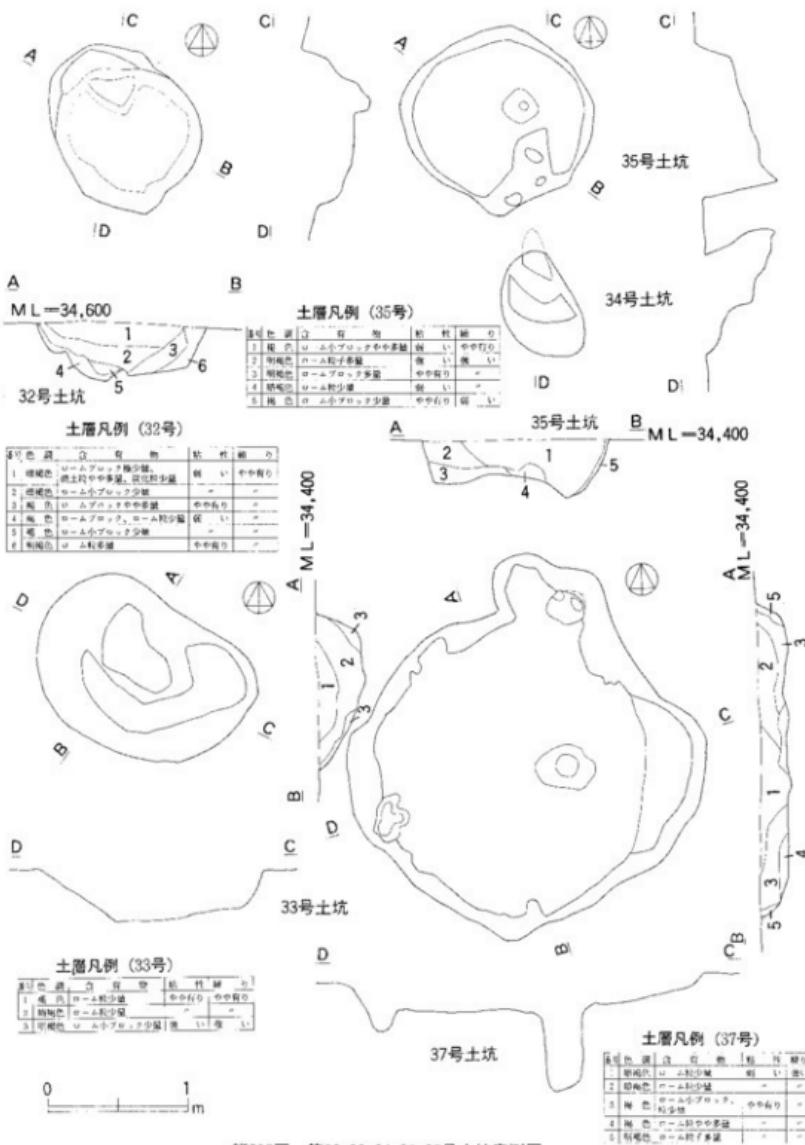
本址は、71号住居の中2区Y-12グリットに位置し径82cm×92cmの楕円形状、底部は水平に移行、掘り込み深さは45cm、壁面は垂直に立ち上がる。

覆土は4層に分けられ1層は黒褐色締まりはややある。2層は暗褐色締まりは弱い。遺物は土師器が5片出土している。

第94号土坑（第202図）

本址は、71号住居址の西側に位置し80cm×95cmの円形状、底部は水平に移行し深さは10cm前後を測る。

覆土は、明褐色層と3層の明赤褐色の焼土粒子を多量に含む、他層はロームブロック、粒の混入の違いで締まりはややある。遺物は無文の縄文土器が見られ口縁部は内面カット状中央部からまとまって出土している。縄文期か？。



第203図 第32、33、34、35、37号土坑実測図

第32号土坑（第203図）

本址は、52号住居址の南西側2区0-13グリットに位置し検出された。1.05m×1.25mの楕円形状、底部は中央部にやや高い部分をもつ、深さは41cm壁面はやや強く立ち上がる。

覆土は、6層に分けられ1・2層は暗褐色、3・4・5層は褐色、1層は焼土粒子、炭化粒子を含む他層はロームブロック、粒、粒子の混入の違い締まりはややある。遺物は土師器2点、繩文1である。古墳時代か？底部はローム剥き出し。

第33号土坑（第203図）

本址は、32号土坑の西側2区N-13に位置し検出された。1.1m×1.6mの長方形を呈し底部はゆるく上がりながら移行し、深さは35cmローム剥き出し、壁面はゆるく開いて立ち上がる。

覆土は3層に分類したいずれもローム粒子、粒、ブロックの混入差で締まりはややある。自然埋積状態、遺物は土師器壺1点のみ。古墳時代か？。

第34号土坑（第203図）

本址は、33号土坑の南側2区L-14グリットに位置し検出された。1.2m×1.3mの円形状、底部は中央部が高くなり両壁面が4cm～10cm落ちこむローム剥き出しの状態、南側は垂直に立ち上がる。最も深い所で55cmを測る。

覆土は5層に分けられ1・5層は褐色、2・4層は暗褐色、3層が明褐色で人為的埋積の可能性が高い。遺物は土師器壺2点、須恵器1点が認められ古墳時代が考えられる。

第35号土坑（第203図）

本址は、34号土坑の南側2区L-14グリットに位置し検出された。北側に斜位に掘り込む変形なもので55cm×80cmの長円形状、深さは50cmとやや掘り込まれ南側に向かってゆるやかに立ち上がる。

覆土は褐色、暗褐色、極暗褐色と暗さを増し、締まりは弱い。遺物は1点も検出されない。

第37号土坑（第203・211図）

本址は、2号溝の北側2区L-15グリットに位置し検出された。東西2.55m、南北2.75mの円形状、深さ20cm程で浅い掘り込み、底部面は締まりはあり水平に移行、中央部に円筒状の深さ60cmのビット、北側にも深さ17cm程の掘り込みを認める。

覆土は、5層に分けられ1・2層は暗褐色、3・4層は褐色、5層は明褐色でロームブロック、粒、粒子の量の差で人為的な埋積を示している。遺物は東側から深鉢型土器底部がまとまって出土している。第211図そのほかは皆無で1個体のみであった。遺物から本址は、縄文時代中期加曾利EⅢ式前後と考えられる。

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
4 深鉢 縄文土器	A B C	7.7	小さい底部から開いて立ち上る。L字単節	ナデ	礫。石英 にぼい黒褐色 普通	37号土坑

第30号土坑（第204図）

本址は、52号住居址の南側2区P-14グリットに位置し検出された。径1.7m×2.5mの長円形状、東北部にピット状の掘り込みがみられ南側の底部は、ほぼ水平に移行深さは75cmを測る。端部は更に15cm程掘り込む、壁面は垂直、北側はゆるく立ち上がる。北側には灰褐色の粘土塊が見られ底部に張り付く。

覆土は、1層がV字状に埋積土の大半を占めにぼい褐色、黒褐色粒子を含む。2・3層はローム粒子、粒、ブロックの混入の差、4・5層は明褐灰色の粘土を含む、各層共締まりはやや強い。遺物は検出されなかった。土層の埋積、粘土粒子、掘り方などから縄文時代のものと推察する。

第38号土坑（第205図）

本址は、2号溝の北側2区E-13、F-13グリットに位置し径3mの正円形状、底部はほぼ水平に移行、掘り込み深さは25cm垂直に近く立ち上がる。床面の締まりは良く中央部北寄り、北西側にそれぞれ径60cm、深さ50cm、60cmのピットが認められU字状掘り込み。



土層例

番号	色調	含有物	胎土	締り
1	にぼい赤褐色	ローム粒少量、黒褐色粒少量	強	強
2	暗褐色	ローム粒、小ブロック少量	弱	やや有り
3	明褐色	ローム粒子、ブロックや砂多量	やや有り	強
4	にぼい褐色	明褐灰色粘土少量(N-5)	強	~
5	にぼい褐色	明褐灰色粘土多量(N-2)	~	~

第204図 第30号土坑実測図

覆土は、5層に分けられ5層は炭化粒を多量に含みレンズ状に見られ自然埋積と考えられる。遺物は中央部南側寄りに縄文式土器の底部が1個体分やや浮いた状態で出土している。沈線により摩消部を区画し本遺物1個体分のみであった。これらの状態から小型の住居の可能性も考えられ時期は遺物から中期後半加曾利EⅢ式期と理解する。

第45号土坑（第205図）

本址は、29号住居址の西側1区Y-19グリットに位置し径2.5mの円形状プランを呈し、壁面は垂直に立ち上がり底部は水平に移行する。深さは65cmを測り縫まりは良い。

覆土は、レンズ状の自然埋積を示し1層が暗褐色他の層はロームブロック、粒の混入の相違で縫まりは強い。遺物は底部から浮いて加曾利EⅢ式の口縁部が出土、幅のやや狭い無文帯が巡る。他に胸部3点と少ない。前述の口縁部の時期が推定される。

第9号土坑（第206図）

本址は、45号土坑の北側1区X-17、Y-17に位置し検出された。2.5mの円形プランを呈し西側に浅い部分が見られる他は60cm程の垂直の掘り込みをもち底部は水平に移行、縫まりはややあり中央部に径50cm、深さ65cm、U字状掘り込みをもつ。その他3ヶ所の小ビットが認められた。

覆土は、5層に分けられ1層極暗褐色、2層は暗褐色、3・4・5層は褐色いずれもロームブロック、粒、粒子の混入の差。各層共縫まりは強い。遺物はやや浮いた状態で19片、石3点が出土、細片の為形態は深鉢型の土器と推察され、前述の46号土坑の時期と同様と推察する。

第52号土坑（第206図）

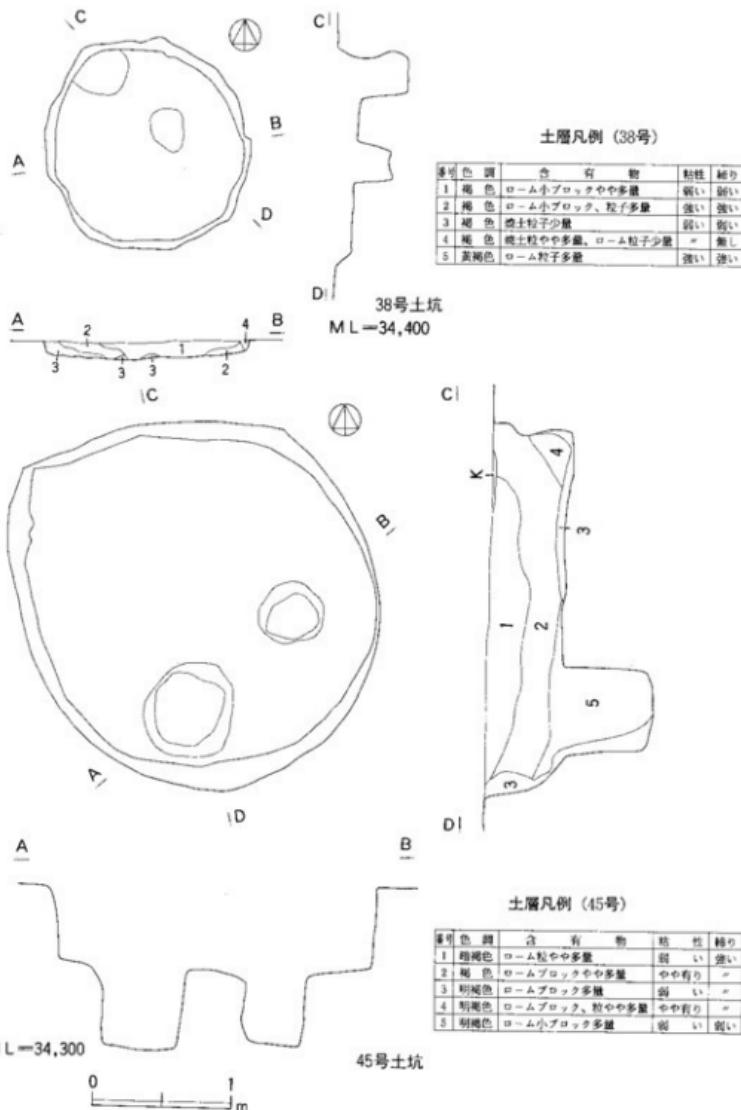
本址は、32号住居址の東側2区D-19グリットに位置し検出された。径80mm程の円形状、ゆるいU字状で二段に掘り込みローム剥き出し、底部は西側が30cm程の深さを測る。東側はゆるく開き平坦に移行、西側は垂直に立ち上がる。

覆土は5層に分けられ暗褐色、明褐色へ変わるがいずれもローム粒子、粒、ブロックの混入差である。縫まりはややある。遺物は縄文中期の深鉢、LRの縁を施す細片2点のみ、時期は加曾利E式期と思われる。

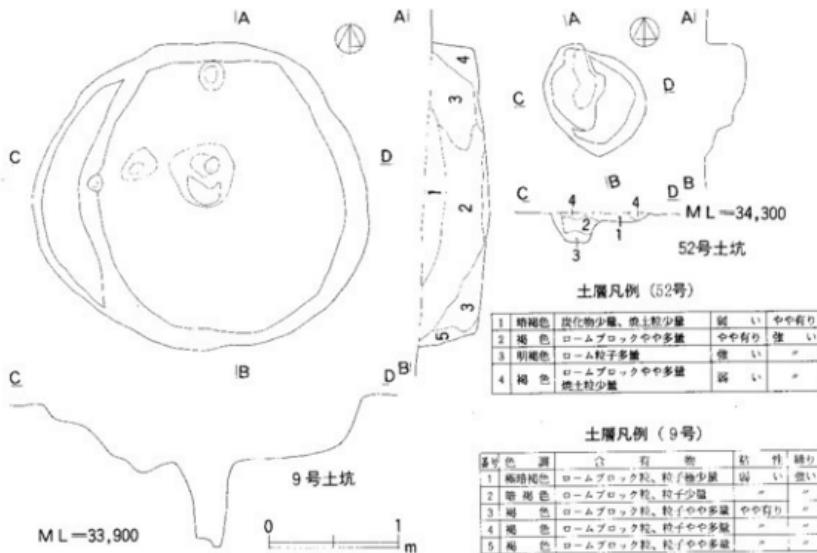
第54号土坑（第207図）

本址は、31号住居址の西側1区Y-1・19グリットに位置し径1.5mの正円形プランを呈し底部は水平に移行、縫まりはややある。掘り込み深さは60cm、壁面は垂直の立ち上がる。

覆土は、5層に分けられ1・4層は褐色、2・3層暗褐色、5層は明褐色、1・2・3層はレンズ状に埋積大半を占める、4層は55cmの厚さを持ち人為的埋積、各層共ロームブロック、粒、粒子の混入の相違、縫まりは5層を除き弱い。遺物はやや浮いた状態で縄文中期の加曾利E式の胸部が1片のみであった。縄文期？。



第205図 第38、45号土坑実測図



第206図 第9、52号土坑実測図

第55号土坑（第207図）

本址は、29号住居址の北西側1区Y-18グリットに位置し径2.4mの梢円形状、各面共垂直に近く立ち上がり底部は、中央部が弱く凹むがほぼ水平に移行、縫まりはある。深さは80cmを測る。

覆土はレンズ状の自然埋積を示し1層が暗褐色で2・3・4層は褐色、5層は明褐色、各層共ロームブロック、粒、粒子の混入差で縫まりは強い。遺物は1点も検出されなかった。時期は掘り方から縄文期か？。

第57号土坑（第208図）

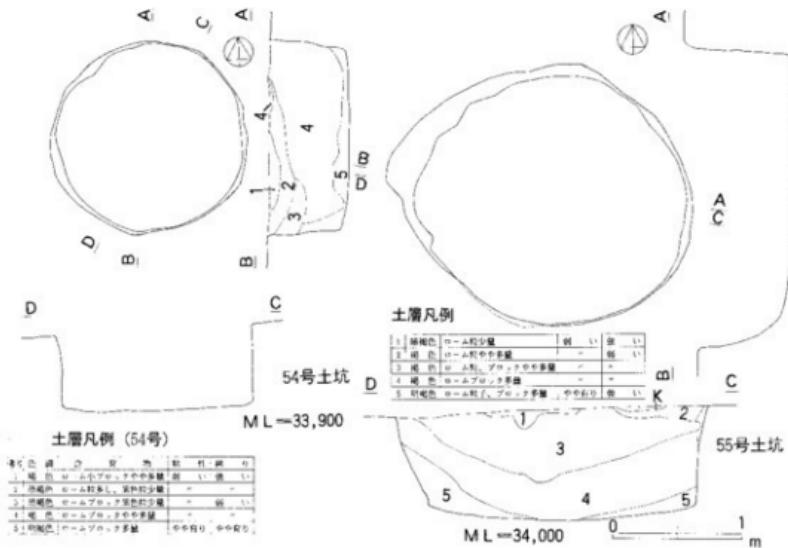
本址は、30号住居址の東側に位置し検出された。長径4.3m×短径1.6mの長円形状、底部は中央部がさも低く西側にピット状の掘り込みをもつ、南北断面はU字状で95cmと深い。

覆土は、7層に分けられいずれもロームブロック、粒、粒子の混入差で覆土上は、全体に黄赤褐色がかつて他の土坑とはやや相違が見られ縫まりは強い。遺物は総数61点、うち石器1、黒曜石片1、自然の河原石30~40gの物が36点で土器は少なく貝殻腹縁、沈線間の籠押し引き、口唇部刻み目等が見られ何れも細片で纖維を少量含む。底部からは2片認められたがいずれも無文の胴部であった。出土遺物、覆土等から本遺構は今まで述べてきたものとは差が見られ縄文時代早期の田戸上層式の遺構と思われる。

第70号土坑（第208図）

本址は、44号住居址に東側の一部を掘り込まれ2区I-14グリットに位置していた。長径1.8m前後、短径1.4mの長円形状を呈すると考えられる。底部は中央部がやや掘り込まれているがほぼ平坦に移行し壁面はゆるく開いて立ち上がる。

覆土は、上部から暗褐色、褐色、明褐色などの5層に分けられロームブロック、粒、粒子の混入の差違で各層共締まりは強い。遺物は第208図に示す深鉢が底部中央部にやや浮いて出土した。



第207図 第54、55土坑実測図

単節LRの繩を施す、その他微降起、沈線によって地文を区画するもの、口縁部との間を沈線で無文帯を区画し口唇部が肥厚するものなど総数61片が出土してが大半は前述の遺物に接合した。遺物から加曾利E III式前後の遺構と推察される。

第74号土坑（第208図）

本址は、55号住居址の東側2区M-13グリットに位置し長径2m×1.4m長円形状、底部は凹凸は見られるがほぼ水平に移行、掘り込み深さは55cm、南側はゆるく開いて、北側は垂直にそれぞれ立ち上がる。底部の締まりは弱い。

覆土は、5層に分けられレンズ状に自然埋積を示し各層はロームブロック、粒、粒子の混入量、締まりの相違である。下層程締まりは弱くなり掘り方もやや変形な形態を示す。遺物は深鉢型土器の胴部5点で地文を懸垂状の沈線区画によるものが1点見られた他はいずれも単節LRの

縄をもつがいずれも細片、遺物からは加曾利E式前後の遺構と推察される。

第75号土坑（第209図）

本址は、1区Z-21グリットに位置し検出されたもので長径97cm、幅47cm程の長円形を呈し内部からは板状の炭化物が多量に検出され掘り込み等かなり違ったありかたを示し底部はレンズ状、土器等は皆無、縒まりは弱い。本址は性格が不明。焚火跡か？。

第1号炉址遺構

本址は、2区S-14グリットに位置し検出されたファイヤーピットで長径80cm、短径75cmの楕円形を呈する。掘り込みは5cmと浅くゆるやかな立ち上がりを示し火床はロームが火を受けてブロック化している。遺物は皆無の為時期は不明。

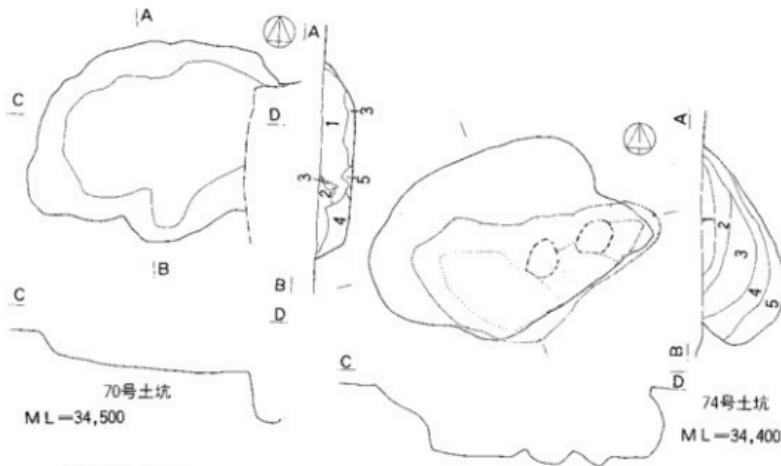
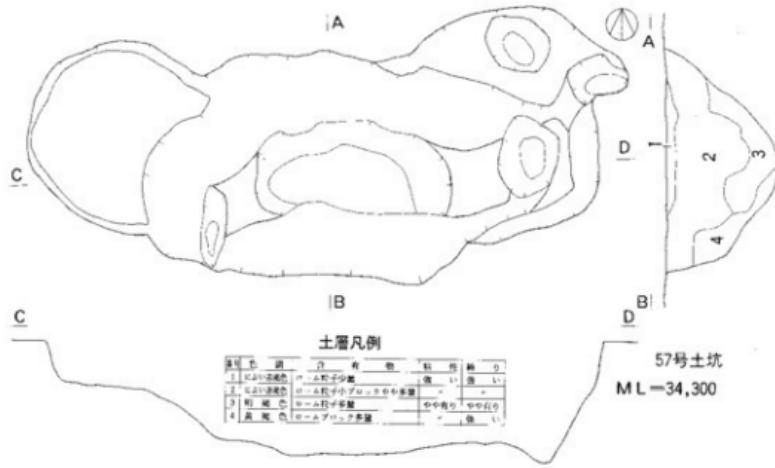
第3号炉址遺構

本址は、1区Y-27グリットに位置し検出されたファイヤーピットで長径68cm、短径73cmの円形状を呈し、掘り込みは10cmと浅く立ち上がりはやや強い。火床はロームが火を受けてブロック化しているが1号程顯著ではない。遺物は炉址の西北側1.2mに縄文早期の田戸式の尖底部が出土している。炉内部からは石が1点検出された。時期は不明。

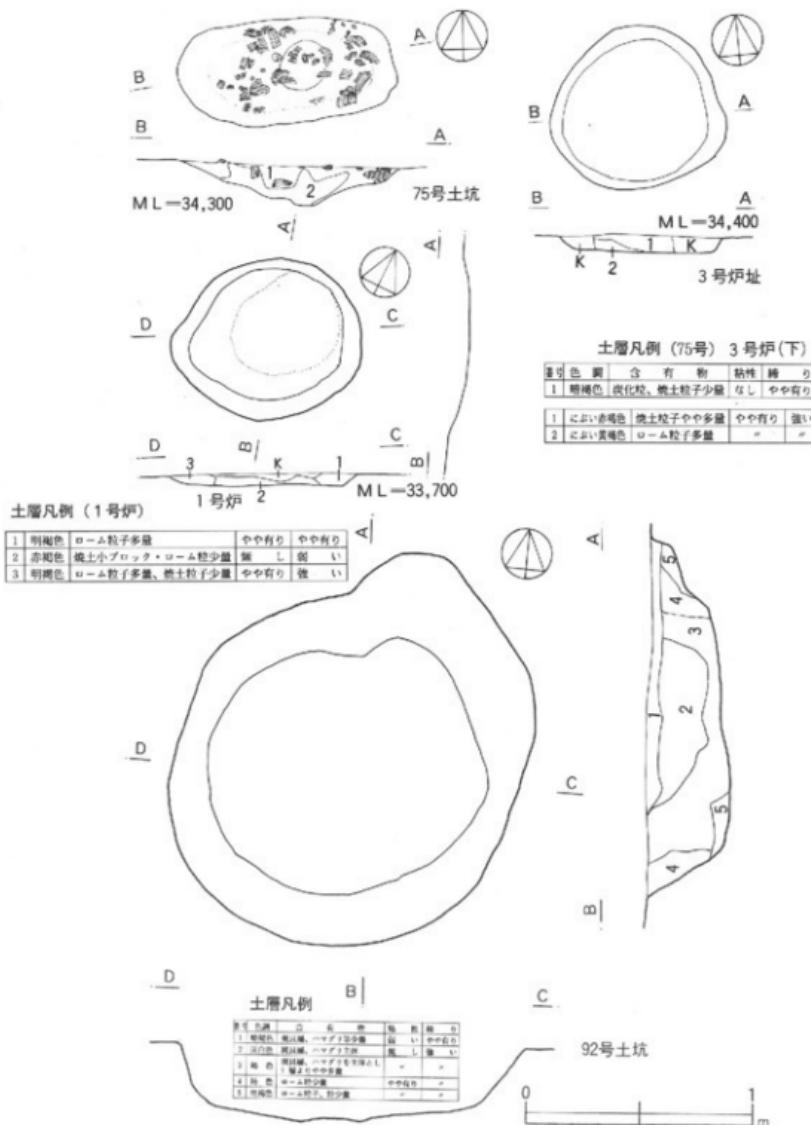
第1号地点貝塚

本址は、2区A-16グリットに位置し検出された。土坑へ投げ込みの地点貝塚で掘り込みは長径1.8m、短径80cmの楕円形状を呈し、深さは35cmと底部はほぼ水平に移行し、1層は混貝層、2層が純貝層、3層は貝を僅かに含むだけとなり、4・5層は皆無で貝層の埋積はレンズ状を示し自然埋積を示している。貝類はハマグリを主体とし僅かにアカニシ、ヤマトシジミを含む。土器は中期の加曾利E式の破片が15点程出土している。

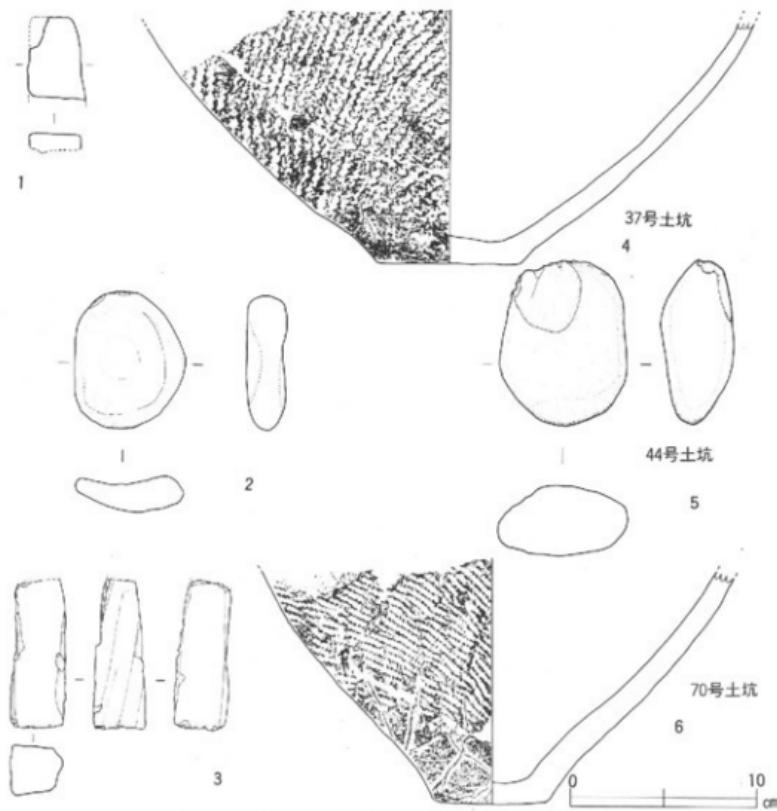
本遺構は土坑として掘り込まれ3層の埋積の後貝層の投げ込みが考えられるもので、本来の貝塚とは性格を異にする。近くには位置と環境の中で述べた様に西側200mに今山貝塚が存在し、貝塚は約40°前後の傾斜面に位置し存在し、いわゆる斜面貝塚である。



第208図 第57、70、74号土坑実測図



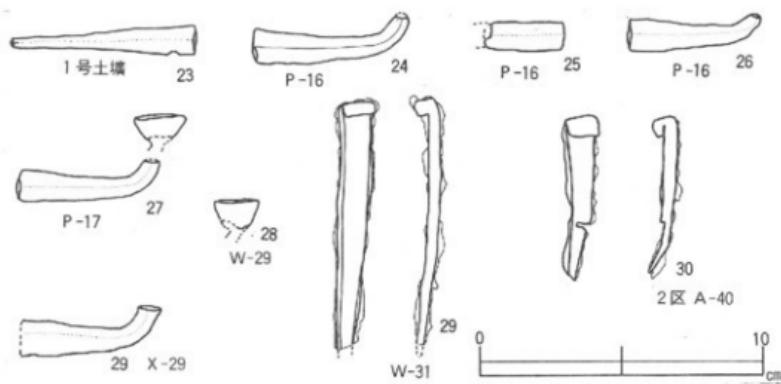
第209図 第75号土坑、第1号、3号炉址、1号地点貝塚実測図



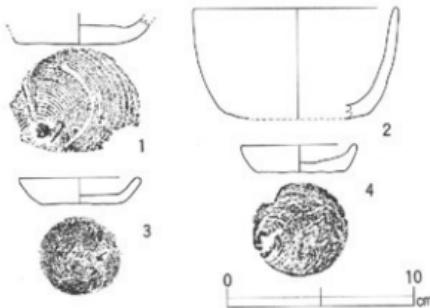
第210図 挖立遺構柱穴(1、2、3)第37、44、70土坑出土遺物実測図



第211図 挖立遺構柱穴、住居址、出土古錢括影図



第212図 掘立遺構出土煙管、和釘実測図



第213図 掘立建屋ピット出土遺物実測図

出土土器観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形技法	胎土、色調、焼成	備考
1	皿?	A 土師質 P. 16	底部糸切り(静止)。	ロクロ水引き ナデ 右削り	精選 内面赤褐色 良い	10 % ピット 覆土
2	碗 志野 P. 16	A 11.0 B 7.4 C 5.8	直立して立ち上り、台付か?。 外面灰褐色釉。	ロクロ水引き ナデ	精選 灰褐色 良	10 % ピット 覆土
3	灯明皿 土師質 P. 16	A 6.6 B 1.4 C 4.0	糸切りをナデ消している?。	ロクロ水引き	精選 淡い黄褐色 良	70 % ピット 覆土
4	灯明皿 土師質 P. 16	A 6.2 B 1.5 C 4.5	I 部黒色的も認められる。	ロクロ水引き	淡い黄褐色 良	100 % ピット 覆土

3. 挖立遺構

本址は、1区V-19・20・21からY-19・20・21グリットの間に位置し検出された遺構で、当初土坑群として捉え各ピットごとに調査した為建物跡として捉えることが遅くなつた〔遺構確認作業の中で煙管、寛永通宝等が検出された為〕一部墓と考えられるものも存在している。(68号土坑) 21・23・38号住居址を掘り込む。以下3軒の建物と考えられるものが認められ掘り方から古い順に述べる。

1号建屋

最も古い遺構と考えられる遺構で東西13.5m、南北2.9mの長屋状の形態、ピットの掘り込みは北側の東から3基は円形の掘り形、他は全て方形または長方形の掘り形で対照的な相違を示している。

覆土は何れもロームブロック、粒、粒子などを含み縋まりは弱くP10・16は上部に砂を含み、特にP68からは寛永通宝3枚が検出され他の覆土とは違い暗褐色を呈し黒褐色粒子を含み、他に茶碗、磁器、灯明皿等の破片が見られた。深さはP68は80cm、P62は63cm、P15は70cm、P65は75cm程を測る。掘り込み深さはほぼ平均し掘り方も他のピットに切りこまれ古い時期のものと理解する。

2号建屋

本址は、1号遺構に比べ方位的に違いがみられ西側に9°程振れており長さ10m、幅3.75mで西側で鍵の手状に長さ1.6m×1.7m程欠部が見られる。掘り込みを明確に捉えられるものは少なくP44・16・16'・19が円形状の掘り込み他は明確に捉えられるものは少なく遺存状態からは長方形を呈すると推定され深さはP16は60cm、60は60cm、16'は50cm、62は50cm、63は75cm、15は70cmなどの深さをもつP60が本遺構に関わることになれば1号建屋同様の長屋状になるが北側でピットは確認出来なかった。

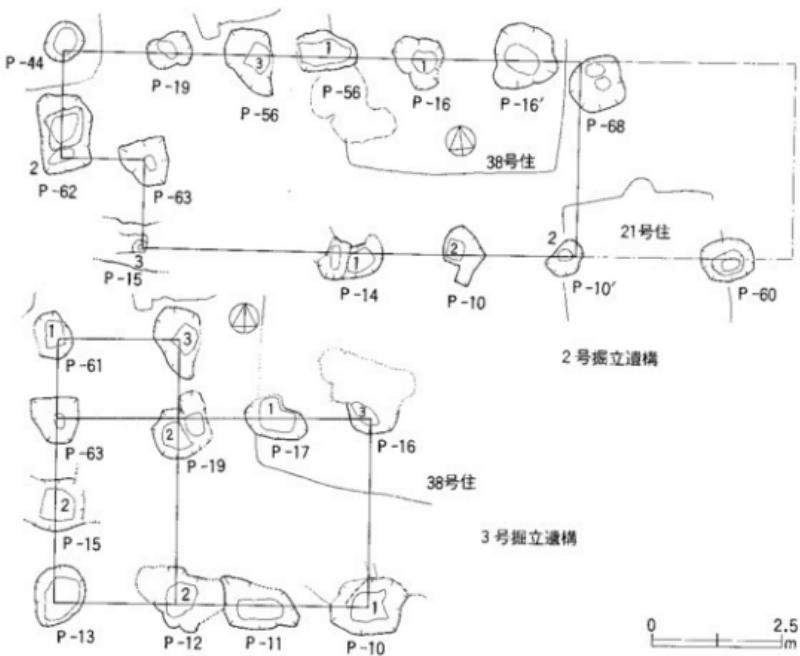
3号建屋

本遺構はほぼ南側を向き1号建屋がやや西、2号建屋が東へ9°それぞれ方位から若干の差がも読み取れる。東西6m、南北3.65mで北側に1.5m×2.35mの張り出し部分をもち確認された遺構の中では最も方形に近いプランを呈し、掘り込み形態はほぼ長方形プラン、深さはP11は80cm、11は60cm、12は58cm、13は53cm、15は96cm、16は43cm、63は80cm等それぞれピット内でも最も深い掘り込みを呈している。

これらの覆土はいずれもロームブロック、粒、粒子を含み縋まりは弱く明褐色10・11等からは明確な縫隙の1層が認められ柱穴と推定される。以上各遺構の概略を述べてきたがプランは確認出来ないがあと1軒前後存在していると考えられる。最も古い時代のものか。中央部に炉床状の焼上が認められ、遺物は煙管が主なものであった。床面は、縋まりは弱く高床の可能性が強い。



第214図 掘立建屋、全測図(上)、1号造構(下)



第215図 掘立建屋実測図、2号、3号建屋

4. 溝

第1号溝（第216図）

本溝は、1区から2区の一部にまたがって検出されたもので1区の台地の最も狭い部分を西北から東南方向へ掘り込み全長33m、最大幅1.25m、深さ45cm 全体的には緩いU字状の掘り方で特別な部分はない。切り合い関係から本溝を見れば東側端部では30号住居址の一部を、4.5mで方形プランの上部にシジミ貝、底部に焼土を持つ20号土坑に掘り込まれ中程で椭円形の浅い掘り込みを持つ20、21号土坑が溝の中に検出された。中程から西寄りには7号住居の中央部を掘り込んでおり、ゆるく北にカーブをえがきながら谷部へ流れ込んで行き端部は耕作の“よせ”の為不明。総じて直線的な掘り込みが認められる。遺物は土師器が少量検出されたのみで本溝の時期を確定出来る資料は認められないが2軒の住居址を切り込み、シジミ貝層を持つ土坑に切り込まれており、更に溝内に小土坑が掘り込まれている事から時期は平安時代以降、江戸時代の間、言い替えれば“古屋敷館”的時代が推定される。

第2号溝（第216図）

本溝は、2区G-15から1区W-15へ長さ40mにわたって検出されたもので、台地の最も高い部分から谷頭の最も入りこんだ位置に掘り込まれ東側から西側に向かって深さ、幅を増し中程から南側にV字状の小溝を伴う。東側では土坑状に2ヶ所、長円形状の浅いU字状の掘り込みをもつ。底部はやや縦まりを持ち壁面はローム剥き出し状。溝の端部は円形状に掘り込みをもち序々に掘り込み、幅は増す。最大幅1.8m、深さ60cm程を測る。底部は部分的に掘り込みがみられるが水を流す、または流した様な状態ではなく、ローム剥き出しで凹凸を繰り返しながら地形に添って傾斜を示している。

覆土は、レンズ状の自然埋積を示し各層共縦まりは弱く、ロームブロック、粒、粒子を含む。総体的に橙色に近い色調を呈して確認された。複溝的な途中からの小溝も同様であった。遺物は石が1点、土師器10片が上部から確認されたに過ぎず遺物からは時期を確定出来るものはなく、古墳時代以降のものと推察される。

第3号溝（第216図）

本溝は、2区V-13、15グリットに位置し検出され北側から南側の傾斜部、谷頭の最も入りこんだ部分に流れこむ様に存在、長さ12.5m、最大幅1.8mを測り掘り込みはゆるやか、底部の縦まりは弱くローム剥き出し状。橙色に近い色調を呈していた。

覆土は、2～3層で自然埋積を示し縦まりは弱い。遺物は土師器が上部から僅かに検出されたに過ぎず細片、時期を決定する遺物はない。北側で90号土坑に掘り込まれていた。

2号溝、土層凡例

YI SD-2 (1)

№	色調	含有物	粘性	縫り
1	褐色	ローム小ブロック少量	ややあり	強 い
2	褐色	ローム小ブロック少量	弱 い	強 い
3	明褐色	ローム小ブロック少量	弱 い	弱 い

(3)

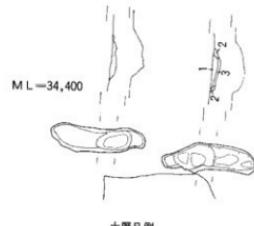
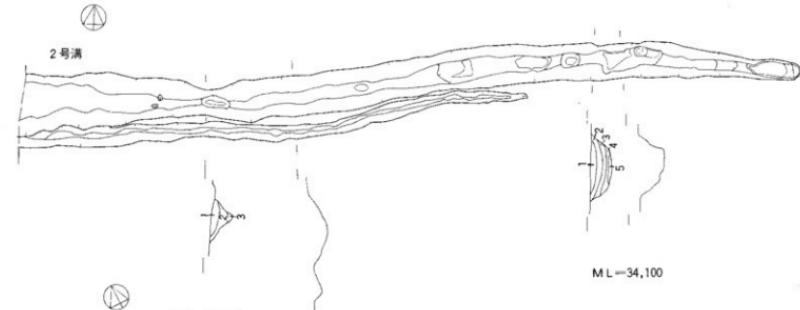
№	色調	含有物	粘性	縫り
1	褐色	ローム粒少量	弱 い	強 い
2	褐色	ローム粒や多い	弱 い	ややあり
3	褐色	ローム粒多量	弱 い	弱 い
4	暗褐色	ローム粒少量	弱 い	弱 い
5	明褐色	ロームブロック多量 ローム粒	ややあり	ややあり

(2)

№	色調	含有物	粘性	縫り
1	褐色	ローム粒少量	ややあり	強 い
2	褐色	ローム粒少量	ややあり	強 い
3	明褐色	ロームブロック	弱 い	ややあり

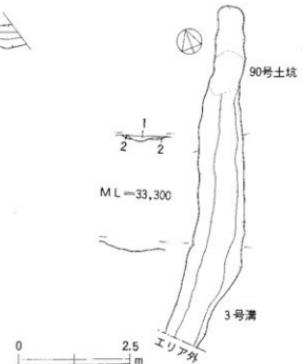
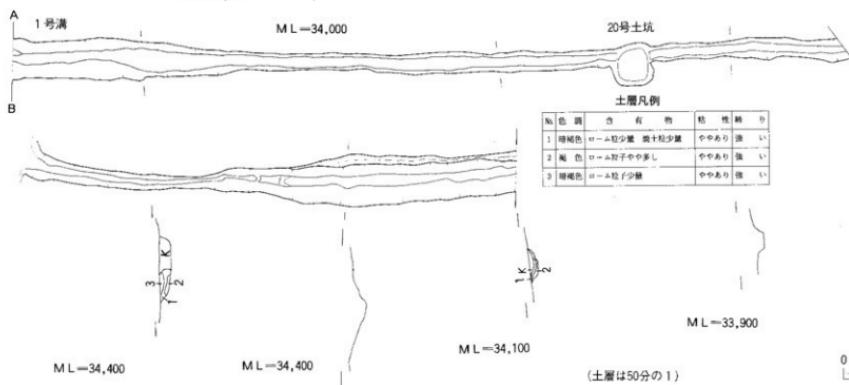
(4)

№	色調	含有物	粘性	縫り
1	褐色	ローム粒少量	ややあり	強 い
2	褐色	ローム小ブロック多量	弱 い	弱 い
3	明褐色	ローム粒多量	ややあり	弱 い



土層凡例

No.	色調	含 有 物	粒 程	特 性
1	にじみ 緑褐色	ローム粒少 く、粘、粘子少 量	ややあり	速 い
2	緑 色 (全体に長い 赤褐色帶)		ややあり	速 い



第216図 第1、2、3号溝測定図

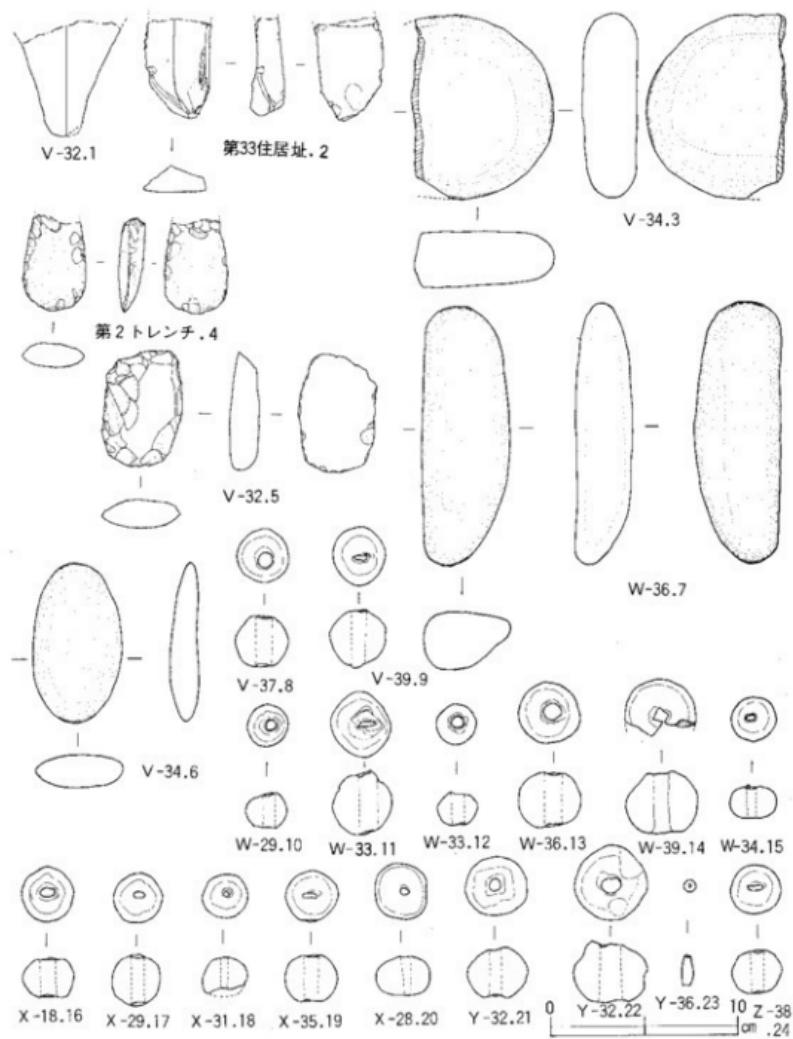
5. その他

グリット、トレンチ出土遺物

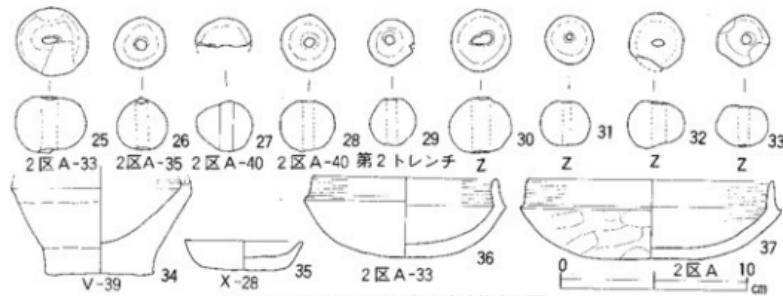
表土除去、遺構確認作業中で出土したものが大半を占め南側、北側に設定したトレンチからは遺物は皆無に近い。1は縄文時代早期田戸式の底部と考えられるもの2は頁岩の搔器でやや古い、旧石器時代に位置する。その他の石器類は敲石や石斧等で自然石に近く部分加工も見られる。4・5は粗製の石斧?、土製の丸玉は、不整形の粗雑な作りのものが多くいずれも棒状、半截竹管を芯にし整形、やや固化形化した時点でこれを引き抜いて孔部が作られている事が観察される。

石器、土錐、土製品一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大孔厚				
1	深鉢	4.9	5.4				V-32	尖底鉢、田戸下瀬式
2	搔器	5.4	3.5	1.5		頁岩	S1-33	やや古い形態、旧石器と思わせる
3	敲石	5.1	3.3	0.9	500	安山岩	V-34	円形状、5分3を欠失
4	石斧	6.2	4.1	1.5	150	安山岩	第2トレンチ	刃部は蛇刃状、某部欠失
5	搔器?	8.5	4.7	1.7		緑泥岩	V-34	片面に自然石部分を残している
6	敲石	9.9	7.5	3.0	300	安山岩	V-34	長方形状、厚みは薄い
7	"	14.0	4.6	3.1	1,250	"	W-36	長方形状、やや厚め、I部使用痕あり
8	土錐	2.7	2.7	0.8	20	土製	V-34	不整形球状、孔部円形状
9	"	3.1	2.8	0.8	24	"	V-39	不整形球状、孔部三ヶ月状
10	"	2.0	2.1	0.6	7	"	W-29	ややつぶれた球状、孔部円形状
11	"	3.5	3.1	0.8	30	"	W-33	長円形球状、孔部三ヶ月状
12	"	1.9	2.1	0.7	6	"	W-33	つぶれた球形、孔部小型円形状
13	"	2.9	3.3	1.0	32.5	"	W-36	ほぼ球形状、孔部円形状
14	"	3.3	3.8	0.8	22	"	W-39	孔部円形状
15	"	2.7	2.4	0.5	10	"	W-34	つぶれた球形、孔部長円形状
16	"	2.0	2.7	0.8	15	"	X-18	つぶれた球形、孔部長円形状
17	"	2.6	2.6	0.6	17	"	X-29	長円形球状、孔部長円形状
18	"	1.7	2.4	0.3	10	"	X-31	△欠球形状、孔部円形(小孔)
19	"	2.5	2.8	0.7	18	"	X-35	ほぼ球形状、孔部長方形状
20	"	2.0	2.8	0.5	15	"	X-28	△欠つぶれた球状、孔部横円形状
21	"	2.5	3.2	0.6	21	"	Y-32	不整形球状、孔部横円形状
22	"	3.0	3.9	1.1	34	"	Y-32	不整形、孔部横円形状
23	管状土錐	1.7	0.6	0.3	1	"	Y-36	管状、孔部円状
24	土錐	2.3	2.7	0.8	14	"	Z-38	不整形球状、孔部三ヶ月状
25	"	3.0	3.8	0.9	36	"	22A-33	つぶれた球状、孔部長円形状
26	"	2.6	2.7	0.6	14	"	A-35	球形状、孔部長円状
27	"	2.7	3.0		7	"	A-40	不整形球状、2分1欠
28	"	2.7	3.0	0.6	19	"	A-40	ほぼ球状、孔部長円状
29	"	2.5	2.5	0.5	12	"	第2トレンチ	長円形球状、孔部長円状
30	"	3.0	3.2	1.0	26	"	Z	不整形球状、孔部長円状



第217図 グリット出土遺物実測図



第218図 グリット出土遺物出土遺物実測図

土錐一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
31	土錐	2.3	2.5	0.4	9	土製	Z	球形状、孔部三ヶ月状
32	"	2.4	2.8	0.7	18	"	"	つぶれた球状、孔部三ヶ月状
33	"	2.1	2.7	0.5	18	"	"	不整形球状、孔部円形状

出土土器觀察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	整形枝法	胎土、色調、焼成	備考
34	鉢?	A B C 5.8	底部に木葉模一部ありや直立気味に立ち上り、口縁部内傾、芯肉薄い。	横ナデ、ナデ	礫、石英 にぼい褐色(黒褐色) 普通	60 % G
35	灯明皿 土師器	A 6.3 B 1.5 C 4.3	平底から開いて立ち上る。浅い。	ナデ ロクロ水引	スコリア 黄褐色 やや良	70 % G
36	杯 土師器	A 10.0 B 4.3 C 3.0	底部、体部は半球形、肩部に棱を有し、口縁部短かめ内傾、口唇部丸く收める。	横ナデ、ナデ	礫、石英 にぼい暗褐色 やや不良	60 % G
37	杯 土師器	A 13.2 B 4.3 C 6.7	平底気味からゆるやかに立ち上り、肩部に顯著な棱を有し、口縁部薄く直立氣味、口唇部尖る。	横ナデ、施削り ナデ	黒褐色(1部褐色) 良	50 % G

土器片錐、土製品、石錐一覧表

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
1	片錐	5.0	4.2	0.9	21	土製	覆土中	34号住覆土
2	"	3.5	3.4	1.2	15	"	"	40号住 "
3	"	4.3	3.7	1.3	20	"	"	44号住 "

番号	器種	法量(cm)			重量(g)	材質	山土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
4	"	4.0	3.9	0.9	19	"	"	55号住覆土
5	"	7.0	3.4	1.2	40	"	"	61号住 "
6	"	3.0	4.2	0.9	19	"	"	62号住 "
7	"	5.2	3.4	1.0	20	"	"	"
8	"	5.9	2.9	1.2	37	"	"	66号住
9	"	5.0	3.0	0.7	12	"	"	"
10	"	4.5	3.5	0.8	15	"	"	"
11	"	8.1	6.0	0.7	48	"	"	"
12	"	6.0	4.5	1.7	50	"	"	55号住



第219図 土器片錠、土製品、石錘実測図

V 総 括

本遺跡の概要を述べ総括としたい。詳しくは各遺跡の分析結果等をまとめた分冊で述べる。出土遺物、遺構プラン、炉、竈、規模等から大きく分類すれば縄文時代早期の炉、ファイヤーピット1基、中期後半加曾利EⅢ式前後の住居址3軒、土坑11基この中には住居址と考えられるものも存在する。古墳時代中期に位置づけられる和泉期のやや古い時期のもの1、中葉のもの1、後半のもの1計4軒、後期に位置し、鬼高期の前半に位置づけられるもの9軒、中葉に位置づけられるもの8軒、後半に位置づけられるもの7軒、末期に位置づけられるもの7軒、奈良時代前半に位置づけられるもの8軒、後半のもの8軒、平安時代初頭に位置づけられるもの4軒、その他現在時期の決定出来ないもの12軒、合計69軒検出された。古墳時代の土坑は14基前後が推定される。

そのほか平安時代から江戸時代頃にかけて掘り込まれた溝3条が検出されている。江戸時代の掘立ての建屋が3~4軒検出され長屋状の形態を呈する。土坑が10基前後、その他時期不明の土坑9基、墓と思われるもの2基が検出された。時期不明の中には抜根痕と思われるものも2~3存在している。以上が本遺跡から検出された遺構の概要である。



調査前の風景(西側から東側を見る)



調査前の風景(北側から南側を見る)



調査後の全景(北側から南側を見る)



調査後の全景(1区V、Y、28Gに検出された柱穴群)



調査後全景(1区Y～2区A住居址群、南側から北側を見る)



調査後の全景(2区、中央部東側から西側を見る)



調査後の全景(2区中央部、東側から西側を見る)



調査後の全景(2区中央部、南側から北側を見る)



調査後の全景(東端部、東側から西側を見る)



調査風景



調査風景



調査風景



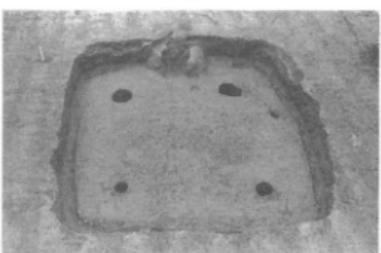
1号住 遗物出土状態



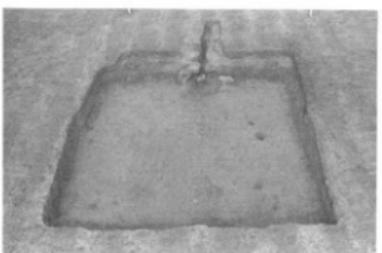
2号住 遺物出土状態



1号住 壁内遺物出土状態



2号住 完 挖



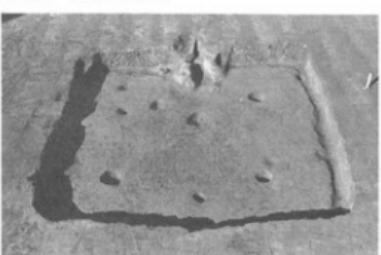
1号住 完 挖



3号住 遺物出土状態



2号住 遺物出土状態



3号住 完 挖



3号住 窑検出状態



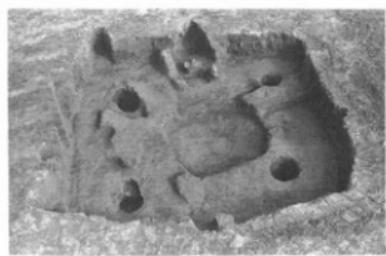
6号住 遺物出土状態



4号住 窯内遺物出土状態



6号住 遺物出土状態



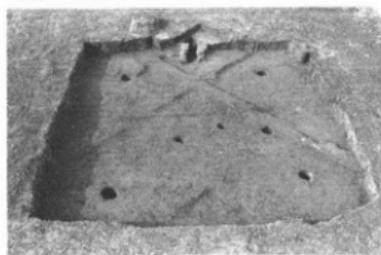
4号住 完堀状態(中央1号土抗)



6号住 窯検出状態



5号住 宪掘



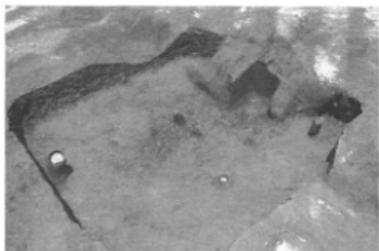
6号住 宪掘



7号住 壷検出状態



9号住 完 捜



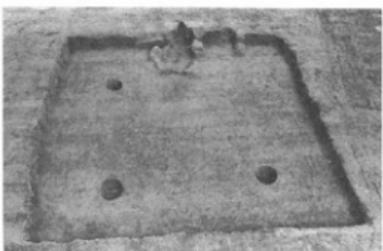
7号住 遺物出土状態



10号住 壷検出状態



8号住 遺物出土状態



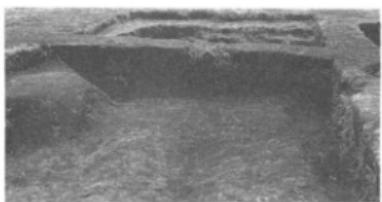
10号住 完 捜



8号住 完 捜



11号住 土層の状態



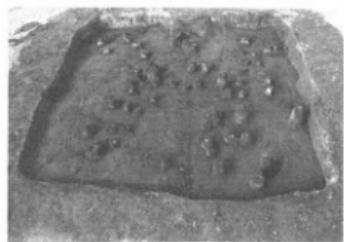
11号住 土層状態



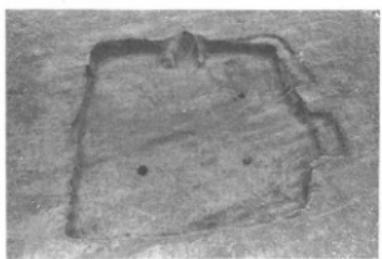
12号住 完 挖



11号住 考査状態



14号住 遺物出土状態



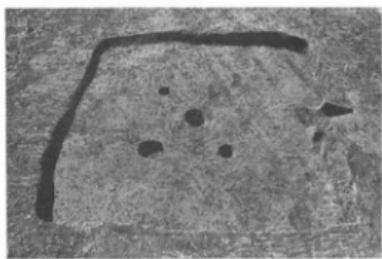
11号住 完 挖



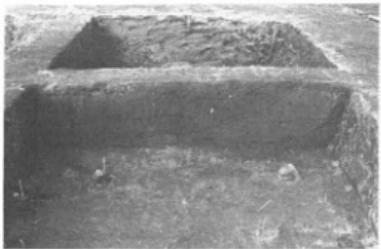
14号住 遺物出土状態



12号住 土層



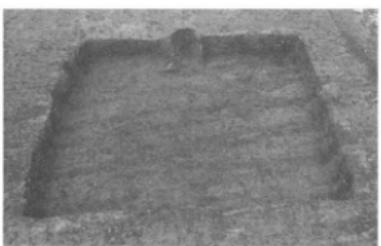
14号住 完 挖



15号住 土層の状態



17号住 遺物出土状態



15号住 完 挖



17号住 東北隅部遺物出土状態



16号住 離検出状態



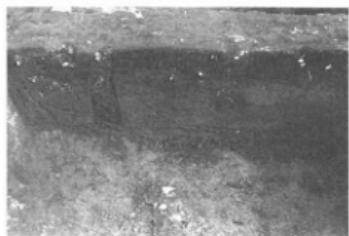
17号住 完 挖



16号住 完 挖



18号住 鑿出土状態



18号住 土層の状態



19号住 土製丸玉出土状態



18号住 土層の状態



19号住 完 据



18号住 完 据



20号住 窯内支脚出土状態



19号住 遺物出土状態



20号住 遺物出土状態



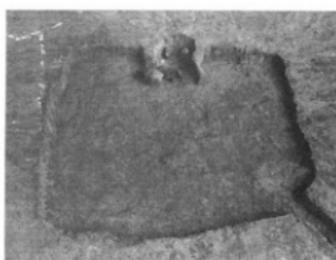
20号住 坏類出土状態



22号住 罐内遺物出土状態



20号住 完 挖



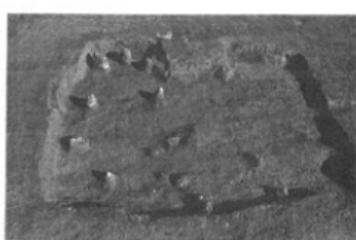
22号住 完 挖



21号住 完 挖



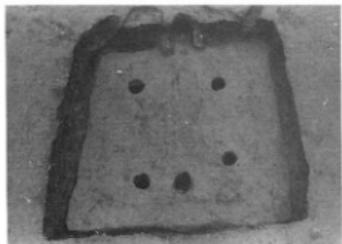
23号住 罐検出状態



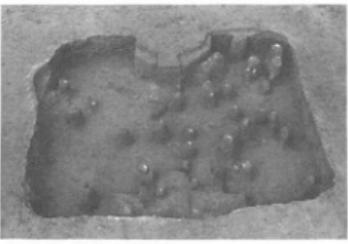
22号住 遺物出土状態



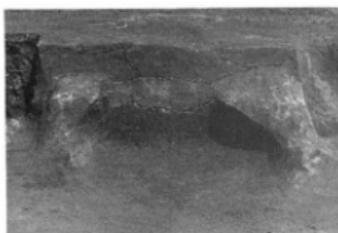
23号住 完 挖



24号住 完 挖



26号住 遺物出土状態



25号住 電土層



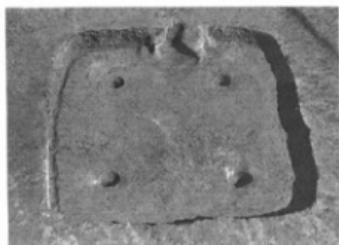
26号住 完 挖



25号住 電検出状態



27号住 須恵器出土状態



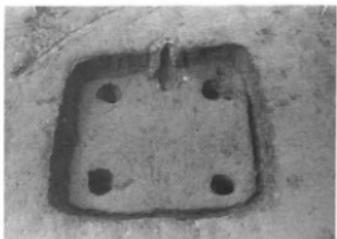
25号住 完 挖



27号住 電検出状態



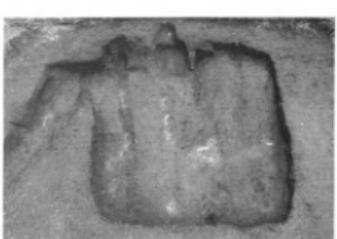
27号住 宰檢出状態



29号住 完 挖



27号住 完 挖



30号住 完 挖



28号住 宰檢出、遺物出土状態



31号住 遺物出土状態



28号住 完 挖



31号住 坏出土状態



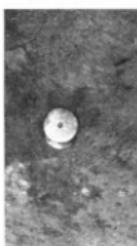
32号住 遺物出土状態(炭化物)



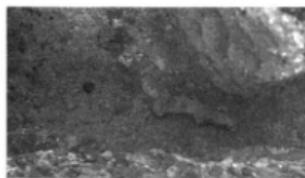
33号住 遺物出土状態



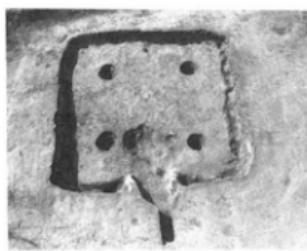
32号住 刀子、紡錘車出土状態



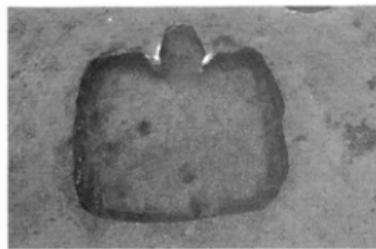
33号住 壺出土状態



32号住 錘出土状態



33号住 完 壺(北側から)



32号住 完 壺



34号住 遺物出土状態



34号住 遗物出土状態



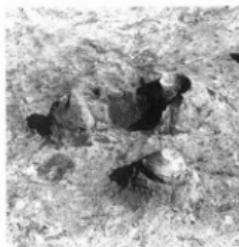
34号住 窑内遺物出土状態



34号住 窑内遺物出土状態



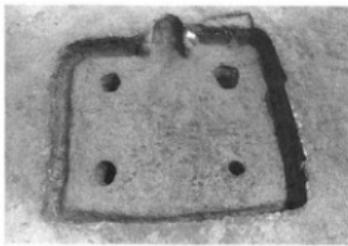
35号住 遺物出土状態



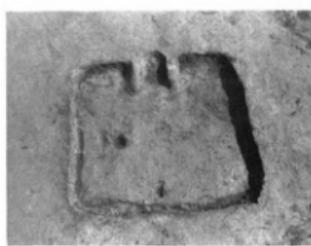
34号住 遺物出土状態



35号住 遺物出土状態



34号住 完 捜



35号住 完 捜



36号住 遺物出土状態



37号住 遺物出土状態



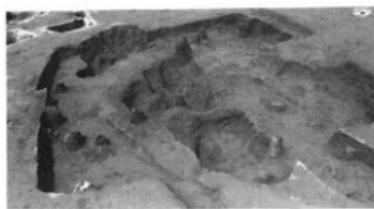
36号住 遺物出土状態



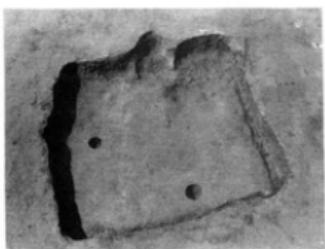
37号住 完 挖(東側から)



36号住 遺物出土状態



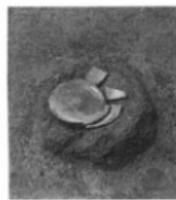
37号住 遺物出土状態



36号住 完 挖



37号住 遺物出土状態



38号住 遺物出土状態



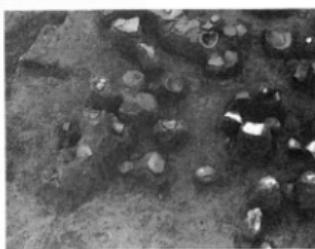
39号住 遺物出土状態



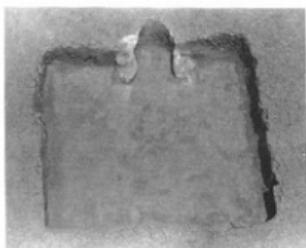
41号住 遺物出土状態



39号住 遺物出土状態



41号住 遺物出土状態



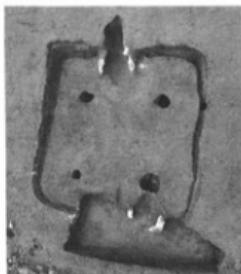
40号住 完 捩



41号住 遺物出土状態



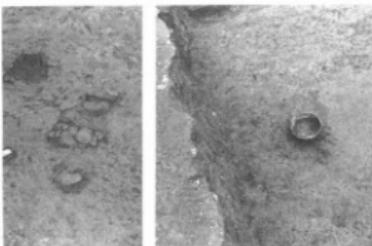
41号住 遺物出土状態



41号住 完 捩



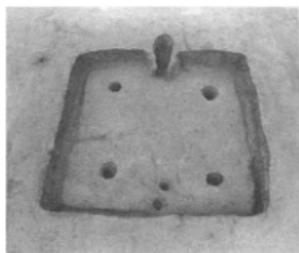
42号住 完 捨(西側から)



44号住 遺物出土状態



43号住 遺物出土状態



44号住 完 捨



43号住 遺物出土状態



45号住 遺物出土状態



44号住 遺物出土状態



45号住 遺物出土状態



46号住 土層と遺物



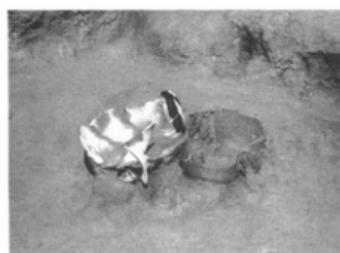
48号住 遺物出土状態



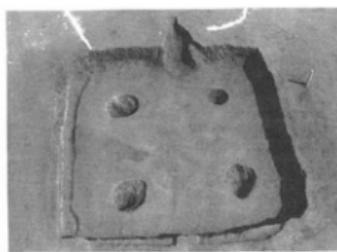
46号住 土層と遺物



48号住 遺物出土状態



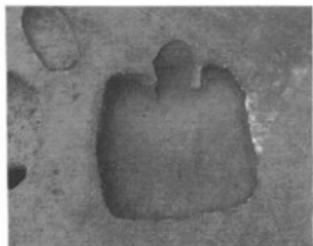
47号住 遺物出土状態



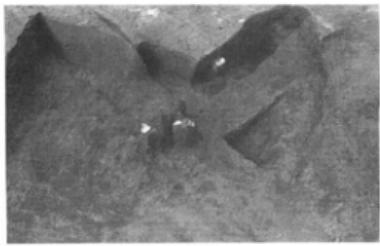
47号住 完 据



49号住 室内遺物出土状態



49号住 完 挖



51号住 坑内遺物出土状態



50号住 遺物出土状態



52号住 遺物出土状態



50号住 遺物出土状態(西側から)



52号住 塗土層



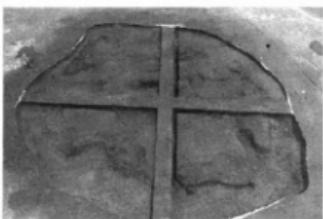
50号住 塗土層



52号住 完 挖



53号住 室内遺物出土状態



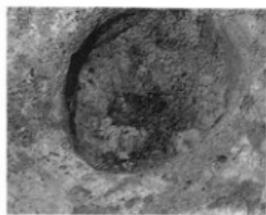
55号住 調査状態



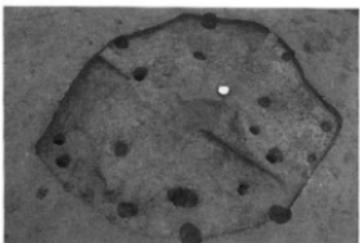
53号住 完 捜



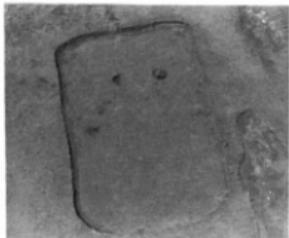
55号住 炉址完掘



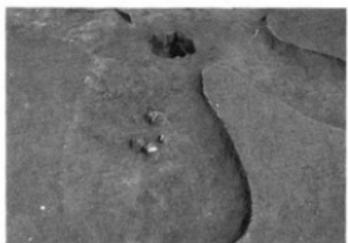
54号住 焼 土



55号住 完 捜



54号住 完 捜



56号住 遺物出土状態



56号住 完 据



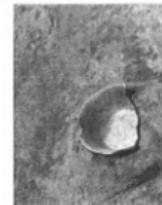
59号住 遗物出土状態



57号住 遗物出土状態



59号住 遗物出土状態



57号住 遗物出土状態



59号住 遗物出土状態



57号住 完 据



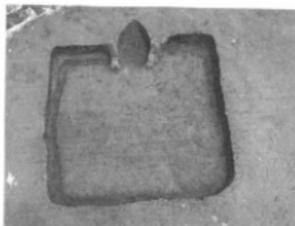
59号住 完 据



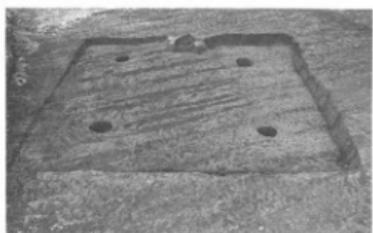
58号住 蕤内遺物



61号住 遺物出土状態



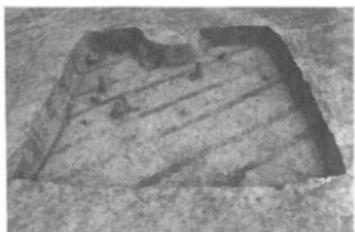
58号住 完 据



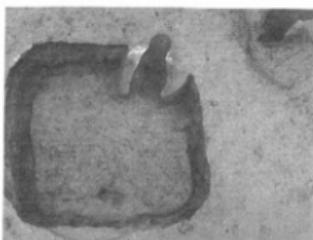
61号住 完 据



60号住 遺物出土状態



62号住 遺物出土状態



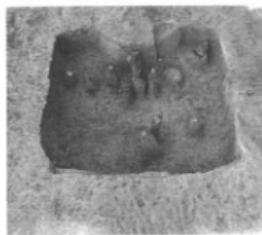
60号住 完 据



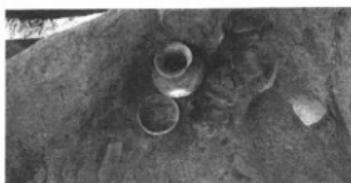
62号住 完 据



63号住 遺物出土状態



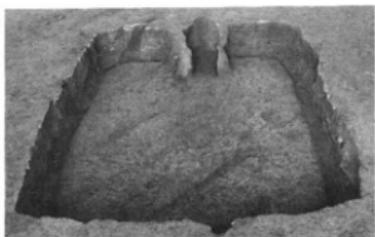
65号住 遺物出土状態



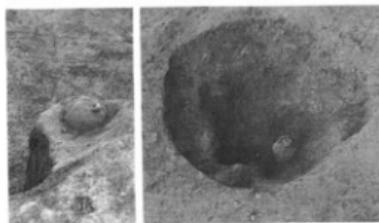
63号住 遺物出土状態



65号住 遺物出土状態



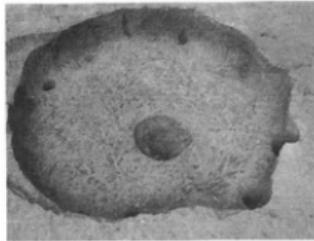
63号住 完 捜



66号住 遺物出土状態



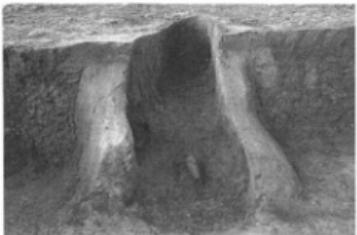
64号住 完 捜



66号住 完 捜



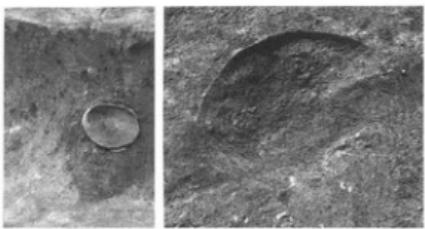
67号住 遗物出土状態



68号住 窑檢出状態



67号住 完 捨



69号住 遺物、炉検出状態



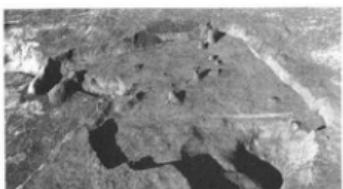
68号住 遺物出土状態



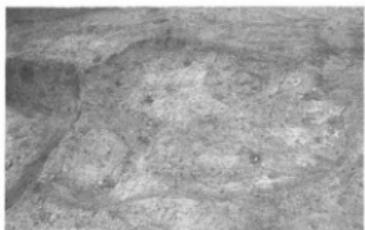
69号住 完 捨



68号住 遺物出土状態



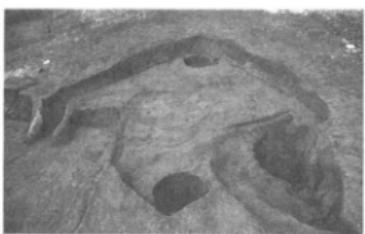
70号住 遺物出土状態



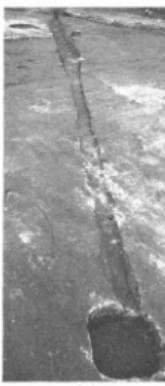
70号住 炉 址



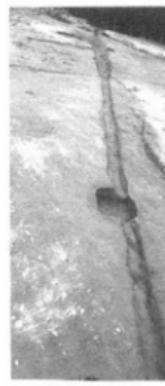
1号溝 土 層



70号住 完 挖



1号溝 東側から



1号溝と20号土坑



71号住 遺物出土状態



71号住 遺物出土状態



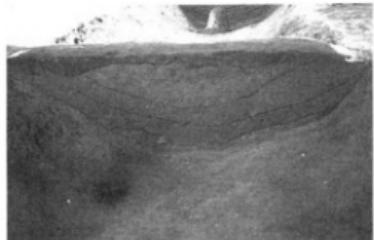
1号溝完掘 西側から



2号溝 土 層



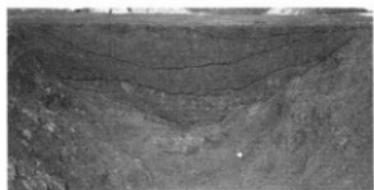
3号溝 土 層



2号溝 土 層



3号溝 完 据



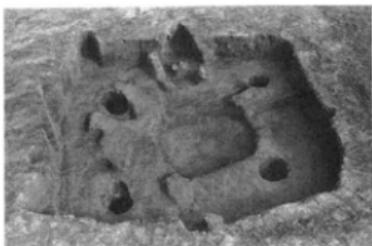
2号溝 土 層



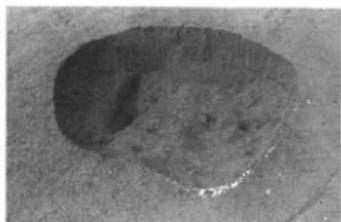
1号土壤 完 据



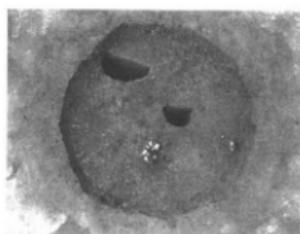
2号溝 完 据



1号土壤(4、5号住) 完据



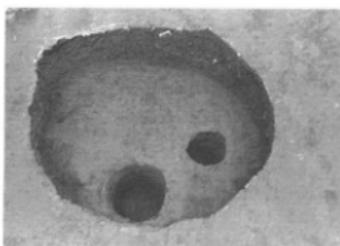
32号土坑 完掘



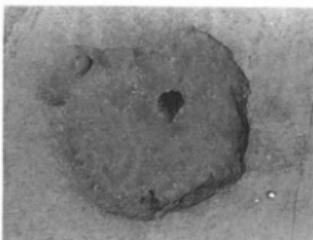
48号土坑 遗物出土状态



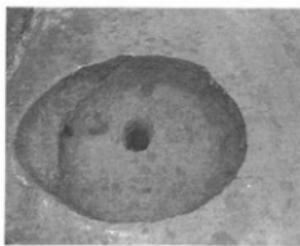
37号土坑 遗物出土状态



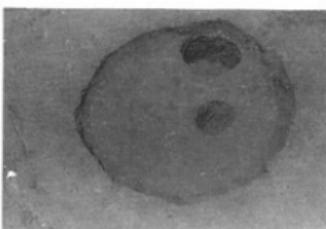
48号土坑 完掘



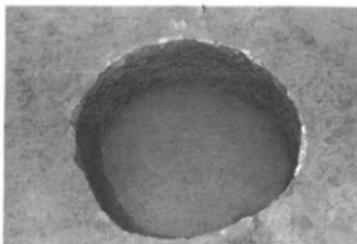
37号土坑 完掘



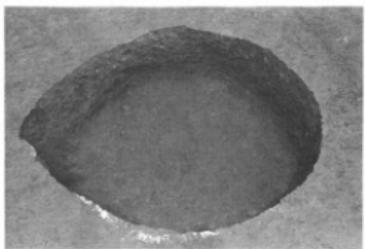
46号土坑 完掘



38号土坑 完掘



54号土坑 完掘



55号土坑 完掘



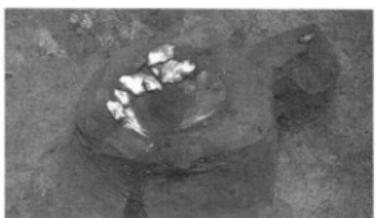
73号土坑 遺物出土状態



57号土坑 遺物出土状態



据立柱穴群(南側から)西側



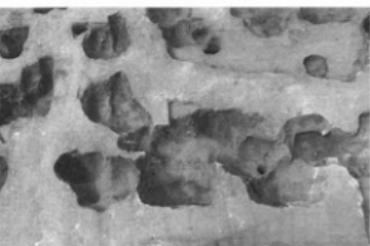
70号土坑 遺物出土状態



据立柱穴群(南側から)東側



70号土坑 完掘



据立柱穴群(南側から)中央部

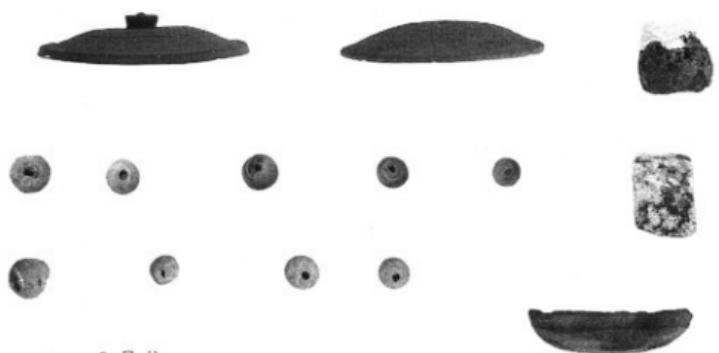


1号住



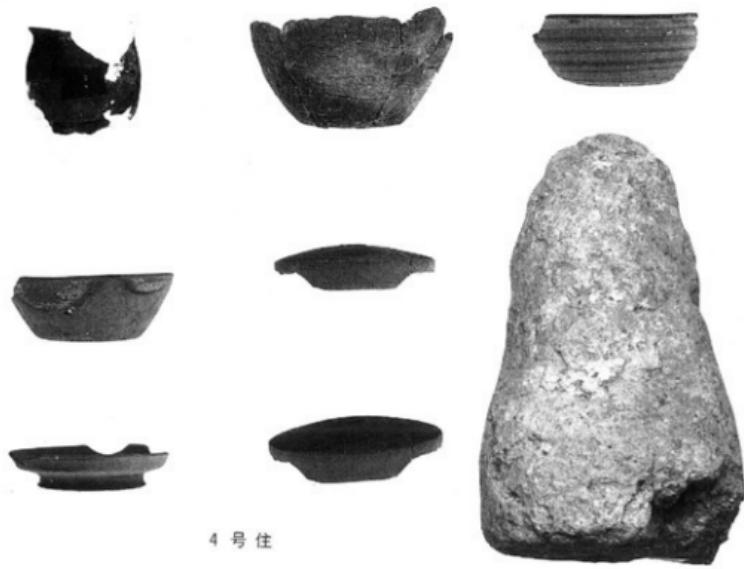
2号住



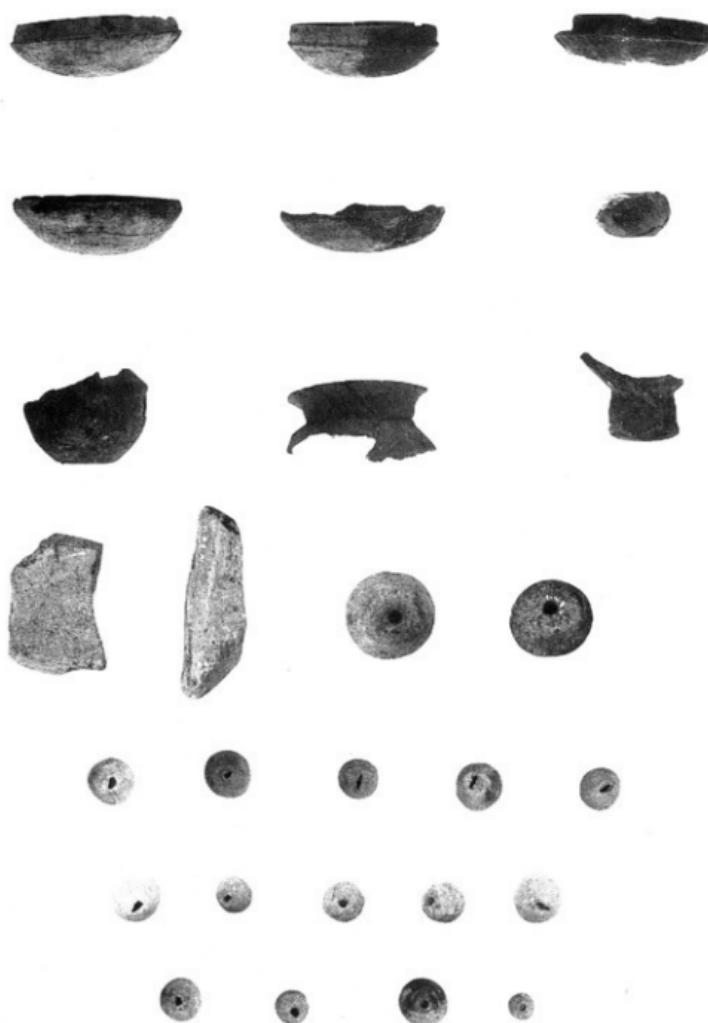


2号住

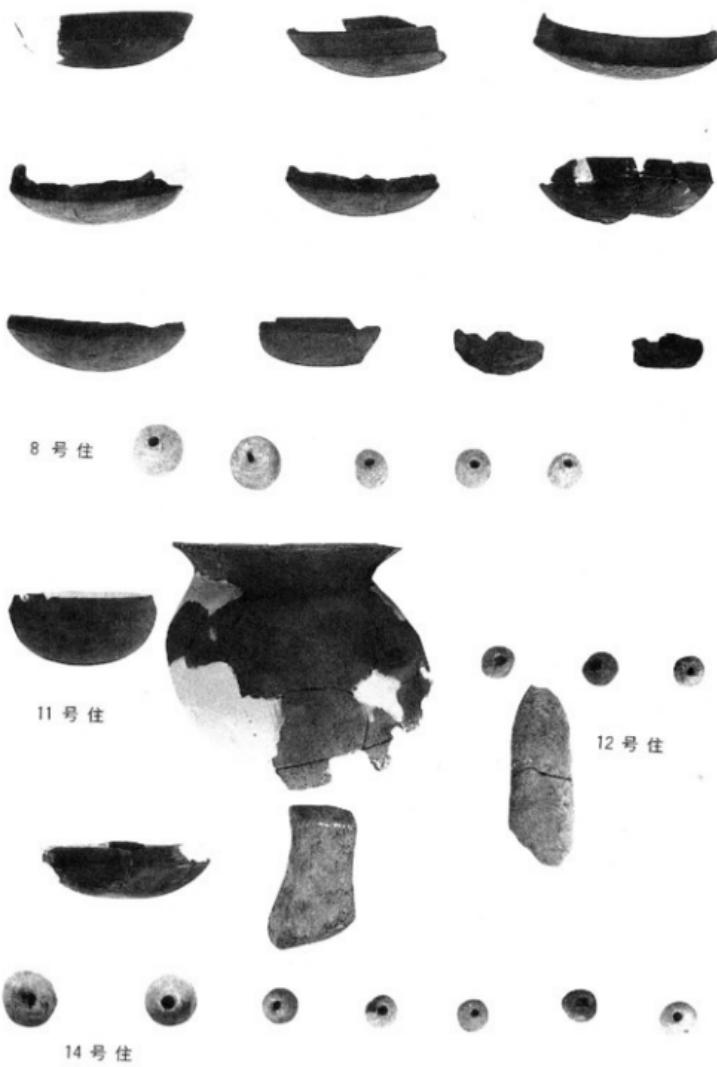
3号住



4号住



6号住





16号住



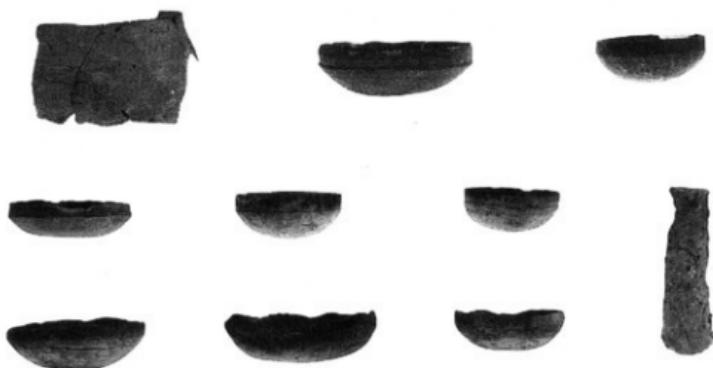
17号住



18号住



19号住



20号住



21号住



24号住

25号住



26号住



27号住



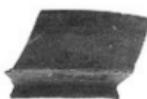
28号住



28号住



29号住



30号住



31号住



32号住



34号住



34 号 住



32 号 住



36 号 住



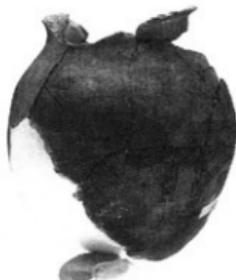
37 号 住



38 号 住



40号住



41号住



42号住



45号住



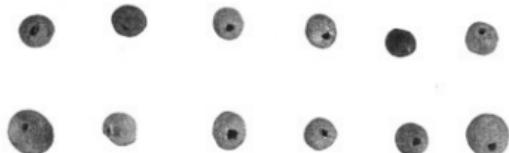
47号住



48号住



49号住



50号住



52号住



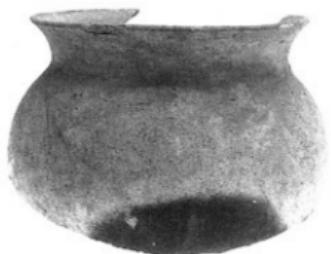
53号住



56号住



59号住



39号住



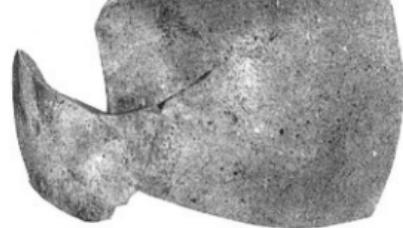
49号住



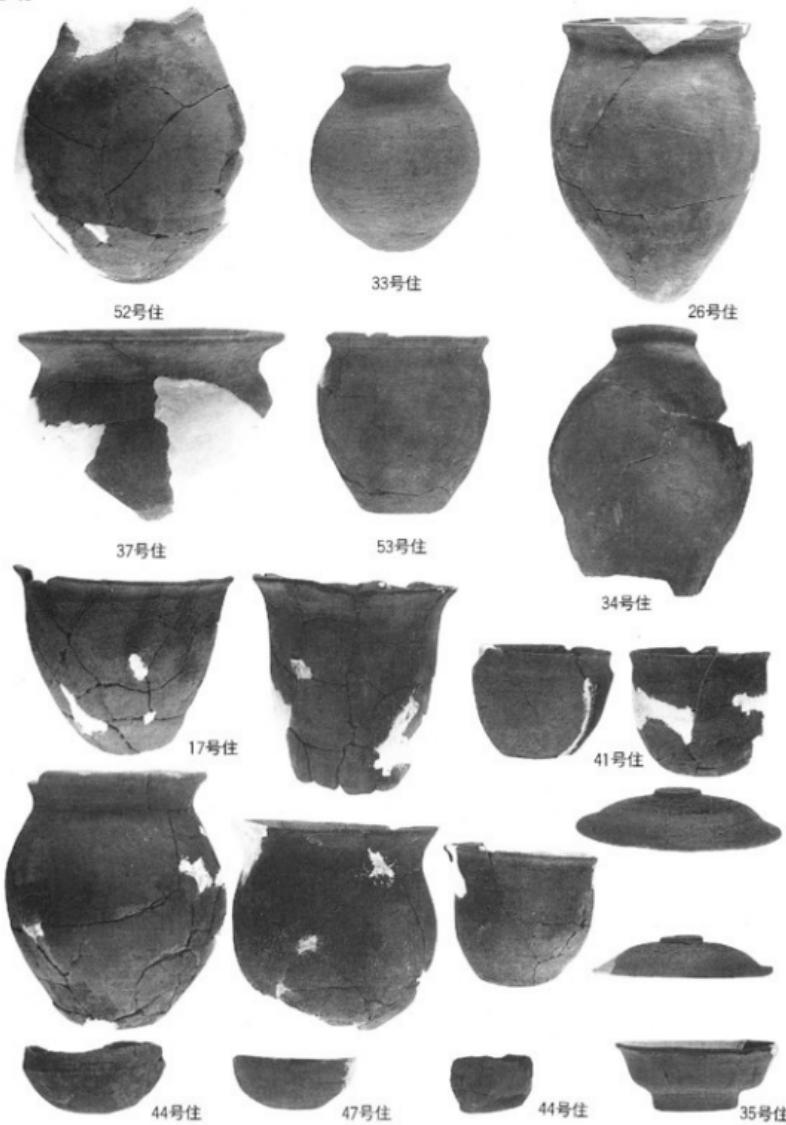
40号住

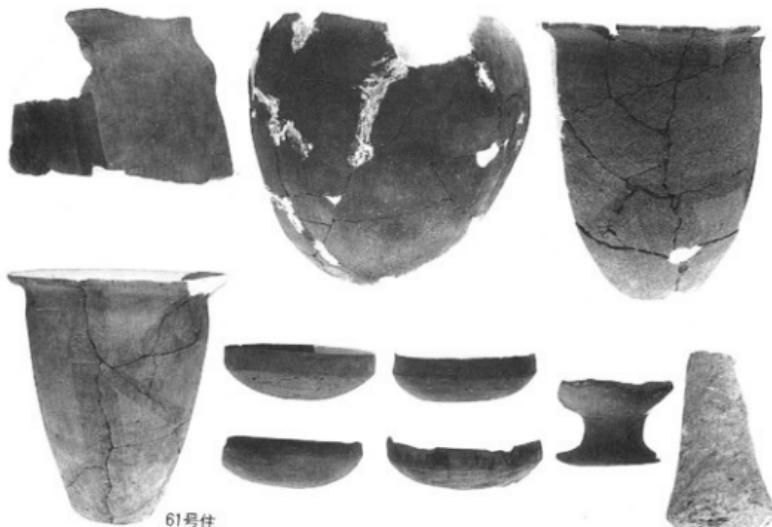


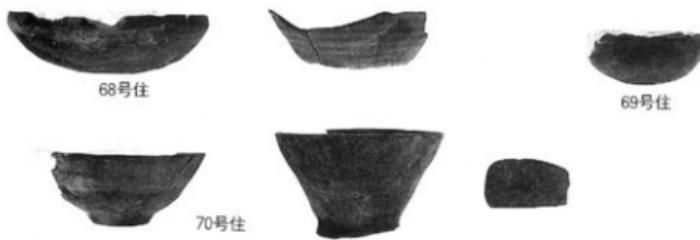
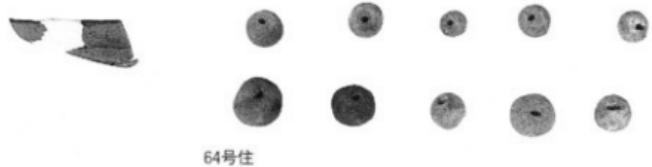
59号住



39号住

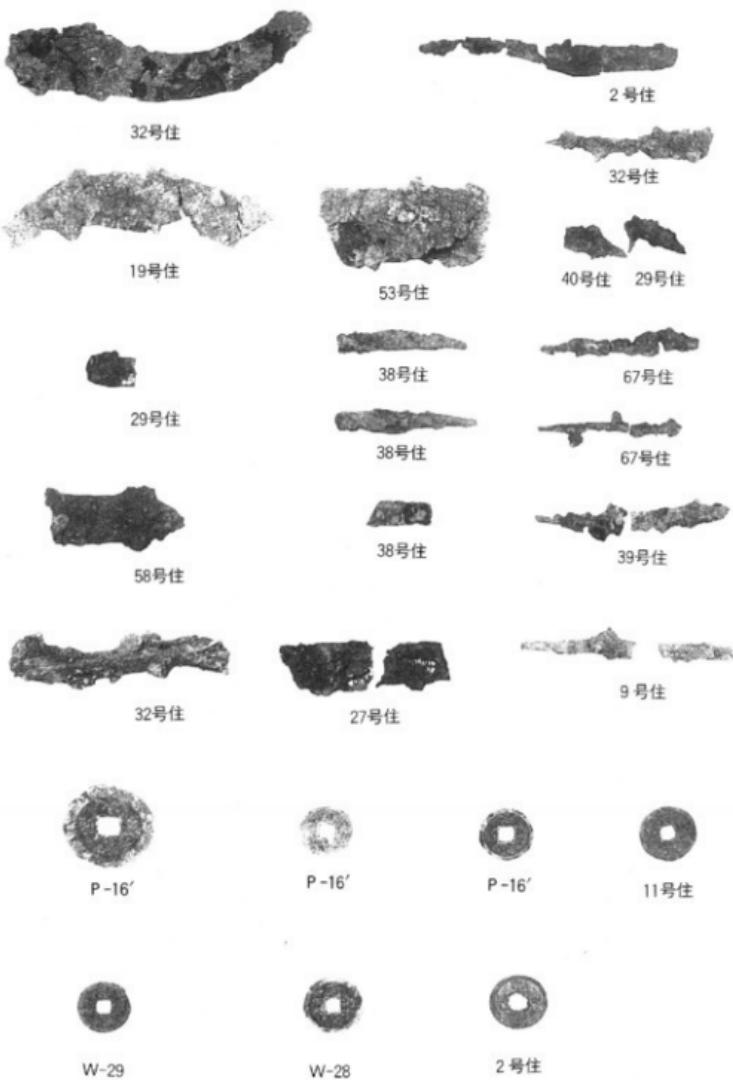


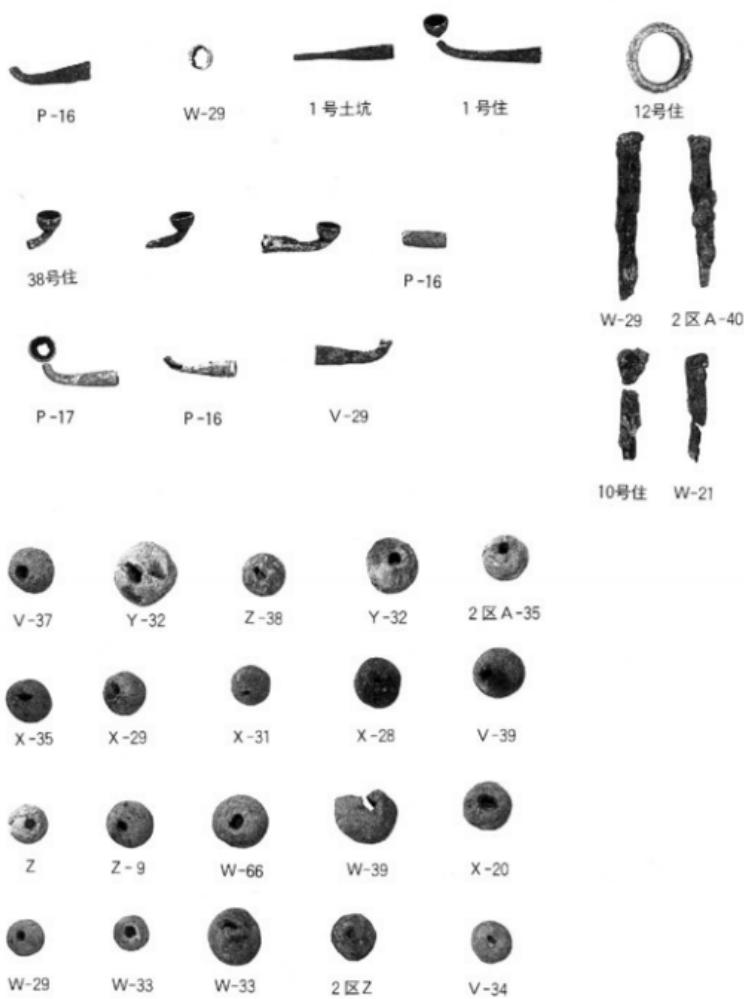


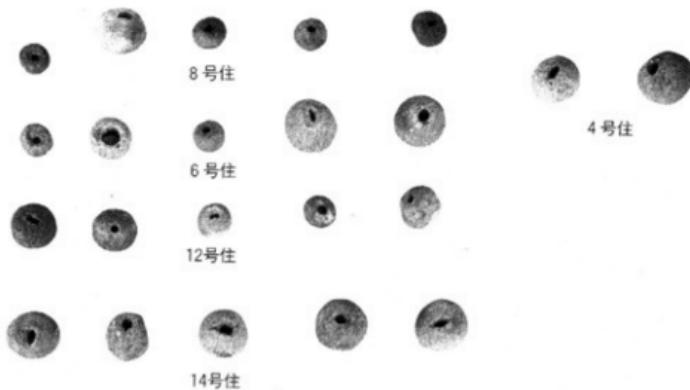


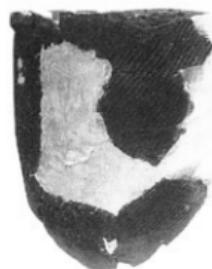
69号住

70号住





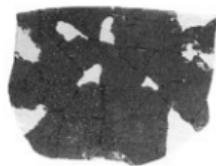




57号土坑



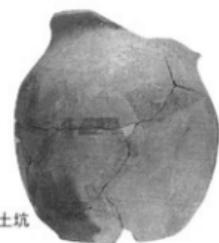
70号土坑



44号土坑



53号土坑



37号土坑



整理風景



61号住



66号住



55号住



66号住



62号住



40号住



34号住



62号住



66号住



44号住



55号住



66号住



12号住



26号土坑



33号住



V-34



44号土坑



68号住



W-37



67号住



Z-26



V-34



第2トレンチ



41号住

茨城県行方郡北浦村
今山遺跡発掘調査報告書

編集発行 山田地区遺跡発掘調査会
北浦村山田2564-10
発行日 1990年3月
印刷 株式会社 さんゆう社印刷
行方郡玉造町甲2641
